

日本医療大学年報

第 9 号

2023 年



日本医療大学

目次

1.	使命・目的等	1
2.	学生	13
3.	教育課程	48
4.	教員・職員	61
5.	経営・管理と財務	67
6.	内部質保証	71
7.	大学が独自に設定した基準による自己評価	74
8.	社会貢献	76
9.	顕彰	78
10.	委員会等活動報告	79
11.	教員の自己点検・評価	144

1. 使命・目的等

1-1. 使命・目的及び教育目的の設定

1-1-① 意味・内容の具体性と明確性

日本医療大学（以下、本学）及びその母体となる学校法人の使命・目的については、各種規程にて具体的かつ明確に示されている。

まず、学校法人の使命・目的について、「学校法人日本医療大学寄附行為」第3条に「この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、大学及び専修学校を設置して学校教育を行うことを目的とする」と規定している。さらに、本学の使命・目的について、「日本医療大学学則」第1条（目的）に「日本医療大学は、教育基本法及び学校教育法並びに建学の精神に基づき、深く専門の学術を教授及び研究し、人間尊重を基盤とした専門職業人を育成して、社会の発展に寄与するとともに人々の健康及び生活の向上に貢献することを目的とする」と規定している。また、同学則第6条の2には、学部及び学科の教育上の目的について、「生命の尊厳の理念に基づき、豊かな感性と教養で人間性を高め、高度な知識と技術を学修し、倫理的及び論理的な実践力で、地域社会に貢献する専門職業人を育成する」と規定している。

1-1-② 簡潔な文章化

上述の使命・目的は、建学の精神、基本理念、教育理念というかたちで簡潔に文章化されている。このうち、教育理念については、建学の精神と基本理念を具体化するため、令和5年度に改正を行っている。また、学部・各学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）、アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）にも反映させ、学生及び教職員に分かり易く示している。

○建学の精神

共生社会の実現～病める人や障がいを持つ人を含む全ての人々が自立し、その尊厳が重んぜられ暮らせる社会の実現を目指す～

○基本理念

「人は人を愛し、人にふれることによって、自らも成長する」

医療と福祉の現場から誕生した日本医療大学は、学生が、高度な専門知識と技術の修得にとどまらず、医療・福祉の現場と一体になったキャンパスで、高齢の方や障がいを持った方々と日々ふれあいながら学修することで、人のこころの痛みや思いがわかり自らも成長していく人材を養成します。

三つのポリシー

○看護学科

【ディプロマ・ポリシー：DP】

看護学科は、本学の建学の精神、基本理念、教育理念に基づき、在学中に下記の資質や能力を培った者に卒業を認め、学士の称号を与える。

- 1 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質
- 2 高い専門性と豊かな人間性を発揮して地域社会に貢献し、保健医療福祉の向上に寄与できる能力
- 3 対象者のために、保健医療福祉に関わる人々と有機的な連携・協働ができる能力
- 4 科学的根拠に基づき、対象者に必要な看護を提供できる能力
- 5 科学的思考をもって主体的に学修し、看護学を発展させる能力

【カリキュラム・ポリシー：CP】

看護学科のディプロマ・ポリシーに基づき、科学的思考をもって主体的に学修する能力を養うため、講義、演習、ゼミナール等の組み合わせを用い、科目に適した形態の授業を編成する。

- 1 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質を育成するために、基礎教育科目を配置する
- 2 保健医療福祉に携わる一員として他職種と連携・協働し、社会に貢献できる能力を育成するために、「社会と健康支援」について学ぶ専門基礎教育科目を配置する
- 3 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な基礎的知識を修得するため、「健康と疾病」について学ぶ専門基礎教育科目を配置する
- 4 高度で専門的な看護の実践能力の育成のため、看護の基本、対象の特徴と看護実践、看護の統合学習について学ぶ専門教育科目を配置する
- 5 将来の看護職業人としての自覚を持ち、保健医療福祉に関わる人々と有機的に連携・協働して働くための豊かな人間性と社会性を養うため、担任制度等による個別・少人数指導を重視した教育を行う

【アドミッション・ポリシー：AP】

看護学科は、建学の精神と基本理念を理解し、教育理念を実践する意欲ある人材を求める。

- 1 看護学を学ぶために必要な基礎学力を持ち、看護学の学修に意欲と熱意を持つ人
- 2 思いやりの心を持ち、人の生命を尊ぶ心を持つ人
- 3 人の健康に関心を持ち、地域の保健医療福祉、社会に貢献する意志のある人
- 4 人に関心を持ち、あたたかい心で人とコミュニケーションができる人
- 5 知的好奇心を持ち、探究心と想像力で自ら学ぶ意欲を持つ人
- 6 基本的生活態度が身についており、心身の健康に気を配れる人

○リハビリテーション学科

【ディプロマ・ポリシー：DP】

リハビリテーション学科は、本学の建学の精神、基本理念、教育理念に基づき、在学中に

下記の資質や能力を培った者に卒業を認め、学士の称号を与える。

- 1 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質
- 2 高い専門性と豊かな人間性を発揮して地域社会に貢献し、保健医療福祉の向上に寄与できる能力
- 3 対象者のために、保健医療福祉に関わる人々と有機的な連携・協働ができる能力
- 4-1 対象者の運動機能を改善するために、科学的根拠に基づき、効果的で安全な理学療法を提供できる能力（理学療法学専攻）
- 4-2 対象者の主体的な生活を支援するために、科学的根拠に基づき、効果的で安全な作業療法を提供できる能力（作業療法学専攻）
- 5 科学的思考をもって主体的に学修し、理学療法学・作業療法学を発展させる能力

【カリキュラム・ポリシー：CP】

リハビリテーション学科のディプロマ・ポリシーに基づき、科学的思考をもって主体的に学修する能力を養うため、講義、演習、ゼミナール等の組み合わせを用い、科目に適した形態の授業を編成する。

- 1 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に貢献できる資質を育成するために、基礎教育科目を配置する
- 2 保健医療福祉に携わる一員として他職種と連携・協働できる能力を育成するために、「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」について学ぶ専門基礎科目を配置する
- 3 科学的根拠に基づいた理学療法・作業療法の実践に必要な基礎的な知識を修得するため、「人体の構造と機能および心身の発達」、「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」について学ぶ専門基礎科目を配置する
- 4-1 対象者の運動機能の改善を目的とした、高度で専門的な理学療法の実践能力育成のため、理学療法評価法および治療法について学ぶ専門教育科目を配置する（理学療法学専攻）
- 4-2 対象者の主体的な生活を支援することを目的とした、高度で専門的な作業療法の実践能力育成のため、作業療法評価法および治療法について学ぶ専門教育科目を配置する（作業療法学専攻）
- 5 豊かな人間性と社会性を養うため、担任制度等による個別・少人数指導を重視した教育を行う

【アドミッション・ポリシー：AP】

リハビリテーション学科は、建学の精神と基本理念を理解し、教育理念を実践する意欲のある人材を求める。

- 1 理学療法士・作業療法士を志している人
- 2 理学療法学・作業療法学を学ぶために必要な基礎学力のある人

- 3 基礎的コミュニケーション能力を有している人
- 4 他者を思いやる心がある人
- 5 何事にも根気強く臨み、責任を持って最後までやりとげる人
- 6 基本的生活態度が身についており、心身の健康に気を配れる人
- 7-1 人の運動や動作のメカニズムに関心を持っている人（理学療法学専攻）
- 7-2 人の生活を専門的な視点から支援し、社会に貢献したいと思っている人（作業療法学専攻）

○診療放射線学科

【ディプロマ・ポリシー：DP】

診療放射線学科は、本学の建学の精神、基本理念、教育理念に基づき、在学中に下記の資質や能力を培った者に卒業を認め、学士の称号を与える。

- 1 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に貢献する資質
- 2 高い専門性と豊かな人間性を発揮して地域社会に貢献し、保健医療福祉の向上に寄与できる能力
- 3 対象者のために、保健医療福祉に関わる人々と有機的な連携・協働ができる能力
- 4 科学的根拠に基づき、放射線の画像診断と放射線治療を提供できる能力
- 5 科学的思考をもって主体的に学修し、診療放射線学を発展させる能力

【カリキュラム・ポリシー：CP】

診療放射線学科のディプロマ・ポリシーに基づき、科学的思考をもって主体的に学修する能力を養うため、講義、実験・実習、演習の組み合わせを用い、科目に適した形態の授業を編成する。

- 1 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質を育成するために、基礎教育科目を配置する
- 2 保健医療福祉に携わる一員として他職種と連携・協働できる能力を育成するために、「保健医療福祉と診療放射線」について学ぶ専門基礎科目を配置する
- 3 科学的根拠に基づいた診療放射線の実践に必要な基礎的知識を修得するため、「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」、「保健医療における理工学的基礎並びに放射線の科学と技術」について学ぶ専門基礎科目を配置する
- 4 高度で専門的な診療放射線の実践能力を育成するため、診療放射線検査法、放射線治療法、放射線安全管理法について学ぶ専門教育科目を配置する
- 5 豊かな人間性と社会性を養うため、担任制度等による個別・少人数指導を重視した教育を行う

【アドミッション・ポリシー：AP】

診療放射線学科は、建学の精神と基本理念を理解し、教育理念を実践する意欲ある人材を求める。

- 1 診療放射線技師を志している人
- 2 診療放射線学を学ぶために必要な基礎学力のある人
- 3 基礎的コミュニケーション能力を有している人
- 4 思いやりの心を持ち、人の生命を尊ぶ心を持つ人
- 5 知的好奇心を持ち、探究心と想像力で自ら学ぶ意欲を持つ人
- 6 基本的生活態度が身についており、心身の健康に気を配れる人

○臨床検査学科

【ディプロマ・ポリシー：DP】

臨床検査学科は、本学の建学の精神、基本理念、教育理念に基づき、在学中に下記の資質や能力を培った者に卒業を認め、学士の称号を与える。

- 1 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質
- 2 高い専門性と豊かな人間性を発揮して地域社会に貢献し、保健医療福祉の向上に寄与できる能力
- 3 対象者のために、保健医療福祉に関わる人々と有機的な連携・協働ができる能力
- 4 科学的根拠に基づき、良質な臨床検査を提供できる能力
- 5 科学的思考をもって主体的に学修し、臨床検査学を発展させる能力
- 6 臨床検査室の品質マネジメントシステムの構築及び実践できる能力

【カリキュラム・ポリシー：CP】

臨床検査学科のディプロマ・ポリシーに基づき、科学的思考をもって主体的に学修する能力を養うため、講義、実習、演習の組み合わせを用い、科目に適した形態の授業を編成する。

- 1 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に貢献する資質を育成するために、基礎教育科目を配置する
- 2 保健医療福祉に携わる一員として他職種と連携・協働できる能力を育成するため、「保健医療福祉と医学検査」について学ぶ専門基礎科目を配置する
- 3 科学的根拠に基づいた臨床検査の実践に必要な基礎的知識を修得するため、「人体の構造と機能」、「医学検査の基礎とその疾病との関連」、「医療工学及び情報科学」について学ぶ専門基礎科目を配置する
- 4 高度で専門的な臨床検査の実践能力、発展させる能力を育成するため、「臨床病態学」、「各臨床検査法」、「卒業研究」を学ぶ専門教育科目を配置する
- 5 臨床検査室の品質マネジメントシステムの構築及び実践できる能力を育成するため「検査総管理理学」、「医療安全管理学」を配置する

【アドミッション・ポリシー：AP】

臨床検査学科は、本学の建学の精神と基本理念を理解し、教育理念を実践する意欲ある人材を求める。

- 1 臨床検査技師を志し臨床検査学の学修に意欲的に取り組むことができる人
- 2 臨床検査学を学ぶために必要な基礎学力のある人
- 3 基礎的コミュニケーション能力を有している人
- 4 他者の意見や考え方に触れ、自らの意見を整理し表現するための思考力・判断力・表現力を有している人
- 5 基本的生活態度が身についており、心身の健康に気を配れる人

○臨床工学科

【ディプロマ・ポリシー：DP】

本学の基本理念、「臨床工学科の養成する人材像」および教育目標に基づき、臨床工学科における卒業時の到達目標は、以下のとおりとする。在学中に下記の資質や能力を培った者に卒業を認め、学士（臨床工学）の称号を与える。

- 1 相手を思いやる豊かな人間性を有し、科学的な思考力を基に共生社会の発展に貢献する資質
- 2 適切なコミュニケーション能力、協調する力を身につけ、常に患者を意識し他職種の医療従事者と連携・協働ができる能力
- 3 臨床工学の専門的な知識や技術を身につけ、多様化・高度化する医療機器の適切な操作や安全に管理できる能力
- 4 工学的な研究の基礎を身につけた能力
- 5 生涯にわたり自己研鑽する意欲と自己学修力を身につけている

【カリキュラム・ポリシー：CP】

本学科では、本学の基本理念に基づき、人間を尊重する態度とチーム医療の一員として必要な高い倫理観を持ち、専門分野の基礎・基本となる知識及び技術を高めることで医療機器を適切に操作できる確かな実践力と態度を身につけ、医療安全の確保と医療機器を用いた質の高い診療支援ができる臨床工学技士の育成を教育研究上の目的とする。また、臨床工学分野に関する学術研究の発展に寄与できる人材を育成するために、工学的な研究の基礎を修得したうえで医療機器の操作や安全管理における現象の解明や真理を発見するための実践力を磨くことで、臨床工学を学問として追求できる科学的思考と問題解決能力を有した人材育成を目指す。これらの教育目的を達成するための本学科カリキュラム・ポリシーは次に示す通りである。

- 1 豊かな人間性を持ち、科学的思考力を基に共生社会の発展に貢献できる医療人材の育

成のため適切なコミュニケーション能力や協調性、科学的思考力の修得を目的として、基礎教育科目である「人間と生活」、「科学的思考の基盤」の必修および選択科目を学修して、高い倫理観と人間力を醸成する科目を配置する（本学科のディプロマ・ポリシー①に対応）

- 2 チーム医療において、常に患者を意識して最善の医療を提供するためには、医学と工学を総合的に理解した医工学のスペシャリストとして他職種と連携・協働することが必要であり、その基盤を形成するために「臨床工学に必要な医学的基礎」、「臨床工学に必要な医療情報学とシステム工学の基礎」、「生体機能代行技術学」、「医用安全管理学」について学ぶ専門基礎教育科目、専門教育科目の科目を配置する（本学科のディプロマ・ポリシー②に対応）
- 3 医療機器の適切な使用のために専門的な知識と技術を修得し、幅広い領域において医学的、または科学的根拠に基づいた良質な診療支援技術を提供できる人材育成のために、「人体の構造と機能」、「臨床工学に必要な医学的基礎」および「関連臨床医学」、「医用機器学」、「生体機能代行技術学」について学ぶ専門基礎教育科目、専門教育科目の科目を配置する（本学科のディプロマ・ポリシー③に対応）
- 4 多様化・高度化する医療機器の安全使用を確保することで、医療安全の推進に寄与できる知識と技術を持った人材育成のために「臨床工学に必要な医学的基礎」、「医用生体工学」、「医用安全管理学」、「医用機器学」、「生体機能代行技術学」について学ぶ専門基礎教育科目、専門教育科目の科目を配置する（本学科のディプロマ・ポリシー③に対応）
- 5 医療機器の効果的な活用や安全使用など臨床工学分野で直面する課題を発見し、科学的に解明するための能力を磨くため、「科学的思考の基盤」、「臨床工学に必要な理工学的基礎」、「臨床工学に必要な医療情報学とシステム工学の基礎」、「医用生体工学」、「医用機器学」、「医用安全管理学」などの科目により工学的な研究の基礎を身につけたうえで「卒業研究」を必修科目とすることで医療機器に関連した課題について新たな知見を発見するための研究を遂行する（本学科のディプロマ・ポリシー④に対応する）
- 6 常に発展し続ける医療機器を管理する臨床工学技士には、生涯にわたり学修を継続することが必要であり、自ら主体的な学びの意欲を引き出すためのアクティブ・ラーニングを実践するため、「プロジェクトスキルⅠ」、「プロジェクトスキルⅡ」、「チーム医療」、「臨床実習」および「卒業研究」を配置して段階的に学びの価値を追求する（本学科のディプロマ・ポリシー⑤に対応）

【アドミッション・ポリシー：AP】

- 1 他者を思いやる心、相手の立場に立って物事を考えられることができる人
- 2 基本的なコミュニケーション能力を有している人
- 3 学ぶ意欲や挑戦する意欲があり、主体的に学修する意思がある人
- 4 基本的生活態度が身についており、心身の健康に気を配れる人

- 5 高等学校等において能動的に幅広く学び、入学後の学修に必要な基礎学力を身につけている人

○介護福祉マネジメント学科

【ディプロマ・ポリシー：DP】

介護福祉マネジメント学科は、本学の建学の精神、基本理念、教育理念に基づき、在学中に下記の資質や能力を培った者に卒業を認め、学士の称号を与える。

- 1 人間を尊重する態度と高い倫理観を養い、人間を統合的な存在として理解する能力を身につける
- 2 利用者のアセスメントから生活課題を明らかにして、介護計画を作成、実施、評価ができ、それを他の介護職に指導できる能力を身につける
- 3 介護計画の作成・実施において、多職種等と協働して支援する能力を身につける
- 4 介護職員のリーダーとして、チームで介護業務を遂行していくことができる能力を身につける
- 5 社会福祉施設・医療機関等の運営管理、サービスの維持や開発に関わることができる能力を身につける

【カリキュラム・ポリシー：CP】

介護福祉マネジメント学科は、ディプロマ・ポリシーに基づき、各年次で学修した知識と技術を体系的に修得し、年次を追って発展できるよう教育課程を編成する。

- 1 人権や多様な人間性を尊重し、主体的に関わる能力を育成するために基礎となる知識と豊かな人格を涵養することを重視した科目を基礎教育科目に配置する
- 2 包括的・重点的支援に必要な専門職の知識を修得させるため、「社会福祉の基礎」及び「経営の基礎」に関する科目を専門基礎教育科目に配置する
- 3 専門職のための技能を修得するための専門教育科目を配置する
- 4 主体的に学べるケーススタディ、問題解決型学習などのアクティブ・ラーニングを用いて、実践力を育てる
- 5 学習成果の評価は、学力3要素「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を原則とし、5段階の評価で示す

【アドミッション・ポリシー：AP】

介護福祉マネジメント学科は、建学の精神と基本理念を理解し、教育理念を実践する意欲ある人材を求める。

- 1 介護福祉に関わる専門的知識を学べる基礎学力を有する人
- 2 差別や偏見をなくし、地域共生社会の実現のために貢献したいと思う人

- 3 自立困難な人や生活のしづらさを抱えている人の人生を豊かにできる人
- 4 社会福祉施設、医療機関等の組織の経営、運営管理について論理立てて考える力がある人
- 5 新しいソーシャルビジネスやサービスを開発・企画することを論理立てて考える力がある人

○ソーシャルワーク学科

【ディプロマ・ポリシー：DP】

ソーシャルワーク学科は、本学の建学の精神、基本理念、教育理念に基づき、在学中に右記の資質や能力を培った者に卒業を認め、学士の称号を与える

- 1 人間を尊重する態度と高い倫理観を養い、人間を統合的な存在として理解する能力を身につける
- 2 保健・医療・福祉・介護・就労・教育等に関わる専門的知識や技術に関する能力を身につける
- 3 利用者主体の生活支援として、ソーシャルワークの展開過程を実施できる能力を身につける
- 4 利用者やその家族等の生活課題をアセスメントし、支援計画を作成・実施（個別支援・集団支援）する能力を身につける
- 5 地域の生活課題をアセスメントし、支援計画を作成・実施（地域支援）する能力を身につける
- 6 個別支援・集団支援から地域支援へ、地域支援から個別支援・集団支援への連続した支援ができる能力を身につける

【カリキュラム・ポリシー：CP】

ソーシャルワーク学科のディプロマ・ポリシーに基づき、科学的思考をもって主体的に学修する能力を養うため、講義、実習、演習を組み合わせ、科目に適した形態の授業を編成する

- 1 人権や多様な人間性を尊重し、主体的に関わる能力を育成するために、基礎となる知識と豊かな人格を涵養することを重視した科目を基礎教育科目に配置する
- 2 包括的な支援に必要な専門職かつチームの一員として、社会福祉と経営の基礎に関する科目を専門基礎教育科目に配置する
- 3 福祉サービスを必要とする人の支援を可能とするため、ソーシャルワーク及び経営に関する科目を専門教育科目に配置する
- 4 ケーススタディ（CS）や問題解決型学習（PBL）を通して、アクティブ・ラーニングによる問題解決プログラムに関する科目を配置する
- 5 学習成果の評価は、学力3要素「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多

様性・協働性」を原則とし、5段階の評価で示す

【アドミッション・ポリシー：AP】

ソーシャルワーク学科は、建学の精神と基本理念を理解し、教育理念を実践する意欲ある人材を求める

- 1 保健・医療・福祉に関わる専門的知識を学べる基礎学力を有する人
- 2 差別や偏見をなくし、地域共生社会の実現のために貢献したいと思う人
- 3 自立困難な人や生活のしづらさを抱えている人の人生を豊かにできる人
- 4 社会福祉施設や医療機関等の支援システムの運営管理に関心のある人
- 5 本人や地域の課題解決について考える力がある人

1-1-③ 個性・特色の明示

本学の歩みは、昭和 59（1984）年に札幌市豊平区月寒に開設した「特別養護老人ホーム幸栄の里」に始まる。「特別養護老人ホーム幸栄の里」では、デンマークから学んだノーマライゼーションを日本で実践するために、入所の方々だけでなく在宅の方々へのサービスも初めて事業化した。しかし、事業展開する中で、医療と福祉の高度な人材育成の必要性を痛感し、平成元（1989）年に本学の前身となる「日本福祉学院」を開校した。本学は、社会福祉法人ノテ福祉会を中心とする 10 法人とともに「つしま医療福祉グループ」を形成し、各種医療・福祉施設と大学施設が複合したコミュニティ「アンデルセン福祉村」をキャンパスの本拠地としていた。そして、令和 3（2021）年 4 月に札幌市豊平区月寒東の月寒本キャンパスへ移転し、現在に至る。

このような歴史を背景にして生まれた精神と理念は、全ての人々が安心して暮らすことができる「共生社会の実現」をめざし、「医療と福祉の現場から誕生した日本医療大学」をキャッチフレーズとして、その使命・目的及び教育目的・目標に反映されている。

1-1-④ 変化への対応

大学教育改革の中の柱として『三つのポリシーに基づく大学教育改革の実現』において、「三つのポリシーを一貫性及び整合性あるものとして一体的に策定することにより、選抜・教育・卒業の各段階における目標を具体化し、大学教育の質的転換を図ること」として、平成 29（2017）年から三つのポリシーを策定・公開することが義務付けられた。それを踏まえ、本学では学科（2 専攻を含む）の三つのポリシーについて、SYLLABUS や大学 HP などにおいて公開し、周知を図っている。

令和 7（2025）年にはいわゆる「団塊の世代」がすべて 75 歳以上となり、我が国における高齢化は一層進行していくものと予想されていることから、このような社会情勢を見据えた「医療介護総合確保推進法」が施行され、地域における効率的かつ質の高い医療や介護の提供を総合的に確保する「地域包括ケアシステム」の構築が求められている。本学では、

こうした多様化する社会の要請に応えることのできる医療専門職を育成するため、新たな学部・学科の増設を含め、組織構成及び関係諸規定等の見直しを継続的に検討・実施している。

1－2．使命・目的及び教育目的の反映

1－2－① 役員、教職員の理解と支持

本学の建学の精神、基本理念、教育理念の見直しについては、平成 28(2016)年に理事長、学長、常務理事、事務局長、経営戦略企画室長で構成する本法人の中長期経営計画プロジェクトにおいて検討し、理事会で承認を得ている。また、三つのポリシーの見直しは、運営会議で審議した後、教授会・関係委員会で意見を求めて審議している。建学の精神、基本理念、教育理念等において、使命・目的等を改正する場合は、運営会議・教授会・理事会に諮り決定しており、役員・教職員の理解と支持を得る体制となっている。この他、使命・目的及び教育目的は、学則に明示しているほか、CAMPUS GUIDE、ホームページ、大学案内にも掲載している。

1－2－② 学内外への周知

使命・目的及び教育目的は、ホームページ、CAMPUS GUIDE（教職員、学生に配布）、大学案内等に明記などして周知徹底を図っている。

その他、入学式、学位記授与式、入学生ガイダンス、オリエンテーション、オープンキャンパスなどにおいて説明の機会を設けている。

1－2－③ 中長期的な計画への反映

本法人の中長期経営計画に建学の精神、基本理念、教育理念が反映されるよう、平成 28(2016)年7月からの中長期経営プロジェクトにおける審議を経て、同計画を見直した。

1－2－④ 三つのポリシーへの反映

三つのポリシーが、本学の建学の精神、基本理念、教育理念を反映した内容となるよう、学科会議、運営会議における審議を経て、教授会に意見を求め、見直しを実施した。

令和6(2024)年3月には、新たに保健医療学部における三つのポリシーが教授会で承認された。

1－2－⑤ 教育研究組織の構成との整合性

本学の保健医療学部は、看護学科、リハビリテーション学科（理学療法学専攻・作業療法学専攻）、診療放射線学科、臨床検査学科及び臨床工学科の5学科から構成される。また、総合福祉学部は、介護マネジメント学科及びソーシャルワーク学科の2学科から構成される。学部の他に附属施設として、図書館、認知症研究所、キャリアセンターを設けている。

それぞれの学部には、必要な教員を配置するとともに、円滑な運営を図るため各種委員会を設置しており、使命・目的及び各学科の教育目的の実現のため、それぞれの委員会の審議内容を教授会及び学科会議で共有するなど、組織間の連携強化に努めている。

2. 学生

2-1. 学生の受け入れ

2-1-① 教育目的を踏まえたアドミSSION・ポリシーの策定と周知

本学は開学時（平成 26（2014）年度）より「本学の教育理念に共鳴し、自らの成長を自己推進していくことができる学生を求めています。養成する人材が卒業後に札幌地域のみに貢献するのではなく、北海道全体、ひいては日本国内、また広く国際的な視野を持ちつつ活動していくことができる人材を求めます。さらに北海道という地域特性に鑑み、医療の地域偏在をなくすため、各地域・へき地においても人々の健康な生活を支援することに貢献できるたくましい人材を募集します」といった内容を日本医療大学のアドミSSION・ポリシーとして示してきた。加えて、令和元（2019）年度からは学科ごとにアドミSSION・ポリシーを策定し求める人材像を示している。

アドミSSION・ポリシーについては、ホームページや大学案内、学生募集要項、それぞれの学科の SYLLABUS に掲載し、高校生、保護者、高校教諭、在学生等に幅広く周知を図っている。また、大学案内、学生募集要項はホームページ上にデジタルパンフレットとして公開している。

2-1-② アドミSSION・ポリシーに沿った入学者受け入れの実施とその検証

本学の入学者受け入れ方針の周知については、本学が開催するオープンキャンパス、一日体験入学、高校訪問、出前講義、学校説明会、進学相談会等において、多くの時間をかけて実施している。特に高校訪問については、教職員が一体となり、北海道内 287 校のうち約 240 校の高等学校を訪問し、オープンキャンパスや一日体験入学を案内するとともに、高校生の進路動向の情報収集を実施している。高校訪問は 1 期（4 月から 6 月）、2 期（8 月から 10 月）、3 期（12 月から 2 月）と定期的に行い、1 期は「在学生の学生生活状況の報告」と「オープンキャンパス参加誘導」、2 期は「総合型選抜・学校推薦型選抜出願の誘導」、3 期は「一般選抜と大学入学共通テスト利用選抜の出願誘導」と位置づけている。

本学の入学者受け入れの基本方針については、入学試験委員会で審議決定する旨規定されている。

本学で実施する入学試験は、平成 26（2014）・27（2015）年度入試においては、一般入試（前期・後期）・推薦入試（前期）の 2 つの入試区分であったが、平成 29（2017）年度入試から A0 入試（リハビリテーション学科のみ）、平成 30（2018）年度入試から大学入試センター試験利用入試（前期・後期）・推薦入試（後期）を看護学科、リハビリテーション学科、診療放射線学科で導入した。令和元（2019）年度入試から指定校推薦入試・大学入試センター試験利用入試（中期）・A0 入試（全学科）を導入した。さらに、令和 2（2020）年度入試からは、A0 入試（後期）をリハビリテーション学科のみに導入し、一般入試（前期）では札幌に加えて函館にも試験会場を設置した。令和 4（2022）年度は帯広にも試験会場を設置し、道南、道東方面の受験生の利便を図った。

令和 3（2021）年度入試では、これまでの看護学科、リハビリテーション学科、診療放射線学科に、令和 3（2021）年度からの設置認可が得られた臨床検査学科を加えて、一般選抜（旧一般入試（前期・後期）、学校推薦型選抜（旧推薦入試（公募前期・公募後期）、総合型選抜（旧 A0 入試（前期・後期）、大学入学共通テスト利用選抜（旧大学入試センター試験利用入試（前期・中期・後期）、学校推薦型選抜（指定校）の 5 つの区分で入学試験を実施した。

令和 4（2022）年度入試では、令和 4 年度からの設置認可が得られた臨床工学科、総合福祉学部の介護福祉マネジメント学科、ソーシャルワーク学科を加えて、一般選抜（旧一般入試（前期・後期）、学校推薦型選抜（旧推薦入試（公募前期・公募後期）、総合型選抜（旧 A0 入試（前期・後期）、大学入学共通テスト利用選抜（旧大学入試センター試験利用入試（前期・中期・後期）、学校推薦型選抜（指定校）の 5 つの区分で入学試験を実施した。保健医療学部の新学科である臨床工学科においては総合型選抜の後期実施後に自己アピール形式の入学試験を行った。令和 5（2023）年度入試も同様に行っている。

大学入学共通テスト利用選抜を除いた本学独自で実施する 4 区分の入学試験においては、将来、医療従事者として社会に貢献するという目的意識や本学アドミッション・ポリシーの理解、基本的なコミュニケーション能力をみる目的で、個人面接を必須としている。個人面接においては、面接委員間で受験生に対する対応や質問内容に大きな差異が生じないように「面接マニュアル」を作成し、面接の手順、評価の基準、評価項目ごとの質問例を記載し、面接委員に周知している。

入試問題に関しては、入学試験実施規程第 7 条（入学試験問題の作成の原則）に基づき、1 科目に対し大学から依頼された複数人で問題を作成している。また、問題作成に関しては、入試問題作成ミスを防止するために、第三者による点検を 2 回に分けて実施している。

2-1-③ 入学定員に沿った適切な学生受け入れ数の維持

入学定員は、平成 30（2018）年度まで看護学科 80 人、リハビリテーション学科 80 人（理学療法学専攻 40 人、作業療法学専攻 40 人）、診療放射線学科 50 人であったが、「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法規の整備等の法律」（平成 26（2014）年 6 月 18 日成立、平成 26（2014）年 6 月 25 日公布）では地域における質の高い医療を確保し、基盤整理を行うことを目標としていることから、令和元（2019）年度、看護学科の入学定員を 80 人から 100 人、リハビリテーション学科理学療法学専攻の入学定員を 40 人から 80 人に増員した。令和 3（2021）年度からは、月寒本キャンパスへの移転を機に、看護学科の入学定員を 150 人、診療放射線学科を 100 人に増員し、臨床検査学科を入学定員 60 人で新設した。さらに令和 4（2022）年度からは、リハビリテーション学科理学療法学専攻を 100 人に増員し、保健医療学部に臨床工学科（定員 60 人）を加え、新学部として総合福祉学部（介護福祉マネジメント学科 40 人、ソーシャルワーク学科 80 人）を設置した。令和 6（2024）年度入試の入学定員充足率は、看護学科が 102.0%、リハビリテーショ

ン学科が 97.9%（理学療法学専攻 110.0%、作業療法学専攻 67.5%）、診療放射線学科が 107.0%、臨床検査学科が 90.0%、臨床工学科が 31.7%、介護福祉マネジメント学科が 2.5%、ソーシャルワーク学科が 25.0%となった。

総合型選抜の後期試験に自己アピール型の入試を加え定員確保を図った。すべての入試区分で理学療法学専攻と作業療法学専攻の併願を認め、一般入試と大学センター試験利用入試でも 2 学部 7 学科 2 専攻すべての併願を認めることとし、出願者数を増やす対策をとっている。また、令和 4（2022）年度入試からインターネットによる出願も開始し、コロナ禍においても出願しやすい環境としている。

2-2. 学修支援

2-2-① 教員と職員等の協働をはじめとする学修支援体制の整備

本学における学修支援組織として、大学事務局・学務グループ・学生支援グループを設置している。各学部専任職員を配属し、教員と共同しながら学習支援および学生に対するサポートを行っている。大学の講義に関するものは教務委員会、学生の生活、健康に関するものは学生委員会、保健管理委員会をはじめとした各委員会と連携しながら、学生教育およびサポートの具体的内容を検討し、検討内容を教授会で審議し、学長の許可を得た後、全教員への周知を行っている。

保健医療学部

【学生対応】

保健医療学部で学修する学生を支援するために教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）は履修の手引き、SYLLABUS、HP 上、大学案内等に掲載し、周知の徹底を行っている。また、各学科における教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）についても 1-2-②の通り設置されており、各学科のカリキュラムの構成概念は大学案内に掲載しており、教育課程の編成方針は履修の手引きに掲載し学生に周知している。

保健医療学部は各学科（リハビリテーション学科においては各専攻）に学年担任を複数名配置し、学生の教学上及び生活上の問題の早期発見、早期対応を心掛けている（表 2-2-①-a）。それぞれの学科において学科会議にて学生の動向や状況を報告し、事務局学務グループと連絡を取りながら様々な対応を行っている。→エビデンスが欲しい。このほか、大学ポータルサイトにて各教員のオフィスアワーを公開し、学生からの授業等に関する質問や勉強の方法、就職や将来の進路について個人的な相談に対応しやすい環境を提供している。

また、体調不良を訴えるものには保健室（専任保健師 1 名）が対応し、心理的不安を訴える学生についてはカウンセリングルームの設置を案内している。また、障害・疾患などを有し合理的配慮を希望する学生には、保健管理委員会にて面談を行い、学生の希望を聴取し必要に応じた対応を行っている。

各担任は、ハラスメントの相談窓口も兼ねており、学生からの訴えがある場合には、ハラスメント委員会へ連絡する役割も担っている。

学内の各種委員会の構成員は、教員とともに事務職員も加わり、学生の抱える学業や生活についての問題を共有するとともに、起こり得る・起こり得た問題事項に関し解決に向けた方策を講じている。

【教職員の研修】

教員の学修支援のさらなる意識向上ためにFD研修を令和5（2023）年度は4回開催している。今年度は成績評価、研究に関する研修会を実施した。職員への研修であるSD研修は9回開催し、大学関連の法律からハラスメントまで幅広い研修を行った。

【入学前対応】

学修支援の一環として、総合選抜型入試および推薦入試合格者に対し、本学教員による入学前教育として、①各学科で高大接続の視点で重要と思われる基礎科目課題、②入学後のレポート作成を指導する視点で読書感想文の指導を行っている。エビデンスが欲しい。

【入学時対応】

新入生オリエンテーションは、4月初旬の2日間、大学生としての心構えをはじめ、教務委員会・学生委員会からのオリエンテーション（履修登録・大学における学修に関すること、学生生活に関すること、図書室や学生相談室の利用方法など）を実施している。さらに、学年担任が中心となって、専門性の異なる学科別の特徴に応じたオリエンテーションを行い、本学学生として必要になる情報を伝え、新しい環境に早期に適応できるよう努めている。看護学科・リハビリテーション学科では更に1日追加して新入生オリエンテーションを実施する新たな取り組みも行っている。最後に、教務委員会で作成した「学修ハンドブック」がHP上に掲載されていることを示し、アカデミア・スキルの定着を促している。

【在学生対応】

在学生については、ガイダンスを前期始業前に実施し、新学年での心構えや注意事項について指導している。また、各学科において日々の学習支援に加え、日本医療大学後援会の支援も受けながら国家試験対策として全国模擬試験を実施し、学習の動機づけを行っている。

これら学修支援に直接的に関与する委員会は、「教務委員会」、「学生委員会」、「入学者選抜委員会」、「FD委員会」、「図書及び学術振興委員会」、「キャリアセンター運営委員会」である。日々の活動はこれまで述べてきた通りであるが、年度活動状況については、年度末に大学へ各委員会報告書として記載している。

【令和5（2023）年 学籍に関する状況】

休学、退学、の学籍に関する実態は、次のような傾向が見られた。令和5（2023）年度の

退学者は81名であった。このうち看護1名、放射16名、検査3名の20名は、総合福祉学部への転学部となっている。また1、2年次の退学が69名で全体の約85%となっている。これら1、2年次の退学理由の約65%が進路変更であり、受験時の進路選択・進路決定が影響していると推測される。したがって、入学前イメージと入学後の実体験で大きな違いを認識し進路変更とつながっているのではないかと考えられる。さらに、学業不振や進路熟慮といった休学を経た後や留年が決定してからの退学が大半であり、学業不振が大きく影響していると思われた。

休学者は、令和5（2023）年度の休学者は82人であった。このうち23名が履修すべき単位が無いことが理由であった。その他では、学生生活不適應、就学意欲低下が20名、学業不振16名、進路変更準備12名が主な理由となっている。

休学、退学等の学籍異動にあたっては、あらかじめ学年担任が学生と面談し、学年担任の所見を付した書類の添付を求めている。その後教務委員会を経て、教授会で意見を求めた後、学長が最終決定している。保護者とは、必要に応じて面談を行い、理解を得るようにしている。休学者については、定期的に学年担任に現況を連絡することが課され、休学中の学生の生活状況等の把握・指導や支援については、学年担任が中心となり教職協働で行っている。

表 2 - 2 - ①-a 2023 年度学生担当教員

学科	学年	学生担当教員
看護学科	1 年 A	○草薙、小宅、中村、渡邊、本間
	1 年 B	○工藤、相馬、吉田（香）、大久保、春名
	2 年 A	◎○滋野、溝部、松村、佐藤（み）
	2 年 B	○井上、和田、佐藤（予）、難波
	3 年 A	○鶴木、合田、鏡山、柏民、鈴木（雅）
	3 年 B	○進藤、高橋、原田、吉田（直）、柏倉
	4 年 A	○河原畑、服部
	4 年 B	○美濃、中澤
リハビリテーション学科	1 年理学療法学専攻	矢口・小林・谷口
	1 年作業療法学専攻	坂口・宝田
	2 年理学療法学専攻	近藤・新開谷・坂口
	2 年作業療法学専攻	及川・合田
	3 年理学療法学専攻	西山・三浦・武田
	3 年作業療法学専攻	岸上・村上（正）
	4 年理学療法学専攻	泉水・松崎・渋川
	4 年作業療法学専攻	清本・村上（優）
診療放射線学科	1 年	○西山・渡辺・樋口
	2 年	○黒蔵・島・木村
	3 年	○白石・福山・菊地
	4 年	○阿部・藤田・小笠原
臨床検査学科	1 年	○梅森・小池
	2 年	○徳永・岡田
	3 年	○磯辺・林・魚住
臨床工学科	1 年	○齊藤・竹内・加川
	2 年	○工藤・齊藤・高平

◎：学担取りまとめ○：主担任

総合福祉学部

【学生対応】

総合福祉学部で学修する学生を支援するための教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）は、SYLLABUS、HP、大学案内等に掲載されており、かつ各学科における教育課程編成・実施方針は1－2－②の通り設置されている。また、各学科カリキュラムの構成概念は大学案内に、教育課程の編成方針は SYLLABUS に掲載され、学生全体に周知をしている。

総合福祉学部は各学科に学生担任および副担任を一名ずつ配置しており、学生の教学上、生活上の問題の早期発見、早期対応を心掛けている（表2－2－①－a）。各学科の学科会議にて、学生の動向や状況を報告し、大学事務局・学務グループと連携を取りながら様々な対応を行っている。

健康管理の点では、心理的不安を訴える学生については保健医療学部と同様にカウンセリングルームの利用を案内している。また、障害・疾患などを有し合理的配慮を希望する学生に対しては、保健管理委員が面談や希望聴取など、必要に応じた対応を行っている。加えて、各担任はハラスメントの相談窓口も兼ねており、学生からの訴えがあった場合にはハラスメント委員会へ連絡する役割も担っている。

学内の各種委員会構成員は、教員に加え大学事務局員も関わり、学生の抱える学業や生活についての問題を共有するとともに、起こり得る、ないしは起こり得た問題事項に関して、解決に向けた方策を講じている。

【教職員の研修】

教員の学修支援のさらなる意識向上のため、FD 研修会を 2023 年度は対面 2 回、オンデマンド配信 2 回の計 4 回開催した。

今年度は成績評価、ハラスメント、研究に関する研修会を実施しており、職員への研修である SD 研修は 9 回開催している。

【入学前対応】

学修支援の一環として、総合型選抜入試および推薦入試合格者に対し、本学教員による入学前教育を行っている。

【入学時対応】

新入生オリエンテーションは、4 月初旬の 2 日間、大学生としての心構えをはじめ、教務委員会、学生委員会からのオリエンテーション（履修登録、本学における学修に関すること、学生生活に関すること、図書室やキャリアセンターなどの利用方法について）を実施している。

さらには学生担任が中心となり、専門性の異なる学科別の特徴に応じたオリエンテーションを行い、本学部生として必要な情報を伝え、新しい環境へ早期に適応できるよう努めている。

【在学生対応】

在学生については、ガイダンスを前期始業前に実施し、新学年での心構えや注意事項につ

いて指導している。また、各学科において日々の学習支援に加え、日本医療大学後援会の支援も受けながら国家試験対策として全国模擬試験の実施し、学習の動機づけを行っている。

これら学修支援に直接的に関与する委員会は、「教務委員会」「学生委員会」「入学者選抜委員会」「FD 委員会」「図書及び学術振興委員会」「キャリア学修支援センター運営委員会」である。日々の活動はこれまで述べてきた通りであるが、年度活動状況については、年度末に大学へ各委員会報告書として記載している。

【2023 年 学籍に関する状況】

休学、退学、除籍、復学、その他学籍異動に関する実態について、2023 年は退学者が 2 名、休学・除籍・復学についてはいずれも 0 名であった。

休学、退学等の学籍異動が発生した場合は、あらかじめ学生担任が学生と面談をし、学生担任の所見を付した書類の添付を求めることにしている。必要に応じて保護者とも面談を行い、双方が理解を得られるようにしている。

なお休学者については、定期的に学生担任へ現況を連絡することが課され、休学中の生活状況等の把握や指導、支援について、学生担任が中心となり教職協働で対応している。

表 2-2-①-a 2023 年度学生担当教員

学科	学年	学生担当教員
介護福祉マネジメント学科	1 年	○加藤 敏文、高橋 銀司
	2 年	○織田 なおみ、伊藤 一
ソーシャルワーク学科	1 年	○松浦 智和、丸山 正三
	2 年	○忍 正人、橋本 達志

○：主担任

2-2-② TA (Teaching Assistant) 等の活用をはじめとする学修支援の充実

保健医療学部

TA については、本学は大学院を設置しておらず、今後の課題である。(令和 6 年度より設置) ただし、上級学年が下級学年の学生へのアドバイスする場面を設定している学科が複数あり、今後より有機的に機能するように検討している所である。

臨床実習開始前の期間は、上級年次生が SA を担当し、科目担当教員の指導の下に検査測定などの技術指導やアドバイスを行うことでサポートしている。これらがより組織的に取り組めるようになることが今後の課題である。

教務委員会では、各教員のオフィスアワーを半期ごとに大学システムであるユニバーサルパスポートにて学生に周知し、講義内容や学生生活に関する相談ができるように促している。また多くの教員は、オフィスアワー以外の時間にも可能な限り学生に対応している。

令和元(2019)年度に、リハビリテーション学科に聴覚に障がいを持つ学生が1名入学し、在籍している。聴覚状況は先天聾で人工内耳(右)を装用、左耳からの聴覚はないものの、右聴覚と読唇で会話の理解は可能である。当該学生の入学前より、学科会議等において、聴覚状況、授業環境、配慮事項を確認し、学科の全教職員が当該学生の障がいに対する理解を深め、適切に対応できるように準備し、実施している。具体的には、教室においては中央からやや左側前列に席を配置し、科目担当者に対しては、口述や板書での配慮事項を説明し、徹底して実施している。2022年度も同様の対応を継続している。上記学生の経験を踏まえ、本学では合理的配慮を求める学生に対し、保健管理委員会にて学生面談を実施し、学生の望む対応(診断書の提示、疾患名の公表、周囲への周知と就学上での困難点など)を可能な範囲で学生の望む対応を行っている。

2-2の改善・向上方策(将来計画)

休退学者への対応を構築する事

上級学年が下級学年へのサポートを構築する事

総合福祉学部

TA(Teaching Assistant)については、本学は大学院を設置していないため、今後の課題となっている。そのため本学部では、アクティブ・ラーニングやチューター制度、オフィスアワー制度等を導入・活用し、より有機的な環境となるよう取り組んでいる。

アクティブ・ラーニング(ケーススタディ=CS、問題解決型学習=PBL)は文部科学省が学習・指導方法の改善として推進している教育手法であり、学生自身がグループワークやディスカッションを通じて能動的に授業に参加できる体制となっている。特に演習科目などにおいては、課題研究や問題解決型学習(PBL)、プレゼンテーションなど、学生が主体となる形態を採用しており、ICT機器なども活用しながら教員と学生が双方向につながる事ができる授業を実施している。また、授業の中で議論し、結論をまとめる能力を学修し「知識の定着」や「知識活用による問題解決能力(PBL)の育成」につなげ、さらにはコミュニケーション能力をも身に付けることができるよう、可能な限り取り組んでいる。

チューター制度は、学生全員が入学と同時に少人数のグループに振り分けられ、所属し、専任教員がそれぞれのチューターとして配置される制度である。個別面談や授業、生活を含めて常に相談相手となっている。

オフィスアワー制度は、専任教員および兼任教員が学生からの授業や履修、学生生活などの質問、相談に応じるため特定の時間帯を設ける制度である。多くの教員はオフィスアワー以外の時間でも、可能な限り学生対応を行っている。

以上のように、TA(Teaching Assistant)が設置されていない分、アクティブ・ラーニングやチューター制度を設け、学生同士のみならず、教員も一体となって学修支援の充実を図っている。

2-3. キャリア支援

2-3-① 教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する支援体制の整備

本学キャリアセンター（以下「センター」という）は、それまでの「就職・進路対策委員会」を改組し名称「キャリア学修支援センター」として平成 29（2017）年 4 月発足した。その後、令和 3（2021）年 4 月キャンパス（月寒本キャンパス）への移転を機に、その名称を「日本医療大学キャリアセンアー」に改称のうえ、「学生の職業観や勤労観を育み、学生一人ひとりが社会の中で自分らしいキャリアビジョンを実現していくため、その目標達成にむけた総合的支援を行うことを目的とする」（キャリアセンター規程：第 1 条）に則り、全学部全学科の学生に対する就職・キャリア支援に特化する形で規定の見直しを含めた体制整備を図った。この規定改訂に伴い、専従のセンター事務員（同第 4 条第 3 項及び第 7 条）を配置し、本学として本学学生へのキャリア支援に対するサービス強化を以て体制づくりを整えた。

令和 5（2023）年度 看護学科は開設 11 年目を迎えた。平成 29（2017）年度 1 期生の卒業以来 本年度は 7 期生 96 人が卒業した。リハビリテーション学科は開設 10 年目となり、平成 30（2018）年度 1 期生の卒業以来、本年度は 6 期生 81 人（理学療法学専攻 67 人・作業療法学専攻 14 人）が卒業した。診療放射線学科は開設 9 年目となり、令和元（2019）年度 1 期生が卒業以来、本年度は 5 期生 48 人が卒業した。以上により本年度の卒業生は、合計 225 人である。そのほか、令和 3（2021）年 4 月に設置された臨床検査学科は本年度 3 学年在学となった。令和 4（2022）年 4 月には、臨床工学科が新規設置され 1 年生を迎え入れ、本年度は 2 学年在学となった。保健医療学部は、5 学科となり継続している。また、令和 4（2022）年 4 月 真栄キャンパスにおいて「総合福祉学部」を開設し、介護福祉マネジメント学科およびソーシャルワーク学科の 2 つの学科が加わった。以上により、センターは、昨年度より 2 学部 7 学科の学生に対し、社会人そして専門職業人として必要なキャリア教育を行い、学生が個々人の可能性を最大に発揮し時代を生き抜くことが出来るような支援を学科部門員と連携のうえ取り組んできた。

社会的・職業的自立に関する就職・進路対策については、職種や業種により異なる部分もあるため、学部学科ごとの取り組みに分けて述べていく。

〔1〕保健医療学部としての取り組み

センターは、学科部門員との連携のもと、社会的・職業的自立に関するキャリア教育、就職対策のための支援体制を構築している。

定期に開催している「キャリアセンター運営委員会」では、センター長をはじめ、各部門員、センター事務員、大学事務局職員参加のもと、必要な業務連携や協議を行っている。日頃より就職・進学、キャリア支援に関する学生対応については、センター事務員がその学科における部門員と連携し、相談窓口となり、個別性ある支援・助言を行っている。採用活動状況、求人件数管理、キャリア講座の実施状況、病院等の本学来訪情報などは運営委員会にて報告書として適宜共有している。

教育課程外でセンターが実施しているキャリア教育の取り組みとして、オリエンテーション、各種キャリア講座の開講、就職ガイダンスの開催、オンラインでの情報発信、『就職ガイドブック』（本学オリジナルのガイドブックをデータ化し配信）の作成等がある。また、求人票はキャリアセンター資料室での掲示、ファイリングのほか、求人検索システム「求人 NAVI」を令和 4（2022）年 6 月本格導入・運営が図られたことにより学生へのサービス向上が進んだ。本学指定の履歴書様式は令和 4（2022）年にトライアル運用を図り、本年度から全学科共通の本学履歴書様式として本格導入・無料化されたことは大きな改革であった。

本学は医療専門職の育成を目指す大学であることから、教育課程においてはキャリア教育に繋がる科目である「臨地実習」、あるいは「臨床実習」を設定している。これらは、通常のインターンシップ以上に学生が働く目的を考え自己成長を促す機会となっている。

「臨地実習」と「臨床実習」の時間数、回数、実施学年などは学科ごとに異なるが、センターではこれらの実習と連動させて実習前マナー講座などを企画・実施している。

そのほか新入生オリエンテーションや学部学科別の在学生向けガイダンスを通し、本学キャリアセンターの役割や大学生としての時間の過ごし方、キャリアビジョンを描くための心構え等を説明し、積極的なセンターの利用を促している。保護者には入学式における保護者説明会、後援会総会などで、キャリアセンターの紹介や学科としての取り組み、卒業生の就職実績、採用市場等の説明が行われており、保護者の理解と学生支援を促している。また近年では、コロナ禍に本学学内で導入され運用している Office365 Teams の機能を最大限活用し、学生個々からの質問や相談、情報の発信にオンラインを活用することで、よりスムーズでスピーディーな回答や周知が図られ利便性が構築されている。

次に、学科別の取り組みについて述べていく。

【 看護学科 】

看護学科は、幅広い知性と豊かな感性を大切に人材の育成が図られ、人の尊厳や命に真摯に向き合う高い倫理観や人間性、そして人間を統合的な存在として理解する能力、他者への理解と援助的人間関係の構築能力、チーム医療、また他職種との連携・協働力、科学

的思考と問題解決能力、継続的な主体的学修能力をバランスよく育成するために、看護学の専門的知識と技術に裏づけされた看護実践能力の向上を図っている。そのため、教育課程内外においてキャリア教育についても積極的に取り組んでいる。

看護学科では、1年次から4年次までのカリキュラムにおいて臨地実習を取り入れている。臨地実習は、看護の実践場面における科学的根拠に基づく実践教育であると同時にキャリア教育の役割を果たしている。最終学年の統合実習は、既修得科目の知識・技術を統合し、多様な課題に取り組んでいる実習である。

このようなカリキュラムを踏まえ、センターでは低年次からキャリア支援に取り組んでいる。令和4（2022）年1月に初めて卒業生1期生と3期生の2人を講師として招聘し「卒業生トーク会」を実施した。各オリエンテーションやガイダンスのほか2年次には「実習前マナー講座」、「就活スタートアップ講座」、3年次には「実習前マナー講座」「就職活動講座（履歴書・小論文・面接対策）」、4年次には個別に応募書類の添削支援や面接対策の実施を行っている。このプロセスで学生は将来に向け自己の課題を明確にし、臨地実習に取り組みながら自らの進路を選択していく。看護の採用市場は、年々 早期化・短期化しており札幌圏の求人採用は激戦区のエリアとなっているため、学生の希望が実現できるよう個別支援の強化を図っている。病院施設からのパンフレットや求人、奨学金情報のほか卒業生の受験報告書（就職および進学）は、学生がいつでも自由に閲覧できるようキャリアセンター資料室にて格納し整備している。

令和5（2023）年度卒業の7期生は、就職者91人（札幌市70人、札幌市外の道内8人、道外13人）、うち第1希望の病院への就職内定率は、80.2%と高い結果となった。進学者は2人（助産師専攻2人）であった。なお、国家試験合格率は91.7%である。

以上のように、医療専門職として社会における役割を自覚し、高度な知識と技術を修得し、社会で活躍できるよう丁寧なキャリア教育、就職支援を行っている。

【 リハビリテーション学科 】

リハビリテーション学科（理学療法学専攻及び作業療法学専攻）では、多くの学生が卒業後、理学療法士及び作業療法士として就職することを希望している。幅広い知性と豊かな感性のもとで、人間を尊重する態度と高い倫理観、人間を統合的な存在として理解する能力、他者への共感的理解と援助的人間関係の形成能力、他職種との連携・協働力、科学的思考と問題解決能力、継続的な主体的学修能力を授けるとともに、専門分野の基礎・基本となる知識及び技術と専門職業人としての態度を育成するために教育課程内外において、キャリア教育に積極的に取り組んでいる。

リハビリテーション学科では2年次から4年次までの教育課程の中で臨床実習を取り入れている。臨床実習は臨床現場における教育であり、同時にキャリア教育やインターンシップの代替としての役割を果たしている。臨床実習は臨床実習指導者と教員との密接な連携のもとに進めている。

1年次では初年次教育のキャリア講座を実施し、期待されるセラピスト像を描けるよう大学生活へのモチベーションに繋げる講座を実施した。2年次以降は臨床実習に合わせた実習前マナー講座を実施し、相手の理解や自己理解、想像力を高める力を養っている。3年次も同様、実習前マナー講座を実施し、より主体性を大切に伝える積極性、情報の受取と発信、聴き方や接遇、怒られる力等を学べる内容としている。最終学年である4年次には春と秋に先輩の就職実績や採用市場のほか、「就職オリエンテーション」として面接や履歴書対策に特化した内容を行った。

求人情報はキャリアセンター資料室で整備し、病院施設からのパンフレットや求人、奨学金情報は、学生がいつでも自由に閲覧できるように整備している。

リハビリテーション学科では、本学キャリアセンターで作成した「就職ガイドブック」のほか、リハビリテーション学科の学生に「就職活動のルール」を用いてガイダンスを行った。臨地実習から戻った9月後半から就職活動が本格的にスタートする。例年「学内就職説明会」を開催している。令和5（2023）年度の就職説明会には、札幌をはじめ道内外から92施設（午前の部 52施設・午後の部 40施設）が参加している。会場では、感染対策を徹底のうえ環境に配慮のうえ、個々学生は興味のある病院や施設等の説明を直接担当者から聞ける好機会であり、熱心に取り組んでいた。就職説明会は、学生の就職意欲向上と病院との連携強化を図る機会ともなっている。学生が就職活動を行う前には専攻において部門員及び担当教員が随時窓口となり、病院の事情に詳しい教員にも相談できるような連絡体制をとっている。

令和5（2023）年度卒業のリハビリテーション学科6期生就職者は74人（札幌市内38人、札幌市外の道内26人、道外10人）であった。大学院進学は2人であった。なお、国家試験合格率は93.7%（理学療法学専攻95.5%・作業療法学専攻84.6%）である。

以上のように、医療専門職としての社会における役割を自覚し、高度な知識と技術を修得し社会で活躍できるよう、丁寧なキャリア教育、就職支援を行っている。

【 診療放射線学科 】

診療放射線学科の学生の多くは卒業後 診療放射線技師として活躍することを希望している。放射線医療におけるモダリティ技術の高度化、また患者の多様化に対応するため、基礎的な知識と技能の修得に加えて、医療現場に携わる職業人として求められる幅広い視

野と豊かな人間性、高い倫理観、的確な対人関係の形成や他者との協調と協働力を身につけた職業人を育成している。また、継続的な自己研鑽力や自主的に学び、考え、行動し続ける研究能力を身につけた専門職業人を育成している。

科学的に裏付けされた専門的知識と技術で放射線診療の実践能力向上のためのキャリア教育を行っている。

初年次教育をはじめ、各学年における教育課程の中で必要となる講座の実施を行っている。実習はインターンシップの代替としての機能を持ち、社会人・職業人の自立に向けたキャリア教育の役割を果たしている。臨床実習は臨床実習指導者と教員との密接な連携のもとに進めている。医療人および社会人としての「接遇」「コミュニケーション」をテーマに実習前マナー講座を行っており、併せて就職活動に向けて、卒業生の実績や採用市場の傾向と対策、また専門職業人として就労意識を高める機会としてキャリア講座を実施している。

令和5（2023）年度卒業の5期生就職者は36人（札幌市内16人、札幌市外の道内15人、道外5人）であった。診療放射線技師としての採用市場は、退職者補充を以て新卒求人が出されることもあり年々厳しく就職エリアは北海道のみならず東北や関東に拡充しつつあるため早めの対策が必須となっている。なお、国家試験合格率は83.3%である。

以上のように、医療専門職としての社会における役割を自覚し、高度な知識と技術を修得し社会で活躍できるよう、丁寧なキャリア教育、就職支援を行っている。

【 臨床検査学科 】

臨床検査学科は令和3（2021）年4月に開設し1年生を迎え入れた。本年度は3年次が在学となった。学生の多くは卒業後 病院等における臨床検査技師として活躍することを希望している。臨床検査技術の高度化や多様化、また新たな感染症に対応するべく検査などにも対応するため、基礎的な知識と技能の修得に加えて、医療現場に携わる職業人として求められる幅広い視野と豊かな人間性、高い倫理観、的確な対人関係の形成や他者との協調と協働力を身につけた職業人を育成する。

1年次には大学生活を考える（行動計画と思考の転換）と題し、大学生のタイムマネジメントと脳の習慣、将来の夢実現に向けたプロセスとして思考力についてキャリア講座をセンター事務員が行った。2年次には、社会人基礎力としての求められる力、組織のなかで活躍する能力のほか、採用市場と就職活動にむけて広がる活躍の場と2年次にやるべき事柄の組立てをベースに思考力に係るキャリア講座を実施した。卒業実績が本学では無いため、今後市場の開拓や一期生輩出に向けた動き出しが必須である。今後も学科との連携を図りながら必要なキャリア教育を実施し人材育成に努める。

【 臨床工学科 】

臨床工学科は令和4（2022）年4月に開設し1年生を迎え入れた。本年度は2学年が在学している。学生の多くは卒業後 臨床工学技士として活躍することを希望している。近年のコロナ禍により医療現場において注目されている職業の一つであり、医療技術者として生命維持管理装置の人工呼吸器、血液浄化装置、人工心肺装置など益々医療技術の高度化や多様化に対応すべき能力、また医療機器の保守・点検を行うため、基礎的な知識と技能の修得に加えて、医療現場に携わる職業人として求められる幅広い視野と豊かな人間性、高い倫理観、的確な対人関係の形成や他者との協調と協働力を身につけた職業人を育成している。

1年次には大学生生活を考える（行動計画と思考の転換）と題し、大学生として身に付けるべき力（社会人基礎力）、大学生生活の4年間を考えるタイムマネジメント、なりたい自分を実現するための思考と行動をテーマに初年次キャリア講座をセンター事務員が行った。

卒業実績が本学では無いため、今後市場の開拓や一期生輩出に向けた動き出しが必須である。今後も学科との連携を図りながら必要なキャリア教育を実施し人材育成に努める。

〔2〕総合福祉学部としての取り組み

新たに真栄キャンパスにて「総合福祉学部（介護福祉マネジメント学科・ソーシャルワーク学科）」が令和4（2022）年4月新設した。本年度センターは、資料室のみ設置した。学科部門員との連携のもと、社会的・職業的自立に関するキャリア教育を初年次より実施した。

定期に開催している「キャリアセンター運営委員会」にて、保健医療学部各学科と情報共有の連携を図り協議を行っている。ただ、キャリアセンターの専従となる事務員を配備していない状況により、全ての学科教員が個々学生の相談窓口となり日頃より就職・進学、キャリア支援に関する学生対応の実務を行っている。

福祉分野での人手不足が喫緊の課題であるため、入学年次より外部福祉施設からの注目は大変高い状況である。本学部の特色として、基礎専門領域を目指しコースの選択、そして資格取得が可能であること、また施設運営に必要となる経営マネジメントの知識を学べる福祉人材の育成である。

本学部には2学科があるが本年度は全て学科共通として部門員と連携のうえ初年次キャリア講座を実施した。

【 介護福祉マネジメント学科 】

介護福祉マネジメント学科では、介護と経営を複合的に学び、併せて組織の管理・経営に関する専門知識を学び、これからの日本に必要となる保健・医療・福祉の分野におけるエキスパートの育成を目指している。

初年次教育として、入学時より今後のキャリアを築いていけるよう福祉分野の可能性をもとに気付きを大切にしたい学びの時間とした。まずは、時間の意識として大学4年間という限られた時間でのタイムマネジメント、自分が学んでいる大学という環境において身に付ける教育が生み出す可能性と自分の可能性への拡がり、最後に自分の将来のキャリアを描けるよう書き出しの思考術を講座で実施した。部門員からは、後半 より具体的なイメージを持てるようこれまでの振り返りを書き出し、大学生活を応援するキャリア講座を実施した。また、部門員の調整により、1年次から福祉現場でのインターンシップとして職業体験を行った学生もいた。

少子高齢化社会が益々加速するなかで、福祉分野への人材確保は喫緊の課題であるが、若者の福祉離れにより入学者の確保が本学として重要である。より柔軟性ある学びや資格取得を以て 今後 福祉での活躍するフィールドや市場価値を生み出していけるような新しいカリキュラムに則り個々学生のニーズや多様性あるキャリア支援を実践していく。

【 ソーシャルワーク学科 】

ソーシャルワーク学科は、これからの社会において誰もが暮らしやすい地域共生社会を支えるべく、医療、介護、福祉、就労、教育、住宅保障等のサービスを総合的に提供していく能力を養い、地域共生社会のソーシャルビジネスを学んでいく。

初年次教育として、入学時より今後のキャリアを築いていけるよう福祉分野の可能性をもとに気付きを大切にしたい学びの時間とした。まずは、時間の意識として大学4年間という限られた時間でのタイムマネジメント、自分が学んでいる大学という環境において身に付ける教育が生み出す可能性と自分の可能性への拡がり、最後に自分の将来のキャリアを描けるよう書き出しの思考術を講座で実施した。部門員からは、後半 より具体的なイメージを持てるようこれまでの振り返りを書き出し、大学生活を応援するキャリア講座を実施した。また、2年次からの臨床実習に備えマナー講座などの実施を行っていく。

少子高齢化社会が益々加速するなかで、福祉分野への人材確保は喫緊の課題であるが、若者の福祉離れにより入学者の確保が本学として重要である。より柔軟性ある学びや資格取得を以て 今後 福祉での活躍するフィールドや市場価値を生み出していけるような新しいカリキュラムに則り個々学生のニーズや多様性あるキャリア支援を実践していく。

2-4. 学生サービス

2-4-① 学生生活の安定のための支援

[1] 学生サービス、厚生補導のための組織の設置とその機能

学生サービス、厚生補導のための組織として本学では各学部「学生委員会」を設置している。委員は各学科2人の教員と学生支援グループの職員で組織し、学長指名の委員長が委員会を運営している。また、令和5年度（2023年度）からは副委員長をおいている。委員会については委員長が招集し、原則月1回（第2水曜日、保健医療学部は16時30分から、総合福祉学部は15時30分から）の定期開催のほか、緊急な議題が生じた場合は持ち回りの会議等で対応している。保健医療学部では令和5（2023）年度は11回開催した。総合福祉学部では令和5（2023）年度は12回開催した。すべて対面開催であった。

活動は大きく分けて、1. 通常の学生委員会業務、2. 学生委員会主催行事、3. 学友会支援に分かれている。これに沿って単年毎の実施計画案を審議し、年度末に大学に提出している。

本学では大学設置後、学科増設や定員の増員を経て、令和4（2022）年度には保健医療学部臨床工学科、総合福祉学部が新設され、2学部7学科体制となった。学生委員会は増大する学生のニーズに合わせて毎年改善を繰り返し、より良い学生サービス、厚生補導に努めてきた。ここ数年はコロナ禍の影響により、学内施設の利用禁止、学内団体の活動自粛等の問題が継続して発生し、課題となっていたが、学内の活動は徐々にコロナ禍前に近づいてきた。また、学生ポータルサイト（ユニバーサルパスポート）を通じて『学生委員会からのお知らせ』を8月、9月、12月、2月の計4回配信した。具体的内容としては、感染対策はもとより「ハラスメント規定」「ガイドライン」の改定について、「学内団体の設立や運営について」、「長期休暇の注意事項」などであった。

[2] 通常の学生委員会業務

学生サービス、厚生補導に関する学生委員会の通常サービスとしては以下の活動を実施している。

1) 環境整備やその美化

学生の居場所作りの整備、各棟の共同利用スペースの環境整備に関しては、例年は共用スペースへのイス・テーブル等の設置の拡充に努めてきた。令和5（2023）年度は学生の要望に応え、女子ロッカーの出入り口にカーテンを設置した。（保健医療学部）

2) 防災活動、災害時行動マニュアルの作成、配布

災害時行動マニュアルを作成し、毎年入学式後のオリエンテーションにて配布している。災害時の避難経路や緊急避難の方法、留意点等が名刺大の折り畳み式の冊子になっており、学生には学生証と同様に携帯を勧めている。

平成29（2017）年に札幌市と本学の間に「福祉避難所等に関する学生ボランティア協定」が締結され、希望学生の登録募集は「学生委員会からのお知らせ」を通して毎年募集をかけ

ていたが、今年度は募集を行わなかった。そのため大学側の責務である研修等の開催も実施しなかった。今年度現在に至るまで、協定に則った福祉避難所からの学生ボランティアの招聘は一度も発生していない。

3) 学内の保安

学内における遺失物に関しては事務局で管理しているが、明らかに盗難等の被害を受けた場合は、被害届を大学に提出してもらうと同時に本人、保護者と話し合い、警察に届け出ることもある。届け出た場合は警察の事情聴取や捜査に協力を行う。

今年度も学生、教職員に対して掲示板やポータルサイト等で私物の自己管理に関する注意喚起を実施した。

4) 奨学金、学生の顕彰に関する業務

・学内奨学金授与者の選考業務

各種奨学金の応募者が推薦人数を超えた場合、学内での選考を学生委員会で実施するが、案件によっては各学科に選考を依頼することもある。今年度の当委員会が関わる奨学金案件はなかった。

・学生顕彰の選考業務と顕彰状授与式の举行

人材育成の一環として、Grade Point Average (GPA) が優れ、学修態度において顕彰に値するとして教員の推薦を受けた学生又は、ボランティア活動や地域振興等の社会貢献活動において顕著な成果を残した学生および団体に対して、学生顕彰を行い副賞として図書券1万円を授与する。成績優秀による顕彰は毎年各学科・各学年上位10%とし、社会貢献による顕彰学生は毎年全学2人、あるいは2団体としている(上限数であり、該当学生がない場合もある)。選考は、年度末に成績優秀上位者一覧を各学科に示し、学科の推薦を得た学生を学生委員会でさらに検討して対象者案を決定する。今年度の具体的な活動に関しては[5]の1)、4)に記した。

5) 学生アンケート

令和5(2023)年度の学生アンケートは、7～1月の期間で実施した。単純集計の結果を保健医療学部は1月、総合福祉学部は1月の教授会にて報告の上、アルファオフィスを用いて全教職員に共有した。学生からの回答として、新校舎が綺麗で気持ちよく学生生活が送れていることや学食の味や量への満足度が高い意見の一方で、通信環境(Wi-Fi環境)の改善や空きコマや放課後に自由に学習できる場の設置を望む意見・要望が多かった。IR室や外部委託によるデータの解析によりアンケートの結果を学生のキャンパスライフへ反映することが本学の掲げる「学生ファースト」の観点を具現化できるものとする。

6) 情報発信

学生への情報発信として、今年度は次のことを実施した。

① 「学生委員会からのお知らせ」配信

② 入学式、各学科のオリエンテーションにおける学生生活の説明

〔3〕学生委員会主催行事の実施

学生委員会の主催行事は、開学年度から計画的に開催し、今年度に至るまでにその10回目を迎えることになっていた。

第10回 命の講演会

講師：柳谷 由美先生 さっぽろレインボープライド実行委員会委員長

テーマ：「医療職を目指す大学生へのLGBTQ」

令和5（2023）年11月10日（金）月寒本キャンパス大講堂 13：00～14：00

現地参加者，オンデマンド視聴参加者合計154名

講師：小林 亮平 氏

テーマ：「普通じゃなくなった人生」

令和5（2023）年12月13日（水）真栄キャンパス講義室302 12：25～13：30

現地参加者，オンデマンド視聴参加者合計25名

ニュースレター「あずまし」は、総合福祉学部とも情報共有・協議は行ったものの、発刊には至らなかった。ニュースレターのあり方について協議することは今後の課題である。

〔4〕学友会活動への支援

日本医療大学学友会は、平成26（2014）年4月24日施行の「日本医療大学学友会会則」に則って設置された。会則第2条により学友会は日本医療大学に在籍する学生全員をもって組織されている。前年度決算案、今年度予算案は、年間活動計画案、本部役員案は4月の対面での定期総会が中止となったため、遠隔で令和5（2023）年4月25日（火）に新入生歓迎会と合わせて実施した。

学友会会長は全会員の選挙によって毎年1月に選ばれ、今年度会長は9代目の会長が各行事を主宰し、本部会は会長が指名した各学科1人の副会長と、年度初めのオリエンテーションやガイダンスで選抜される学科各組の代表者2人のうちの1人から組織される。

年間を通しての主な学友会主催行事は、新入生歓迎会、体育祭、および今年度から始まった日医大フェスあった。また卒業式では卒業生への記念品の配布は実施できたが、その後の卒業を祝う会は中止となった。

〔5〕奨学金などの学生に対する経済的支援の実施

1) 日本学生支援機構奨学金、その他

意欲と能力のある学生が、経済的理由により修学をあきらめることがないよう支援することを目的とした国が実施する奨学金制度である。本学の対象人数は以下のとおりである。

(令和6(2024)年3月31日現在)

その他、地方公共団体や各種団体、病院等が実施している奨学金制度などの情報を学生に周知し、個別相談や申請手続きの支援を行っている。病院等の奨学金制度を利用し、修学している学生は複数人いる。

学科	給付	第一種奨学金 (無利子)	第二種奨学金 (有利子)	合計
看護学科	107 件	159 件	241 件	507 件
リハビリテーション学科	81 件	116 件	180 件	377 件
診療放射線学科	54 件	113 件	147 件	314 件
臨床検査学科	29 件	57 件	80 件	166 件
臨床工学科	12 件	19 件	23 件	54 件
介護福祉マネジメント学科	2 件	3 件	3 件	8 件
ソーシャルワーク学科	1 件	1 件	2 件	4 件
合計	286 件	468 件	676 件	1430 件

2) 国の「修学支援新制度」

「修学支援新制度」は令和2(2020)年4月より、高等教育の無償化によって授業料・入学金を免除または減額される制度である。本学での対象人数は以下の表のとおりである。

授業料・入学金を免除または減免された人数			
学科	入学金免除	授業料(前期)	授業料(後期)
看護学科	22	99	99
リハビリテーション学科	20	77	75
診療放射線学科	15	53	50
臨床検査学科	9	25	24
臨床工学科	6	11	11
介護マネジメント学科	0	2	2
ソーシャルワーク学科	0	1	1
合計	72	268	262

3) 日本医療大学 特待生制度

学校法人日本医療大学特待生制度規程により、入学試験における合格者のうち優秀な成績をもって入学する者に対して入学後1年間の授業料の半額相当額を給付する制度を実施

している。平成 27（2015）年から施行し、平成 28（2016）年度の入学生から適用しているが、今年度の入試を経て年度末までに選考された対象学生人数は以下のとおりであった。

年度	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科	臨床検査学科	合計
令和5年度	4	4	6	3	21
	臨床工学科				
	4				

4) 総合福祉学部の特待生制度(特別給付奨学金)

総合福祉学部の入学試験において、成績優秀者(上位合格)として合格し、入学するもの(特に総合型選抜[前期]および学校推薦型選抜[公募・指定校]の合格者から優先的に選抜)に対して、入学金及び初年次の「前期」授業料の全額を免除する制度を実施した。今年度の入試を経て年度末までに選考された対象学生人数は以下の通りであった。

年度	介護福祉マネジメント学科	合計
令和 5 年度	2	21
	ソーシャルワーク学科	
	19	

5) 日本医療大学ファミリーサポート制度

ファミリーサポート制度は、日本医療大学に入学しようとする者のうち、保護者や兄弟姉妹が日本医療大学又は前身の専門学校の卒業生又は在学生である場合、もしくは、「つしま医療福祉グループ法人又は関連法人」の役職員の家族である場合に、検定料及び入学金を免除する制度である。今年度の入試を経て、年度末までに選考された対象学生人数は以下のとおりであった。

年度	看護学科	リハビリテーション学科	診療放射線学科	臨床検査学科	合計
令和 5 年度	8	9	1	1	20
	臨床工学科	介護福祉マネジメント学科	ソーシャルワーク学科	大 学 院	
	0	0	0	1	

6) 日本医療大学 学生顕彰

学生の表彰として、日本医療大学年度別学生顕彰を実施している。学科学年別にそれぞれの学科から年間の成績をもとに成績優秀学生の推薦を受けて行う成績優秀賞と、通年全学科の教員の推薦を受けて行う社会貢献賞の 2 つからなっている。令和 5（2023）年度は前年度の成績をもとに、看護学科 36 人・リハビリテーション学科 37 人・診療放射線学科 24 人、臨床検査学科 14 人、臨床工学科 4 人、介護福祉マネジメント学科 1 人、ソーシャルワーク学科 1 人が成績優秀賞に選ばれ、令和 5（2023）年 7 月 20 日に実施された顕彰状授与

式には代表学生のみが出席した。令和4（2022）年度の社会貢献賞は該当がなかった。

〔6〕 学生の課外活動支援

課外活動の支援は、主に学内団体の設置と活動に関するものである。学内団体は現在7月末と翌年の1月末までに設置申請を受け付け、学生委員会の審査を経て学長の承認によって設置が許可される。基本的な備品に関しては設置許可後に各団体からの申請を受けて学生委員会の予算で購入しているが、活動の予算は学友会からの支援と個々の会費の徴収で行っている。

令和5年度は新設された団体は10団体であった。既存の6団体は、昨年度末に活動報告と決算報告を提出し、活動を継続している。コロナ禍によって、学生の課外活動は大きく影響を受けていたが、徐々に元通りの活動を行えるようになってきている。

〔7〕 ハラスメント防止について

ハラスメントの防止、啓発、対応策の検討に関しては、日本医療大学ハラスメント防止委員会が設置されている。「日本医療大学ハラスメント防止等に関する規程」が改訂され、一昨年は「日本医療大学ハラスメント防止等に関するガイドライン」が作成された。

〔8〕 学生の懲戒処分について

本学の学生懲戒委員会は学生委員会委員長、教授職の教員若干名、学生・教員サポートグループで構成される。委員会の開催は、定期開催ではなく懲戒等の必要がある場合に学長が委員会を招集する。令和5（2023）年度は3件の案件があり委員会が招集された。委員会では「日本医療大学の懲戒会等に関する規定」に則り慎重に審議された。教職員は学生の懲戒処分または検討すべき案件が多発しないように学生生活をリードすることが大切で、試験の不正行為のほか SNS の使用方法や闇バイトなど時代の流れに沿った注意喚起の継続が重要である。

〔9〕 学生委員会関連各種規程、覚書、ガイドラインの作成と改正

「日本医療大学 SNS に関するガイドライン」を作成し、新入生新入生オリエンテーション、ガイダンス時に注意喚起と啓発を行った。令和5（2023）年度版の CANPUS HANDBOOK の当該箇所への加筆・修正を実施した。

2-4-② 学生の心身に関する健康管理、学生相談、障害等のある学生への合理的配慮

保健管理委員会が現体制となって 2 年目となり、委員会業務が計画的に実施できるようになった。

今年度の大きな改革はワクチンに関わる感染症罹患歴と接種歴を電子入力に切り替えたことである。詳細については後述する。

I 保健管理委員会の主たる業務の総括

1. 令和 5（2023）年度学生健康診断実施状況

令和 5（2023）年度は、健康診断を外部機関に委託し、2 年生以上は令和 5（2023）年 3 月末に、新入学生は 4 月のオリエンテーション時に実施し、99.35%の健診率となった。また、健診結果の返却については可能な限り各学科の必修授業終了時に配布し、欠席学生については個別に追跡し、返却率は 99.63%である。令和 6（2024）年 3 月時点で、健診未受診者は 26 名、健診結果未返却者は 6 名であった。

2. 健診の総合判定 D 学生の割合

令和 5（2023）年度から、D 判定の学生の追跡は健診を実施した健診センターが行うため、D 判定率のみを提示すると 16.5%であった。D 判定は視力の低さ等でも判定されるため、判定率は比較的高いが、必ずしも疾患を予測するものではない。気になる学生については保健室で経過を観察している。

3. B 型肝炎ワクチン集団接種実施状況

B 型肝炎ワクチン接種は全学科の 1 年生のほぼ全員が接種を要するため、昨年同様、日医大病院と連携し、集団接種を実施した。全学科の全 1 年生 564 名中、331 名（58.69%）が 3 回の集団接種を終了した。その他の学生は個別に接種した。

4. ワクチン接種歴電子入力指導

医療・福祉系の学生の場合、実習時に小児ワクチン 4 種、B 型肝炎、その他、学科により求められる感染症の抗体価が基準値を上回る必要がある。

令和 5（2023）年度も、入学前からワクチン接種の必要性について文書で指導し、罹患歴や母子手帳に記載されているワクチン接種歴の複写の提出を促した。

令和 5（2023）年度、初の試みとして、罹患歴およびワクチン接種歴を電子データで提出する方法を用いた。学科ごと 6～7 月に電子データの入力方法の説明会を実施し、大学入学後に接種したワクチン接種歴を入力するよう学生たちに指導した。期限を過ぎても入力数が芳しくない学科については、9 月に再度説明会を追加した。12 月末を最終期限としたが、未入力者が多く、保健管理委員、学担の協力のもと、入力を促し、3 月現在、ほぼ 9 割の入力状況となった。

この他、明細書とロット番号を写した写真も電子データで集約した。

電子化した結果、抗体価が基準値以下の場合、ワクチンを何回接種する必要があるかについては、学生自身が電子データに入力したため、理解が進み、以前よりはワクチン接種の自己管理が進展したと思われる。しかし、入力したデータを学生が自由に閲覧することができないことが課題として残った。

昨年度のようにワクチン接種管理表の書き方を理解できない学生が保健室に殺到する事態は回避できた。

今後、毎年1年生への罹患歴およびワクチン接種歴の電子データを保管することで、3年後には全学生のデータを一元管理できる予定である。

II 令和5（2023）年度保健室来室状況

（1）保健室来室者数とその内容

1) 令和6（2024）年2月末時点での来室者数は1,053名であった。来室者数を月別に見ると5月が学生162名、職員12名の総計174名と最多であった。そのうち、ワクチン関係が128名であった。

2) 救急搬送、感染症および疾患関連

①学内から救急車で病院搬送者はなかった。

②学内での保健室救急搬送は、9件であり、前年と比較し3件増加した。

要因としては、迷走神経反射による失神、その他不整脈によるもの等で、いずれも安静または、医療機関の受診にて回復した。

③今年度もコロナ、インフルエンザが流行し、特に、4、6、7、10、11月が多く、学内で発症した学生に関しては、日医大病院の発熱外来や他の医療機関の受診につなぎ、対処した。

④自転車事故が複数件あり、医療機関を受診する等の対応が生じた。

3) ワクチン接種関連の指導

令和5（2023）年度から電子入力に切り替えたため、紙媒体での提出を廃止したことで2～3月に保健室に学生が集中することは避けられた。

（2）活動評価

1) 令和5（2023）年度の保健室利用者総数が1,224名（学生1,053名、職員143名）で、前年度の半数以下に減少した。その理由としては、ワクチン接種指導関連の来室が激減したことに寄る。

保健室の専任職員は1名であり、ワクチン対応が減少したことで、体調不良者に専念でき、学生にとって望ましい状況になったと考えられる。しかし、時には無理難題を要求する学生がおり、今後は学担と連携した対応が求められる。

2) 救急対応は寝台車を設置したことで、救急搬送が可能になり、また、感染症の隔離部屋

に設置するなどの利用ができ、日医大病院の外来受診までの間、すみやかに対応できた。

3) 相談対応について

①学生、教職員などの相談が令和5（2023）年度は49件と増加傾向にある。うつ傾向、友人関係の悩み、発達障害、適応障害、職場環境不適應、自傷行為、睡眠障害、学習問題等の相談対応を行った。面談後は必要に応じ、医療機関の受診や教員を通して家族との連携を図った。

4) 研修参加

令和5（2023）年度から本学が全国大学保健管理協会に加入した。

①8月25日 全国大学保健管理研究会北海道大会（当番校北海道医療大学 ホテルニューオータニ札幌開催）に参加した。

②10月4・5日 全国大学保健管理協会研究集会（当番校金沢大学 金沢音楽堂）に参加した。

これらの研究集会に参加したことで、他大学との情報交換ができ、活動内容が把握できたことは非常に意義があった。また、情報がメール等で届くようになり、他大学での取り組みや組織的な学生対応などの学びにつながった。

（3）今後の課題

1) ワクチン接種管理が電子化した、通信不良な学生もあり、紙媒体での保管を余儀なくされる場合があったため、今後の対応を検討したい。

2) 感染症の隔離部屋で休養するためのベッドが寝台車では狭く、硬いため、簡易ベッドの設置が必須と考えられる。

3) 保健室は専任職員1名体制のため、緊急時や体調不良者が重複した場合、対応には限界がある。学生支援・学務・用務の職員や教員の協力が必須であり、協力体制の構築が必要である。

Ⅲ カウンセリングルーム活動報告

カウンセリングルームは学生数の増加に見合った利用者の増加が見られず、また、守秘義務遵守の制約があるとしても、学生の了解のもとに関係部署と情報共有をはかる必要があるが、数年間にわたり連携がみられず、孤立部署となっていた。

今年度も、利用者増加に向けての取り組みと、その成果についての報告を担当カウンセラーに依頼したが、十分な返答は得られず、開設日が少ないことが学生の利用につながらないと述べるにとどまり、利用増加を意図した積極的な活動がみられなかった。

2月末で担当カウンセラーは退職となった。

Ⅳ 障害学生支援状況

1) 障害者差別解消法にもとづく私立大学における障害学生等への合理的配慮の実施

令和 6（2024）年 4 月から私立大学においても障害のある学生に対し合理的配慮を行うことが義務となる。本学は令和 3（2021）年に学生相談センターを設置した時から障害学生支援を実施し、令和 4（2022）年度からは保健管理委員会が管轄し、支援を行っている。

2）支援人数

本学の 2 学部 7 学科のうち、4 学科で 14 名の支援対象者が在席する。前年度からの継続者が 4 名、令和 5（2023）年度からの新規対象者が 10 名である。支援対象は本人からの支援申請書の提出があった場合であり、本学における障害のある学生数を示すものではない。

3）内訳

身体障害と知的障害は各 0 人、精神・発達障害が 6 人、その他が 8 人である。

4）支援の内容

支援を希望する学生と面談し、合理的配慮内容の確認を行った。主な支援内容は講義時や定期試験時の座席の配慮、本人の同意を得て科目担当者、学担らと情報共有の上、個別に必要な配慮を実施した。

5）支援学生の多様化

精神・発達の障害に加え、昨今は難病等に起因し、支援を求める学生が増加している。今後は、学生たちの多様な状況にあわせ、適切な合理的配慮の実施が必要である。

6）学生たちへの適切な周知

対象学生は学担等から促され支援につながることが多く、自発的に訪れる学生は少ない。障害等がある学生の中には支援部署を認識していないために、支援につながらないことが推測できる。今後も、折に触れ、学内に障害担当部署があることを学生たちに周知することが必要と思われる。一方で、支援の範疇に入らないと思われる学生が配慮を希望する場合があります、障害学生支援部署の対象は障害や疾病等を理由に何らかの合理的配慮を要する場合であることへの理解が求められる。

2－5．学修環境の整備

2－5－① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理

本学のキャンパスは、札幌市営地下鉄東西線と東豊線の 2 路線の沿線に位置し、「南郷 13 丁目駅」「月寒中央駅」「福住駅」のいずれの駅からも徒歩約 10～15 分圏内の好アクセスな環境にある月寒本キャンパスと、札幌市の南東部、札幌市営地下鉄東豊線「福住駅」からバスで約 15 分の自然豊かな環境に位置する真栄キャンパス、新千歳空港と札幌市を結ぶ JR の路線上「恵み野駅」に近接する恵み野キャンパスを校地として所有している。

表 2－5－1 に示すように、校地の面積は 3 キャンパスを併せ 121,638 m²、また、表 2－5－2 に示すように、校舎等の面積は 50,098.82 m²であり、大学設置基準上必要な面積を満たしている。

表 2-5-1 校地の面積

【月寒本キャンパス】

(単位: m²)

	大学収容定員数 (学部合計) 1,460人					
校地等	区分	専用	共用	計	収容定員 一人当 りの面積	設置基準上 必要な面積
	校舎敷 地	65,249	-	65,249	51.40	14,600
	運動用 用地	9,790	-	9,790		
	小計	75,039	-	75,039		
	その他	0	-	0		
	合計	75,039	-	75,039		

【真栄キャンパス】

(単位: m²)

	大学収容定員数 (学部合計) 120人					
校地等	区分	専用	共用	計	収容定員 一人当 りの面積	設置基準上 必要な面積
	校舎敷 地	20,945	-	20,945	288.80	1,200
	運動用 用地	13,710	-	13,710		
	小計	34,655	-	34,655		
	その他	3,058	-	3,058		
	合計	37,713	-	37,713		

【恵み野キャンパス】

(単位: m²)

	大学収容定員数 (学部合計) 30人					
校地等	区分	専用	共用	計	収容定員 一人当 りの面積	設置基準上 必要な面積
	校舎敷 地	8,886	-	8,886	296.2	300-
	運動用 用地	0	-	0		
	小計	8,886	-	8,886		
	その他	0	-	0		
	合計	8,886	-	8,886		

【大学全体】

(単位: m²)

	大学収容定員数 (学部合計) 1,610人					
	区分	専用	共用	計	収容定員 一人当たり の面積	設置基準上 必要な面積
校地等	校舎敷地	95,080	-	95,080	73.65	16,100
	運動用 用地	23,500	-	23,500		
	小計	118,580	-	118,580		
	その他	3,058	-	3,058		
	合計	121,638	-	121,638		

表 2-5-2 校舎等の面積

【月寒本キャンパス】

(単位: m²)

	校舎	管理	図書館	計	体育館	講堂	合計
1階	7,034.09	111.74		7,145.83	930.00		8,075.83
2階	8,034.15		1,358.82	9,392.97			9,392.97
3階	7,384.33			7,384.33			7,384.33
4階	7,384.33			7,384.33			7,384.33
PH 階	36.00			36.00			36.00
小 計	29,872.90			31,343.46			32,273.46

【真栄キャンパス】

(単位: m²)

	校舎	管理	図書館	計	体育館	講堂	合計
旧看護 棟計	2,492.78	456.41	359.94	3,309.13	660.00		3,969.13
1階	366.61	263.27	359.94	989.82	660.00		1,649.82
2階	761.39			761.39			761.39
3階	682.39			682.39			682.39
4階	682.39			682.39			682.39
5階	0	193.14		193.14			193.14
研究 棟計	1,425.00			1,425.00			1,425.00
小計	3,917.78	456.41	359.94	4,734.13	660.00		5,394.13

旧放射線棟		4,694.77	167.26		4,862.05		549.23	5,411.28
1階		1,589.77	167.28		1,757.05		549.23	2,306.28
2階		1,035.00			1,035.00			1,035.00
3階		1,035.00			1,035.00			1,035.00
4階		1,035.00			1,035.00			1,035.00
研究棟計		455.30			455.30			455.30
小計		5,157.07	167.26		5,317.35		549.23	5,866.58

【恵み野キャンパス】

(単位:㎡)

	校舎	管理	図書館	計	体育館	講堂	合計
1号館	3,742.92	496.52	105.07	4,344.51	556.10		4,900.61
1階	810.63	496.52	105.07	1,412.22	556.10		1,968.32
2階	1,228.82			1,288.82			1,228.82
3階	1,253.12			1,253.12			1,253.12
4階	450.35			450.35			450.35
2号館	1,664.04			1,664.04			1,664.04
1階	651.54			651.54			651.54
2階	698.70			698.70			698.70
3階	313.80			313.80			313.80
小計	5,406.96	496.52	105.07	6,008.55	556.10		6,564.65

【大学全体】

(単位:㎡)

	校舎	管理	図書館	計	体育館	講堂	合計
大学全体	44,347.71	1,231.95	1,823.83	47,403.49	2,146.10	549.23	50,098.82

2-5-② 実習施設、図書館等の有効活用

【1】 図書館

令和4（2022）年度に真栄キャンパスに総合福祉学部が開学して以降、月寒本館・真栄分館の二館体制で運営している。

蔵書構成は、大学の前身である専門学校日本福祉看護・診療放射線学院、専門学校日本福祉リハビリテーション学院、専門学校日本福祉学院の蔵書を基礎とし、開学以来段階的に整備を重ねている。

令和6（2024）年3月31日現在の蔵書数（二館合計）は48,739冊、うち和書は47,396冊、洋書は1,343冊である。令和5（2023）年度は、毎年購入している各学科からの選定図

書とは別に、令和 6（2024）年度開学予定の大学院設置準備図書を受入も行った。

令和 5（2023）年度時点で継続受入している雑誌タイトルは表 2-5-3 のとおりである。その他に「医中誌 Web」「CINHAL」等のオンラインデータベースを導入し、利用者の学術情報への主体的なアクセスを可能としている。

表 2-5-3 令和 5 年度 購入資料数

	購入資料数				
	和図書 (冊)	洋図書 (冊)	和雑誌 (誌)	洋雑誌 (誌)	視聴覚 (タイトル)
月寒本館	1,849	37	93	28	57
真栄分館	589	31	21	4	2

図書館の規模、令和 5（2023）年度の開館日数・入館者数、開館時間等については表 2-5-4 から表 2-5-6 に示すとおりである。

表 2-5-4 環境の整備状況

	面積	座席数	収容可能冊数
月寒本館	1,358.82 m ²	325 席	52,000 冊
真栄分館	328 m ²	94 席	23,000 冊

表 2-5-5 令和 5（2023）年度 開館日数、入館者数

	開館日数（日）	入館者数総計（人）
月寒本館	270	52,675
真栄分館	230	5,239

表 2-5-6 開館時間

	開館時間		休館日
	平 日	9：00-20：30	
月寒本館	土曜日	9：00-17：00	日曜祝日、大学休業期間、 その他館長が認めた日 土曜日（真栄分館）
	平日	9：00-17：00	
真栄分館	平日	9：00-17：00	

館内は、個人学習用の閲覧席や、グループで利用する場合の個室等、多様なスタイルに応じた学習環境を用意している。データベースの閲覧や蔵書検索に利用できる端末は月寒本館・真栄分館に各 10 台あり、視聴覚資料の視聴が可能な個人視聴覚ブースは月寒本館に 5 台設置してある。

令和 5（2023）年度における貸出状況は表 2-5-7 のとおりである。

表 2-5-7 令和 5（2023）年度 貸出状況（冊数）

	貸出総数	（うち学生）
月寒本館	2,536	1,927
真栄分館	87	52

令和 4（2022）年度より館内飲食禁止の措置を緩和し、ペットボトル・水筒などの密閉容器に入った飲料の館内持ち込みと飲用を認めた。それに続き、令和 5（2023）年度は、これまで「館内にカバン持ち込み禁止」としていたルールを見直し、6～12 月末までをトライアル期間として運用を開始した。その結果、入館者数は増加したが、館内で飲食を行うなど利用マナー違反が目立つ状況となり、掲示やユニパなどで利用者に注意喚起し、改善を図った。トライアル期間を年度末まで延長したうえで、利用状況を鑑み、令和 6（2024）年度も継続して「館内カバン持ち込み可」とすることとした。

令和 5（2023）年度は、月寒本館において「配架区分」の整理を行い（「医学書」と「NDC」を「開架図書」に統一）、「国試対策図書」についても配架区分を新設したうえで、利用ルールについて検討し「複本がある場合は貸出可」として運用することとなり、利用者の利便性向上のための環境整備に努めた。

2-5-③ バリアフリーをはじめとする施設・設備の利便性

校舎入り口の段差をなくすなどバリアフリーに配慮しているほか、エレベーターや身障者用トイレを設置して車いす利用者等へ配慮している。

また、月寒本キャンパスにはコンビニ、レストラン、フィットネスジムなどの施設を隣接し、専門職業人を育てる大学として健康面からも学生生活を支えている。

2-5-④ 授業を行う学生数の適切な管理

授業実施にあたっては、講義、演習、実習・実験など講義形態に則して教育効果が高められるように、履修者数が多い学科・学年においては、2～3 クラスに分けて、複数の教員が少人数グループを指導する形態を組み入れている。

看護学科は、令和 3（2021）年度から入学定員が 100 人から 150 人となったため、「日本語表現」や「英語 I」などの語学系演習科目をはじめ、専門基礎教育科目や専門教育科目の演習科目は、授業科目や内容により、2～3 クラス展開でクラスサイズは 50 人から 75 人前後で授業を実施している。

また、「看護研究演習」などのクラスサイズは 10 人以下であり、少人数での指導で教育効果を高める努力をしている。

リハビリテーション学科は理学療法学専攻と作業療法学専攻があり、理学療法学専攻は令和 5（2023）年度から入学定員が 80 人から 100 人となった。作業療法学専攻の入学定員は 40 人であり、「共通・連携科目」などで理学療法学専攻と合同で授業を実施している。

「日本語表現」や「英語Ⅰ」などの語学系演習科目をはじめ、専門基礎教育科目や専門教育科目の演習科目は、授業科目や内容により、理学療法学専攻は 2～3 クラス展開でクラスサイズは 50 人から 75 人前後、作業療法学専攻は 2 クラスの場合は 20 人前後で少人数グループでの授業を行っている。

診療放射線学科は、令和 3（2021）年度から入学定員が 50 人から 100 人となったため、「英語Ⅰ」などの語学系演習科目は 2 クラスに分けて 50 人前後で授業を実施している。

また、専門教育科目の実験系科目などは、複数の教員が少人数グループを指導する授業形態を組み入れている。

令和 3 年（2021）年度に開設された臨床検査学科は入学定員が 60 人で、専門基礎教育科目や専門教育科目の演習科目、実習科目などは複数の教員が少人数グループを指導する授業形態を組み入れている。

令和 4 年（2022）年度に開設された臨床工学科は入学定員が 60 人で、専門基礎教育科目や専門教育科目の演習科目、実習科目などは複数の教員が少人数グループを指導する授業形態を組み入れている。

令和 4（2022）年度に開設された総合福祉学部の介護福祉マネジメント学科（入学定員 40 人）およびソーシャルワーク学科（入学定員 80 人）は、開設当初は基礎教育科目と専門基礎教育科目の両学科共通科目である「人間関係とコミュニケーション」、「日本語表現」、「英語」などを大きな教室で合同授業を実施していたが、その後、授業を行う学生数の適切な管理ができるように年度途中より適正な収容人数の教室（15 人規模）に変更し、複数の教員が少人数での指導で教育効果を高める努力を行っている。

各学部・学科とも基礎教育科目、専門基礎教育科目、専門教育科目の学内演習、実習・実験では、授業科目や内容によりグループワークを取り入れ、10 人前後の少人数グループを複数の教員が分担して指導を行っている。

また、看護学科の「看護研究演習」「看護ゼミナール」や、リハビリテーション学科の共通・連携科目「卒業研究」などのゼミナール方式の科目などにおいても、教員 1 人につき 10 人前後の学生を担当しており、各学科とも少人数での指導で教育効果を高める努力をしている。

2-6. 学生の意見・要望への対応

2-6-① 学修支援に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用

令和5（2023）年度の全学対象の学生アンケートは、通学部生は7月から1月、通信教育部生は12月から2月にかけて実施した。方法はMicrosoftのFormsを利用し、学生にはメールやポータルサイトで周知し対面でのホームルームや授業時間内等において手元のスマートフォン等から回答を入力・送信してもらった。保健医療学部での回収率は90.2%、総合福祉学部の回収率69.6%、通信教育部の回収率は78.6%であった。

2-6-② 心身に関する健康相談に関する学生の意見・要望の把握・分析の検討結果の活用

心身に関する健康相談については、学生委員会が実施したアンケートから一部抜粋し、記述する。

まず、「入学してから大学の中で孤独感を感じることがありますか」に関して、「とても感じる」が55件、「やや感じる」が187件であり、全回答数1556件、割合では15.6%となっている。6人に1人は孤独感を感じているということは、決して少ない人数ではないことを意味する。

続いて、「現在、個人的な悩みを打ち明けたり、相談できたりする相手は誰ですか（複数回答可）」に関しては「友人や知人」1,238件、「両親」が964件、「兄弟・姉妹」379件のように、全回答数2,979件に対して8割以上が家族や友人等であったのに対し、「SNSのみで繋がっている友人知人」が65件、「特にいない」が112件とあり、一部の学生は相談先を得ていないことが推察される。本結果からは、孤独感と相談先がないこととの関連を見出すことができないが、今後、孤独感を持つ学生が誰ともつながれていないのかの把握が必要である。

次に、「学生の相談部署として保健室、カウンセリングルーム、障害学生支援、キャリアセンター、各学科学生担任、事務部署、ハラスメント相談、性暴力被害相談があることを知っていますか？」について全回答数1,555件のうち、「知っている」が1,131件、割合では72.7%の認知度であった。利用したことのあるものとしては「保健室」355件、「各学科学生担任」226件、「事務部署」531件、「キャリアセンター」131件であり、利用したことがある1,290件のうち27.5%が「保健室」、次いで「各学科学生担任」の17.5%であった。しかし、応急処置や欠席届の押印などで訪れる場合が含まれ、必ずしも相談割合を示しているのではない。

学生相談のシステムの満足度については「すべてに満足している」が256件、「ほぼ満足している」が453件、「どちらともいえない」が776件であり、全体の満足度が高くない。回答した学生たちにとって、学生相談のシステムが何を指すかがわかりにくく、「どちらともいえない」を選択したことが推測される。

2-6-③ 学修環境に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用

施設・環境に関しては学生アンケートで主に学生生活に関する施設や学食に関する項目がほとんどで、その改善には様々に努めてきた。

アンケートで要望が多かった Wi-Fi 環境の強化をはじめ講義室の音響環境の検証およびモニターの増設などを実施した。今後も学生の声に耳を傾けながら、時代の流れにあった学修環境の整備を継続する。

また、平成 30（2018）年度から、人権擁護委員会の提案で制度化された定期試験結果の試験の可否、成績に関する再確認の申し立ては、令和 5 年（2023 年）度前期試験で 2 件（看護学科 1 件、診療放射線学科 1 件）、後期試験は 0 件であった。即時担当事務局と関連する委員会で対応し解決した。

3. 教育課程

3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定

3-1-① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーの策定と周知

本学の建学の精神である「共生社会の実現」に向け、各学部でディプロマ・ポリシーを設定している。保健医療学部のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、保健医療学部5学科のディプロマ・ポリシー1-2-④に記載しているので割愛する。保健医療学部のディプロマ・ポリシーは、共生社会の実現に向け、科学的思考、根拠に基づき、他者、多職種を尊重し、地域社会に貢献する医療職を育成していくことの重要性を示したものである。加えて総合福祉学部のディプロマ・ポリシーは、専門職としての価値を備え、具体的な個人や家族、地域の生活課題をアセスメントで明らかにし、解決に向けて支援計画を作成・実施することができる福祉人を育成していく重要性を示したものである。

各ディプロマ・ポリシーは、大学ホームページ等で公表し、学生募集要項、履修の手引きに記載し、新入生ガイダンスでも周知している。

3-1-② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の策定と周知

保健医療学部

【単位認定基準】

各教科目の成績評価方法は、科目責任者によって履修の手引きに明記し、授業の冒頭に科目責任者が学生に説明し、学生と合意の上で適用している。履修の手引きには、すべての科目についてディプロマ・ポリシーとの関連性を明示し、各教員がディプロマ・ポリシーを踏まえた授業活動を実施し、科目ごとの具体的な評価方法や配点を明記している。評価は、履修の手引きに明記されている客観的な基準に従い、公正かつ厳正に評価を行っている。これらの内容と履修上の注意点は、各学年のオリエンテーションにて学生への周知徹底を図っている。単位の認定に関しては、教務委員会で審議し、教授会に意見を求め学長が認定している。なお、本学の成績表記は、表3-1-1のとおりである。また、教務委員会（成績評価WG）にてすべての科目の成績分布を把握している。この分布については今後HPなどで公表を視野に検討している。

表 3-1-1 成績評価

成績評価	評 点 (点)	単位付与
AA (秀)	90-100	合 格
A (優)	80-89	
B (良)	70-79	
C (可)	60-69	
D (不可)	59 以下	不合格

【進級判定基準】

進級要件は、履修規程第 7 章第 19 条の進級要件により、(1)～(4)のように定められている。

- (1) 1 年次から 2 年次への進級
- (2) 2 年次から 3 年次への進級
- (3) 3 年次から 4 年次への進級

【卒業判定基準】

卒業要件は、本学学則第 33 条（卒業）に、「本学に 4 年以上在学し、別表第 2 に定める所定の授業科目及び単位を修得し、卒業認定基準を満たした者には、学長が教授会に意見を求め卒業証書・学位記を授与する。」と規定している。

表 3-1-2 卒業の要件

(単位)

学 科	看 護	リハビリテーション	診療放射 線	臨床検査	臨床工学
必 修	104	理学 109 作業 112	105	118	124
選 択	21	理学 17 作業 16	23	10	14
合 計	125	理学 126 作業 128	128	128	138

これらの基準は履修の手引きにて周知されている。

総合福祉学部

【単位認定基準】

各教科目の成績評価方法は、科目責任者によって SYLLABUS に明記し、授業の冒頭に科目責任者が学生に説明し、学生と合意の上で適用している。SYLLABUS には、すべての科目についてディプロマ・ポリシーとの関連性を明示し、各教員がディプロマ・ポリシーを踏まえた授業活動を実施している。また SYLLABUS には、科目ごとの具体的な評価方法や配点を明記している。評価は、SYLLABUS に明記されている客観的な基準に従い、公正かつ厳正に評価を行っている。これらの内容と履修上の注意点は、各学年のオリエンテーションにて学生への周知徹底を図っている。単位の認定に関しては、教務委員会で審議し、教授会に意見を求め学長が認定している。なお、本学の成績表記は、表 3-1-1 のとおりである。

表 3-1-1 成績評価

成績評価	評 点 (点)	単位付与
AA (秀)	90-100	合 格
A (優)	80-89	
B (良)	70-79	
C (可)	60-69	
D (不可)	59 以下	不合格

【進級判定基準】

進級要件は、履修規程第 7 章第 19 条の進級要件により、(1)～(4)のように定められている。

- (1) 1 年次から 2 年次への進級
- (2) 2 年次から 3 年次への進級
- (3) 3 年次から 4 年次への進級

【卒業判定基準】

卒業要件は、本学学則第 33 条（卒業）に、「本学に 4 年以上在学し、別表第 2 に定める所定の授業科目及び単位を修得し、卒業認定基準を満たした者には、学長が教授会に意見を求め卒業証書・学位記を授与する。」と規定している。

表 3-1-2 卒業の要件 (単位)

学 科	介護福祉マネジメント	ソーシャル ワーク
必 修	30	61
選 択	94	63
合 計	124	124

3-1-③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の厳正な適用

単位認定、進級及び卒業認定は、学則に定められた基準に従って厳正に行っている。単位認定や成績評価は、学則第 28 条（単位数の計算方法）、第 29 条（試験）、第 30 条（成績の評価）で規定している。他大学等の授業科目の履修や入学前の既修得単位の認定については、学則第 31 条 32 条に規定されている。卒業や学位の授与についても同第 33 条、第 34 条に示されている。また、学則第 26 条、第 28 条、第 30 条及び第 31 条の規定に基づき、履修規程を別に定めている。

履修規程には、授業科目、単位、履修登録、重複履修の禁止、試験、試験の種類、定期試験、追試験、再試験、追実習、不正行為、成績評価、GPA（Grade Point Average、総合平均点）、単位授与、進級要件、臨地・臨床実習科目の履修要件、資格取得のために必要な要件、他の大学等における履修等、他の大学との協議に基づく学生の履修等、認定単位の上限、出願の手続き、単位の認定、修業年限、再入学した者の既修等を示している。

本学における履修は、日々の学修の積み重ねを重視している。成績評価については、GPA 制度による総合成績評価を導入している。GPA は、学期ごと、年度ごとに通算の値を算出している。履修の手引きにて、その説明を記載し、成績票に表示して学修評価の参考となるようにしている。また、GPA は、奨学金制度の適用、成績優秀者を選定する際の参考資料、進路指導等に有効に用いている。本件は、履修規程第 6 章第 17 条第 1 項、第 2 項や履修の手引きに記載している。

また、各学科で履修の上限単位（CAP）を設け、1 年間に履修できる授業単位を制限することで、1 単位に必要な学修時間を確保し、学修の質の向上と学修の効率化を図っている。本件は、履修規程第 3 章第 4 条第 2 項を CAMPUS GUIDE に記載している。

2022 年から、これまでの仮進級制度から履修規程第 19 条の 2 に定めた仮進級制度へ変更した。この仮進級制度により、保健医療学部では 44 名の学生は留年せずに進級することが出来ており、より効率的な学修への支援が可能となっている。また、学則第 34 条、第 35 条の定めにより、履修規程第 8 章に、資格取得のために必要な要件を規定している。

卒業要件は、本学学則第 33 条（卒業）に、「本学に 4 年以上在学し、別表第 2 に定める所定の授業科目及び単位を修得し、卒業認定基準を満たした者には、学長が教授会に意見を求め卒業証書・学位記を授与する。」と規定している。

卒業判定は毎年2月、進級判定は毎年3月に学長によって教授会で意見が求められ、厳正に決定されている。

成績結果については、学期毎（9月と3月）に保護者と学生に通知しており、結果について令和4（2022）年度から「成績評価確認願」及び「成績評価疑義申立書」を制度化している。疑義申し立てに関しては、教務委員会で審議が行われている。学生が成績評価確認願の回答に納得ができない場合は、成績評価疑義申立書に基づいて人権擁護委員の立ち合いのもと学生と面談し結果を伝えることとしており、履修の手引き等に明示し、学生及び教職員に周知している。

令和5（2023）年度成績確認評価願の提出については、前期定期試験は1件（臨床工学科1件）、後期定期試験は3件（看護学科1件、リハビリテーション学科（PT）1件、診療放射線学科1件）であった。成績評価疑義申立書を提出した学生は0件であった。

（3）3－1 の改善・向上方策（将来計画）

授業科目の評価方法は、シラバスに記載の内容に基づき今後も適切に実施していく。成績評価について、教員ごとに差異が生じないように配慮していく必要があると考えており、学生の履修行動データの収集・分析、科目ごとの成績分布データの収集・分析などを行っていく予定である。また、社会に提示していくために成績状況の公開も現在検討している。

3－2 教育課程及び教授方法

3－2－① カリキュラム・ポリシーの策定と周知

文部科学省の「三つのポリシーの策定と運用にかかるガイドライン（平成27年12月）」に基づき、令和元年に保健医療学部の看護、リハビリテーション、診療放射線の各学科の3ポリシーを策定している。また、臨床検査（2021年）・臨床工学（2022年）・総合福祉学部（2022年）の介護福祉マネジメント及びソーシャルワークも学科の新設と同時に各学科で三つのポリシーを策定し現在に至っている。

本学の建学の精神である「共生社会の実現」を達成すべくディプロマ・ポリシーが策定され、カリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシーの達成を目標に策定されている。

カリキュラム・ポリシーは、大学ホームページ、学生募集要項、履修の手引き等で公表している。各学科のカリキュラムの構成概念については、大学案内に掲載しており、教育課程の編成方針は履修の手引きに掲載し学生に周知している。

保健医療学部

看護学科のカリキュラム・ポリシーは、本学の教育理念に基づき、

- | |
|---|
| 1. 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質を育成するために、基礎教育科目を配置する。 |
|---|

2. 保健医療福祉に携わる一員として他職種と連携・協働し、社会に貢献できる能力を育成するために、「社会と健康支援」について学ぶ専門基礎教育科目を配置する。
3. 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な基礎的知識を修得するため、「健康と疾病」について学ぶ専門基礎教育科目を配置する。
4. 高度で専門的な看護の実践能力の育成のため、看護の基本、対象の特徴と看護実践、看護の統合学習について学ぶ専門教育科目を配置する。
5. 将来の看護職業人としての自覚を持ち、保健医療福祉に関わる人々と有機的に連携・協働して働くための豊かな人間性と社会性を養うため、担任制度等による個別・少人数指導を重視した教育を行う。

以上5項目を掲げている。

看護を実践の科学として位置づけ、「人間」、「環境」、「健康」、「看護」の四つの基本概念からなる教科目でカリキュラムを構成している。看護学は、人がよりよく生きることを支える実践科学である。人間が病むこと、人間がより健康に生活するための課題を問い続けるとともに、人びとの健康の保持・増進と健康障がいを持つ人びとへの生活を支援する看護師に必要な教科目を配置している。

リハビリテーション学科のカリキュラム・ポリシーは、本学の教育理念に基づき、

1. 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質を育成するために、基礎教育科目を配置する。
2. 保健医療福祉に携わる一員として他職種と連携・協働できる能力を育成するために、「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」について学ぶ専門基礎科目を配置する。
3. 科学的根拠に基づいた理学療法・作業療法の実践に必要な基礎的知識を修得するため、「人体の構造と機能および心身の発達」、「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」について学ぶ専門基礎科目を配置する。
- 4-1. 対象者の運動機能の改善を目的とした、高度で専門的な理学療法の実践能力育成のため、理学療法評価法および治療法について学ぶ専門教育科目を配置する。
- 4-2. 対象者の主体的な生活を支援することを目的とした、高度で専門的な作業療法の実践能力育成のため、作業療法評価法および治療法について学ぶ専門教育科目を配置する。
5. 豊かな人間性と社会性を養うため、担任制度等による個別・少人数指導を重視した教育を行う。

以上5項目を掲げている。

リハビリテーション学科のカリキュラムは、医療技術の高度化、多様化に対応できる幅広い教養とグローバルな視野を持ち、主体的に学び、考え、行動する人材の育成及び地域医療・福祉に貢献できることができるように構成している。

診療放射線学科のカリキュラム・ポリシーは、本学の教育理念に基づき、

1. 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に寄与する資質を育成するために、基礎教育科目を配置する。
2. 保健医療福祉に携わる一員として他職種と連携・協働できる能力を育成するために「保健医療福祉と診療放射線」について学ぶ専門基礎科目を配置する。
3. 科学的根拠に基づいた診療放射線の実践に必要な基礎的知識を修得するため、「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」、「保健医療における理工学的基礎並びに放射線の科学と技術」について学ぶ専門基礎科目を配置する。
4. 高度で専門的な診療放射線の実践能力を育成するため、診療放射線検査法、放射線治療法、放射線安全管理法について学ぶ専門教育科目を配置する。
5. 豊かな人間性と社会性を養うため、担任制度等による個別・少人数指導を重視した教育を行う。

以上5項目を掲げている。

診療放射線学科のカリキュラムは、継続的な自己研鑽力や自主的に学び、考え、行動する研究能力を身につけ、専門職業人としての知識・技術・態度を教授することを教育上の目的とし、必要な教育科目を配置している。

臨床検査学科のカリキュラム・ポリシーは、本学の教育理念に基づき

1. 人権や多様な個性を尊重し、共生社会の実現に貢献する資質を育成するため、基礎教育科目を配置する
2. 保健医療福祉に携わる一員として他職種と連携・協働できる能力を育成するため「保健医療福祉と医学検査」について学ぶ専門基礎科目を配置する
3. 科学的根拠に基づいた臨床検査の実践に必要な基礎的知識を修得するため、「人体の構造と機能」、「医学検査の基礎とその疾病との関連」、「医療工学及び情報科学」について学ぶ専門基礎科目を配置する
4. 高度で専門的な臨床検査の実践能力、発展させる能力を育成するため、「臨床病態学」、「各臨床検査法」、「卒業研究」を学ぶ専門教育科目を配置する
5. 臨床検査室の品質マネジメントシステムの構築及び実践できる能力を育成するた「検査総合管理学」、「医療安全管理学」を配置する

以上5項目を掲げている。

臨床検査学科のカリキュラムは、医療人として必要な一般教養とともに臨床検査技師として求められる知識と技術を確実に習得することを教育上の目的として必要な教育科目を配置している。

臨床工学科のカリキュラム・ポリシーは、本学の教育理念に基づき、

1. 豊かな人間性を持ち、科学的思考力を基に共生社会の発展に貢献できる医療人材の育成のため適切なコミュニケーション能力や協調性、科学的思考力の修得を目的として、基礎教育科目である「人間と生活」、「科学的思考の基盤」の必修および選択科目を

学修して、高い倫理観と人間力を醸成する科目を配置する。

2. チーム医療において、常に患者を意識して最善の医療を提供するためには、医学と工学を総合的に理解した医工学のスペシャリストとして他職種と連携・協働することが必要であり、その基盤を形成するために「臨床工学に必要な医学的基礎」、「臨床工学に必要な理工学的基礎」、「臨床工学に必要な医療情報学とシステム工学の基礎」について学ぶ専門基礎教育科目の科目を配置する。
3. 医療機器の適切な使用のために専門的な知識と技術を修得し、幅広い領域において医学的、または科学的根拠に基づいた良質な診療支援技術を提供できる人材育成のために、「人体の構造と機能」および「関連臨床医学」、「医用機器学」、「生体機能代行技術学」について学ぶ専門基礎教育科目、専門教育科目の科目を配置する。
4. 多様化・高度化する医療機器の安全使用を確保することで、医療安全の推進に寄与できる知識と技術を持った人材育成のために「医用生体工学」、「医用機器安全管理学」、「医用機器学」、「生体機能代行技術学」について学ぶ専門教育科目の科目を配置する。
5. 医療機器の効果的な活用や安全使用など臨床工学分野で直面する課題を発見し、科学的に解明するための能力を磨くため、工学的な研究の基礎を身に付けたうえで「卒業研究」を必修科目とすることで医療機器に関連した課題について新たな知見を発見するための研究を遂行する。
6. 常に発展し続ける医療機器を管理する臨床工学技士には、生涯にわたり学修を継続することが必要であり、自ら主体的な学びの意欲を引き出すためのアクティブ・ラーニングを実践するため、「プロジェクトスキルⅠ」、「プロジェクトスキルⅡ」、「チーム医療」、「臨床実習」および「卒業研究」を配置して段階的に学びの価値を追求する。

以上6項目を掲げている。

臨床工学科では、科学的な専門的な知識を安全に取り扱う専門知識と共にチーム医療や建学の精神である共生社会の実現へ向け、必要な科目でカリキュラムが構成されている。

総合福祉学部

介護福祉マネジメント学科のカリキュラム・ポリシーは、本学の教育理念に基づき、

1. 人権や多様な人間性を尊重し、主体的に関わる能力を育成するために基礎となる知識と豊かな人格を涵養することを重視した科目を基礎科目に配置する
2. 包括的・重点的支援に必要な専門職の知識を習得させるため、「社会福祉の基礎」及び「経営の基礎」に関する科目を専門基礎教育科目に配置する
3. 専門職のため技能を習得するための専門教育科目を配置する
4. 主体的に学べるケーススタディ、問題解決型学習などのアクティブ・ラーニングを用いて、実践力を育てる
5. 学習成果の評価は、学力3要素「知能・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を原則とし、5段階の評価で示す

という5項目を掲げている。

介護福祉マネジメント学科のカリキュラムは、初年次より対人マネジメント・経営教育・介護技能などの基礎能力を充実させた後、医療・福祉制度及び公共政策等の理解、さらに実践的なフィールドにおける地域医療、福祉・介護施設の経営に関して必要な科目を配置している。

ソーシャルワーク学科のカリキュラム・ポリシーは、本学の教育理念に基づき、

1. 人権や多様な人間性を尊重し、主体的に関わる能力を育成するために、基礎となる知識と豊かな人格を涵養することを重視した科目を基礎教育科目に配置する
2. 包括的な支援に必要な専門職かつチームの一員として、社会福祉と経営の基礎に関する科目を専門基礎教育科目に配置する
3. 福祉サービスを必要とする人の支援を可能とするため、ソーシャルワーク及び経営に関する科目を専門教育科目に配置する
4. ケーススタディ（CS）や問題解決型学習（PBL）を通して、アクティブ・ラーニングによる問題解決プログラムに関する科目を配置する
5. 学習成果の評価は、学力3要素「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を原則とし、5段階の評価で示す

という5項目を掲げている。

ソーシャルワーク学科のカリキュラムは、大学教育を修めた社会人として必要な基礎知識とともに、福祉や医療分野で働く専門職に求められる知識・技術の修得を目指し、さらには、ケーススタディ（CS）や問題解決型学習（PBL）を通じて、より実施に基づいた高い実践力を育てることを教育上の目的として必要な科目を配置している。

先で示したようにカリキュラム・ポリシーは大学HP上に掲載しており、いつでも学生や保護者、受験生も確認できるように情報を公開している。

3-2-② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーを一体的で整合性あるものとして策定するとともに、三者の関係をわかりやすく、大学ホームページ、履修の手引き等において示している。

ディプロマ・ポリシーを本学の教育によって「何ができるようになるか」に力点を置き、学生が身に付けるべき資質・能力を明確化し、カリキュラム・ポリシーについては、ディプロマ・ポリシーを踏まえた教育課程の編成や授業科目の内容及び教育方法について基本的な考え方を具体的に示す内容とした。

またカリキュラムマップ（ディプロマ・ポリシーと科目の整合表）を策定し、履修の手引き等にて学生に周知している。加えて、カリキュラム・ツリー、ナンバリングを検討し、令和6（2024）年度より履修の手引き、シラバスの中に盛り込み、よりディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを提示することとした。

3-2-③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成

各学部、学科の教育課程については、履修の手引きにおいて、カリキュラムの特色と構成概念、教育課程の編成、教育課程進度表（楔形配置、学年の特徴、臨地・臨床実習、主体的学修）について述べている。

本学の教育課程は、授業科目を「基礎教育科目」、「専門基礎教育科目」及び「専門教育科目」に区分し編成している。カリキュラムマップを整備し順序立てて履修できるように年次配当し、体系的編成を行っている。

保健医療学部

看護学科では、基礎教育科目を5領域（32教科目）、専門基礎教育科目を2領域（29教科目）、専門教育科目を3領域（52教科目）に区分し教科目を配置している。看護学科では基礎教育科目が他学科に比較して多くなっている。看護学学修の導入科目として「スタートアップ講座」など、看護について考える問題意識の明確化を目的とした独自のカリキュラムを編成している。

リハビリテーション学科では、令和元（2019）年度から新たな教育課程での授業を実施しており、基礎教育科目を3領域（32教科目）、専門基礎教育科目を3領域（29教科目）に、専門教育科目を6領域（理学 47教科目、作業 42教科目）に区分し授業科目を配置している。

診療放射線学科では、基礎教育科目を3領域（28教科目）、専門基礎教育科目を3領域（34教科目）、専門教育科目を9領域（44 45教科目）に区分し授業科目を配置している。

臨床検査学科では、基礎教育科目を3領域（26教科目）、専門基礎教育科目 4領域（23教科目）、専門教育科目を9領域（64教科目）に区分し授業科目を配置している。

臨床工学科では、基礎教育科目を3領域（28教科目）、専門基礎教育科目を4領域（36教科目）、専門教育科目を7領域（45教科目）に区分し授業科目を配置している。

総合福祉学部

介護福祉マネジメント学科では、基礎教育科目を4領域（33教科目）、専門基礎教育科目を2領域（36教科目）、専門教育科目を5領域（59教科目）に区分し授業科目を配置している。

ソーシャルワーク学科では、基礎教育科目を4領域（33教科目）、専門基礎教育科目を2領域（31教科目）、専門教育科目を4領域（42教科目）に区分け授業科目を配置している。

以上の様に編成しているが、ディプロマ・ポリシーの達成と共に国家試験受験資格を得るために必要なカリキュラム構成となっている。したがって、指定規則の変更に合わせて適宜変更を行っている。また、卒業生を対象に国家資格のコアカリキュラムの内容を含んだ学修達成度のアンケートを行い、現カリキュラムが学生に有益に機能しているのかについて確

認を行っている。

シラバスについては、毎年シラバスマニュアルを改訂しながら必要な情報を付け加えている。令和5（2023）年度は、講義形態（講義・グループワーク・発表など）、カリキュラム・ツリーとナンバリングの提示、さらに成績のフィードバック方法を明示することとした。さらに講義内容、成績評価についても学生が明確に理解できるように記載方法を工夫している。

3-2-④ 教養教育の実施

本学の教養教育は各学科における共通科目と各学科の独自に必要な教養科目を「基礎教育科目」として設定している。

保健医療学部

医療従事者となる基礎的知識として、看護学科では「導入」、「人間の理解」、「人間と社会」、「生活と情報」、「語学」で構成されている。リハビリテーション学科、診療放射線学科、臨床検査学科、臨床工学科では、「科学的思考の基礎」、「人間と生活（の理解：工学のみ）」、「語学」で構成されている。

総合福祉学部

介護福祉マネジメント学科・ソーシャルワーク学科では、「人間と文化」「人間と社会」「健康科学」「語学」で構成されている。

カリキュラム委員会において、教養教育についての検討に関する全学方針を検討し、学科横断的な視座から基礎教養科目の運用、科目名や開講時期等の統一化を図っている。

3-2-⑤ 教授方法の工夫・開発と効果的な実施

本学は、医療従事者を養成する教育機関であるため、基礎的知識の上に応用的知識や技術を積み重ねていく教育形態をとっている。すなわち、専門性が高くなる前に基礎教育科目の単位修得が必須となる。医療現場での見学や実習は、低学年から実施しており、学生の学修意欲の高揚を目的としている。

また、教授方法の工夫については、各教員の意識と方法に委ねられているが、シラバスマニュアルで、アクティブ・ラーニングの要素があるものはシラバスに記載するように依頼している。また、自主的、問題解決型授業の展開や映像などを利用し視覚への強調を行っている教員が多い。

3-3. 学修成果の点検・評価

3-3-① 三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用

保健医療学部

三つのポリシーを踏まえた学修成果を点検し評価する方法の確立にはある程度の時間が必要であり、各学科で学修成果を点検・評価する方法を確立すべくデータを蓄積している。

看護、リハビリテーション、診療放射線、臨床検査、臨床工学の各学科において授業構成とディプロマ・ポリシーがどのように符合しているかを一覧できるカリキュラムマップに加え、ディプロマ・ポリシーに対応するカリキュラム・ポリシーおよび授業構成の繋がりがわかるカリキュラム・ツリーを履修の手引きで示している。

三つのポリシーのうちカリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーとも関連する、学修成果を把握しようとする取り組みも継続・拡充している。看護学科では、卒業を迎える学生に向けて Web 上でカリキュラム評価のアンケートを実施しており、教員を対象としたアンケートも行っており比較検討している。リハビリテーション学科でも同様に卒業を迎える学生に向けて学修到達度アンケートを実施している。診療放射線学科でも、国家試験終了後に学修到達度を確認するアンケートを実施している。第1期生の卒業が令和6（2024）年度となる臨床検査学科と令和7（2025）年度となる臨床工学科でも第1期生卒業時にこのような経緯を踏まえた検討がなされていくものと思われる。

三つのポリシーのうち特にディプロマ・ポリシーの点検・評価に関連が深いものとして卒業生の特性の把握が挙げられる。このためには学生の卒業後の状況にある程度把握したり卒業生に学生時代を振り返ってもらったりすることが考えられる。カリキュラム委員会では、すでに実施している離職状況調査に加えて、卒業生の就職先の管理的立場にある方へ向けた卒業生の特性に関するアンケートについて検討するとともに、卒業生に大学での学修内容の過不足を問うアンケートについても検討を継続している。

総合福祉学部

三つのポリシーを踏まえた学修成果を点検し評価する方法の確立にはある程度の時間が必要であり、AC 期間中である本学部は、各学科で学修成果を点検・評価する方法を確立すべくデータを蓄積している。

3-3-② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバック

本学では、各科目の最後の授業で学生を対象に授業アンケートを実施している。その結果は、各教員が Web 上で担当講義のアンケート結果を参照し、学生に向けてのコメントを入力できるようになっている。

保健医療学部

3-3-①で述べたような4年次の卒業を前にした学生を対象に学修到達度を確認するアンケートについては、これらの結果を学科内で共有するとともに、各学科のカリキュラム

検討の際、包括的にカリキュラム構成と内容を点検する視点から、可能なものについてはカリキュラム改訂に反映させている。令和4年度には、看護学科、リハビリテーション学科、診療放射線学科、臨床検査学科において指定規則等の変更に伴うカリキュラム改訂が実施され、令和7（2025）年度にカリキュラム改訂後の学生が卒業となりアンケートによる検証が可能となるが、これに先行して、臨床検査学科においてはAC期間終了後の令和7（2025）年度にカリキュラム改訂を予定しており、看護学科、リハビリテーション学科においても同時期にカリキュラム見直しを予定して準備が進められている。

総合福祉学部

AC期間中であり、カリキュラム改訂は原則できないが、AC期間終了後に向けたカリキュラム改訂を視野に、アンケートの結果を学科内で共有している。

4. 教員・職員

4-1. 教学マネジメントの機能

4-1-① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップの確立・発揮

大学の意思決定について学長は、「日本医療大学学則」第42条の2に「校務をつかさどり、所属職員を統督する」と規定している。

学長が判断を適正に行いリーダーシップを発揮するための補佐体制として、「学校法人日本医療大学組織規程」第5条に基づき学長のガバナンスの強化、本学の意思決定及び本学運営の円滑化を図ることを目的に運営会議を設置している。

運営会議は、「日本医療大学運営会議規程」第2条の規定に基づき、本学運営に関する企画立案及び学内の意見調整、理事会に要望する事項、教授会に諮問する事項、その他本学運営に関する事項について審議し、必要な業務を行っている。学長、学部長、各学科長、事務局長を構成員とし、学長が会議を招集し、議長となり、月1回開催している。

4-1-② 権限の適切な分散と責任の明確化に配慮した教学マネジメント体制の構築

本学の使命・目的の達成のため、権限の適切な分散と責任の明確化に配慮し、「学校法人日本医療大学組織規程」、「学校法人日本医療大学事務組織規程」、「学校法人日本医療大学事務分掌細則」、「学校法人日本医療大学職務権限規程」、「日本医療大学運営会議規程」、「日本医療大学教授会規程」等の諸規程を整備している。

学長は、本教授会規程に基づき学位の授与、卒業及び課程の修了、学生の入学、その他教学に関する重要事項等の決定に際しては、教授会に意見を求めて決定している。

教学マネジメントを支える基盤の一つとして、学長の下に、本学の教育、研究、その他諸活動に関する学内外の情報やデータ等を収集及び分析し、本学の運営のための計画策定、政策決定等を支援することを目的にIR室を設置している。

学生の表彰及び懲罰に関する事項については、それぞれ「日本医療大学学生の表彰に関する規程」、「日本医療大学学生の懲戒等に関する規程」を整備している。

4-1-③ 職員の配置と役割の明確化などによる教学マネジメント

本学の使命・目的達成のため、「学校法人日本医療大学組織規程」、「学校法人日本医療大学事務組織規程」、「学校法人日本医療大学事務分掌細則」等に基づき事務体制を構築しており、本体制は適切に機能している。

令和4（2022）年5月1日現在の本学の事務職員数は、81人である。事務職員の採用は、「学校法人日本医療大学就業規則」に基づき理事長が行っており、配属については、各部署の業務内容及び業務量に応じ、職員の年齢、キャリア、能力等を勘案して、適材適所に配置している。

4-2. 教員の配置・職能開発等

4-2-① 教育目的及び教育課程に即した教員の採用・昇任等による教員の確保と配置

教員の採用及び昇任は、日本医療大学教員任用規程及び日本医療大学教員の選考に関する細則に従い、教員選考委員会規程にもとづき、人格、健康、教育研究上の経歴及び研究業績などを考慮して選考することとしている。募集方法は原則公募としている。

専任教員数は、大学設置基準第13条及び各職業資格関連の指定基準の規程に定められた必要な専任教員数を確保している。

4-2-② FD (Faculty Development) をはじめとする教育内容・方法等の改善の工夫・開発と効果的な実施

本学では、教職員の教育課程・体制の開発向上及び教員の教育方法の向上、研究力の向上等を目指してFD委員会が組織されている。FD委員会では、FD全般にわたる事項について審議し、必要な業務を行っている。

FD委員会は各学科代表者9名と大学事務局代表1名（補助3名）の10名で組織され、FDセミナーの企画運営や授業評価アンケート実施等の取組みを行っている。

FDセミナーについては、令和5（2023）年度は、下記4回のセミナーを開催した。全教員がいずれかのセミナーに参加し、教育力及び研究力の向上を図った。また、セミナーの実施方式は対面及び、リモート配信のハイブリッド形式とし、当日参加できない教職員にはオンデマンド配信の方法で視聴できるようにしている。

(1) 第1回学内FDセミナー（2023.08.31）『不正防止に関する研修会』

参加状況：教員 85名 ※不正防止委員会共催

(2) 第2回学内FDセミナー（2023.08.31）

『大学教育の講義法～講義法による授業設計を中心に～』

参加状況：教員 88名 ※カリキュラム委員会共催

・繰り返し活用できる教材として、オンデマンドコンテンツの作成、配信を行った。

(3) 『研究力向上セミナー』

(4) 『障害者差別解消法改正法について』

学生による授業評価アンケートについては、令和2（2020）年度より学内ポータルサイトを使用したWebアンケートに移行した。移行初年度は、新型コロナウイルス感染拡大によるオンライン講義内でのアンケート実施となったことなどの要因から、回収率の低下が課題となったが、令和5（2023）年度は学生への複数回のアナウンスを行い、また、最終講義時にアンケート回答の時間を設けることを、全教員へ要請した。これらの取組みにより、全学科において前年度と比較し回答率が向上している。ただし、全学的に回答率が低い傾向にある科目については、ワーキンググループを中心とし、検討改善を行っていく。

また、令和5（2023）年9月1日（金曜日）に開催された北海道FD・SD協議会・北海道

大学大学院教育推進機構高等教育研修センター主催の「北海道 FDSD フォーラム 2023」に FD 委員が出席した。その他、北海道 FD・SD 協議会から案内される FD に関する学外セミナー情報を教職員ポータルサイトで教職員に周知するなど、積極的に情報提供を行っている。

4-3. 職員の研修

4-3-① SD (Staff Development) をはじめとする大学運営に関わる職員の能力向上に資する取組み

私立大学をめぐる環境が激変する中、大学の経営戦略の構築及び管理運営機能の強化並びに教育・研究機能の活性化が重要課題とされている。

こうしたことから、事務職員を対象とした管理運営、教育・研究支援などに関する事務処理能力の向上に資するよう、学内において SD の一環として各種の研修を実施している。

また、大学職員として求められる専門性の向上や効率的な業務処理手法の修得に資するよう、北海道地区 FD・SD 推進協議会に加入し、情報を収集するとともに、日本私立大学協会北海道支部が開催する各種研修会への参加促進などに努めている。令和 2 (2020) 年度以降は新型コロナウイルス感染拡大の影響から、これら学外での研修会のほぼ全てが中止となってしまったが、令和 4 (2022) 年度に再開、新入職員を中心に積極的に参加させ、各種スキルの向上と業務への活用を促している。併せて、学内における研修環境を充実させるべく、令和 4 (2022) 年 10 月以降、事務職員向けの SD 研修会を集中的に開催、事務職員の知識レベルの底上げに取り組んでいる。

加えて、事務局内においては学内外で経験を積んだベテラン職員を各グループの要所に配置し、業務を通じた後進への知識経験の承継を継続して実践している。更に、事務職員の人事評価制度を導入するなど、「職員の意欲や能力の向上」、「組織の活性化」、「効率的な業務運営」などに向けた取組みを進めるとともに、個人の業務目標の設定や評価者による個人面談などを通じて、職員のモチベーションの向上、人材育成などに努めている。

4-4-① 研究環境の整備と適正な運営・管理

本学では、科学研究費助成事業をはじめとする競争的研究費等の配分機関のルールに則って、「研究費使用マニュアル」を定めて、研究費に関する適正な運営・管理を行っている。令和 5 (2023) 年度はこの「研究費使用マニュアル」の内容を見直し、より実態に近い形として、教員が参照しやすいようにした。また、出張に関わる様式につき、「学外研究活動届」「旅費支払明細書」の形で整理を行い、法人の命令による出張と明確な区別を行った。このほか、従来の不正調査委員会を改組して不正防止委員会を設立し、関係規程の改正・制定と共に、研究費の適正な管理体制を整備した。

また、科学研究費の管理につき、引き続き「科研費プロ」のシステムを活用して、教員がいつでも Web 上で残額や使用状況等を確認できるようにしている。

さらに、アルファオフィスのワークフローを利用した電子決裁システムの試行を引き続

き行い、決裁状況の見える化や決裁のスピードアップを図っている。電子決裁システムについては、今後新たなシステムの導入により、さらに効率化を図る予定である。

4-4-② 研究倫理の確立と厳正な運用

本学では、学術研究倫理に関し、研究倫理委員会規程、不正行為に関する取扱規程、研究活動行動規範等を制定し、研究活動に係わる倫理意識の向上に取り組んできた。また、研究倫理審査申請の審査を通じて、意識の向上を図ると共に、審査のシステム化による環境整備にも取り組んでいる。

令和3（2021）年度から国の倫理指針に沿った倫理審査申請書の改訂様式を運用し、作成のためのマニュアルも整備しているが、申請の内容や状況に即して随時、その見直し作業を進めると共に、倫理申請の流れを示したチャート表等の作成準備によって審査ジャンルの整理も進めている。また、学部・学科増設および教員増に伴う申請案件の多様化に伴い審査システムの変更を行った。通常審査の中に審査区分を設定し、迅速審査へ導入した多機関共同研究の位置づけを踏まえる形で通常審査に反映させ、申請書の参照すべき指針の対象範囲を明確にしたうえで審査ができるようシステムの体制整備を行った。

「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」の改正（令和3（2021）年2月）を受け、本学でも研究活動上の不正行為の防止と不正行為の疑惑が生じた場合に適正な対応を行うことを目的として、不正行為に関する取扱規程を制定するとともに、ニュースレター配信等の発信強化も開始した。

なお、不正防止に関する規程類及び体制については、内部監査での指摘もあり、文科省ガイドラインに沿った形で不備を解消し、適正な運用を行うための準備を進めている。

研究倫理研修については、研究機関における公的研究費の管理・監査ガイドライン（実施基準）に基づき研究活動の不正防止や研究費の適切な使用など、研究者として身に着けるべき事項の習得を目的とした研究倫理研修を開催した。研究倫理講座は全体に向けての実施はできなかったが、審査申請のあった研究計画書に対するテクニカルチェック形式での指摘・再検討機会を強化し、必要に応じて個別に対応を行った。

4-4-③ 研究活動への資源の配分

本学では、全教員に対して個人研究費を交付するほか、専門分野における専任教員の学術研究及び教育向上に資するための研究費（学術助成費、教育向上研究費）が交付される。

日本医療大学研究費審査委員会規程で研究費審査委員会の組織及び運営に関し必要な事項を定め、本学の学術助成費及び教育向上研究費の交付は研究代表者から提出された計画調書を研究費審査委員会が審査し決定する。令和5（2023）年度は、学術助成費は12件、教育向上研究費は1件の研究に対し交付を行った。

○保健医療学部

< 看護学科 >

【学術助成費】

1. 言語データに基づく歴史文化研究の試み：パラワク支系の歌文化を事例に
教授 山田 敦士

< リハビリテーション学科 >

【学術助成費】

1. 安静立位、前傾および後傾姿勢保持時の立位位置知覚への注意の向け方の検討
～注意分散課題として適切な上肢運動課題の設定～
教授 矢口 智恵
2. 脊髄小脳変性症症例における立位時の重心制御特性の解明
講師 武田 賢太
3. アバターを用いたコミュニケーションの効果研究
講師 村上 優衣

< 診療放射線学科 >

【教育向上研究費】

1. 大学教員において学習機材が学修効果に及ぼす影響
助教 小笠原 凌介

< 臨床検査学科 >

【学術助成費】

1. 抗好中球細菌外トラップ抗体測定系の標準化
講師 魚住 諒
2. 若年者における血糖値推移と、関連する因子の検討
講師 林 泰弘

< 臨床工学科 >

【学術助成費】

1. 北海道の地域特性を考慮した透析医療資源の効率的な運用に関する基礎的研究
講師 斉藤 徳

○総合福祉学部

< 介護福祉マネジメント学科 >

【学術助成費】

1. 組織内連携を通じた病院事務職員の成長モデルの検討：専門職化への接近
准教授 小野寺 美希子

< ソーシャルワーク学科 >

【学術助成費】

1. 発達障害を持つ親の育児の困難性と精神保健福祉士の支援モデルに関する基礎的研究
准教授 松浦 智和
2. ソーシャルワーク実践評価方法の活用と普及に関する参加型アクションリサーチ
准教授 丸山 正三

3. 被災者支援のソーシャルワークの方法に関する研究
准教授 久保 美由紀

< 留学生別科 >

【学術助成費】

1. 語用論的効果に着目した日本語教育文法研究－終助詞「よ」「ね」「よね」を中心に

—

講師 一色 舞子

5. 経営・管理と財務

5-1. 経営の規律と誠実性

5-1-① 経営の規律と誠実性の維持

5-1-② 使命・目的の実現への継続的努力

本法人は、建学の精神を「共生社会の実現」とし、「学校法人日本医療大学寄附行為」第3条に「この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、大学を設置して学校教育を行うことを目的とする。」と定めている。また、この目的の達成に必要な組織を整備するとともに、組織を適切に運営するための諸規程を定め、規律ある堅実な経営を行っている。

教職員に対しては、「学校法人日本医療大学就業規則」及び「学校法人日本医療大学賞罰規程」において服務規律、懲戒事由等を明示し、法令及び関係規程等を遵守し業務を行うことを義務付けている。

会計処理は、学校法人会計基準に則って行われている。財務会計は、「学校法人日本医療大学経理規程」、「学校法人日本医療大学経理規程取扱細則」、「学校法人日本医療大学授業料等取扱規程」、「日本医療大学授業料等取扱規程に関する細則」、「学校法人日本医療大学寄付受入規程」、「学校法人日本医療大学固定資産及び物品管理規程」、「学校法人日本医療大学資産運用規程」を整備し、適切に処理されている。

組織の倫理については、「日本医療大学研究倫理委員会規程」、「日本医療大学不正防止委員会規程」、「日本医療大学人権擁護委員会規程」、「学校法人日本医療大学公益通報者保護規程」、「学校法人日本医療大学個人情報の保護に関する規程」、「日本医療大学ハラスメントの防止等に関する規則」等を整備するとともに、本学に研究倫理委員会、不正調査委員会、人権擁護委員会、ハラスメント防止委員会等を設置して、体制の整備を行っている。

その他、教育研究活動や財務等に関する情報をホームページで公表することなどを通じて、法人の運営に関する透明性の確保に努めている。

5-1-③ 環境保全、人権、安全への配慮

本学では、キャンパスの整備に当たって、良好な自然環境の保全に向けて、建築物及び工作物の設置、宅地造成、土地開墾などに配慮している。また、開学時から夏季にはクールビズを実施しているほか、節電や節水等注意喚起のポスターを校舎内の各所に掲示するなど、本学全体の省エネ意識の向上に努めている。

人権については、「日本医療大学研究倫理委員会規程」、「日本医療大学人権擁護委員会規程」、「学校法人日本医療大学公益通報者保護規程」、「学校法人日本医療大学個人情報の保護に関する規程」、「日本医療大学ハラスメントの防止等に関する規程」等を制定するとともに、研究倫理委員会、人権擁護委員会、ハラスメント防止委員会を設置するほか、各種の苦情や相談に対応する相談員を配置するなど人権擁護の周知・徹底に努めている。

また、本学では、火災、地震その他の災害の予防及び人命の安全並びに防止を図ることを目的に、消防計画、危機管理マニュアルを定めている。令和5（2023）年10月については、

新型コロナウイルス感染拡大の影響から見合わせていた実地の避難訓練を実施した。

他方、平成 30（2018）年 9 月の北海道胆振東部地震を契機に、各キャンパスに災害用食品の備蓄を行い毎年更新している。

5－2．理事会の機能

5－2－① 使命・目的の達成に向けて意思決定ができる体制の整備とその機能性

法人の使命・目的が達成できるよう「学校法人日本医療大学寄附行為」に基づき、理事会、評議員会を設置している。理事会は寄附行為第 7 条に規定する選任区分に従い選任された理事 8 人によって構成され、理事長が議長となり、会議を運営している。令和 5 年（2023）度は年 7 回開催した。

監事は、同寄附行為第 8 条の規定に従い 2 人が選任され、寄附行為第 17 条に掲げる職務を行い、理事会に出席して意見を述べている。

外部の役員として、理事には行政書士と企業経営者、監事には司法書士と公認会計士（計 4 人）を選任しており、本外部役員の高い見識と幅広い経験を活かしながら、法人の使命・目的の達成に向けた体制を整えている。

評議員は、同寄附行為第 27 条に規定する選任区分に従い選任された評議員 17 人によって構成され、評議員の互選により議長を選任し、会議を運営している。

その他、理事会に付議される事項につき書面をもって、あらかじめ意思を表示した理事は、出席者と見なすこととしている。

5－3．管理運営の円滑化と相互チェック

5－3－① 法人及び大学の各管理運営機関の意思決定の円滑化

令和 5（2023）年度の理事会は、年 7 回開催し、主な議事内容は、事業計画、予算、規程の改正、事業報告、決算報告等であり、適切に審議、議決している。また、法人の運営の実務にあたる事務局の役職者が、事案に応じて理事会に臨席し報告・説明することにより、施策の実効性を確保し得るよう運営している。

令和 5（2023）年度の評議員会は、年 8 回開催し、評議員の出席率は 97.8%であった。主な議案は、予算及び事業計画の諮問、業務執行状況の報告等であり、適切に審議、議決、答申している。

「学校法人日本医療大学寄附行為」第 13 条には、「理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。」と規定している。

一方、「日本医療大学学則」第 42 条の 2 に、「学長は、校務をつかさどり、所属職員を統監する。」と規定されているとおり、学長は、大学全体の教育、授業計画、入試、学生支援、研究、教職員の人事等を統括する。

教学と法人の一体的経営を図り、現下の厳しい競争的環境へ迅速に対応し、法人及び大学の財務基盤を強化することにより、教学への支援をより一層充実することを目的に経営戦

略会議を設置している。経営戦略会議は、理事長、総長、学長、事務局長及び外部の有識者 2 人が構成員となり、本法人の経営・教学全体に関する事項について審議している。

また、法人の理念及び建学の精神を踏まえ、理事会が決定した経営方針に基づき業務を執行し、法人の経営基盤の一層の強化を図ることを目的に、執行役員会及び学校連絡会議を設置している。執行役員会は、理事長、副理事長に加え、理事会及び評議員会の同意を得て理事長が委嘱する学内教職員による執行役員、さらに事務局の各幹部職員による准執行役員から構成される。また、学校連絡会議は、理事長、副理事長に加え、学長、学部長、学科長、事務各部門責任者などから構成される。

5-3-② 法人及び大学の各管理運営機関の相互チェックの機能性

監事は、「学校法人日本医療大学寄附行為」第 17 条に掲げる職務を行い、理事会・評議員会に出席して意見を述べるとともに、理事長や常勤の理事から業務執行状況について報告を受けるほか、監査の執行等に際して必要に応じ説明を求めている。また、重要な書類を閲覧し、業務執行が法令及び寄附行為等に則って適正に行われているか、経営方針に従って適切・適正に行われているかについて随時検証している。

評議員会は、同寄附行為第 23 条により 17 人の評議員をもって組織されており、理事会で審議される事項のうち、同寄附行為第 25 条に規定している諮問事項について理事長に意見を述べている。また、同寄附行為第 26 条に「この法人の業務若しくは財産の状況又は役員の業務執行の状況について、役員に対して意見を述べ若しくはその諮問に答え、又は役員から報告を徴することができる。」と規定しており、諮問機関としての役割を果たしている。

また、監事による監査のほかに、理事長が選任した職員による監査本部を設置し、監事と連携して業務監査及び会計監査を実施している。

5-4. 財務基盤と収支

5-4-① 中長期的な計画に基づく適切な財務運営の確立

5-4-② 安定した財務基盤の確立と収支バランスの確保

本学は、専門学校を継承して平成 26（2014）年 4 月に、新たに日本医療大学として開学して以来、組織運営体制を整備することに注力してきたが、本学が将来に向けて安定した経営を維持しながら、大学としての使命を果たしていくために、収支構造の見直しを行い、本法人の経営を学生納付金等の収入の範囲内で行うこととした。すなわち、従来の予算要求の積み上げ中心の運営から、収入予算枠内で事業を組み立てる方式に変更するとともに、共通経費等を見直し、非効率で無駄な経費の縮減を徹底するほか、選択と集中による予算の重点的な配分によって、事業活動収支の黒字転換を図ることを予算編成の基本方針とした。

また、教学への支援の充実強化に向けて、教学と法人の一体的経営を図り、現下の厳しい競争的環境にも迅速に対応し得るよう財務基盤を一層強化することなどを目的として、平成 30（2018）年 4 月に外部委員を含めた経営戦略会議を設置し、経営及び教学全体に関す

る事項について検討している。

更に、予算編成の基本方針を全うし得るよう、収容定員に対する学生数 100%の確保に努めるとともに、公的研究費や民間の助成金に関する説明会を実施し、外部資金獲得に向けた取組みを併行して促進している。

中長期的な財務運営の観点では、専門学校を閉校したことによる影響を除き、平成 26 (2014) 年に大学を設置して以来、事業活動収入は着実に増加しており、令和 5 (2023) 年度の事業活動収支計算書では、収入合計が 3,481,488 千円となっている。

一方、同年度の基本金組入前当年度収支差額は 53,850 千円の収入超過となっている。平成 26 (2014) 年度に開学して以来、毎年度、特別寄附金を受贈するとともに、収入に見合った経費の支出を考慮した運営を継続していることから、この 9 年間全てで収入超過となっており、収支のバランスは保たれている。

以上のとおり、財務に関しては、中長期事業計画を踏まえた収支計画に則り、盤石な基盤形成に向けた取組みを進めている。

5-5. 会計

5-5-① 会計処理の適正な実施

本学にあつては、「学校法人会計基準」、「学校法人日本医療大学経理規程」、「学校法人日本医療大学経理規程取扱細則」等に基づき、会計処理を適正に行っている。

学内の会計処理で判断に難しい事例が生じた場合は、日本私立学校振興・共済事業団、公認会計士、税理士等に確認するなどして、都度適切に対応している。

予算については、予算編成の基本方針を踏まえ、事務局予算編成担当が各部署へのヒアリングを行うなどして予算原案をとりまとめた上で、理事長が総合的に調整して予算案を策定、3月末までに評議員会の意見を聞き、理事会において審議、決定している。

また、補正予算についても、必要に応じ同様の手続きを経て措置している。

5-5-② 会計監査の体制整備と厳正な実施

会計監査は、公認会計士による監査、監事による監査及び内部監査が行われている。

公認会計士による監査は、当該年度の 9 月、11 月～12 月、3 月、次年度の 4 月、5 月に実施されており、会計処理に関する指導、助言があつた場合には、速やかに対応している。

監事は、「学校法人日本医療大学寄附行為」第 8 条にもとづき 2 人が選任されており、その業務は同寄附行為及び「学校法人日本医療大学監事監査規程」により定められている。

また監事は、理事会、評議員会に出席し、本法人の業務や財産状況について把握するとともに、本学の業務執行内容等について、適宜意見を述べている。

さらに、内部監査においても、監査本部が主体となって会計監査の監査項目を定めた内部監査計画書に基づいて監査を実施し、報告書を作成の上、理事長へ報告するとともに、所要の対応策を提示している。

6. 内部質保証

6-1. 内部質保証の組織体制

6-1-① 内部質保証のための組織の整備、責任体制の確立

本学は、建学の精神として掲げている「共生社会の実現」の精神に基づき、「日本医療大学学則」第3条に、「本学は、教育水準の向上及び活性化を図り、その目的と社会的使命を果たすため、教育研究活動等について自己点検及び評価を行う」と定め、内部質保証のための組織を整備するとともに、責任体制を確立している。

具体的な本学の内部質保証に関わる事項等は、開学以降「日本医療大学自己点検評価委員会規程」に即して、自己点検・評価委員会が中心となり点検及び評価を実施している。

同委員会の発足は平成26(2014)年4月であり、翌平成27(2016)年9月から実質的な活動が始まり、同28(2017)年度から毎月第4水曜日を定例会議日としている。

第一回目の会議開催時点では、診療放射線学科は開設されていないことから、看護学科教員3人、リハビリテーション学科教員3人、事務局長で委員会を構成していたが、現在は、看護学科長、リハビリテーション学科長、診療放射線学科長、臨床検査学科長、臨床工学科長、介護福祉マネジメント学科長、ソーシャルワーク学科長、通信教育部ソーシャルワーク学科長に加え、各学科(リハビリテーション学科においては各専攻から)から1人ずつ選任された教員、管理グループ長の合計17人を構成員として委員会を運営している。

同委員会では、受審認証評価機関の選定、年報の作成、教員の自己点検・評価の実施、全学的な委員会活動に対する点検を行い、円滑なPDCAサイクルを実行するために、学内から幅広く情報を収集する体制を整えた。また、より広義の内部質保証活動については、学内の各種委員会などが継続的に実施している。例えば、授業内容の向上・改善を目的とした「学生による授業評価アンケート」は、FD委員会が中心となって実施し、結果をホームページや掲示板に公表しているほか、学生委員会を中心に、大学における学生の生活環境の向上を目的として、「学生生活全般についての満足度調査」を実施するなどして、学生からの要望を採択するための仕組みを整えている。

このように各委員会において提起された問題点や改善点を次年度の事業計画に反映することなどを通じて、毎年度の目標設定や自己点検を行う内部質保証の充実に努めており、今後もこれを強化する。

6-2. 内部質保証のための自己点検・評価

6-2-① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価の実施とその結果の共有

各委員会は、毎年の活動内容を自己点検・評価した上で委員会活動報告書を作成し、自己点検評価委員会に提出している。自己点検評価委員会では各委員会から提出された内容の実行状況と総括のチェックを行い、年報という形で公表している。各委員会は自己点検評価委員会による検証結果に基づき改善を行い、これをまとめて次年度の事業計画案を作成し、

最終的に学長から次年度大学事業計画として、年度末の「大学方針説明会」において説明を行っている。

学校教育法第 109 条に基づき、本学ではエビデンスに基づいた自己点検・評価に努めており、自己点検評価委員会によって、全教員を対象に教員の自己点検・評価を実施している。この自己点検・評価は、教員自身の活動について自己点検・評価を行うことにより、自己の主体的な能力開発や教育、研究などの活動の活性化を促進し、更なる教育研究の高揚を図ることを目的としている。自己点検・評価する分野は、「教育」、「研究」、「大学業務」、「社会貢献」の 4 分野とし、教員自らが、年度当初に目標を立て、「教員自己点検・評価表」に記入し、上司（看護学科においては、分野の教授を分野に属する准教授、講師、助教、助手の上司とし、学科長を教授の上司とする。リハビリテーション学科においては、専攻長を専攻に属する准教授、講師、助教の上司とし、学科長を教授の上司とする。診療放射線学科、臨床検査学科、臨床工学科、介護福祉マネジメント学科、ソーシャルワーク学科においては、学科長を教授、准教授、講師、助教、助手の上司とする。学科長の上司は学部長とし、学部長の上司は学長とする）と協議の上、同意を得る。年度末には、教員自己点検・評価表に年度目標に対する成果等を記入し、再度上司と面談の上、自己点検・評価結果が確定する。この教員の自己点検・評価は、平成 28（2016）年度から毎年度実施し、教員自己点検・評価表の結果に関しては、自己点検評価委員会がまとめ、本学の年報及び、ホームページ上にて公表している。

また、各委員会から年度末に提出される「活動報告」や次年度の「活動計画」について内容の吟味を行っている。これまでに実例はないが、吟味の結果、「日本高等教育評価機構」の基準を充たさない事象が認められた場合、委員会に是正を求めることにしている。

毎年、「日本高等教育評価機構」から公表される、「判断例」について、本学の実態と照合し適否を確認している。

6－3．内部質保証の機能性

6－3－① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体の PDCA サイクルの仕組みの確立とその機能性

本学の内部質保証は、「自己点検評価委員会規程」に基づき、自己点検評価委員会が中心となって計画（Plan）、実施（Do）した自己点検・評価の結果を、自己点検評価委員会や教授会で報告・検討（Check）し、その結果を全学の教職員が教育研究活動に反映し、改善を図り（Action）、さらにそれを点検・評価に結び付けていくという内部質保証のための PDCA サイクルは確立している。前述のように、大学全体として、自己点検・評価は毎年度継続的に実施し、その結果についても日本医療大学年報及び、ホームページ上で共有しており、大学の運営に反映させている。令和 4（2022）年度には IR 室が機能し始め、自己点検・評価された結果を検討し、大学運営に反映させる取り組みがなされている。

本学は、開学から 1 年ごとに新学科が増設された経緯があり、旧ディプロマ・ポリシーに

沿った教育を展開してきた。しかし、開学後4年を経過した平成30(2018)年頃から建学の精神などと三つのポリシーを、改めて全面的に見直す必要性が生じてきた。平成30(2018)年度6月から10月にかけて、学長のリーダーシップのもと、自己点検評価委員会委員である各学科長を構成員とする運営会議を中心に三つのポリシーの見直しの原案を作成し、さらに学科会議・教授会等関係会議において検討を重ね、新たな三つのポリシーが策定された。これによって、入学選抜、教育、卒業の各段階の目標の具現化を図った。

それに伴い、カリキュラム委員会において、カリキュラム委員会委員長のもと、自己点検評価委員会委員も構成員として加わり、カリキュラムマップの原案を作成し、各学科において検討を重ねた。平成30(2018)年度12月の教授会においてカリキュラムマップが提示され、ディプロマ・ポリシーの内容をカリキュラムに反映した。SYLLABUSにおいては、令和元(2019)年度から、すべての科目についてディプロマ・ポリシーとの関連性を明示し、科目レベルにおいても各教員がディプロマ・ポリシーを踏まえた授業活動を実施している。

本学の内部質保証は三つのポリシーを起点とした内部質保証の取り組みが開始されている。令和2(2020)年度までは、年報の完成に時間を要し、年報の中身について点検・評価が疎かになっていた。しかし、令和2(2020)年度より年報の作成を早め、大学評価機構の評価基準に照らし合わせて年度内に自己点検・評価を行った。令和3(2021)年度3月には、今後の大学運営・設置計画について方針説明会として、理事長から「サクセスロードプラン」が示され、大学運営の中長期計画、事務局改革などが示された。

7. 大学が独自に設定した基準による自己評価

7-1. 認知症研究所

7-1-1 本研究所の目的は、認知症の制圧を達成するため、これら疾患に関する研究及び各種事業を行い、もって国民の健康福祉の増進に寄与することとする。

7-1-2 研究：認知症高齢者へのスヌーズレン研究として行った内容は、(1)事例研究、(2)生理学研究、(3)非薬物療法研究、(4)居住環境への応用研究、(5)東洋大学との共同研究、(6)介護職員の well-being 研究であった。

基準項目「研究」の具体的内容は、(1)事例研究：新施設への器材の設置や運用のサポートを継続している。研究成果「スヌーズレンを用いて音楽と会話が楽しめるようになった認知症高齢者の1事例（第58回日本作業療法学会（2024））」を発表する。(2)生理学研究：スヌーズレン介入は対象者によってリラックスまたは活性化する効果を認めるとともに、自律神経機能としては副交感神経が有意に活動するような影響を認めた。成果は「スヌーズレン療法における脳波変化（第13回日本認知症予防学会（2024））」「スヌーズレン療法前後の心電図 R-R 間隔と頸動脈血流の変化（第96回北海道医学検査学会（2024））」にて発表予定である。(3)非薬物療法研究：1事例（特養ノテふるさと）にスヌーズレンを行い、6か月でベンゾジアゼピン系の薬剤の減量が可能となった。対象者ご逝去のため、報告等は行っていない。(4)居住環境への応用研究：居住空間ではぼんやり過ごしていたり、大声を出したり、怒ったり、落ち着かずに歩き回ったりするなど行動心理症状がある人も、スヌーズレンルームでは穏やかに会話し、好きな活動を楽しむことができています。そこで、居住空間で「持ち運びスヌーズレン」を展開した。研究成果を「スヌーズレンが認知症高齢者に及ぼす効果—スヌーズレンルームと居住空間における実施の比較—（第58回日本作業療法学会（2024））」にて発表する。(5)東洋大学との共同研究：東洋大学では認知機能に効果があるバイオレット光（慶応大学）によるバブルチューブを開発した。バブルチューブは年度末に納入され現在研究計画作成中である。(6)介護職員の well-being 研究：心地よい適切な環境は利用者ばかりではなく介護職員の well-being にもつながる。近年、介護職員の精神的・身体的負担は課題になっており、スヌーズレンによるこれらへの予防効果の報告もある。介護職員に体験してもらい、ストレス緩和の効果もあった。研究成果は「作業療法士と介護職員との協業によるスヌーズレン成果の考察—認知症ケアモデル推進のため—（スヌーズレン教育・福祉研究, 6, 36-47（2023））」「スヌーズレンを体験した介護職員へのインタビュー結果の考察—認知症ケアモデルの確立に向けて—（第57回日本作業療法学会（2023））」「特別養護老人ホームにおける認知症高齢者へのスヌーズレン(MSE)実践の効果と課題—作業療法士の視点から—（スヌーズレン教育・福祉研究, 7, 42-55（2024））」にて発表した。介護職員の well-being はケアの質向上に寄与する可能性があり、今後も継続した実践、専門職の育成、エビデンスなどの効果検証が重要と考えている。

7-2. 教員の自己点検・評価に対する分析

本学では教育、研究、大学業務、社会貢献の各分野に対して職位別に重み付けの目安を設定している。各教員は年度当初にウエイトや具体的な目標を設定し、それに対する成果を年度末に報告している。目標に対する達成度*を評価1から評価5までの5段階で自己評価している。その結果を集計し分析したものを公表する。結果は1から5を図表で、分析については特記事項のみを提示している。

全教員のウエイト設定と分野達成度を結果1に示す。教育のウエイトは平均が37.7%で、それに対する分野達成度の平均は3.6の評価であった。研究のウエイトに対する平均は31.1%、それに対する分野達成度の平均は3.0の評価であった。大学業務のウエイトに対する平均は22%、それに対する分野達成度の平均は3.6の評価であった。社会貢献のウエイトに対する平均は9.3%、それに対する分野達成度の平均は3.5の評価であった。全項目において自己評価は3.0を上回っており、目標は達成されていた。

学科別のウエイト設定と分野達成度を結果2に示す。ソーシャルワーク学科を除いた6学科は教育におけるウエイトが最も高く、次いで研究のウエイトが高くなっていた。ソーシャルワーク学科は研究におけるウエイトが最も高く、次いで教育のウエイトが高くなっていた。分野達成度は一部学科の研究を除き3.0を上回っており、概ね目標は達成されていた。

職位別のウエイト設定と分野達成度を結果3に示す。教育に対するウエイト設定はどの職位においても高く設定されていた。研究へのウエイト設定は准教授、講師、助教が高く設定されていた。大学業務に対するウエイト設定は教授が最も高く、社会貢献に対するウエイト設定においても教授が高かった。概ね目標を達成できてはいたが、研究に対する分野達成度については2.9の職位が多く、社会貢献の分野では助教の分野達成度が2.9であった。

学科・職位別のウエイト設定を結果4に示す。教育のウエイト設定は、臨床検査学科の助教において高く設定されていた。研究は、診療放射線学科、臨床検査学科、臨床工学科の一部職位では40を超える設定であった。大学業務では、診療放射線学科の教授において高く設定されていた。社会貢献では、ソーシャルワーク学科の助教が特に高く設定されていた。

学科・職位別の分野達成度を結果5に示す。全体的な自己評価は、看護学科の准教授を除き、概ね達成できたとされる3.0を超えた結果となった。

*達成度

評価5：目標を大きく上回る成果があった

評価4：目標を上回る成果があった

評価3：目標を達成できた

評価2：目標を少し達成できなかった

評価1：目標をほとんど達成できなかった

8. 社会貢献

8-1 生涯学習講座

○生涯学習講座及び公開講座の企画・実施

本学では、社会貢献の一環として、学びの機会を提供する生涯学習講座及び公開講座を企画、実施している。令和5年度の実績は下表のとおりとなった。

令和5（2023）年度 生涯学習講座

開催年月日	開催地	テーマ	講演者	参加人数
令和5年4月22日	札幌市	ロコモティブシンドロームを知って、健康寿命を伸ばそう	及川 直樹	9
令和5年5月20日	札幌市	集団の意思決定と医療安全	相馬 幸恵	5
令和5年7月22日	札幌市	日常生活の身体運動 「楽に立つ・歩くためのポイント」	西山 徹	11
令和5年8月26日	札幌市	快適なすわりと認知症予防の関連について 「感覚アプローチの観点から」	八田 達夫	7
令和5年9月30日	札幌市	私らしい人生の終い方を考える	小野 幸子	8
令和5年10月14日	札幌市	日本の子どもたちの受難 「児童虐待と社会的養護」	鈴木 幸雄	1
令和5年11月25日	札幌市	もしも手術を受けることになったら ～心と体の準備～	溝部 佳代	4
令和5年12月23日	札幌市	”がん”と細胞診検査 ～口腔がんを中心に～	徳永 祐一	6
令和6年1月27日	札幌市	画像検査を用いたがん予防の最前線	黒藤 邦夫	6
令和6年2月24日	札幌市	医療と機械 「命をつなぐ ECMO と脳を調べる MEG」	竹内 文也	6
令和6年3月16日	札幌市	介護保険の仕組みと介護サービスの種類 ～いざという時に知っておきたい知識～	織田なおみ	13

令和5（2023）年度 公開講座

開催年月日	開催地	テーマ	講演者	参加人数
令和5年6月17日	札幌市	健康寿命を伸ばす	齋藤 重幸	100

8-2 学生ボランティア

8-2-① 医療関係者として人間尊重、相互扶助の精神を育む

○課題教育活動の企画・実施

本学では、医療に従事する者として、人間尊重と相互扶助の精神を涵養するための行動を各種行っている。その中でも啓発的な教育活動として、さっぽろレインボープライド実行委員会委員長による講演会「医療職を目指す大学生へのLGBTQ」を実施した。

8－2－② 学生自らが課題を見つけ、解決のために行動することができる

○課題解決型の行動を自主的に行動

上記のような課題教育を受けるかたちで、学生は個人または学内団体の一員として自ら課題を探し、それを解決すべく様々な場にて行動するようになっている。

学友会においては、今年度、春の日医大フェス（大学祭）や秋の体育大会などを自ら企画・運営し、学生生活を豊かなものとする努力を行った。さらに大学近隣の町内会主催イベント等に学生ボランティアの参加要請があった際には、事務局から学友会へ周知し参加者を募り、お祭りや健康啓発イベントへ積極的に参加していた。

9. 顕彰

教職員の表彰として、永年勤続表彰（勤続 20 年）、特別功績表彰、名誉教授称号授与があり、令和 5 年度該当教職員数については、以下のとおりである。

永続勤続表彰（勤続 20 年）：該当者なし

特 別 功 績 表 彰 ：該当者なし

名 誉 教 授 称 号 授 与：該当者なし

また、懲戒について、令和 5（2023）年度は戒告以上に該当する教職員は 1 名であった。

10. 委員会等活動報告

教授会および各種委員会の活動について以下に示す。

保健医療学部教授会

令和 5（2023）年度

回	議案：報告事項		開催日時
01	意見を 求める 事項 報告事 項 その他	1. 退学・休学について 2. 2023 年度仮進級者試験の早期実施について 3. 研究費に関する規程の一部改正について 4. 除籍について 1. 診療放射線学科追加実習施設一覧について 2. 学生委員会からの報告について 1. オフィスアワーについて 2. 令和 5 年度 会議体・委員会等構成員について 3. 昨年度から実施している SE 調査を実施するため、各学科の学生担任の先生方へのお願い 4. 初めて導入した看護学科入学生対象の初年次教育の実施報告について 5. 図書館の利用について	令和 5 年 4 月 26 日 15:30～16:20 大講堂 構成員 52 人 出席者 50 人 欠席者 2 人 議事録署名人 木村 徹
02	意見を 求める 事項 報告事 項	1. 研究費に関する規程の一部改正について 1. 令和 5 年度 学術助成費および教育向上研究費の公募について 2. 令和 5 年度 学術助成費および教育向上研究費公募要領について	令和 5 年 5 月 17 日 15:00～15:10 講義室 1451・WEB 構成員 52 人 出席者 41 人 欠席者 11 人 議事録署名人 清本 憲太
03	意見を 求める 事項 報告事 項 その他	1. 休学について 2. 前期履修一覧について 3. 不正防止に係る規定等の改正及び制定について 1. 2023 年度定期試験時間割 4 年次（放射）について 2. 2023 年度前期定期試験評価日程（放射）について 3. 2023 年度定期試験早期実施（放射・検査）について 4. 2023 年度仮進級者試験時間割（早期実施）（看護）について 5. 研究費使用マニュアルの制定について 6. 日医大フェスの進捗状況（学友会作業）について 1. 本学のホームページについて	令和 5 年 5 月 24 日 15:30～16:37 講義室 1451・WEB 構成員 52 人 出席者 48 人 欠席者 4 人 議事録署名人 工藤 悦子

04	意見を求める事項 報告事項 その他	1. 退学・休学・復学について 2. 2023 年度前期定期試験評価日程について 3. 2023 年度仮進級者試験について 4. 日本医療大学入学者選抜委員会規程の一部改正について 5. 日本医療大学通信教育部入学者選抜委員会規程（案）について 1. 2023 年度前期定期試験受験資格者（放射 4 年）について 2. 2023 年度前期定期試験早期実施（リハ・放射）について 3. 2023 年度前期定期試験時間割について（案） 4. 2023 年度仮進級者試験時間割について（案） 5. 2023 年度第 1・2 回「FD セミナー」の開催について 6. 教学における補完的全学態勢について（キャリアセンターの運営） 7. キャリアセンター資料室について 8. 教員の裁量による学会等への参加に関する要項及び様式の制定について 1. リメディアル教育（放射・工学）前期実施後の情報集約について 2. 国家試験対策向けの資料室の設置について	令和 5 年 6 月 28 日 15:30～16:48 講義室 1451・WEB 構成員 52 人 出席者 48 人 欠席者 4 人 議事録署名人 工藤 元嗣
05	意見を求める事項 報告事項	1. 退学・復学について 2. 定期試験結果前期 2023（放射 4 年） 3. 日本医療大学 教務に関する文書・授業資料等の管理についての申し合わせ（案） 1. 看護学科追実習願について 2. 「研究倫理相談窓口」開設について 3. 学生委員会から夏休みに向けてのお知らせ 2023（案） 4. 学生顕彰授与式の実施について 5. 教員の裁量による学会等参加に関する様式等の制定について	令和 5 年 7 月 26 日 15:30～16:07 講義室 1451・WEB 構成員 51 人 出席者 46 人 欠席者 5 人 議事録署名人 草薙 美穂

06	意見を求める事項 報告事項 その他	1. 退学・休学・復学について 2. 非常勤講師委嘱について（リハ） 3. 転学部転学科の具体的な取扱いについて（案） 1. 定期試験時間割 2023 前期（放射 3 年） 2. 2023 年度前期定期試験評価日程（放射 3 年） 3. 2023 年度前期定期試験受験資格者 4. 看護学科追実習願（「基礎看護学実習Ⅰ」） 5. 令和 5 年度学術助成費・教育向上研究費の採択について 6. 学生委員会からのお知らせ（後期開始に向けて学生へ注意喚起） 1. 第 5 回教授会議案「教員の裁量による学会等参加に関する様式等の制定について」に対する意見への対応状況について 2. 「アンデルセングルメ祭り 2023」に関する報告及び依頼事項について 3. 追・再試験の手続き期日の取り扱いについて	令和 5 年 8 月 23 日 15:30～16:27 講義室 1451・WEB 構成員 51 人 出席者 45 人 欠席者 6 人 議事録署名人 小山 満子
07	意見を求める事項 報告事項 その他	1. 退学・休学・復学について 2. 2023 年度前期定期試験結果・2023 年度仮進級者試験結果 3. 非常勤講師委嘱（リハ・検査）について 4. 休学について 5. 日本医療大学研究活動の不正行為に関する取扱規程の一部改正について 6. 不正防止研修の受講及び誓約書の提出について 1. 2023 年度前期定期試験受験資格者（放射 3 年）について 2. リハビリテーション学科追加実習施設一覧について 3. 実習指導教員委嘱等（リハ）について 1. 9 月上旬に真栄キャンパスで開催されたアンデルセングルメ祭りについて 2. 各委員会の規程の整備状況について	令和 5 年 9 月 13 日 15:30～16:18 講義室 1451・WEB 構成員 51 人 出席者 45 人 欠席者 6 人 議事録署名人 滋野 和恵

08	意見を求める事項 報告事項 その他	1. 退学・休学・復学について 2. 2023 年度前期定期試験結果（臨床検査学科追加分）について 3. 教員公募について 4. 2024 年度総合型選抜（前期）実施計画（案）について 1. 看護学科追実習願について 1. 2023 年度保健医療学部教授会日程の変更について 2. 委員会の規程見直しについて 3. 科研費助成によるセミナーについてのお知らせ 4. 事務局の人事異動に係るキャリアセンター体制について 5. 科研費応募状況について	令和 5 年 9 月 27 日 15:30～17:01 講義室 1451・WEB 構成員 51 人 出席者 45 人 欠席者 6 人 議事録署名人 近藤 和夫
09	意見を求める事項 報告事項	1. 退学・休学・復学について 2. 2023 年度前期定期試験結果について（看護・リハ 4 年生） 3. 非常勤講師委嘱（検査）について 4. 2023 年度後期履修登録者数一覧について 5. 定期試験の実施時間について 6. 転学部転学科制度の創設について 7. 2024 年度学校推薦型選抜（指定校・公募前期）実施計画（案）について 1. 2023 年度後期 4 年生定期試験評価日程について（看護・リハ・放射） 2. 定期試験の早期実施について（リハ・放射・検査） 3. 追実習願について（看護） 4. 実習指導教員委嘱等について（リハ） 5. 大学院開設準備委員会の設置について 6. 科研費間接経費による印刷機の購入について 7. 教員選考基準について 8. LGBTQ 講演会について 9. 2024 年度 総合型選抜（前期）の可否について 10. 委員会の規程見直しについて 11. 科研費助成によるセミナーの日程変更について	令和 5 年 10 月 25 日 15:30～16:27 講義室 1451・WEB 構成員 50 人 出席者 42 人 欠席者 8 人 議事録署名人 島 勝美

10	意見を求める事項 報告事項 その他	1. 退学・休学について 2. 2024 年度非常勤講師委嘱一覧（案）について 3. 2024 年度教務日程（案）について 4. ナンバリングコードについて 5. 2024 年度学校推薦型選抜（公募後期）実施計画（案）について. 1. 2023 年度後期定期試験早期実施について（リハ・検査） 2. 2023 年度 4 年後期定期試験時間割について（看護・リハ・放射） 3. 実習指導教員（模擬患者）の委嘱等について（看護） 4. ノテ福祉会・日本介護事業団への実習一括依頼について 5. 研究費等に係る令和 5 年度内部監査報告について 6. 学友会主催体育大会について 7. LGBTQ 講演会について 8. 2024 年度 学校推薦型選抜（指定校・公募前期）の合否について 1. 12 月の臨時教授会開催について 2. 教員組織の変更について 3. IT 教育推進のための学習教材の検討について	令和 5 年 11 月 22 日 15:30～16:23 講義室 1451・WEB 構成員 51 人 出席者 42 人 欠席者 9 人 議事録署名人 高橋 誠
11	意見を求める事項 報告事項 その他	1. 休学について 1. 2024 年度 学校推薦型選抜（公募後期）・総合型選抜（中期）の合否について 1. 各種委員会の見直し等に伴う規程改正等について 2. 国際交流委員会の開催について 3. IT 教育推進のための学修教材の検討について 4. 教員組織の変更について	令和 5 年 12 月 20 日 15:30～15:56 講義室 1451・WEB 構成員 51 人 出席者 43 人 欠席者 8 人 議事録署名人 瀧本 将人

12	意見を求める事項 報告事項	1. 退学・休学について 2. 2024 年度非常勤講師委嘱（変更・追加）について 3. 日本医療大学履修規程改正について 4. 診療放射線学科学則変更届出について 5. 学則の一部改正について 6. 転入学規程の一部改正について 7. 日本医療大学転学部転学科規程（案）について 8. 日本医療大学訪問研究員に関する規程（案）について 9. 日本医療大学教授会規程の一部改正について 10. 教員選考結果について 11. 教員選考委員会の立ち上げについて 12. 学生の懲戒処分について 1. 2023 年度後期定期試験早期実施について（リハ・放射） 2. 2023 年度後期定期試験（4 年生）受験資格者一覧について（看護・リハ・放射） 3. 2023 年度後期定期試験（1～3 年生）評価日程について 4. 2023 年度後期定期試験（1～3 年生）時間割について 5. リハビリテーション学科追加実習施設一覧について 6. 追実習願について（看護） 7. 安心・安全週間実施について 8. 冬季休暇期間の学生への注意喚起について	令和 5 年 12 月 27 日 15:30～16:45 講義室 1451・WEB 構成員 50 人 出席者 48 人 欠席者 2 人 議事録署名 高橋 美和
13	意見を求める事項 報告事項 その他	1. 退学について 2. 2024 年度非常勤講師委嘱（変更・追加）について（看護・リハ・放射） 3. 各種委員会の見直し等に伴う規程改正（制定）関係について 4. 学則の一部改正について 5. 日本医療大学大学院学則（案）について 6. 日本医療大学大学院長期履修規程（案）について 7. 日本医療大学大学院入学者選抜委員会規程（案）について 8. 日本医療大学大学院保健医療学研究科委員会規程（案）について 9. 日本医療大学教授会規程の一部改正について 10. 2024 年度一般選抜（前期）実施計画（案）について 1. 実習指導教員委嘱等について（リハ） 2. 実習追加施設一覧について（看護） 3. 追実習願について（看護） 4. 学生委員会からのお知らせについて（春季休暇に向けて） 5. 令和 5 年度保健医療学部 学生アンケート結果について 1. 2024 年度日本医療大学生涯学習講座の担当教員の募集・推薦について	令和 6 年 1 月 24 日 15:30～16:13 講義室 1120・WEB 構成員 50 人 出席者 44 人 欠席者 6 人 議事録署名 相馬 幸恵

14	意見を求める事項 報告事項 その他	1. 退学について 2. 2023 後期 4 年生定期試験結果（看護・リハ・放射）・卒業判定について 3. 教員公募における選考委員会の立ち上げについて 1. 2023 後期定期試験受験資格者一覧について 2. 看護学科追実習願について 3. 看護学科学則変更届出について 4. 第 11 代学友会会長選挙について 5. 2024 年度一般選抜（前期）・共通テスト利用選抜（前期）の合否について 1. 2024 年度の委員会担当者について 2. 3 月の教授会日程について	令和 6 年 2 月 14 日 15:30～16:06 講義室 1451・WEB 構成員 51 人 出席者 49 人 欠席者 2 人 議事録署名 竹内 文也
15	意見を求める事項 報告事項 その他	1. 退学・休学・復学について 2. 大学院設置に伴う学位規程の一部改正について 3. 日本医療大学研究費審査委員会規程の一部改正について 4. 日本医療大学不正防止委員会規程の一部改正について 5. 3/13 一般選抜（後期）・総合型選抜（後期）実施計画（案）について 6. 教員選考結果について 7. 授業料等取扱規程に関する細則の一部改正について 1. 2024 年度 大学入学共通テスト利用選抜（中期）の合否について 1. 単位認定について 2. 休学者の既修得科目への授業参加について 3. 追・再試験受験手続きについて	令和 6 年 2 月 28 日 15:30～16:20 講義室 1451・WEB 構成員 51 人 出席者 48 人 欠席者 3 人 議事録署名 鶴木 恭子
16	意見を求める事項 報告事項 その他	1. 退学・休学・復学・休学取り消しについて 2. 2023 年度後期定期試験結果（1～3 年生）について 3. 2023 年度進級判定結果について 4. 教員選考結果について 1. 2024 年度仮進級申請実施内容について 2. リハビリテーション学科追加実習施設一覧について 3. 令和 6 年度学術助成費および教育向上研究費の公募について 4. 令和 6 年度学術助成費および教育向上研究費の公募要領について 5. 学内団体に関する申請許可について 6. 学生の懲戒処分について 1. 令和 6 年度委員会の委員改選について 2. 令和 6 年度の委員会再編について 3. 退職にあたって	令和 6 年 3 月 12 日 15:30～16:11 講義室 1451・WEB 構成員 51 人 出席者 49 人 欠席者 2 人 議事録署名 進藤 ゆかり

17	報告事項 その他	1. 2024 年度 一般選抜(後期)・総合型選抜(後期)・大学入学共通テスト利用選抜(後期)の可否について 1. 退職にあたって	令和 6 年 3 月 18 日 15:35～15:46 講義室 1451・WEB 保健医療学部・総合福祉学部合同開催 【保健医療学部】 構成員 51 人 出席者 43 人 欠席者 8 人 【総合福祉学部】 構成員 27 人 出席者 16 人 欠席者 11 人 議事録署名 【保健医療学部】 徳永 祐一 【総合福祉学部】 石黒 匡人
18	意見を求める事項 報告事項 その他	1. 退学・休学・復学・休学取り消し（休学期間変更）について 2. 2024 年度非常勤講師委嘱（取消・追加）について（工学） 3. 日本医療大学履修規程改正について 4. 日本医療大学名誉教授称号授与規程の一部改正案について 1. 2024 年度仮進級者について 2. 2024 年度日本医療大学生涯学習講座の日程について 3. 次期学長候補者の選考について 1. 2024 年度会議体・委員会等構成員について 2. 基幹教育部門について 3. 2024 年度教授会構成員について	令和 6 年 3 月 27 日 15:30～16:00 講義室 1451・WEB 構成員 51 人 出席者 44 人 欠席者 7 人 議事録署名 西山 修輔

総合福祉学部教授会

令和 5（2023）年度

回	議案：報告事項		開催日時
01	意見を 求める 事項 報告事 項 その他	1. 通信教育部実習免除申請者について 2. 研究費に関する規程の改正について 1. 日医大フェスティバルの開催と教員役割 2. 基礎演習 ココルク江別の見学について 3. 送迎付き学校見学会（龍谷高校）、オープンキャンパスについて 4. 通信教育部 総合福祉学部 ソーシャルワーク学科 合否判定について 5. 通信教育部委員会の設置について 6. 令和 5 年度 学術助成費・教育向上研究費の公募について 7. 令和 5 年度 会議体・委員会等構成員について 8. 学部長報告 ●各委員会報告	令和 5 年 4 月 19 日 （水） 15：00～16：00 真栄キャンパス 2 号棟 1F 講義室 101、Teams 構成員 28 人 出席者 25 人 欠席者 0 人 議事録署名 松浦 智和
02	意見を 求める 事項 報告事 項 その他	1. 通信教育部 既修得単位の認定について 2. 研究費に関する規程の一部改正について 1. 履修登録者数の確認について 2. 通信教育部 スクーリング計画（案）について 3. 2023 学生顕彰 対象者一覧について 4. 学術助成費および教育向上研究費の公募について 5. 令和 5 年度 学術助成費および教育向上研究費公募要領について 6. 送迎付き学校見学会、オープンキャンパス、高校訪問について 7. 基礎演習 ココルク江別の見学について 8. 学部長報告 ●各委員会報告	令和 5 年 5 月 17 日 （水） 15：30～16：30 真栄キャンパス 2 号棟 1F 講義室 101、Teams 構成員 28 人 出席者 27 人 欠席者 1 人 議事録署名 丸山 正三

03	意見を求める事項 報告事項 その他	1. 退学について（通信教育部） 2. 令和5年度 前期定期試験評価日程、試験時間割（案）について 3. 日本医療大学入学者選抜委員会規程の一部改正について 4. 日本医療大学通信教育部入学者選抜委員会規程（案）について 1. 令和5年度 前期定期試験早期実施（介護福祉マネジメント学科）について 2. 履修登録者数の確認について（通信教育部） 3. 第1回オープンキャンパス（6/11）について 第2回オープンキャンパス（7/16）の実施内容 第3案について ●各委員会報告	令和5年6月21日（水） 15：00～ 真栄キャンパス2号棟 1F 講義室 101、Teams 構成員 28人 出席者 25人 欠席者 3人 議事録署名 忍 正人
04	意見を求める事項 報告事項 その他	なし 1. 「研究倫理相談窓口」開設について 2. FDセミナーについて 3. 8月11日（金）第3回オープンキャンパスについて 4. 教員の裁量による学会等への参加に関する様式の制定について ●各委員会報告	令和5年7月19日（水） 15：00～ 真栄キャンパス2号棟 1F 講義室 101、Teams 構成員 28人 出席者 26人 欠席者 2人 議事録署名 織田 なおみ
05	意見を求める事項 報告事項 その他	1. 転学部転学科制度について 1. 学生顕彰授与式について 2. アンデルセングルメ祭りにおける日医大フェス学生企画について 3. 令和5年度学術助成費・教育向上研究費の採択について ●各委員会報告	令和5年8月23日（水） 14：30～ 真栄キャンパス2号棟 1F 講義室 101、Teams 構成員 28人 出席者 25人 欠席者 3人 議事録署名 加藤 敏文

06	意見を求める事項 報告事項 その他	1. 前期定期試験結果について（通学1年生） 2. 日本医療大学研究活動の不正行為に関する取扱規程の一部改正について なし ●各委員会報告	令和5年9月13日 （水） 15：00～ 真栄キャンパス2号棟 1F 講義室 101、Teams 構成員 28 人 出席者 25 人 欠席者 3 人 議事録署名 神部 雅子
07	意見を求める事項 報告事項 その他	1. 退学について（通信） 2. 前期定期試験結果について（通学2年生・通信1年生） なし ●各委員会報告	令和5年9月20日 （水） 15：00～ 真栄キャンパス2号棟 1F 講義室 101、Teams 構成員 28 人 出席者 24 人 欠席者 4 人 議事録署名 久保 美由紀
08	意見を求める事項 報告事項 その他	1. 休学・退学について 2. 後期履修登録変更の確認について 3. 通信教育部「社会福祉の原理と政策Ⅱ」科目担当変更について 1. 科研費間接経費による印刷機の購入について 2. 総合型選抜(前期)の実施計画について ●各委員会報告	令和5年10月18日 （水） 15：00～ 真栄キャンパス2号棟 1F 講義室 101、Teams 構成員 27 人 出席者 26 人 欠席者 1 人 議事録署名 坂野 大樹
09	意見を求める事項 報告事項 その他	1. 2024（令和6）年度 総合福祉学部・通信教育部 非常勤講師一覧について 1. 2024（令和6）年度 シラバスマニュアル（真栄キャンパス版）について 2. 研究費等に係る令和5年度内部監査結果報告について 1. 転学部転学科制度について 2. 委員会規程について 3. 高大連携（北海学園）について ●各委員会報告	令和5年11月15日 （水） 15：00～ 真栄キャンパス2号棟 1F 講義室 101、Teams 構成員 27 人 出席者 24 人 欠席者 3 人 議事録署名 鈴木 幸雄

10	意見を求める事項 報告事項 その他	1. 令和5年度 後期定期試験評価日程、後期定期試験時間割について 2. 2024年度シラバス 総合福祉学部ナンバリングコードについて 3. 学則の一部改正について 4. 転入学規程の一部改正について 5. 日本医療大学転学部転学科規程について 6. 総合福祉学部での単位認定等の取扱い要領について 7. 2024年度転学部転学科試験要領（案）について 8. 日本医療大学訪問研究員に関する規程（案）について 1. 令和5年度 後期定期試験早期実施（ソーシャルワーク学科）について 2. 総合福祉学部・学生アンケートの結果について 3. 通信教育部・学生アンケートの実施について 4. 命の講演会について 5. 総合型選抜（中期）の合否について 6. 学校推薦型選抜（公募後期）の合否について 7. 通信教育部 第1期選抜の合否について 8. 各種委員会の見直し等に伴う規程改正等について ●各委員会報告	令和5年12月20日（水） 16:00～ 真栄キャンパス2号棟 1F 講義室 101、Teams 構成員 27人 出席者 27人 欠席者 0人 議事録署名 高橋 銀司
11	意見を求める事項 報告事項 その他	1. 次年度非常勤講師委嘱予定一覧（変更）について 2. 日本医療大学履修規程の改正について 3. 日本医療大学教授会規程の改正について 4. 各種委員会の見直し等に伴う規程改正等について 1. 通信教育部 第2期選抜の合否について 1. 転学部転学科の入試日程公示について 2. 2024年度 日本医療大学 生涯学習講座 担当教員の募集・推薦について ●各委員会報告	令和6年1月17日（水） 15:00～ 真栄キャンパス2号棟 1F 講義室 101、Teams 構成員 27人 出席者 22人 欠席者 5人 議事録署名 塚辺 博崇
12	意見を求める事項 報告事項 その他	1. 退学について 2. 次年度非常勤講師委嘱予定一覧（変更）について 3. 2024年度 一般選抜（後期）・総合型選抜（後期）の実施計画（案）について 4. 日本医療大学非常勤講師等に関する規程（通信教育部）について 5. 転学部転学科 志望学生の判定結果について 1. 令和6（2024）年度 日本医療大学 学生団体一覧について 2. 第11代学友会会長選挙の結果について ●各委員会報告	令和6年2月21日（水） 15:00～ 真栄キャンパス2号棟 1F 講義室 101、Teams 構成員 27人 出席者 24人 欠席者 3人 議事録署名 林 美枝子

13	意見を求める事項 報告事項 その他	1. 退学について 2. 後期定期試験結果について（通学・通信） 3. 次年度非常勤講師委嘱予定一覧（変更）について 4. 日本医療大学名誉教授称号授与規程の改正について 5. 転学部転学科（第2期）合否判定について 1. 令和6年度（2024年度）総合福祉学部時間割について 2. 令和6年度（2024年度）学年暦について（通学・通信） 3. 令和6年度（2024年度）総合福祉学部 新入生・在学生オリエンテーションおよびガイダンスについて 4. 研究費審査委員会規程の一部改正について 5. 不正防止委員会規程の一部改正について 6. 令和6年度（2024年度）日本医療大学生涯学習講座の日程について 7. 令和6年度（2024年度）総合福祉学部教授会日程について 8. 令和6年度（2024年度）総合福祉学部 新規就任教員について 9. 通信教育部 第5期選抜の合否について ●各委員会報告	令和6年3月21日 （木） 15:00～ 真栄キャンパス2 号棟 1F 講義室 101、Teams 構成員 27 人 出席者 24 人 欠席者 3 人 議事録署名 山下 浩紀
----	--	---	---

委員会・委員長名	図書・学術振興委員会 委員長：保健医療学部看護学科・教授・草薙美穂
構 成 員 職位と氏名	教 授：草薙美穂、原田邦明、加藤敏文 准教授：相馬幸恵、久保美由紀 講 師：合田央志、魚住諒、越石全 助 教：高平昂 事務局：澤口敏明、藤ノ木良子、梅津愛、小野寺陽香、栗本瑞恵、小岩志保

運 営 計 画	具体的な実施内容等
1. 令和5年度の図書の購入・受入予定	令和5（2023）年度は、各学科から提出された図書、和・洋雑誌の購入希望リストを委員会において検討し、購入・受入を行った。また、次年度大学院設置準備として図書の受入を行った。 今後、図書の購入・受入は当該年度で実施するのではなく、前年度に購入希望リスト（予算）を作成し、次年度の4月に購入・受入を行うこととなった。
2. 図書の蔵書等の資産確認と資産整理計画	月寒本館では「配架区分」の整理を行い（「医学書」と「NDC」を「開架図書」に統一）、利用者の利便性向上に努めた。また、「国試対策図書」についても配架区分を新設したうえで、委員会で利用ルールについて検討し「複本がある場合は貸出可」として運用することとなった。
3. 紀要第10巻を発刊計画	「日本医療大学紀要 第10巻」の編集作業を行った。今年度から自然科学系論文を主とする保健医療学部と人文科学系を主とする総合福祉学部、2学部からなる紀要となった。両学部から併せて17本の原稿を掲載予定であり、本学の主要な研究成果発表の場の一つとなっていることを確認した。 紀要第10巻は現在編集中であり、令和6（2024）年6月頃の発刊を予定している。

4. 第 10 回研究報告会（保健医療学部・総合福祉学部）開催計画	例年 3 月末に実施している研究報告会だが、令和 5（2023）年度は研究費の執行が遅れた為、年度内には実施せず、令和 6（2024）年度 7～8 月頃の実施を予定していることを研究費審査委員会と確認した。 また、委員会の規程見直しにより、次年度から研究報告会の運営は研究費審査委員会に変更となる予定。
5. 図書館利用者の増加を目指す取り組み	・利用者の利便性向上を目指し、令和 5（2023）年 6 月～12 月末まで「館内にカバン持ち込み可」とするトライアル期間を設け、運用を開始した。その結果、入館者数は増えたが、一方でお菓子のゴミが大量に捨てられる等利用マナーの違反が目立つ状況となった為、掲示やユニパで注意喚起をし、改善を図った。 トライアル期間を令和 6（2024）年 3 月末まで延長したうえで利用状況を鑑み、次年度も継続して「カバン持ち込み可」とすることを委員会で決定した。 ・月寒本館では、図書館職員選定のもと医療系コミック等を揃え、館内に特設コーナーを設置した。

委員会・委員長名	キャリアセンター運営委員会 委員長（センター長）：保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻長 教授 大堀具視
構成員 職位と氏名	教授：草薙美穂、及川直樹、照井レナ 准教授：近藤和夫、久保美由紀 講師：小池祐史、斉藤 徳 助教：藤田 智、山下浩紀 センター事務員：近藤義明、中野渉 事務局：山田武敏

運 営 計 画	具体的な実施内容等
1. センターの方針 ・2022年度に本学は2学部（保健医療学部：月寒本キャンパス、総合福祉学部：真栄キャンパス）7学科（看護学科・リハビリテーション学科・診療放射線学科・臨床検査学科・臨床工学科・介護福祉マネジメント学科・ソーシャルワーク学科）が展開された。そしてリハビリテーション学科理学療法学専攻は、2023年度から定員100人となり、さらに組織の運営体制の強化が求められる。 主な業務は規程第2条に示す、(1)キャリア構築のための情報提供及び発信、(2)キャリア支援等に関するセミナー及びイベントの企画、開催、運営全般、(3)キャリア構築や就労の相談援助、(4)その他センターの目的達成に必要な業務となっている。 本年度においても、各学科との連携を図り、学生一人ひとりの個性を大切に、自己の実現に向けて	・2023年度は大学法人の経営計画に基づき、教員とキャリアセンターの協働による学生支援の体制構築に向けての試行の年度となった。具体的には、学生の個別指導は、学生との距離が近い学科部門員や学生担任等が主となって対応し、キャリアセンターは各種情報の整理・提供・発信、各種講座や説明会の企画・実施等を主として実施をすることにより新たな学生支援体制を模索した。個別指導については、学科や教員によって就職活動に関する指導経験にバラツキもあり、学生を指導することに対して不安があるとの声もあった。今年度は要望があった診療放射線学科について、試行的に個別指導対応者向けの研修も実施したものの、大学として支援体制の底上げが必要と考えられるため、次年度以降も個別指導対応者向けの支援体制のフォローを考慮に入れて行く必要がある。また、キャリアセンターからの情報発信に関しては、学内の掲示や求人検索NAVIのほか、Teams等のツールの活用、それらの整理により、できるだけ画一化・効率化を図ってきた。一方で、学科ごとの特色に応じた効果的な方法も模索して行く必要がある。次年度に向けては、就職支援に関する各学科・キャリアセンターの年間の動きを可視化・共有し、学科にとらわれず相互の情報共有を進めることなどにより、大学全体が一丸となってよりよい学生支援の在り方を模索していくことが望まれる。 ・各学科共通のキャリア講座として、昨年度同様4月新

の支援を図りキャリアセンターとして業務遂行していく。学生が、一社会人そして専門職としての資質を備えるべく、低年次からのキャリア教育の充実を図り総合的な支援サービスを行っていく。	入生ガイダンスやオリエンテーションの実施をはじめ、全学科全学年の学生に向けて「本学キャリアセンター」の周知を図るとともに、学生に対し礼儀や挨拶の重要性のほか職業観の意識づけを行ってきた。しかし実習など一般社会との接点で見られる本学の学生の素行は、まだまだ社会人として十分なレベルであるとは言い難く、できるだけ早期からの反復的なマナー教育の必要性があると言える。次年度は1・2年からも意識的に社会人マナーを身に着けるための講座を用意するとともに、内容についても更なる改善が必要になると考えられる。 ・将来にわたり継続的・持続的に高い就職率を達成すべく、各医療機関や施設等と本学の関係性の強化を図っていく必要がある。今年度は、昨年までに引き続きリハビリテーション学科内での合同就職説明会、看護学科、診療放射線学科内での就職説明会を行った。参加学生の声や内定率の動きなどからは一定程度内定に寄与していると考えられる反面、短期間で企画・実施されたものが多く、実施時期や回数、規模については改善の余地があるといえる。早期からの就職活動支援の実現や、実習先への就職強化、新規就職先開拓へとつなげるべく、次年度は計画的な実施が望まれる。 ・また、臨床検査学科が新たに卒業年度を迎えることその他、臨床工学科、総合福祉学部の各学科が3年目を迎える。早期から就職に向けての外部への広報活動および学生に対する各種講座等の実施を計画的に実施していく必要がある。 ・在学中に就職や進学が決まることが理想的ではあるが、様々な事情により、卒業後もフォローを必要とする学生は一定数存在する。また、在学生の就職活動支援においても、卒業後に本学の学生に向けて医療現場の実体験などを伝えてくれる存在が重要となる。本学学生の卒業後のフォロー体制を構築・検討していく必要がある。
---	--

2. 学科共通 ・学生自身が、社会人になっても自ら主体的に行動し、真の専門職として豊かな人間性を兼ね備え、継続的に活躍し続けることが出来るような人材育成をしていくため、低年次から各講座では、社会人基礎力や挨拶の大切さ、コミュニケーション能力の強化等、本学学生として個性を活かせる支援の充実を図っていく。	学生の個別指導に力を注ぐ。対面のみならず、リモート支援を柔軟に活用し個人の資質を伸ばしていけるような言葉掛けや本人に気づきや思考力を育てていけるよう、部門員と連携し個別支援の強化を図っていく。とくに医療人として必要となるコミュニケーション能力の強化、日本語力、論理的思考、レジリエンス等 社会で今後も活躍していくうえで資する力を養っていけるようなキャリアデザイン講座の組立て、個別相談での支援を行っていく。 ・ <u>就職ガイドブック</u> 学科共通の内容としデータ化し学生へ配付、活用を図る。 ・ <u>ガイダンス・オリエンテーション</u> 各学科学年に向けて、本キャリアセンターの紹介を行う。 ・ <u>求人票管理システム</u> 求人票閲覧システムは、本年度も継続して、学生の情報サービスの充実および事務作業の簡略化を進めている。 ・ <u>本学履歴書様式</u> 随時キャリアセンターにて設置配付およびダウンロード形式にて配布。学生へのサービス向上を図っており応募先指定の履歴書様式も印刷して渡している。 ・ <u>離職調査</u> 例年行われている離職調査については本年度も実施した。 離職率は 2.2%であり、前年の約 3.8%に比べ改善傾向がみられた。就労機関との連携のもと、本学学生が早期離職にならぬようキャリア支援での意識づけを行いガイダンス等でも学生支援を図っていく。
---	--

[保健医療学部] 【看護学科】 ・100%内定率をめざし、さらに社会人基礎教育の強化を図る。また低年次から適したキャリアデザインを描けるよう講座を開催するとともに、学生の意識向上をめざす。 ※各講座の開催時期や方法(対面・リモート)を検討し、臨機応変に対応する。	4年生 ・ガイダンス ・進路希望調査 ・キャリア講座「面接対策」 3年生 ・ガイダンス ・キャリア講座「就活スタートアップ講座 採用市場を知る・自己分析・履歴書組立て」 ・キャリア講座「履歴書・自己PR・小論文 添削公開講座」 ・キャリア講座「実習直前マナー講座」 ・キャリア講座「卒業生トーク会 ～私のシゴト」 2年生 ・ガイダンス ・キャリア講座「基礎実習直前マナー講座」 ・キャリア講座「卒業生トーク会 ～私のシゴト」 ・キャリア講座「就活スタートUP（自己分析）」 1年生 ・ガイダンス ・キャリア講座「自己理解・他者理解」 ・キャリア講座「卒業生トーク会 ～私のシゴト」

【リハビリテーション学科】 ・100%内定率をめざし、さらに社会人基礎教育の強化を図る。また低年次から適したキャリアデザインを描けるよう講座を開催するとともに、学生の意識向上をめざす。 ※各講座の開催時期や方法(対面・リモート)を検討し、臨機応変に対応する。	4年生 ・ガイダンス ・進路希望調査、就職対策資料配布 ・キャリア講座「就活キックオフ講座」 -履歴書の書き方(志望動機、自己PR、ガクチカ) -面接の手法(面接官の目線、アウトプット・所作/接遇) ・学内就職説明会(午前の部 51 施設、午後の部 40 施設) 3年生 ・ガイダンス ・キャリア講座(実習前マナー講座) -伝わる積極性、情報の受取と発信 -伝わる聞き方、怒られ力 ほか ・キャリア講座「卒業生トーク会 ～私のシゴト」 2年生 ・ガイダンス ・キャリア講座(実習前マナー講座) -個性の理解、医療系のコミュニケーション -相手を理解するための想像力を高める -セラピストとしての未来の自分を想像する ・キャリア講座「卒業生トーク会 ～私のシゴト」 1年生 ・ガイダンス ・キャリア講座 - テーマ：初年次教育「大学生活のモチベーションに繋げる」 -期待されるセラピスト像を描きこれからのビジョンを描く -大学生活のセルフコントロール、ストレス受け止め方、 - タイムマネジメント力 ほか
【診療放射線学科】 100%内定率をめざし、さらに社会人基礎教育の強化を図る。また低年次から適したキャリアデザイン	4年生 ・ガイダンス ・進路希望調査 ・各病院の説明会(*学科対応)

を描けるよう講座を開催するとともに、学生の意識向上をめざす。 ※各講座の開催時期や方法(対面・リモート)を検討し、臨機応変に対応する。	・キャリア講座「採用市場を知る・履歴書・面接講座」 3 年生 ・キャリア講座「基礎実習直前マナー講座」 ・キャリア講座「卒業生トーク会 ～私のシゴト」 2・3・4 年生 ・臨床実習報告会：臨床実習における学生同士の情報共有および下学年に対する情報提供。プレゼンテーションのスキルアップ(*学科対応) 2 年生 ・ガイダンス ・キャリア講座 テーマ：自己分析、表現 ・キャリア講座「卒業生トーク会 ～私のシゴト」 1 年生 ・ガイダンス ・キャリア講座 テーマ：初年次教育 -基礎力講座 「話す・伝える・聴く・コミュ力 UP・正しい敬語の使い方」
【臨床検査学科】 低年次から適したキャリアデザインを描けるよう講座を開催するとともに、学生の意識向上をめざす。 ※各講座の開催時期や方法(対面・リモート)を検討し、臨機応変に対応する。	3 年生 ・ガイダンス ・キャリア講座 2 年生 ・ガイダンス ・キャリア講座 テーマ：自己理解 1 年生 ・ガイダンス ・キャリア講座 テーマ：初年次教育 ～じぶんの「夢」実現のために～ -大学生活 4 年間を考える、脳の習慣「思考と行動」 -基礎力講座 「話す・伝える・聴く・コミュ力 UP・正しい敬語の使い方」
【臨床工学科】 低年次から適したキャリアデザイ	2 年生 ・ガイダンス

ンを描けるよう講座を開催するとともに、学生の意識向上をめざす。 ※各講座の開催時期や方法(対面・リモート)を検討し、臨機応変に対応する。	・キャリア講座 テーマ：自己理解 ・キャリア講座「シゴト理解」 1 年生 ・ガイダンス ・キャリア講座 テーマ：初年次教育 ～じぶんの「夢」実現のために～ -大学生活 4 年間を考える、脳の習慣「思考と行動」 -基礎力講座 「話す・伝える・聴く・コミュ力 UP・正しい敬語の使い方」
[総合福祉学部] 【介護福祉マネジメント学科】 低年次から適したキャリアデザインを描けるよう講座を開催するとともに、学生の意識向上をめざす。 ※各講座の開催時期や方法(対面・リモート)を検討し、臨機応変に対応する。	2 年生 ・ガイダンス ・キャリア講座「社会人基礎力、接遇・マナー」 ・キャリア講座「職場見学・インターンシップ体験」 1 年生 ・ガイダンス ・キャリア講座 「初年次教育 ～じぶんの「夢」実現のために～」 -大学生活 4 年間を考える、今後 10 年後のビジョンを描く (時間の意識、目標設定、なりたい自分を描く) -基礎力講座 「話す・伝える・聴く・コミュ力 UP・正しい敬語の使い方」 ※本年度は総合福祉学部全体として部門員と学生の個別面談を中心に実施した。
【ソーシャルワーク学科】 低年次から適したキャリアデザインを描けるよう講座を開催するとともに、学生の意識向上をめざす。 ※各講座の開催時期や方法(対面・リモート)を検討し、臨機応変に対応する。	2 年生 ・ガイダンス ・キャリア講座「社会人基礎力、接遇・マナー」 ・キャリア講座「職場見学・インターンシップ体験」 1 年生 ・ガイダンス ・キャリア講座

応する。	「初年次教育 ～じぶんの「夢」実現のために～」 -大学生活 4 年間を考える、今後 10 年後のビジョンを描く （時間の意識、目標設定、なりたい自分を描く） -基礎力講座 「話す・伝える・聴く・コミュ力 UP・正しい敬語の使い方」 ※本年度は総合福祉学部全体として部門員と学生の個別面談を中心に実施した。
-------------	--

委員会・委員長名	教務委員会（保健医療学部） 委員長：保健医療学部リハビリテーション学科 教授 岸上博俊
構 成 員 職位と氏名	教 授：山崎公美子、井上由紀子 河原畑尚美、滋野和恵、山田敦士、向井康詞、 西山徹、杉本芳則、木村徹、西山修輔、品川雅明、徳永祐一、梅森祥央、 千原伸也、竹内文也 准教授：近藤和夫、清本憲太、島勝美、岡田一範、工藤元嗣 講 師：齊藤高志 事務局：青手木良光、本庄勝巳、澤口敏明、水野誠、本間詩乃、宗形文、北宙恵、 北川喜音、山形奈穂、小野寺陽香、中塚栞

運 営 計 画	具体的な実施内容等
1. 教育課程に関する事項	① 新型コロナウイルスの感染状況に合わせた対応を行った。 ② 履修登録一覧の確認(各学科)を行った。 ③ 前期・後期成績審議(各学科)を行った。仮進級制度を 実施した。 ④ 実習施設変更承認申請(各学科)を行った。 ⑤ 追実習の審査(看護学科)を行った。 ⑥ 追試験の審査(各学科)を行った。 ⑦ 2024 年度新入生オリエンテーション内容を検討した。 2024 年度在学生ガイダンス内容を検討した。 ⑧ 2025 年度から変更予定のカリキュラム内容確認を学 科長 WG にて行った。 ⑨ 2024 年度定期試験実施方法の見直しを行った。 ＊再試験の取り扱い変更
2. 定期試験及びその他の試験に する 事項	① 試験実施要領の確認・見直しを行った。 ② 定期試験受験者一覧を作成(学科別)した。 ③ 定期試験時間割を作成(学科別)した。 ④ 定期試験監督者の待機担当教員調整(学科別)を行 った。 ⑤ 定期試験時間割科目のバランス調整を行った。 ⑥ 定期試験監督者、追・再試験監督者の調整(学科別)を 行った。 ⑦ 定期試験教室の配置調整を行った。
3. 授業計画及び実施、授業担 当者に関する事項	① 非常勤講師委嘱等の検討を行った。 ② 実習指導教員・非常勤講師等の委嘱等を取りまとめ た。

4. 成績評価、単位認定、進級及び卒業に関する事項	① 学生の出席・成績状況を教務委員会で確認し、教授会にて報告した。 ② 進級及び卒業に関しては、進級及び卒業要件に沿い、教務委員会で最終確認し、教授会にて報告した。 ③ 成績評価に関する WG を立ち上げ、今後の検討課題を確認した。
5. 休学、退学、除籍、復学、その他学籍に関する事項	各学科における休学・退学、復学などは、規程に沿い対応した。
6. 学生便覧、講義要綱に関する事項	① キャンパスガイドの見直しを行った。 ② シラバス改訂を行った。 (ナンバリング、アクティブ・ラーニング、課題及び試験結果にするフィードバック方法の記載を主として) ③ 学年暦(各学科・学年別)を検討し作成した。 ④ 履修の手引きの見直しを行った。
7. その他教務に関する事項	① オフィスアワーの調査(前期・後期)と学生周知を行った。 ② 2023 年度教務委員会事業計画(案)を作成した。 ③ 教室管理台帳を作成した。 ④ リメディアル教育を開始した。 ⑤ 実習 WG の検討を行い、実習地の不足などを確認した。 ⑥ 100 分授業の検討を行った。 ⑦ 3 つのポリシー見直し等に関する検討を学科長 WG にて行った。

委員会・委員長名	教務委員会（総合福祉学部） 委員長：総合福祉学部介護福祉マネジメント学科 准教授 塚辺博崇
構成員 職位と氏名	教授：笹岡眞弓、伊藤 一、田中英樹 講師：佐藤 恵、銭本隆行、神部雅子 助教：山下浩紀 事務局：杉原課長、渡邊（駿）

運 営 計 画	具体的な実施内容等
1. 教務課程に関する事項	① 既修得単位の認定（該当学科）を行った。 ② 履修登録一覧の確認（各学科）を行った。 ③ 前期・後期成績審議（各学科）を行った。 ④ 追試験の審査（各学科）を行った。 ⑤ 2024 年度新入生オリエンテーションの内容を検討した。 2024 年度在学生ガイダンスの内容を検討した。
2. 定期試験及びその他の試験に関する事項	① 試験実施要領の確認、見直しをした。 ② 定期試験受験者一覧作成（学科別）をした。 ③ 定期試験時間割作成（学科別）をした。 ④ 定期試験科目のバランス調整を行った。 ⑤ 試験監督、追・再試験監督の調整（学科別）を行った。 ⑥ 試験配布教室の設置を行った。
3. 授業計画及び実施、授業担当者に関する事項	① 非常勤講師委嘱等の検討を行った。 ② 年間実習指導教員・非常勤講師等の委嘱を取りまとめた。
4. 成績評価、単位認定、進級及び卒業に関する事項	① 学生の出席・成績状況を委員会で確認し、教授会に報告した。 ② 進級及び卒業に関しては、進級及び卒業要件に沿い、委員会で最終確認し、教授会にて報告した。
5. 休学、退学、除籍、復学、その他学籍に関する事項	各学科における休学、退学、復学などは規程に沿い対応する。
6. 学生便覧、講義要項に関する事項	① キャンパスハンドブックの見直しを行った。 ② シラバスの見直しを行った。 ③ 学年暦（各学科・各学年）を検討した。 ④ 履修の手引きの見直しを行った。
その他教務に関する事項	① オフィスアワーの調査（前期・後期）と学生周知を行った。 ② 2024 年度教務委員会事業計画（案）を作成した。 ③ 転学部転学科に関する対応（WG との連携、カリキュラム関連など）

委員会・委員長名	カリキュラム委員会（保健医療学部） 委員長：保健医療学部診療放射線学科 教授 西山修輔
構 成 員 職位と氏名	教授：山田敦士、進藤ゆかり、岸上博俊、西山徹、梅森祥央 准教授：清本憲太、島勝美、工藤元嗣 講師：小池祐史、斎藤高志 事務局：学務 G 長(本庄部長、青手木常務理事)、水野参与、 本間課長、宗形主任、北宙恵、山形奈穂、北川喜音、中塚栞

運 営 計 画	具体的な実施内容等
1. 教育課程（カリキュラム）の検討	診療放射線学科と看護学科において開講期変更の要望があり、変更理由等を確認して学則変更および文科省への届出へと手続きを進めた。令和 7(2025)年度実施のカリキュラム変更申請は AC 期間中の臨床工学科を除く 4 学科で令和 6(2024)年 7 月の申請を目指し各学科での検討を進めた。
2. 学生、教員、卒業生のカリキュラム評価に関するアンケート調査の実施	卒業生に対する卒業時アンケートは、看護学科、リハビリテーション学科、診療放射線学科で継続的に実施している。集計結果がまとまったものについてはカリキュラム検討の参考となるよう委員会で共有した。
3. 教育研修会の実施	FD 委員会との共催で大学教育の授業設計に関する教育研修会を実施した。

委員会・委員長名	カリキュラム委員会（総合福祉学部） 委員長：総合福祉学部ソーシャルワーク学科 講師 銭本隆行
構 成 員 職位と氏名	教 授： 准教授：塚辺博崇、平野啓介 講 師：神部雅子、銭本隆行 助 教：山下浩紀 事務局：杉原章仁、渡邊駿

運 営 計 画	具体的な実施内容等
1. 教育課程（カリキュラム）の検討	AC 期間終了を見据えて、終了後に可能なカリキュラム変更について検討した。
2. 授業評価に関するアンケート調査の活用	AC 期間終了を見据えて、終了後に可能なカリキュラム変更を、授業評価に関するアンケート調査をもとにしながら検討した。

委員会・委員長名	自己点検評価委員会 委員長：保健医療学部リハビリテーション学科学科長 教授向井 康詞
構 成 員 職位と氏名	教授：山崎久美子、杉本芳則、品川雅明、千原伸也、伊藤一、笹岡真弓、 岸上博俊、福山篤司、竹内文也 准教授：泉水朝貴、松浦智和 講師：中澤洋子、小池祐史 助教：織田なおみ 事務局：松平 貴、中川勝義、櫻井浩介、道下瑞樹、川村春菜

運 営 計 画	具体的な実施内容等
1. 日本医療大学年報第 8 号の発行	令和 6 (2024) 年 1 月に発行することができた。新学部、新学科が増設されて年度のこととなり、執筆、編集に時間を要し、当初予定より大幅な遅れとなった。 教授会で報告し、HP 上に公開した。
2. 令和 4 (2022) 年度日本医療大学自己点検評価の実施	年報第 8 号を元に自己点検評価を行った。評価基準は大学評価機構の基準を用いた。結果は学長、運営会議、IR 室に報告し、大学内での PCDA サイクルの流れを構築するよう働きかけた。またガバナンスコードの確認、評価も行ったが、ガバナンスコードの点検・評価については自己点検評価委員会で扱うのが妥当なのか検討が必要と考えられた。
3. 大学におけるエビデンスデータの集積	各委員会の議案書、議事録の提出を求め、事務局で管理することとした。

委員会・委員長名	学生委員会（保健医療学部） 委員長：保健医療学部リハビリテーション学科 教授 及川直樹
構 成 員 職位と氏名	（看護）吉田（香）講師 吉田（直）講師 （リハビリテーション）新開谷講師 宝田助教 （診療放射）福山教授 白石講師 （臨床検査）林講師 磯辺助教 （臨床工学）齊藤講師 高平助教 （事務局）本庄部長→山田次長（R5. 9～） 中野主任（R5. 9～） 松原→三木（R5. 9～）

運 営 計 画	具体的な実施内容等
1. 学生委員会の通常業務（学生委員会活動の説明とキャンパスの環境整備と学生生活の情報提供、情報発信、学内交流事業、学生の学外活動への支援）	定例の委員会を毎月第二水曜日の教授会後に開催。学生委員会を毎月第2水曜日、計11回開催（9月は流会）した。今年度からすべて対面開催とした。また適宜議題が発生すると持ち回りで決議を行った。 新入生オリエンテーション、ガイダンスでキャンパスルールおよび「日本医療大学 SNS に関するガイドライン」の注意喚起と啓発を行った。 「学生委員会からのお知らせ」を長期休暇の前後に4回発行（ユニパによる配信）した。 大学敷地周辺での喫煙マナー、自家用車による通学および無断駐車に関する注意喚起を行った。 ニュースレター「あずまし」は、総合福祉学部とも情報共有・協議は行ったものの、発刊には至らなかった。 令和5年度（2023年度）学生アンケートは、7月～1月の期間で実施した。簡易集計し、1月度の教授会にて報告の上、アルファオフィスにて教職員に情報共有した。回収率は90.2%であった。 令和6年度（2024年度）版の CAMPUS HAND BOOK の該当箇所への加筆・修正を行った。
2. 学生委員会主催事業（学生の生活指導や人間力の向上）	学生顕彰の成績優秀者顕彰対象学生113名（社会貢献賞：該当者なし）に対して、7月20日（木）学長室で各学科代表者に対する授与式を挙行了した。 令和5年度（2023年度）「入学と学生生活に関するアンケート調査」の実施（前述） 「命の講演会」実施 11月10日（金） 大講堂 講師：柳谷 由美 先生

	(さっぽろレインボープライド実行委員会委員長) テーマ：医療職を目指す大学生へのLGBTQ 参加学生 1名 「安心安全週間」実施 1月9日(火)～31日(水) 北海道警察本部主催 闇バイトへの下端と大麻の乱用防止 デジタルサイネージを用いて動画を上映した。
3. 学友会支援事業 学内団体関連	学友会定例総会は、4月25日(火)オンライン開催となった。 学内団体は、既存団体が8団体、新規団体が5団体となった。活動制限が徐々に緩和されたため、徐々に活発になりつつある。学連主催の大会に出場する学生もでてきた。 大学祭を6月17日(土)「日医大フェスティバル」として、学友会と大学法人との共催にて実施した。(本学および敷地内施設)。学生が主体で模擬店やステージを企画・運営した。 体育大会を11月3日(金)に実施した。(北ガスアリーナ) 選挙管理委員会より、第11代学友会会長選挙にむけた立候補を令和5年(2023年)12月27日～令和6年(2024年)1月12日に受け付けた。1月26日に第11代会長にリハビリテーション学科理学療法学専攻2年山田雄暉が選出された。 年度末に各学内団体の未回収活動報告書の回収と継続願の提出を依頼し、次年度活動継続団体の確認と設置申請の受付を行った。 学友会宛に依頼のあった地域イベントのボランティア等を受け入れ、都度学生を募集した。 1月に学内団体の継続・新規設立・廃部の申請受付を行った。 次年度継続申請は10団体、新規団体は5団体であった。 学友会からの卒業記念品(エコバッグ)の選定調整等をおこなった。

4. 奨学金に関する事項	今年度は当委員会が関わる奨学金案件は無かった。
5. 国際交流、海外研修に関する事項	今年度は当委員会が関わる奨学金案件は無かった。
6. その他	学生からの要望により、プライバシーの保護セキュリティーの観点から女子ロッカー室出入り口にカーテンを設置した。 北海道赤十字血液センターの依頼で、移動献血車による献血の受け入れを行った。 令和5年（2023年）6月29日（木） 89名受付 令和5年（2024年）10月24日（火） 75名受付

委員会・委員長名	学生委員会（総合福祉学部） 委員長：総合福祉学部 介護福祉マネジメント学科 教授 石黒 匡人
構 成 員 職位と氏名	石黒 匡人教授、林 美枝子教授、忍 正人准教授、 橋本 達志助教、久保 美由紀准教授

運 営 計 画	具体的な実施内容等
1. 学生委員会の通常業務(学生委員会活動の説明とキャンパスの環境整備と学生生活の情報提供、情報発信、学内交流事業、学生の学外活動への支援)	定例の委員会を毎月第2水曜日の16:00に、計12回開催した。すべて対面開催とした。 新入生オリエンテーション、ガイダンスでキャンパスルールおよび「日本医療大学 SNS に関するガイドライン」の注意喚起と啓発を行った。 「学生委員会からのお知らせ」を長期休暇の前後に4回発行（ユニパによる配信）した。 大学敷地周辺での喫煙マナー、自家用車による通学、スクールバス内でのマナー、などに関する注意喚起を行った。 ニュースレター「あずまし」は、保健医療学部とも情報共有・協議は行ったものの、発刊には至らなかった。 令和5（2023）年度学生アンケートは、7月～12月の期間で実施した。 令和5（2023）年度通信教育部学生アンケートを12月～2月までの期間で実施した。 令和6（2024）年度版の CAMPUS HAND BOOK の該当箇所への加筆・修正を行った。
2. 学生委員会主催事業(学生の生活指導や人間力の向上)	学生顕彰の成績優秀者顕彰対象学生4名（社会貢献賞：該当者なし）に対して、令和5（2023）年7月28日（金）第2学生食堂で各学科代表者に対する授与式を挙行した。 令和5（2023）年度「入学と学生生活に関するアンケート調査」の実施（前述） 令和5（2023）年度通信教育部学生アンケートの実施（前述） 「命の講演会」実施 令和5（2023）年12月13日（金）302教室 講師：小林 亮平 氏 テーマ：普通じゃなくなった人生 参加者：学生12名、教職員13名

	引き続き、講演者、学生、教員での交流会も開いた。
3. 学友会支援事業 学内団体関連	学友会定例総会は、令和 5（2023）年 4 月 25 日（火）オンライン開催となった。 学内団体は、既存団体が 8 団体、新規団体が 5 団体となった。活動制限が徐々に緩和されたため、徐々に活発になりつつある。 大学祭を令和 5（2023）年 6 月 17 日（土）「日医大フェスティバル」として、学友会と大学法人との共催にて実施した。（月寒本キャンパスおよび敷地内施設）。学生が主体で模擬店やステージを企画・運営した。 令和 5（2023）年 9 月 3 日土曜日、アンデルセングルメ祭りに合わせて、日医大フェス真栄キャンパスとして二つの学生企画が行われ、これを支援した。 体育大会を令和 5（2023）年 11 月 3 日（金）に実施した。（北ガスアリーナ） 選挙管理委員会より、第 11 代学友会会長選挙にむけた立候補を令和 5（2023）年 12 月 27 日～令和 6（2024）年 1 月 12 日に受け付けた。令和 6（2024）年 1 月 26 日に第 11 代会長にリハビリテーション学科理学療法学専攻 2 年山田雄暉が選出された。 令和 6（2024）年 1 月に学内団体の継続・新規設立・廃部の申請受付を行った。次年度継続申請は 11 団体、新規設立申請は 5 団体、廃部届は 2 団体だった。
4. 奨学金に関する事項	今年度は当委員会が関わる奨学金案件は無かった。
5. 国際交流、海外研修に関する事項	今年度は当委員会が関わる案件は無かった。
6. その他	特になし

委員会・委員長名	入学試験委員会 委員長：学長 太田 誠
構 成 員 職位と氏名	小野学部長、山崎学科長、向井学科長、杉本学科長、品川学科長、千原学科長、 笹岡学部長・学科長、伊藤学科長、草薙図書館長、大堀キャリアセンター長、 、及川学生委員会委員長（月寒）、石黒学生委員会委員長（真栄）、 対馬（学生募集対策委員会委員長）、青手木事務局長 事務局：山田次長、山川課長、三雲主任 → 9月から山田次長、近藤課長、中野主任

運 営 計 画	具体的な実施内容等
1. 令和6（2024）年度 入学試験の合否判定	1. 令和6（2024）年度 入学試験の合否判定 入学者選抜委員会から上程された合格者案について協議し、以下の通り合格者を決定した。 【総合型選抜（前期）】 ≪保健医療学部≫ 看護学科：80人受験 71人合格 リハビリテーション学科理学療法学専攻：54人受験 53人合格 リハビリテーション学科作業療法学専攻：9人受験 9人合格 診療放射線学科：40人受験 38人合格 臨床検査学科：21人受験 18人合格 臨床工学科：9人受験 9人合格 保健医療学部5学科合計：213人受験 198人合格 ≪総合福祉学部≫ 介護福祉マネジメント学科：0人受験 0人合格 ソーシャルワーク学科：2人受験 2人合格 総合福祉学部2学科合計：2人受験 2人合格 2学部7学科合計：215人受験 200人合格 【総合型選抜（中期）】 ≪保健医療学部≫ 看護学科：8人受験 5人合格 リハビリテーション学科理学療法学専攻：10人受験 3

	人合格 リハビリテーション学科作業療法学専攻： 0 人受験 0 人合格 診療放射線学科： 4 人受験 2 人合格 臨床検査学科： 4 人受験 4 人合格 臨床工学科： 1 人受験 1 人合格 保健医療学部 5 学科合計：27 人受験 15 人合格 《総合福祉学部》 介護福祉マネジメント学科： 0 人受験 0 人合格 ソーシャルワーク学科： 0 人受験 0 人合格 総合福祉学部は受験者なし 2 学部 7 学科合計：27 人受験 15 人合格 【総合型選抜（後期）】 《保健医療学部》 看護学科：2 人受験 1 人合格 リハビリテーション学科理学療法学専攻：0 人受験 0 人合格 リハビリテーション学科作業療法学専攻：0 人受験 0 人合格 診療放射線学科：0 人受験 0 人合格 臨床検査学科：0 人受験 0 人合格 臨床工学科：0 人受験 0 人合格 保健医療学部 5 学科合計： 2 人受験 1 人合格 《総合福祉学部》 介護福祉マネジメント学科： 0 人受験 0 人合格 ソーシャルワーク学科：0 人受験 0 人合格 総合福祉学部は受験者なし 2 学部 7 学科合計： 2 人受験 1 人合格 【学校推薦型選抜（指定校）】 《保健医療学部》 看護学科：25 人受験 21 人合格 リハビリテーション学科理学療法学専攻：36 人受験 36
--	--

	人合格 リハビリテーション学科作業療法学専攻：13 人受験 13 人合格 診療放射線学科：22 人受験 22 人合格 臨床検査学科：8 人受験 8 人合格 臨床工学科：4 人受験 4 人合格 保健医療学部 5 学科合計：108 人受験 104 人合格 《総合福祉学部》 介護福祉マネジメント学科：1 人受験 1 人合格 ソーシャルワーク学科：11 人受験 11 人合格 総合福祉学部 2 学科合計：12 人受験 12 人合格 2 学部 2 学科合計：120 人受験 116 人合格 【学校推薦型選抜（公募前期）】 《保健医療学部》 看護学科：22 人受験 21 人合格 リハビリテーション学科理学療法学専攻：7 人受験 6 人合格 リハビリテーション学科作業療法学専攻：0 人受験 0 人合格 診療放射線学科：15 人受験 14 人合格 臨床検査学科：4 人受験 4 人合格 臨床工学科：1 人受験 1 人合格 保健医療学部 5 学科合計：49 人受験 46 人合格 《総合福祉学部》 介護福祉マネジメント学科：0 人受験 0 人合格 ソーシャルワーク学科：0 人受験 0 人合格 総合福祉学部は受験者なし 2 学部 2 学科合計：49 人受験 46 人合格 【学校推薦型選抜（公募後期）】 《保健医療学部》 看護学科：5 人受験 5 人合格 リハビリテーション学科理学療法学専攻：0 人受験 0 人合格
--	---

	リハビリテーション学科作業療法学専攻： 0 人受験 0 人合格 診療放射線学科： 5 人受験 4 人合格 臨床検査学科： 2 人受験 2 人合格 臨床工学科： 0 人受験 0 人合格 保健医療学部 5 学科合計：12 人受験 11 人合格 《総合福祉学部》 介護福祉マネジメント学科： 0 人受験 0 人合格 ソーシャルワーク学科：0 人受験 0 人合格 総合福祉学部は受験者なし 2 学部 2 学科合計：12 人受験 11 人合格 【一般選抜（前期）】 《保健医療学部》 看護学科：99 人受験 86 人合格 リハビリテーション学科理学療法学専攻：25 人受験 20 人合格 リハビリテーション学科作業療法学専攻： 6 人受験 6 人合格 診療放射線学科：46 人受験 41 人合格 臨床検査学科：38 人受験 34 人合格 臨床工学科： 5 人受験 5 人合格 保健医療学部 5 学科合計：219 人受験 192 人合格 《総合福祉学部》 介護福祉マネジメント学科： 4 人受験 4 人合格 ソーシャルワーク学科： 2 人受験 2 人合格 総合福祉学部 2 学科合計： 6 人受験 6 人合格 2 学部 2 学科合計：225 人受験 198 人合格 【一般選抜（後期）】 看護学科： 5 人受験 1 人合格 リハビリテーション学科理学療法学専攻： 1 人受験 1 人合格 リハビリテーション学科作業療法学専攻： 0 人受験 0
--	---

	人合格 診療放射線学科：2人受験 0人合格 臨床検査学科：1人受験 1人合格 臨床工学科：0人受験 0人合格 保健医療学部5学科合計：9人受験 3人合格 《総合福祉学部》 介護福祉マネジメント学科：0人受験 0人合格 ソーシャルワーク学科：1人受験 0人合格 総合福祉学部2学科合計：1人受験 0人合格 2学部2学科合計：10人受験 3人合格 【大学入学共通テスト利用選抜（前期）】 看護学科：88人受験 59人合格 リハビリテーション学科理学療法学専攻：28人受験 11人合格 リハビリテーション学科作業療法学専攻：8人受験 8人合格 診療放射線学科：62人受験 36人合格 臨床検査学科：28人受験 16人合格 臨床工学科：5人受験 4人合格 保健医療学部5学科合計：219人受験 134人合格 《総合福祉学部》 介護福祉マネジメント学科：0人受験 0人合格 ソーシャルワーク学科：6人受験 5人合格 総合福祉学部2学科合計：6人受験 5人合格 2学部2学科合計：225人受験 139人合格 【大学入学共通テスト利用選抜（中期）】 看護学科：5人受験 2人合格 リハビリテーション学科理学療法学専攻：5人受験 2人合格 リハビリテーション学科作業療法学専攻：0人受験 0人合格 診療放射線学科：3人受験 3人合格
--	--

	臨床検査学科： 3 人受験 3 人合格 臨床工学科： 1 人受験 1 人合格 保健医療学部 5 学科合計：17 人受験 11 人合格 《総合福祉学部》 介護福祉マネジメント学科： 0 人受験 0 人合格 ソーシャルワーク学科：0 人受験 0 人合格 総合福祉学部は受験者なし 2 学部 2 学科合計：17 人受験 11 人合格 【大学入学共通テスト利用選抜（後期）】 看護学科： 1 人受験 0 人合格 リハビリテーション学科理学療法学専攻： 2 人受験 1 人合格 リハビリテーション学科作業療法学専攻： 1 人受験 1 人合格 診療放射線学科： 4 人受験 2 人合格 臨床検査学科： 1 人受験 1 人合格 臨床工学科： 0 人受験 0 人合格 保健医療学部 5 学科合計：9 人受験 5 人合格 《総合福祉学部》 介護福祉マネジメント学科： 0 人受験 0 人合格 ソーシャルワーク学科：0 人受験 0 人合格 総合福祉学部は受験者なし 2 学部 2 学科合計： 9 人受験 5 人合格 <u>合計：902 人受験 733 人合格（前年 1086 人受験 754 人合格）</u>
--	---

委員会・委員長名	入学者選抜委員会 委員長：保健医療学部リハビリテーション学科 学科長・教授 向井 康詞
構 成 員 職位と氏名	【保健医療学部】 看護学科：小野学部長、山崎学科長、松本教授 リハビリテーション学科：泉水准教授 診療放射線学科：杉本学科長、阿部講師 臨床検査学科：品川学科長、高橋講師 臨床工学科：千原学科長、齊藤（高）講師 【総合福祉学部】 介護福祉マネジメント学科：伊藤学科長、塚辺准教授 ソーシャルワーク学科：笹岡学部長・学科長、忍准教授 事務局：山田次長、山川課長、三雲主任 → 9月以降は山田次長、近藤課長、中野主任

運 営 計 画	具体的な実施内容等
1. 令和6（2024）年度入学試験の実施	1. 令和6（2024）年度入学試験の実施 ・ 予定通り、総合型選抜（前期・後期）、学校推薦型選抜（指定校、公募前期、公募後期）、一般選抜（前期、後期）、大学入学共通テスト利用選抜（前期、中期、後期）を実施した。 ・ 大学入学共通テスト利用選抜を除く各選抜において「実施要領」、「学科試験監督要領」「面接試験実施要領」を作成し、説明会を開催し周知した。 ・ 大学入学共通テスト利用選抜にあたり共同実施大学である北星学園大学と連携し実施した。 ・ 今年度から実施予定であった特別選抜（社会人、海外帰国生徒、外国人留学生）は出願者がいなかったので未実施であった。 ・ 一般選抜（前期）において、函館試験会場は設置5年目で14人が出願し、帯広試験会場は設置2年目で15人が出願し受験した。

2. 令和6（2024）年度入学試験 合格者案の作成	2. 令和6（2024）年度各入学試験の合格者案作成について ・以下の通り合格者案を作成し入試委員会に上程した。 総合型選抜（前期）： 看護学科 80 人受験 71 人合格 リハビリテーション学科理学療法学専攻 54 人受験 53 人合格 リハビリテーション学科作業療法学専攻 9 人受験 9 人合格 診療放射線学科 40 人受験 38 人合格 臨床検査学科 21 人受験 18 人合格 臨床工学科 9 人受験 9 人合格 介護福祉マネジメント学科 0 人受験 0 人合格 ソーシャルワーク学科 2 人受験 2 人合格 計：215 人受験 200 人合格 総合型選抜（中期）： 看護学科 8 人受験 5 人合格 リハビリテーション学科理学療法学専攻 10 人受験 3 人合格 リハビリテーション学科作業療法学専攻 2 人受験 0 人合格 診療放射線学科 4 人受験 2 人合格 臨床検査学科 4 人受験 4 人合格 臨床工学科 1 人受験 1 人合格 介護福祉マネジメント学科
---------------------------------------	--

	0 人受験 0 人合格 ソーシャルワーク学科 0 人受験 0 人合格 計：29 人受験 15 人合格 総合型選抜（後期）： 看護学科 2 人受験 1 人合格 リハビリテーション学科理学療法学専攻 0 人受験 0 人合格 リハビリテーション学科作業療法学専攻 0 人受験 0 人合格 診療放射線学科 0 人受験 0 人合格 臨床検査学科 0 人受験 0 人合格 臨床工学科 0 人受験 0 人合格 介護福祉マネジメント学科 0 人受験 0 人合格 ソーシャルワーク学科 0 人受験 0 人合格 計：2 人受験 1 人合格 学校推薦型選抜（指定校）： 看護学科 25 人受験 21 人合格 リハビリテーション学科理学療法学専攻 36 人受験 36 人合格 リハビリテーション学科作業療法学専攻 13 人受験 13 人合格 診療放射線学科 22 人受験 22 人合格 臨床検査学科 8 人受験 8 人合格 臨床工学科 4 人受験 4 人合格
--	--

	介護福祉マネジメント学科 1 人受験 1 人合格 ソーシャルワーク学科 11 人受験 11 人合格 計： 120 人受験 116 人合格 学校推薦型選抜（公募前期）： 看護学科 20 人受験 17 人合格 リハビリテーション学科理学療法学専攻 3 人受験 2 人合格 リハビリテーション学科作業療法学専攻 0 人受験 0 人合格 診療放射線学科 13 人受験 11 人合格 臨床検査学科 4 人受験 4 人合格 臨床工学科 0 人受験 0 人合格 介護福祉マネジメント学科 0 人受験 0 人合格 ソーシャルワーク学科 0 人受験 0 人合格 計： 40 人受験 34 人合格 学校推薦型選抜（公募後期）： 看護学科 5 人受験 5 人合格 リハビリテーション学科理学療法学専攻 0 人受験 0 人合格 リハビリテーション学科作業療法学専攻 0 人受験 0 人合格 診療放射線学科 5 人受験 4 人合格 臨床検査学科
--	--

	2 人受験 2 人合格 臨床工学科 0 人受験 0 人合格 介護福祉マネジメント学科 0 人受験 0 人合格 ソーシャルワーク学科 0 人受験 0 人合格 計： 12 人受験 11 人合格
	一般選抜（前期）： 看護学科 99 人受験 86 人合格 リハビリテーション学科理学療法学専攻 25 人受験 20 人合格 リハビリテーション学科作業療法学専攻 6 人受験 6 人合格 診療放射線学科 46 人受験 41 人合格 臨床検査学科 38 人受験 34 人合格 臨床工学科 5 人受験 5 人合格 介護福祉マネジメント学科 4 人受験 4 人合格 ソーシャルワーク学科 2 人受験 2 人合格 計： 225 人受験 198 人合格
	一般選抜（後期）： 看護学科 5 人受験 1 人合格 リハビリテーション学科理学療法学専攻 1 人受験 1 人合格 リハビリテーション学科作業療法学専攻 0 人受験 0 人合格 診療放射線学科

	2 人受験 0 人合格 臨床検査学科 1 人受験 1 人合格 臨床工学科 0 人受験 0 人合格 介護福祉マネジメント学科 0 人受験 0 人合格 ソーシャルワーク学科 1 人受験 0 人合格 計： 10 人受験 3 人合格
	大学入学共通テスト利用選抜（前期）： 看護学科 88 人受験 59 人合格 リハビリテーション学科理学療法学専攻 28 人受験 11 人合格 リハビリテーション学科作業療法学専攻 8 人受験 8 人合格 診療放射線学科 62 人受験 36 人合格 臨床検査学科 28 人受験 16 人合格 臨床工学科 5 人受験 4 人合格 介護福祉マネジメント学科 0 人受験 0 人合格 ソーシャルワーク学科 6 人受験 5 人合格 計： 225 人受験 139 人合格
	大学入学共通テスト利用選抜（中期）： 看護学科 5 人受験 2 人合格 リハビリテーション学科理学療法学専攻 5 人受験 2 人合格 リハビリテーション学科作業療法学専攻

	0 人受験 0 人合格 診療放射線学科 3 人受験 3 人合格 臨床検査学科 3 人受験 3 人合格 臨床工学科 1 人受験 1 人合格 介護福祉マネジメント学科 0 人受験 0 人合格 ソーシャルワーク学科 0 人受験 0 人合格 計： 17 人受験 11 人合格 大学入学共通テスト利用選抜（後期）： 看護学科 1 人受験 0 人合格 リハビリテーション学科理学療法学専攻 2 人受験 1 人合格 リハビリテーション学科作業療法学専攻 1 人受験 1 人合格 診療放射線学科 4 人受験 2 人合格 臨床検査学科 1 人受験 1 人合格 臨床工学科 0 人受験 0 人合格 介護福祉マネジメント学科 0 人受験 0 人合格 ソーシャルワーク学科 0 人受験 0 人合格 計： 9 人受験 5 人合格 <u>合計：902 人受験 733 人合格（前年 1086 人受験 754 人合格）</u>
--	--

3. 入学前学習課題の実施	3. 入学前学習課題の実施 ・ 総合型選抜（前期）および学校推薦型選抜（指定校、公募前期、公募後期）合格者に対し実施した。 ・ 令和6（2024）年度入学試験では図書推薦文の課題を課し実施した。
	・ 全入学試験制度での合格者を対象に各学科で問題集を選び、取り組ませた

委員会・委員長名	研究倫理委員会 委員長：保健医療学部臨床検査学科・教授・徳永 祐一
構 成 員 職位と氏名	教 授：進藤ゆかり、森口眞衣、溝部佳代、矢口智恵、樋口健太、徳永祐一、 竹内文也、石黒匡人、鈴木幸雄 准教授：小野寺美希子、丸山正三、久保美由紀 講 師：村上優衣、阿部匡史、澁谷斉、齋藤高志 学 外：東海林哲郎、齋藤重幸 事務局：梅津愛、山崎愛奈、柳亮輔、横矢絵理、加藤雄大

運 営 計 画	具体的な実施内容等
1. 委員会の開催（倫理審査）	毎月一回開催される研究倫理委員会において、審査申請のあった研究計画書について審議し、研究実施の適否を判断した。 ○通常審査：27 件 前年比：約 84%（R4 年度：32 件） 学部内訳：保健医療学部 26 件、総合福祉学部 1 件 ○迅速審査（承認案件の軽微な変更）：20 件 ○多機関共同研究の審査：4 件 合計：51 件
2. 研究倫理教育の推進	全体に向けての研究倫理講座は実施できなかったが、審査申請のあった研究計画書に対するテクニカルチェック形式での指摘・再検討機会を導入し、必要に応じて個別に対応を行った。
3. 研究倫理研修の開催	研究機関における公的研究費の管理・監査ガイドライン（実施基準）に基づき研究活動の不正防止や研究費の適切な使用など、研究者として身に着けるべき事項の習得を目的とした研究倫理研修を開催した。
4. 研究倫理審査申請書及び同申請書作成マニュアルの改訂等	学科・学部増や申請内容の変化に対応するため、現行の倫理審査申請書の修正を行った。 ① プルダウン内容修正追記等の申請書微調整（現状を踏まえ全面的な改定の必要性に向けた予備検討を含む） ② マニュアル改定に向けた修正事項の整理検討

5. その他	審査の円滑性向上のため、以下のとおり事務手続きの見直しや関係他部門との調整を進めた。 ①学部・学科増設および教員増に伴う申請案件の多様化に伴い 審査システムを変更（1部/2部審査および迅速審査の整備）した。通常審査の中で審査区分を設定することで、申請書の参照すべき指針の対象範囲を明確に区分することができるよう審査システムの体制整備を行った。 ②委員会再編に伴う規程の整備（関連委員会との調整を含む）を行った。従来の規程に記載のあった実務内容については、大学情勢の変化に伴い、変則的な対応を求められることからガイドブック等を設けることで内規化を図った。
---------------	--

委員会・委員長名	不正防止委員会 委員長：保健医療学部臨床検査学科・教授・徳永 祐一
構 成 員 職位と氏名	教 授：小野 幸子・山崎 公美子・森口 眞衣・向井 康詞・矢口 智恵・ 及川 直樹・杉本 芳則・原田 邦明・品川 雅明・千原 伸也・ 笹岡 眞弓・伊藤 一・田中 英樹 准教授：忍 正人 講 師：澁谷 齊・佐藤 恵 助 教：高平 昂 事務局：青手木 良光・柳 亮輔・山崎 愛奈・横矢 絵理・加藤 雄大

運 営 計 画	具体的な実施内容等
1. 不正調査委員会から不正防止委員会への改組	「不正防止委員会規程」を制定し、従来の不正調査委員会を不正防止委員会に改組し、不正防止の体制を強化。不正調査については委員会の下に部会を設置する形とした。
2. 規程の改正・新設	関連規程として、「研究活動の不正行為に関する取扱規程」、「競争的研究費等の運営及び管理に関する取扱規程」を改正、「学内研究費の運営及び管理に関する取扱規程」、「研究費等に係る不正取引に対する処分方針」を新設し、文科省ガイドラインに沿う形とした。
3. 不正防止に関する基本方針等の改正・制定	「研究費等の不正防止に関する基本方針」、「研究費等の不正防止計画」を改正し、「研究費に関するコンプライアンス教育及び啓発活動実施計画」を制定し、これに基づく不正防止活動を展開した。
4. 不正防止研修の開催と研究不正防止ニュースレターの発行	8月31日に、FD・SD 合同研修として、学内独自の不正防止研修を開催（オンデマンド視聴も可能）。また、2023年6、10月、2024年2、3月に、アルファオフィスにて研究不正防止ニュースレターを配信し、不正防止の意識向上に努めた。
5. 規程に基づく相談案件の処理	「研究活動の不正行為に関する取扱規程」第4条第10項に基づく相談案件があり、対象者へのヒアリングを行った。当該案件は継続審議として、今年度の不正防止部会委員により引き続き審議を行う予定。

委員会・委員長名	研究費審査委員会 委員長：学長 太田 誠
構 成 員 職位と氏名	教 授：草薙 美穂・西山 修輔・竹内 文也・照井 レナ・鈴木 幸雄 講 師：合田 央志・岡田 一範 事務局：柳 亮輔・山崎 愛奈・横矢 絵理・加藤 雄大

運 営 計 画	具体的な実施内容等
1. 令和 5(2023)年度学術助成費、教育向上研究費の採択決定及び配当額の算定	令和 5（2023）年度学術助成費、教育向上研究費の採択決定及び配当額の算定 公募要領に従った計画調書により審査され交付額を決定
2. 令和 5（2023）年度研究費の公募・申請・執行	令和 5（2023）年度研究費申請状況 (1) 看護学科 学術助成費（3 件） 代表・共同研究者総数（6 名） (2) リハビリテーション学科 学術助成費（7 件）、教育向上研究費（3 件） 代表・共同研究者総数（22 名） (3) 診療放射線学科 学術助成費（4 件）、教育向上研究費（3 件） 代表・共同研究者総数（19 名） (4) 臨床検査学科 学術助成費（7 件）、教育向上研究費（4 件） 代表・共同研究者総数（25 名） (5) 臨床工学科 学術助成費（2 件）、教育向上研究費（2 件） 代表・共同研究者総数（8 名） (6) 介護福祉マネジメント学科 学術助成費（2 件）、教育向上研究費（5 件） 代表・共同研究者総数（13 名） (6) ソーシャルワーク学科 学術助成費（4 件）、教育向上研究費（4 件） 代表・共同研究者総数（13 名） (7) 留学生別科 学術助成費（1 件）、代表・共同研究者総数（1 名） 採択状況

	学術助成費：看護学科 1 件、リハビリテーション学科 3 件、臨床検査学科 2 件、臨床工学科 1 件、介護福祉マネジメント学科 1 件、ソーシャルワーク学科 3 件、留学生別科 1 件 計 12 件 教育向上研究費：診療放射線学科 1 件
3. 令和 6（2024）年度学術助成費、教育向上研究費の公募・申請	令和6（2024）年度の学術助成費、教育向上研究費の公募・申請の受付を行った。
4. 令和 5（2023）年度研究活動報告	今年度は予算決定と執行開始時期が遅れたため、研究報告会は 2024 年 8 月 28 日に開催予定である。

委員会・委員長名	人権擁護委員会 委員長：保健医療学部リハビリテーション学科 学科長 教授 向井 康詞
構 成 員	井上由紀子、杉本芳則、品川雅明、千原伸也、笹岡眞弓、伊藤一、田中英樹、及川直樹、森口眞衣、溝部佳代、村上正和、菊池実、中鉢雅大、齊藤高志、林美枝子、橋本達志、 青手木良光

令和5年度 運営計画	具体的な実施内容
関連規程の改定に関する話し合い	・委員会再編へむけて規定修正案の検討を行った。
人権侵害の申し立てが発生した場合の対応	・人権侵害は発生しなかったため、調査委員会の設置と調査の支援は行われていない。そのため、事実認定に関する調査報告を受けることも、解決策を審議し学長に提出することもなかった。
ハラスメントが発生し、ハラスメント防止委員会から学長に提出された解決案、およびその対応に関して、被申立人あるいは申立て人からの再調査の申し出があった場合の対応	・学内でハラスメントの申し立てがあり、その小委員会の調査全てに本委員会委員長が立ち会った。 ・他の事業所や他学の教職員や学生との間でハラスメントは発生せず、事実確認の場等への臨席を求められることもなかった。 ・ハラスメント案件では無かったが、不正防止委員会から聞き取り調査に立会いを求められ、委員長が対応した。
人権侵害に関する防止のための啓発事業の実施と情報提供	・特記することはなかった。

委員会・委員長 名	FD 委員会 委員長：診療放射線学科 教授 樋口 健太
構 成 員	副委員長：村上（正）講師 工藤准教授、合田（恵）講師、黒蕨講師、魚住講師、越石講師、神部 講師、高橋助教 事務局（青手木事務局長（学務グループ長兼務）・本間課長・中塚係・ 小野寺係）

2023（令和5）年度 運営計画	具体的な実施内容等
教育効果の評価計画について ＊授業評価アンケートの実施	・前期と後期に授業評価アンケートを実施した。回収率を上げるために、教員に対し複数回のアナウンスし、また、最終講義の講義内に回答時間を設けて、学生への趣旨説明・実施するよう依頼を行った。 ・新設の通信教育部について、アンケート項目を作成し、アンケートを実施した。 ・回答率向上のために実習科目のアンケート回答期間の調整を行った。
教育効果の評価計画について ＊フィードバックの実施	・アンケート実施スケジュールを複数回アナウンスすることで、回答結果の確認漏れがないよう周知徹底し、各教員にフィードバックを活用するよう促した。 ・回答結果を集計し、学長および総長、各学科長に共有した。
教育力向上についての計画 ＊教員研修会の実施	・計2回のFDセミナーを開催し、全教員がいずれかのセミナーに参加し、教育力の向上を図った。 (1)第1回学内FDセミナー（2023.08.31） 『不正防止に関する研修会』 参加状況：教員 85名 ※不正防止委員会共催 (2)第2回学内FDセミナー（2023.08.31） 『大学教育の講義法～講義法による授業設計を中心に～』 参加状況：教員 88名 ※カリキュラム委員会共催 ・繰り返し活用できる教材として、オンデマンドコンテンツの作成、配信を行った。 (1)『研究力向上セミナー』

	(2)『障害者差別解消法改正法について』
教育力向上についての計画 ＊授業方法の開発	2023（令和5）年9月1日（金）に開催された「北海道FD・SDフォーラム2023」に参加した。
その他	・北海道FD・SD協議会から情報提供される外部のFDに関するセミナーについて、アルファオフィスで本学教員に周知し情報提供を行った。 ・委員会の規程の見直しを行った。

委員会・委員長名	教員選考委員会 委員長：学長 太田 誠
構 成 員 職位と氏名	教授：小野保健医療学部長、山崎学科長、向井学科長、杉本学科長、品川学科長、 千原学科長 審査委員（※都度指定） 事務局：青手木事務局長（学務グループ長兼務）、中塚係、横矢係

運 営 計 画	具体的な実施内容等
1. 本学専任教員の採用又は昇任について、候補者の審査を行う。 審査は、日本医療大学教員選考委員会規程に定められている資料の収集と調査によって総合的に行う。	（１）委員会の開催について 計６回の委員会を開催し、持ち回り審議（新規公募案について）１件を実施した。 （２）採用について 計１４件の公募を行い、１８名の候補者について審査を行っ た（１１名採用）。 （３）昇任について 計６名の候補者について審査を行った（６名昇任）。

委員会・委員長 名	ハラスメント防止委員会 委員長 向井 康詞
構成員	山崎看護学科長、杉本診療放射学科長、品川臨床検査学科長、千原臨床工学科長、伊藤介護福祉マネジメント学科長、笹岡ソーシャルワーク学科長、及川学生委員長、石黒学生委員長、青手木事務局長、松平管理 G 長、中川参与、櫻井事務員、小川事務員

令和 5 年度 運営計画	具体的な実施内容
1 ハラスメントの排除及び防止に係る指導及び改善に関すること	1-1 委員会組織改編にむけて、日本医療大学ハラスメントの防止等に関する規程の見直しを行った。
2 ハラスメントの排除及び防止のための啓発活動及び研修に関すること	2-1 ハラスメント相談員を招集しての業務の確認は行えなかった。 2-2 教職員を対象とするハラスメント関連の研修を行うことが出来なかった。ハラスメント案件も多いことから次年度以降検討が必要である。 2-3 ハラスメント委員専用のファイルを作成し、関係規程等をファイリングしいつでも確認できる状態にした。 2-4 他の委員会と連携するような案件はなかった。 2-5 ハラスメントの申立てが多く、相談員との相談だけで完了している案件はなかった。 2-6 ハラスメントの研修会に参加はしていない。次年度以降の課題としたい。
3 苦情の申立てに関する事実関係の調査、審議等に関すること	3-1 苦情申立てに対しては、すみやかに受理の可否を審議することになっていたが、令和 5 年度は 5 件の苦情申立てがあった。(2 件は次年度へ引継ぎ) 3-2 上記 5 件のうち 3 件については調査小委員会が設置され、調査後に審議を行い、結果を学長に報告した。2 件については 2 月中旬以降の申立てであり、次年度へと引き継いだ。 3-3 賞罰委員会案件となった件については当委員会での調査記録を提出し、詳細の説明を行った。 3-4 セカンドハラスメントへの対応は出来ていたと

	考える。
4 総括と報告	4-1 今年度のハラスメント発生は苦情申し立ての受理5件となっている。 4-2 年度末に報告書を IR 室に提出する。

委員会・委員長名	保健管理委員会 委員長：保健医療学部看護学科 教授 松本真由美
構 成 員 職位と氏名	教授：松本真由美 梅森祥央 林美枝子 准教授：泉水朝貴 菊地実 松浦智和 講師：小宅千恵子 助教：高平昂 保健室：本間美恵 事務局：中野渉

運 営 計 画	具体的な実施内容等
保健管理委員会は学生たちの大学生活への適応や心身の健康・修学を支援することに関わる事項を審議し、保健室・カウンセリングルーム・障害学生支援部署を中心に保健管理を統括する活動を実施している。	
1. 健康診断の実施と結果返却	2023（令和5）年度は、健康診断を委託した外部機関と事務方が全学科全学年のスケジュールリングを行い、3月末の所定の期日に滞りなく実施した。最終的には98.49%の受健率、未受診者は26名であった。健診結果の返却は主に必修授業の終了後に行い、欠席者以外すみやかに手渡すことができ、その後の追跡も綿密に行ったことで、最終的な返却率は99.63%、未返却者は6名であった。
2. 感染症ワクチン接種指導	医療・福祉系の学生の場合、実習時に小児ワクチン4種、B型肝炎、その他学科によって求められる感染症があり、各々の抗体価が基準値を上回る必要がある。 ワクチン接種の必要性については、入学前から文書で指導し、罹患歴や母子手帳に記載されているワクチン接種歴の複写の提出を必須としている。 今年度は、初の試みとして、罹患歴およびワクチン接種歴を電子データで提出する方法を用いた。学科ごと6～7月に電子データの入力方法の説明会を実施し、大学入学後に接種したワクチン接種歴を入力するよう学生たちに指導した。入力数が芳しくない学科については、9月に再度説明会を追加した。12月末を最終期限としたが、未入力が多く、保健管理委員、学担の協力のもと、さらに入力を促し続け、最終的には昨年度より罹患歴・ワクチン接種歴の提出（データ入力）数が向上した。 電子化した結果、順に入力することで、ワクチンを何回接種する必要があるかについての学生の理解が進み、過去よりはワクチ

	ン接種の自己管理が進展したと思われる。昨年度のようにワクチン接種管理表の書き方を理解できない学生が保健室に殺到する事態は回避できた。 また、全学科の2年生以上については事務方が手入力で一覧表を作成したことで、実習に備えることができた。
3. B型肝炎ワクチン・インフルエンザワクチン集団接種指導	昨年度は、全学科の1・2年生を対象に、B型肝炎ワクチン集団接種実施に向け日医大病院と時間調整を行い、実施したが、今年度は対象学年が全学科の1年生のみであり、昨年同様、日医大病院と打ち合わせ、スケジュールリングし、全1年生564名中、331名(58.69%)が3回の集団接種を終了した。その他の学生は個別に接種し、接種結果は電子入力されている。未入力者の追跡については次年度に持ち越された。 インフルエンザワクチン集団接種については例年通り希望者を対象に実施した。
4. 保健室での学生の傷病、相談指導	保健室利用者の推移をみると、2022(令和4)年度の総数3097名(学生3031名、職員66名)と比較し、今年度の総数は1224名(学生1053名、職員143名)であり、半数以下に減少した。理由としては、昨年度の保健室利用者のうち、ワクチン指導関連が2,697件であったが、今年度は762件と大幅に減少し、電子化に移行した影響が大きい。 ワクチン指導以外の保健室利用の主な理由は以下の通りである。 ①学内での保健室救急搬送(寝台車)は9件あり、前年と比較し3件増加した。迷走神経反射による失神や、試験前・試験中の睡眠不足による体調不良、その他不整脈による。いずれも安静または、医療機関の受診にて回復した。 ②今年度もコロナ、インフルエンザが流行し学内で発症した学生に関しては、発熱外来や他の医療機関の受診につなげた。 ③今年度はコロナ、インフルエンザ以外の感冒症状で発熱する学生も多く、4, 6, 7, 10, 11月は二桁の人数がみられた。国の方針でマスクをしない学生が増えたことで感染が拡大したことが要因と考えられる。 ④自転車事故と転倒については、通学途中の自転車同士の事故や単独事故があり、顔面打撲や裂傷などの場合、医療機関受診につなげた。 ⑤学内から救急車で病院搬送者はいなかった。

	⑥保健室での相談対応は増加傾向にある。生理不順によるうつ傾向、友人関係、発達障害、適応障害、職場環境不適応、自傷行為、睡眠障害、学業不振等の相談対応を行った。面談後は必要に応じ医療機関の受診を促し、教員を通し家族と連携し、対応した。 その他、今年度から全国大学保健管理協会に加入し、8月25日開催の北海道大会と、10月4-5日開催の全国大学保健管理協会全国研究集会に参加し、他大学の取り組みや組織的対応等について学ぶ機会や、他大学との情報交換を行うことができた。 なお、今年度からは健診後のDランク判定学生の指導は外部機関が実施している。
5. 障害学生支援	障害者差別解消法にもとづき2024（令和6）年4月から私立大学においても障害のある学生に対し合理的配慮を行うことが義務となる。本学は2021（令和3）年度に学生相談センターを設置した時から障害学生支援を実施し、2022（令和4）年度からは保健管理委員会が管轄し、支援を行っている。 本学の2学部7学科のうち、4学科で14名の支援対象者が在席する。昨年度からの継続者が4名、今年度からの新規対象者が10名である。支援対象は本人からの支援申請書の提出があった場合であり、本学における障害のある学生数を示すものではない。内訳は精神・発達障害が6名、その他（難病等を含む）が8名である。 支援を希望する学生とは面談し、合理的配慮内容の確認を行った。支援内容で最も多いのは講義時や定期試験時の座席の配慮である。本人の同意を得て科目担当者、学担らと情報共有の上、必要な配慮を実施した。 対象学生は学担等から促され支援につながった学生が多く、自発的に訪れる学生は少ない。障害等がある学生の中には支援部署を認識していないために、支援につながらないことが推測できる。今後も、折に触れ、学内に障害担当部署があることを学生たちに周知することが必要と思われる。一方で、支援の範疇に入らないと思われる学生が配慮を希望する場合があり、障害学生支援部署の対象は障害や疾病等を理由に何らかの合理的配慮を要する場合であることへの理解が求められる。

6. カウンセリングルームの利用	カウンセリングルームは学生数の増加に見合った利用者数増につながらず、また、守秘義務はあるとしても、学生の了解のもとに関係部署と連携を行うはずが、進まないことが数年間継続され、課題となっていた。 次年度から担当者が交代することで刷新が期待される。
7. 真栄キャンパス保健室・カウンセリングルーム設置状況	真栄の保健室・カウンセリングルームについては、2023（令和5）年度も開設に至らなかった。今後の検討事項である。

委員会・委員長名	国際交流委員会 委員長：保健医療学部 学部長 小野 幸子
構 成 員 職位と氏名	教 授：山崎公美子、向井康詞、杉本芳則、樋口健太、品川雅明、浅沼広子、 千原伸也、伊藤一、加藤敏文、笹岡真弓、田中英樹 准教授：工藤悦子、松崎由里子、 講 師：斎藤高志、銭本隆行、神部雅子 助 教：該当なし 事務局：中川勝義、清水響太

運 営 計 画	具体的な実施内容等
1. 国際交流対象大学の模索	・ 大学に改組して 10 周年目を迎える令和 6（2024）年度の記念行事の一つとして、アジア圏域の大学との締結の理事長の方針に基づいて検討 1. 締結の申し込みのあった美和大学（台湾）について、情報収集し、締結の可能性を検討した（会議 2 回）。 ⇒美和大学が構成する学部・学科の中で本学と交流可能な学科は看護学科のみであり、委員会としては本学保健医療学が構成する 7 学科のうち少なくとも複数学科と交流可能な大学を見出した方がよいと意見で保留とした。 ⇒事務局長の助言で美和大工の申し込みに応じる形で一応締結する。但し、締結内容は本学の現状に合わせる事になった。 2. 対島副理事長より韓国で交流が可能な大学の紹介を受ける予定。紹介があった時点で、締結の有無・内容および交流予定時期などを検討予定である。

1 1. 教員の自己点検・評価

1 1-1 教員の教育・研究・社会活動

1 1-1-① 総長、学長

氏名 島本 和明 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 総長・教授

専門分野：生活習慣病、メタボリックシンドローム

教育活動：

責任科目：形態機能学Ⅱ（看護学科1年次、1単位、30時間）、形態機能学Ⅳ（看護学科1年次、1単位、30時間）、疾病論Ⅰ（看護学科2年次、1単位、30時間）、内科学（リハビリテーション学科2年次、1単位、30時間）、臨床検査医学総論Ⅰ（臨床検査学科1年次、1単位、15時間）、臨床検査医学総論Ⅱ（臨床検査学科2年次、1単位、15時間）、医療総論（臨床工学科1年次、1単位、15時間）、臨床医学概論（診療放射線学科2年次、1単位、15時間）、病態生理学（診療放射線学科2年次、1単位、15時間）、医学概論（総合福祉学部1年生、2単位、30時間）

担当科目：形態機能学Ⅱ（看護学科1年次、1単位、30時間）、形態機能学Ⅳ（看護学科1年次、1単位、30時間）、疾病論Ⅰ（看護学科2年次、1単位、30時間）、看護ゼミナールⅡ（看護学科4年次、1単位、30時間）、内科学（リハビリテーション学科2年次、1単位、30時間）、臨床検査医学総論Ⅰ（臨床検査学科1年次、1単位、15時間）、臨床検査医学総論Ⅱ（臨床検査学科2年次、1単位、15時間）、医療総論（臨床工学科1年次、1単位、15時間）、臨床医学概論（診療放射線学科2年次、1単位、15時間）、病態生理学（診療放射線学科2年次、1単位、15時間）、医学概論（総合福祉学部1年生、2単位、30時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

入試委員会、国試対策委員会（委員長）、大学院設置準備委員会（委員長）

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本高血圧学会、日本動脈硬化学会、国際高血圧学会、日本循環器学会、日本老年医学会、日本循環器病予防学会、日本心臓病学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：札幌産学官医療連携協議会（座長）、北海道心臓協会（副理事長）、公益財団法人伊藤医薬学術交流財団（副理事長）、日本臨床研究フォーラム J-ARF（副理事長）、公益財産法人先進医薬研究振興財団（理事）、一般財団法人つしま医療福祉研究財団（理事）、一般財団法人 つくし奨学・研究基金（評議員）、一般財団法人禎

心会記念財団（評議員）、一般財団法人代謝異常治療研究基金（評議員）、国土交通省 社会資本整備審議会（専門委員）

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：なし

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：なし

示説：なし

その他：なし

氏名 太田 誠 学部 保健医療学部 学科 リハビリテーション学科 職階 学長・教授

専門分野：理学療法概論・原論、健康政策、神経筋促通治療学

教育活動：

責任科目：理学療法概論（理学療法学専攻1年次、1単位、30時間）、理学療法概論演習（理学療法学専攻1年次、1単位、30時間）、健康政策論（リハビリテーション学科4年次、1単位、15時間）、リハビリテーション概論（看護学科3年次、1単位、15時間）、リハビリテーション論（総合福祉学部ソーシャルワーク学科2年次・介護福祉マネジメント学科2年次、2単位、30時間／3コマ分）

担当科目：理学療法概論（30時間）、理学療法概論演習（30時間）、健康政策論（15時間）、リハビリテーション概論（15時間）、リハビリテーション論（6時間）

非常勤講師：北海道医療大学（修士課程「リハビリテーション管理学特論」4時間）、
学内委員会・学科内業務等：

運営会議、教授会、入学試験委員会（委員長）、研究費審査委員会（委員長）、教員選考委員会（委員長）

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本予防理学療法学会、北海道リハビリテーション学会（理事・学術委員）

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：一般社団法人北海道リハビリテーション専門職協会（会長）、公益社団法人日本理学療法士協会（監事）、公益社団法人北海道理学療法士会（政策提言委員会委員長）、特定非営利活動法人HPT（監事）、札幌市理学療法赤十字奉仕団（委員長）、一般社団法人リハビリテーション教育評価機構（評価員）、一般社団法人北海道ヘルスケア・ロボット協会（理事）、北海道マラソン（大会役員）、札幌国際スキーマラソン（実行委員会役員）、北海道地域医療介護総合確保基金（介護分）検討協議会及び北海道高齢者保健福祉計画・介護保険事業支援計画検討協議会（委員）

顕彰：公益社団法人北海道理学療法士会歴代会長感謝状

論文（著書，総説，原著，その他）：なし

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：なし

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

2月28日／地域リハビリテーション連携強化研修 web（胆振振興局西部リハビリテーション専門職）講師、3月5日／地域リハビリテーション連携強化研修 web（石狩振興局リハビリテーション専門職）講師、3月8日／地域リハビリテーション連携強化研修 web（胆振・日高東部リハビリテーション専門職）講師

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：なし

示説：なし

その他：なし

11-1-② 保健医療学部 看護学科教員

氏名 小野 幸子 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 教授・学部長

専門分野： 老年看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：老年看護学概論（3時間）、老年看護援助論Ⅰ（1.5時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

＜学内委員会＞学校連絡会委員、運営委員会委員、IR運営会議委員、学部教授会、国際交流委員会委員長、入学試験員会委員、入試選抜委員会委員、教員

選考委員会委員、研究推進委員会委員、賞罰委員会主宰、学生募集対策委員会委員、大学院設置準備委員会委員

＜学内業務＞令和 5 年度の保健医療学部の方針の明示、委員会組織の再編成と規程の見直しの推進、リメディアル教育専門委員会、ICT 教育専門員会の立ち上げ、令和 7（2025）年度のカリキュラム改正（令和 6 年申請）に向けての推進、看護学科・リハビリテーション学科・診療放射線学科・臨床工学科の学科会議におけるオブザーバーとして参加（各学科の活動状況の把握）、令和 5 年度看護学科入学生対象の初年次教育（業者導入）の調整・実施、科研助成金を活用した本学学生対象の「多職種連携教育（土・日曜日の 2 日間）」を実施、看護学科教員の適正配置の推進、令和 6 年度の各委員会の委員長の推薦、令和 5（2023）年度日医医大フェスの開催に向けて、学生の主体的・自主的取り組みの推進

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本老年看護学会（査読委員）、日本看護科学学会、日本認知症ケア学会、日本看護学教育学会（査読委員）、日本看護学会、北日本看護学会（査読委員）、日本看護管理学会（査読委員）、日本公衆衛生看護学会、日本死の臨床研究会、千葉看護学会（査読委員）、日本保健医療福祉専門職連携教育学会

科学研究費（研究資金）の取得：

科学研究費(基盤研究 C)「看護基礎教育課程における高齢者支援のための 多職種連

携教育の構築（研究代表者）：最終年度

科学研究費（基盤研究 C）「看護基礎教育における高齢者のケア倫理教育プログラムの開発」（研究分担者）

科学研究費（基盤研究 C）「高齢者ケア施設の看護職に向けた新任期看護師の教育支援ガイド作成の支援モデルの構築」（研究分担者）最終年度

科学研究費（基盤研究 C）「特別養護老人ホームにおける WBT 併用ケア管理教育プログラムの開発」（研究分担者）：最終年度

科学研究費（基盤研究 C）「特別養護老人ホームにおける看護師のための実効的な薬剤・服薬管理方法の開発」（研究分担者）

社会活動：日本看護系大学協議会会員（本学代表）として、総会参加、日本私立大学看護系大学協会会員（本学代表）として、総会参加、北海道看護教育施設協議会 札幌地区の会員（本学代表）として定例会に参加、令和 5（2023）4 月～令和 6 年 3 月：日本老年看護学会・千葉看護学会の学術誌投稿申請者の査読（各 1 件）、令和 5（2023）年 9 月と令和 6（2024）年 2 月：日本ユニットケア推進研究・研

修センター主催の「特別養護老人ホームに働く看護職対象の研修会」講師（2回で全国の特養看護職 500 名強対象）、令和 5（2023）年 4 月～令和 5 年 3 月：ノテ福祉会日本医療大学病院および高齢者ケア施設・事業所の看護職・介護職対象の研修会講師、4 回①4 月 28 日：地域包括ケア病院の理解、②10 月 13 日：看護倫理③11 月 24 日：逝去時の看護、④1 月 12 日：ACP、令和 5（2023）年 4 月～12 月：他大学大学院進学中の本学助教の博士副論文指導、令和 5（2023）年 4 月～令和 6 年：科学研究費（基盤研究 C）沢田敦子研究代表の高齢者ケア施設の看護職に向けた新任期看護師の教育支援ガイド作成の支援モデルの構築」の研究分担者として、フォローアップ研修として、特別養護老人ホームに勤務する看護師 14 名を対象にした研修会と k 講師、令和 5（2023）年 9 月：日本医療大学生涯学習講座「私らしい人生の終い方」の講師、令和 5（2023）年 12 月：特別養護老人ホーム「新さっぽろの里」において、『特別養護老人ホームにおける最期の看取り』の研修会講師

顕彰：なし

論文（著書、総説、原著、その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：なし

講演（特別講演、シンポジウム、一般講演、示説、その他）：

特別講演：令和 5（2023）年 8 月：日本看護研究学会 北海道地方会における教育講演「超高齢・多死時代における老年看護学教育と看護実践現場の現状と課題～老年看護(学)の立場から～」の実施

シンポジウム：なし

一般講演：渡邊美樹、佐藤 恵、河原畑尚美、小野幸子：高齢者福祉施設における多職種連携・協働上の困難とその要因・取り組みの検討－A 法人の現状調査から－日本老年看護学会第 28 回学術集会、2003 年 6 月、佐藤予右子、河原畑尚美、小野幸子：高齢患者の終末期における治療と人工栄養に関する意思決定支援の現状と課題～地域包括ケア病棟に勤務する看護師に焦点を当てて～、一般社団法人 日本看護研究学会、第 31 回 北海道地方会学術集会、2023,8.

示説：なし

その他：

氏名 山崎 公美子 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階：教授・学科長

専門分野：基礎看護学、看護教育学、看護歴史・占領史

教育活動：

責任科目：看護学概論（1 年次、2 単位、30 時間）、看護教育（4 年次、1 単位、15 時間）、医療情報（4 年次、1 単位、15 時間）

診療放射線学科・基礎看護学（2 年次、1 単位、15 時間）

担当科目：看護学概論（30 時間）、看護過程論（14 時間）、チーム医療論（4 時間）、看護教育（15 時間）、医療情報（15 時間）、臨床看護技術演習（30 時間）、看護研究演習Ⅰ（24 時間）、看護研究演習Ⅱ（30 時間）、基礎看護学実習Ⅰ（45 時間）、基礎看護学実習Ⅱ（90 時間）

診療放射線学科・基礎看護学（6 時間）、リハビリテーション学科・チーム医療論（2 時間）

非常勤講師：札幌医科大学（看護教育論Ⅰ）

学内委員会・学科内業務等：

看護学科長、教務委員会委員、自己点検・評価委員会委員、入学試験委員会委員、入学者選抜委員会委員、不正調査委員会委員、人権擁護委員会委員、教員選考委員会委員、国際交流委員会委員、学生懲戒委員会委員、学生募集対策委員会委員

学術活動：

所属学会・研究会等：

American Association for the History of Nursing、日本看護歴史学会、日本看護科学学会、日本看護教育学学会、日本看護研究学会、日本看護技術学会

科学研究費（研究資金）の取得：

基盤研究（C）2021~2023「視線分析を活用した看護教員の臨床推論を可視化する教育メソッド開発」 研究代表者

社会活動：日本看護研究学会 北海道地方会 第 31 回学術集会 学術集会長

日本看護研究学会 北海道地方会役員

北海道看護協会 令和 5 年度北海道専任教員養成講習会；「看護教育方法論Ⅱ」講師

日本看護研究学会北海道地方会主催 特別講演会；「はじめてのスコーピングレビュー」 座長

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：なし

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：工藤悦子、和田ゆい、難波亨、山崎公美子、斎藤道子、進藤ゆかり、
視線分析を活用した看護教員の臨床推論を可視化する教育メソッド開発、
日本看護技術学会第 21 回学術集会（熊本），2023.10.14-15

示説：なし

その他：なし

氏名 井上 由紀子 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 教授・副学科長

専門分野：小児看護学

教育活動：

責任科目：疾病論Ⅵ（女性と小児）3 年次前期、1 単位、30 時間

担当科目：小児看護学概論（3 年次前期、2 単位、30 時間）小児看護援助論Ⅰ（3 年次後期、1 単位、15 時間）小児看護援助論Ⅱ（3 年次後期、1 単位、30 時間）小児看護学実習（4 年次前期、2 単位、90 時間）看護研究演習Ⅱ（4 年次、1 単位、30 時間）看護ゼミナールⅠ（2 年次通年、1 単位、30 時間）臨床看護技術演習（4 年次後期、1 単位、30 時間）

非常勤講師：

学内委員会・学科内業務等：

学内委員会（教務委員会、リメディアル教育専門委員会）、学科内業務等（副学科長、実習検討委員会長、実習室 WG）

学術活動：

所属学会・研究会等：なし

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：旭川明成高等学校出張講義、日本医療大学病院臨地実習指導者研修講師

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：小児看護学Ⅰ子どもの健康と成長・発達、第 4 章子どもの成長・発達、
p 87 - 155、医歯薬出版株式会社、2023 年

総説：なし

原著：なし

その他：なし

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：なし

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：なし

示説：なし

その他：なし

氏名 河原畑 尚美 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 教授

専門分野： 老年看護学

教育活動：

責任科目：老年看護援助論Ⅰ（2年次、2単位、10時間）、老年看護援助論Ⅱ（3年次、1単位、30時間）、老年看護学実習Ⅰ（3年次、2単位、90時間）、老年看護学実習Ⅱ（4年次、2単位、90時間）、災害看護（4年次、1単位、15時間）、看護ゼミナールⅡ（4年次、1単位、10時間）

担当科目：老年看護概論（15時間）、老年看護援助論Ⅰ（10時間）、老年看護援助論Ⅱ（30時間）、老年看護学実習Ⅰ（90時間）、老年看護学実習Ⅱ（90時間）、災害看護（15時間）、初期実習（15時間）、看護研究演習Ⅰ（20時間）、看護研究演習Ⅱ（30時間）、臨床看護技術演習（8時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

教務委員会（副委員長）、国家試験対策小委員会、4年生学生主担任

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本老年看護学会、日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護管理学会、日本感染看護学会、日本死の臨床研究会、日本災害看護学会、日本循環器看護学会、北日本看護学会、日本認知症ケア学会、大学病院の緩和ケアを考える会、日本看護研究学会（日本看護研究学会北海道地方会・第31回学術集会実行委員）

科学研究費（研究資金）の取得：

基盤研究（C）「高齢者ケアにおけるハラスメント防止能力育成に向けたケア倫理教育プログラムの検証」代表者

基盤研究（C）「看護基礎教育における高齢者のケア倫理教育プログラムの開発」代表者

基盤研究（C）「看護基礎教育課程における高齢者支援のための多職種連携教育の構築」分担者

基盤研究（C）「特別養護老人ホームにおける看護師のための実効的な薬剤・服薬管理方法の開発」分担者

社会活動：日本看護系大学協議会災害連携教員、日本医療大学病院 院内研修講師「看護過程の展開1・2」「臨床推論トレーニング1（肺炎・心不全）」「臨床詩論トレーニング4（まとめ）」「リフレクション研修」

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：なし

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：なし

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：「高齢患者の終末期における治療と人工栄養に関する意思決定支援の現状と課題—地域包括ケア病棟に勤務する看護師に焦点を当てて—」日本看護研究学会北海道地方会・第31回学術集会、○佐藤予右子，河原畑尚美，小野幸子

示説：「高齢者福祉施設における多職種連携・協働上の困難とその要因—A法人の現状調査から—」日本保健医療連携教育学会第16回学術集会、○渡邊美樹、佐藤恵、小野幸子、河原畑尚美

「A法人高齢者施設・事業における有機的な専門職連携・協働を可能にする取組み」日本老年看護学会第28回学術集会、○渡邊美樹、佐藤恵、小野幸子、河原畑尚美

その他：

氏名 草薙 美穂 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 教授・図書館長

専門分野：小児看護学

教育活動：

責任科目：小児看護学概論（3年前期、2単位、30時間）、小児看護援助論Ⅰ（3年後期、1単位、15時間）、母性・小児看護学実習（4年前期、2単位、90時間）

担当科目：初期実習（1年前期、1単位、45時間）、小児看護援助論Ⅱ（3年後期、1単位、30時間）、疾病論Ⅵ（女性と小児）（3年前期、1単位、30時間）、看護研究演習Ⅱ（4年前期、1単位、30時間）、臨床看護技術演習（4年後期、1単位、30時間）

非常勤講師：北海道保育協議会 令和5年保育士等スキルアップ研修 ①乳児保育 講師
学内委員会・学科内業務等：

図書・学術振興委員会（委員長）、キャリアセンター運営委員会、研究費審査委員会・1年生学担（学年主担任）、実習責任者委員会、看護技術・卒業到達レベルワーキンググループ

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本小児看護学会、日本小児保健協会、日本乳幼児医学・心理学会、北海道母性衛生学会、北海道生育看護研究会

科学研究費（研究資金）の取得：

科研費（基盤研究 C）ファミリーパートナーシップに基づく育児支援—支援者の人材育成への方略—：代表者、科研費（基盤研究 C）親により乳幼児への体罰を防ぐための支援ガイドラインの開発：分担者、科研費（基盤研究 C）早産・低出生体重児とその親へのピア主導による子育て支援モデル構築と効果検証：分担者、科研費（基盤研究 B）親子の相互作用を重視した観察法に基づく虐待予防・育児支援システムの開発研究：分担者、科研費（基盤研究 B）子育て世代包括支援における親子の関係性支援へのニーズに対応したスキルアップ研修プログラムの開発：分担者

社会活動：北海道小児電話相談事業（＃8000）相談員

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：なし

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：なし

示説：なし

その他：なし

氏名 小山 満子 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 教授

専門分野：母性看護学、助産学、看護教育学

教育活動：

責任科目：母性看護学概論（2年次後期、2単位、30時間 担当 30時間）、母性看護援助論Ⅰ（3年次前期、1単位、15時間 担当 15時間）、母性看護援助論Ⅱ（3年次後期、1単位、30時間 担当 30時間）

担当科目：母性看護学概論（2年次後期、2単位、30時間 担当 30時間）、母性看護援助論Ⅰ（3年次前期、1単位、15時間 担当 15時間）、母性看護援助論Ⅱ（3年次前期、1単位、30時間 担当 52時間）、看護研究演習Ⅰ（3年次通年、1単位、30時間 担当 3時間）、看護研究演習Ⅱ（4年次通年、2単位、30時間 担当 60時間）、臨床看護技術演習（4年次通年、2単位、30時間 担当 7時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

教授会＊母性看護学の教育担保(2 名中 1 名病欠)のために委員会を免除された

学術活動：

社会活動：助産師教育協議会

所属学会・研究会等：

母性衛生学会学術集会、日本看護学科学学会学術集会、日本思春期学会、日本看護教育学学会、日本助産師学会他

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：助産師教育協議会

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：なし

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：なし

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：なし

示説：なし

その他：なし

氏名 滋野 和恵 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 教授

専門分野：精神看護学

教育活動：

責任科目：精神看護援助論Ⅰ（3 年次前期、1 単位 15 時間）、精神看護援助論Ⅱ（3 年次前期、1 単位 30 時間）精神看護学実習（3 年次後期、2 単位 90 時間）、看護研究（3 年次前期、1 単位 30 時間）、看護研究演習Ⅱ（4 年次通年、1 単位 30 時間）、初期実習（1 年次前期 45 時間）

担当科目：精神看護援助論Ⅰ（15 時間）、精神看護援助論Ⅱ（30 時間）、精神看護学実習（90 時間×5 クール）、看護研究（30 時間）、看護研究演習Ⅱ（30 時間）、初期実習（45 時間）、看護研究演習Ⅰ（6 時間）、臨床看護技術演習（6 時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

教務委員会、2 学年主担任、看護学科実習責任者委員会、看護学科 FD 企画、

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本看護研究学会、日本精神保健看護学会、日本応用心理学会、SST 普及協会、日本精神科看護技術協会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：保健師助産師看護師実習指導者講習会演習助言者、日本看護研究学会第 31 回北海道地方会学術集会実行委員（事務局長）

顕彰：なし

論文（著書、総説、原著、その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：看護系大学の 1 年次学生の社会的スキルと職業アイデンティティからの分析、松村寛子、柏民圭太、大久保未央、難波亨、滋野和恵、山崎公美子、2023 年度日本医療大学紀要、精神看護学実習における同時双方型オンライン実習で地域生活をする精神障がい者と交流した学生の体験、服部かおる、滋野和恵、難波亨、吉野淳一

講演（特別講演、シンポジウム、一般講演、示説、その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：看護系大学の 1 年次学生の社会的スキルと職業アイデンティティからの分析、松村寛子、柏民圭太、大久保未央、難波亨、滋野和恵、山崎公美子、一般社団法人日本看護研究学会 第 31 回北海道地方会学術集会

示説：なし

その他：なし

氏名 進藤 ゆかり 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 教授

専門分野：地域・在宅看護学、老年看護学、家族看護学、慢性看護学

教育活動：

責任科目：地域・在宅看護学概論（2 年次、2 単位、30 時間）、在宅看護援助論 I（3 年次、1 単位、30 時間）、在宅看護援助論 II（3 年次、1 単位、30 時間）、在宅看護学実習（4 年次、2 単位、90 時間）

担当科目：地域・在宅看護学概論（30 時間）、在宅看護援助論 I（30 時間）、在宅看護援助論 II（26 時間）、在宅看護学実習（90 時間）、看護研究演習 I（8 時間）、看護研究演習 II（60 時間）、臨床看護技術演習（4 時間）、初期実習（45 時間）

非常勤講師：恵庭市長寿大学 講師

学内委員会・学科内業務等：

教授会、倫理委員会委員、カリキュラム委員会委員、3年次主担任

学術活動：

所属学会・研究会等：

ホスピスケア研究会、看護総合科学研究会（評議員、理事、会計）、日本家族看護学会、日本精神保健看護学会、日本老年看護学会、日本公衆衛生学会、日本看護科学学会、日本看護学教育学会、北海道ペインクリニック学会、北海道公衆衛生学会（評議員）、日本公衆衛生看護学会、日本地域看護学会、日本在宅看護学会、日本看護研究学会、Public Health Nursing（査読委員）、看護科学研究(査読委員)、 International Journal of Childbirth (査読委員)

科学研究費（研究資金）の取得：

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)「非がん性慢性痛を抱えたがん患者に対するオピオイド鎮痛薬治療の現状と課題」代表

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)「終末期がん患者の望む生き方を支える看護師の対話力獲得モデルと尺度の開発」分担

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)「視線分析を活用した看護教員の臨床推論を可視化する教育メソッド開発」分担

日本学術振興会 科学研究助成事業 基盤研究（C）「在宅・訪問看護における精神看護ケアの多職種協同システムの提案」分担

社会活動：科研製薬株式会社 社外プロトコール等アドバイザー、札幌市立大学茶部サークルボランティア講師、北海道大学病院 看護師による特定行為に関する委員会委員

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：なし

総説：認知症の人を含む地域在住高齢者の生きがい研究，吉村舞，進藤ゆかり，大村拓己，三田来人，湯沢修斗，佐藤みゆき 北海道公衆衛生学雑誌 37：17-26、2023

原著：なし

その他：なし

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：なし

示説：視線分析を活用した看護教員の臨床推論を可視化する教育メソッド開発
工藤 悦子，和田 ゆい，難波 亨，山崎 公美子，齋藤 道子，進藤 ゆかり

日本看護技術学会学術集会講演抄録集 21 回 88-88 2023 年 9 月
その他：看護科学研究雑誌 査読 1 件、日本医療大学紀要 査読 1 件、International Journal
of Childbirth 査読 1 件、Public Health Nursing 査読 2 件

氏名 高橋 美和 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 教授

専門分野：看護管理学、看護教育学、基礎看護学

教育活動：

責任科目：

担当科目：看護倫理（16 時間）、看護過程論（18 時間）、生活援助技術Ⅱ（24 時間）、生
活援助技術Ⅲ（22 時間）、診療過程の援助技術（12 時間）、看護研究演習Ⅰ（6
時間）、看護研究演習Ⅱ（30 時間）、臨床看護技術演習（8 時間）、初期実習（45
時間）、統合実習（90 時間）、基礎看護学実習Ⅱ（90 時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

教授会、3 年生学年担当

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本看護管理学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会、日本看護科学学
会

科学研究費（研究資金）の取得：

社会活動：東北大学看護管理学研究会運営委員

顕彰：

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：

総説：

原著：

その他：

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：

シンポジウム：

一般講演：

示説：

その他：

氏名 松本 真由美 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 教授

専門分野：精神保健学 社会福祉学 発達心理学

教育活動：

責任科目：社会福祉学（1年次、1単位、15時間）、心理学（1年次、1単位、15時間）、人間関係の科学（1年次、1単位、15時間）、発達心理学（1年次、1単位、15時間）、ボランティア活動（2年次、1単位、30時間）、心の健康科学Ⅰ（2年次、1単位、2時間）、心の健康科学Ⅱ（2年次、1単位、2時間）

担当科目：社会福祉学（15時間）、ボランティア活動（15時間）、心理学（45時間）、人間関係の科学（45時間）、発達心理学（15時間）、心の健康科学Ⅰ（2時間）、心の健康科学Ⅱ（2時間）

非常勤講師：北星学園大学（精神保健の課題と支援）

学内委員会・学科内業務等：

教授会 保健管理委員会（委員長）入学者選抜委員会 入学前学習課題担当（責任者）

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本精神障害者リハビリテーション学会 日本地域・病院精神医学会 日本社会福祉学会 日本地域福祉学会（地方委員） 日本学生相談学会 日本精神保健福祉士学会 北海道地域福祉学会（理事・学術誌編集委員長） 北海道社会福祉学会 北海道精神保健福祉士学会 北海道自治体学会

科学研究費(研究資金)の取得：

令和4年度～令和7年度科学研究費基盤研究(C) 22K01984 「精神科病院における非自発的入院患者の権利擁護に関する調査研究」研究代表者

社会活動：特定非営利活動法人どさんこコロ代表理事、特定非営利活動法人精神障害者回復者クラブすみれ会理事、北海道庁総務部法務・法人局北海道史編さん委員会社会・文化小部会委員、精神医療国家賠償請求訴訟研究会専門部会担当、2023年度「第26回精神保健福祉士全国統一模擬試験」「第26回社会福祉士全国統一模擬試験」問題作成者(株式会社 M3 エデュケーション)、北海道地域福祉学会創立30周年記念誌編集委員長

顕彰：なし

論文(著書、総説、原著、その他)

著書：松本真由美（2022）．第4章 精神障害者の生活実態 古屋龍太・大塚淳子編著『新・精神保健福祉士シリーズ 3 精神保健福祉の原理』101-119. 弘文堂.

総説：なし

原著：松本真由美（2024）．精神科病院からの地域移行における多職種協働の実態 一長野県の取り組みから一. 北海道社会福祉研究第44号, 15-27.

松本真由美（2024）．オーストラリアにおける精神医療改革－非自発的入院者の権利擁護－. 岡崎伸郎、佐竹直子、古屋龍太 第5次「精神医療」編集委員会編集

精神医療第 12 号 世界の精神医療—国連障害者委員会の総括所見をうけて— 40-48.

松本真由美 (2024). 北海道の精神科病院における権利擁護活動. 北海道精神保健福祉士協会ジャーナル, Vol.61, 20-22.

その他：松本真由美 (2024). 精神科病院入院者へのアドボケイト—北海道の「どさんこコロ」の場合—. 人権センターニュース 169 号, 認定 NPO 法人大阪精神医療人権センター. 10-15.

講演(特別講演, シンポジウム, 一般講演, 示説, その他)：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：松本真由美：トライビューナルのヒアリング場面から見る精神科病院における強制入院者の権利擁護—精神医療審査会とトライビューナルの比較から—. 日本地域福祉学会第 37 回大会, 2023 年 6 月 11 日. 長野県上田市.

松本真由美、高谷澄恵、稲垣麻里子：2-B；. 精神科病院入院者への権利擁護活動—精神医療関係者みんなで作る権利擁護—. 第 22 回日本精神保健福祉士学会学術集会. 2023 年 11 月 3 日. 愛媛県松山市.

松本真由美：一般演題 3 非自発的入院者に対する権利擁護—オーストラリアにおける地域治療命令の実際—. 日本病院・地域精神医学会研究大会. 2023 年 12 月 17 日. 神奈川県横須賀市

松本真由美：実践活動発表 北海道における精神科アドボケイト —NPO 法人「どさんこコロ」の活動から—. 北海道地域福祉学会創設 30 周年記念全道研究大会. 2024 年 3 月 3 日. 北海道札幌市

示説：なし

その他：松本真由美：どさんこコロ電話相談員養成講座 「オリエンテーション」、「どさんこコロの今後の活動」 かでる 2・7, 2023 年 4 月 8 日

松本真由美：2020 年度北海道地域福祉学会全道研究大会 自由研究・実践活動発表座長. 2024 年 3 月 3 日.

氏名 溝部 佳代 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 教授

専門分野：成人看護学、周術期看護

教育活動：

責任科目：成人看護学概論（看護学科 2 年次、2 単位、30 時間）、成人看護援助論Ⅱ（看護学科 3 年次、1 単位、30 時間）、看護研究演習Ⅰ（看護学科 3 年次、1 単位、30 時間）、成人看護学実習Ⅰ（看護学科 3 年次、4 単位、180 時間）、成人看護学実習Ⅱ（看護学科 4 年次、2 単位、90 時間）

担当科目：成人看護学概論（30 時間）、成人看護援助論Ⅰ（14 時間）、成人看護援助論Ⅱ

(20 時間)、成人看護援助論Ⅲ (24 時間)、看護研究演習Ⅰ (30 時間)、看護研究演習Ⅱ (30 時間)、臨床看護技術演習 (6 時間)、成人看護学実習Ⅰ (180 時間)、成人看護学実習Ⅱ (90 時間)、看護統合実習 (90 時間)、初期実習 (45 時間)

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

人権擁護委員会、研究倫理委員会、大学院保健医療学研究科開設準備委員会、大学院保健医療学研究科入試委員会、2 年生学生担任、実習責任者委員会、実習検討会、日本医療大学紀要内部査読者、成人看護学領域・領域長、日本医療大学オープンキャンパス模擬演習

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本手術看護学会 (査読委員)、日本手術医学会、日本がん看護学会、日本看護科学学会、日本看護技術学会、日本看護学教育学会、看護総合科学研究会 (理事、評議員)

科学研究費 (研究資金) の取得：

日本学術振興会 科学研究費助成 (基盤研究 (C)) (令和 4 年度～令和 7 年度)
「手術患者の術中低体温を予防する『手術室入退出時ほっとケアプログラム』の開発」研究代表者

社会活動：日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員、卓越研究員候補者選考委員会 書面審査員及び国際事業委員会書面審査員・書面評価員、日本手術看護学会北海道地区学会総会における教育講演講師、北海道大学病院診療補助業務従事者 (研修、看護師への研究指導)、北海道大学大学院保健科学研究院客員研究員、日本医療大学 2023 年度生涯学習講座講師

顕彰：なし

論文 (著書, 総説, 原著, その他)：

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：なし

講演 (特別講演, シンポジウム, 一般講演, 示説, その他)：

特別講演：日本手術看護学会北海道地区学会総会 教育講演「未来の看護師を育む－看護基礎教育における手術室実習の可能性」. 令和 5 年 5 月 27 日. 札幌

シンポジウム：なし

一般講演：なし

示説：なし

その他：日本医療大学 2023 年度生涯学習講座「もしも手術を受けることになったら～心と体の準備～」．令和 5 年 11 月 25 日．札幌

氏名 森口 眞衣 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 教授

専門分野：アジアの医療思想史、医学概念史、宗教精神医学

教育活動：

責任科目：倫理学（看護学科 1 年次、1 単位、15 時間）、倫理学（リハビリテーション学科 1 年次、1 単位、15 時間）、倫理学（診療放射線学科 1 年次、1 単位、15 時間）、倫理学（臨床検査学科 1 年次、1 単位、15 時間）、倫理学（臨床工学科 1 年次、1 単位、15 時間）、医療と論理学（看護学科 1 年次、1 単位、15 時間）、医療と論理学（リハビリテーション学科 1 年次、1 単位、15 時間）、生命倫理（看護学科 1 年次、1 単位、15 時間）、生命倫理（リハビリテーション学科 1 年次、1 単位、15 時間）、生命倫理（診療放射線学科 1 年次、1 単位、15 時間）、生命倫理（臨床検査学科 1 年次、1 単位、15 時間）、生命倫理（臨床工学科 1 年次、1 単位、15 時間）、医療と宗教（看護学科 1 年次、1 単位、15 時間）、医療と宗教（リハビリテーション学科 1 年次、1 単位、15 時間）、医療と宗教（診療放射線学科 1 年次、1 単位、15 時間）、医療と哲学（看護学科 1 年次、1 単位、15 時間）、医療と哲学（リハビリテーション学科 1 年次、1 単位、15 時間）、医療と哲学（臨床検査学科 1 年次、1 単位、15 時間）、医療と哲学（臨床工学科 1 年次、1 単位、15 時間）

担当科目：倫理学（看護学科・リハビリテーション学科、15 時間）、倫理学（診療放射線学科・臨床検査学科・臨床工学科、15 時間）、医療と論理学（看護学科・リハビリテーション学科、15 時間）、生命倫理（看護学科・リハビリテーション学科、15 時間）、生命倫理（診療放射線学科・臨床検査学科・臨床工学科、15 時間）、医療と宗教（看護学科・リハビリテーション学科・診療放射線学科、15 時間）、医療と哲学（看護学科、15 時間）、医療と哲学（リハビリテーション学科・臨床検査学科・臨床工学科、15 時間）

非常勤講師：札幌保健医療大学（生命倫理）、北海道教育大学（日本社会の特質）、北翔大学（生命倫理）、北星学園大学（仏教の思想と文化）、苫小牧看護専門学校（哲学、生命倫理）、西野学園札幌リハビリテーション専門学校（生命倫理学）

学内委員会・学科内業務等：

教授会、研究倫理委員会（有識者委員）、人権擁護委員会（委員）、不正調査委員会／不正防止委員会（委員）、入学前課題担当、2023 年度オープンキャンパス入試特別講座担当（講師）

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本医学哲学・倫理学会、日本生命倫理学会、日本宗教学会、日本印度学仏教学会、日本精神病理学会、日本精神医学史学会（監事、評議員）、日本病跡学会、日本森田療学会、インド思想史学会、九州医学哲学・倫理学会（監事）、北海道生命倫理研究会（コアメンバー）、北海道大学文学研究科宗教学研究會

科学研究費（研究資金）の取得：

基盤研究（C）「精神療法の成立と展開における宗教動態との接点および影響関係の研究」研究代表者（平成31年度～令和5年度）

令和5年度学術助成費「言語データに基づく歴史文化研究の試み：パラウク支系の歌文化を事例に」（研究代表者：山田敦士）研究分担者

社会活動：北海道生命倫理研究会第21回セミナー（2023年度夏季）「講演1」座長（2023年8月19日）、北海道生命倫理研究会第22回セミナー（2023年度冬季）「講演2」座長（2024年2月28日）

顕彰：なし

論文（著書、総説、原著、その他）：

著書：

総説：

原著：

その他：森口眞衣：〈シンポジウム講演〉「宗教」の変遷と受容：前景と背景．臨床精神病理．44（2），176-181．、森口眞衣：〈巻頭言〉視座を変えると見えてくるもの．精神医学史研究．27（2），61-63．

講演（特別講演、シンポジウム、一般講演、示説、その他）：

特別講演：森口眞衣：日本における「伝統医学」の周縁にある諸概念について．2023年度日本医療研究開発機構（AMED）委託研究：「統合医療」に係る医療の質向上・科学的根拠収集研究事業「日本の漢方・鍼灸の国際標準化（製品の規格等）の基盤整備に関する研究」分担研究「国際条約・機関における伝統医療の遺伝資源及び伝統的知識の研究」担当班研究会議．2023年11月19日．オンライン．

シンポジウム：

一般講演：森口眞衣：「伝統医学（医療）」のアンチテーゼ性をめぐる一考察．第14回九州医学哲学・倫理学会学術大会．2023年9月9日．宗像．、森口眞衣：ヨーガの医療化における実践分岐点．第26回日本精神医学史学会大会．2023年11月12日．東京．

示説：

その他：

氏名 山田 敦士 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 教授

専門分野：言語人類学、言語教育、東南アジア地域研究

教育活動：

責任科目：スタートアップ講座（看護学科 1 年、1 単位、15 時間）、日本語表現（看護学科 1 年、30 時間×2 クラス）、中国語（看護学科 1 年、1 単位、30 時間）、英語Ⅳ（看護学科 3 年、1 単位、30 時間）、日本語表現（リハビリテーション学科 1 年、1 単位、30 時間×2 クラス）、中国語（リハビリテーション学科 1 年、1 単位、30 時間）、英語Ⅳ（リハビリテーション学科 3 年、1 単位、30 時間）、中国語（診療放射線学科 1 年、1 単位、30 時間）、中国語（診療放射線学科 2 年、1 単位、30 時間）、中国語（臨床検査学科 1 年、1 単位、30 時間）、中国語（臨床工学科 1 年、1 単位、30 時間）

担当科目：スタートアップ講座（15 時間）、日本語表現（120 時間）、英語Ⅳ（60 時間）、中国語（150 時間）

非常勤講師：北星学園大学（中国語）

学内委員会・学科内業務等：

教授会、カリキュラム委員会、リメディアル教育検討委員会、入学前課題担当、オープンキャンパス入試対策講座担当

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本中国語学会（評議員）、日本言語学会、社会言語科学会、初年次教育学会、中国人文学会、北海道民族学会、家畜資源研究会

科学研究費（研究資金）の取得：

日本医療大学学術助成費「言語データに基づく歴史文化研究の試み：パラウク支系の歌文化を事例に」代表者（令和 5 年度）

社会活動：『社会言語科学』査読委員、ノテ福祉会現任看護職員研修講師、中国語検定教会札幌会場補佐

顕彰：なし

論文（著書、総説、原著、その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：山田敦士（2023）. 道内四年制大学における中国語教育の現状. 饗餐. 30. 119-126.

その他：なし

講演（特別講演、シンポジウム、一般講演、示説、その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：山田敦士（2024）．地域研究と言語学：タイ文化圏の事例から．「シベリア先住民諸語の方言に関する基礎的研究」2023 年度研究会．釧路公立大学．3 月 1 日．、山田敦士（2024）．語彙体系の細分化・非細分化の事例研究：ワ語と漢語の対照から．日本中国語学会北海道支部 2023 年度例会．オンライン．3 月 16 日．

示説：山田敦士（2024）．ワ族の歌に関する語彙体系．社会言語科学会．福岡女子大学．3 月 9 日．

その他：なし

氏名 宮本 篤 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 特任教授

専門分野：医療薬学

教育活動：

【保健医療学部】

責任科目：

看護学科：総合医療論/医学概論（診放学科）（1 年、1 単位、15 時間）、臨床薬理学（2 年、1 単位、30 時間（新カリ））、チーム医療論（2 年、1 単位、15 時間）

リハビリテーション学科：薬理学（1 年、1 単位、30 時間）、保健医療論（2 年、1 単位、15 時間）、チーム医療論（3 年、1 単位、15 時間）

診療放射線学科：総合医療論(看護学科)/医学概論（1 年、1 単位、15 時間）、薬理学（2 年、1 単位、15 時間）、臨床薬理学（2 年、1 単位、15 時間）、チーム医療論（2 年、1 単位、15 時間）

臨床検査学科：臨床薬理概論（2 年、1 単位、15 時間）、チーム医療と臨床検査（3 年、1 単位、15 時間）

担当科目：看護学科：形態機能学Ⅳ（1 年、6 時間）、看護ゼミナールⅡ（4 年、3 時間）

【総合福祉学部】

責任科目：介護福祉マネジメント学科：薬理学（2 年、1 単位、15 時間）

担当科目：なし

非常勤講師：天使大学看護学科（看護薬理学、30 時間）、吉田学園医療歯科専門学校臨床工学技師科（臨床薬理学、30 時間）、浦河赤十字看護専門学校（薬理学、30 時間）北海道消防学校（救急救命士処置拡大二行為講習、10 時間）

学内委員会・学科内業務等：なし

学術活動：

所属学会・研究会等：

（公社）日本薬剤師会会員、（一社）日本病院薬剤師会名誉会員、（一社）日本緩和医療薬学会名誉会員

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：(一社) 北海道薬剤師会相談役、(一社) 北海道病院薬剤師会顧問

顕彰： なし

論文(著書, 総説, 原著, その他)：

著書：北川 学、宮本 篤、ハイリスク薬投与患者の薬学的管理、監修：高久文麿、矢崎義雄、治療薬マニュアル2023(分担執筆)、医学書院、付録 27-33、2023、宮本 篤、系統別看護師国家試験問題集2023年版(分担執筆)、医学書院、2023

総説： なし

原著：Kato, T., Kunimoto, Y., Kitagawa, M., Asai, Y., Kimyo, T., Nakata, H., Takahashi, M., Chiba, H., Takahashi, H., Miyamoto, A., Fukudo, F. Drug interactions between ALK inhibitors and warfarin with concurrent use of bucolome: a case report. J. Pharmaceutical Health Care and Sciences 9, 14-20, 2023

その他： なし

講演(特別講演, シンポジウム, 一般講演, 示説, その他)： なし

特別講演： なし

シンポジウム： なし

一般講演： なし

示説： なし

その他： なし

氏名 吉野 淳一 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 特任教授

専門分野： 精神看護学

教育活動：

責任科目：精神看護学概論(2年次、2単位、30時間)現代の看護と課題(4年次、1単位、15時間)

担当科目：精神看護援助論Ⅰ(3年次、1単位、15時間)、精神看護援助論Ⅱ(3年次、1単位、30時間)、精神看護学実習(3年次、2単位、90時間)

非常勤講師：札幌保健医療大学、札幌市立大学大学院

学内委員会・学科内業務等：なし

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本集団精神療法学会、日本家族療法研究会、日本精神保健看護学会

科学研究費(研究資金)の取得：なし

社会活動：日本精神保健看護学会(査読委員)、北海道家庭生活総合カウンセリングセンター(代表理事)、NPO法人きなはれ(理事)、社会福祉法人みどりのくに(理事)

顕彰：なし

論文(著書, 総説, 原著, その他)：なし

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：なし

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：日本精神衛生学会 第 39 回大会 シンポジウム②人生の最終段階をいかに生き、いかに死ぬか 吉野淳一：自死により遺された人たちはいかに生きるか。

一般講演：なし

示説：なし

その他：なし

氏名 工藤 悦子 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 准教授

専門分野：小児看護学

教育活動：

責任科目：小児看護援助論Ⅱ（3 年次、2 単位、30 時間）臨床看護技術演習（30 時間）

担当科目：小児看護援助論Ⅱ（30 時間）、小児看護学実習（90 時間）、看護ゼミナールⅡ（30 時間）、看護研究演習Ⅰ（30 時間）、看護研究演習Ⅱ（30 時間）、初期実習（45 時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

（学内）国際交流委員会、（学科内）国試対策小委員会、実習検討会、1 年生学担

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本小児保健協会、日本小児看護学会、日本思春期学会、日本看護科学学会、日本看護技術学会、日本教育工学会

科学研究費（研究資金）の取得：

基盤研究（C）「小児看護学実習に携わる看護師のための循環型現任教育プログラムの開発と評価」・研究代表者

基盤研究（C）「子どもと家族へのグリーフサポートにおけるコミュニティケアの検証と再構築の試み」・研究分担者

基盤研究（C）「視線分析を活用した看護教員の臨床推論を可視化する教育メソッド開発」・研究分担者

社会活動：北海道看護協会保健師助産師看護師実習指導者講習会演習助言、永和システム

マネジメント主催. 看護教育の現場 オンラインセミナー web 看護記録の魅力
とのびしろ. セミナー講師. 2024 年 3 月 10 日.

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：なし

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：視線分析を活用した看護教員の臨床推論を可視化する教育メソッド開発. 工藤悦子, 和田ゆい, 難波亨, 山崎公美子, 齋藤道子, 進藤ゆかり. 日本看護技術学会第 21 回学術集会 2023 年 10 月 15 日.

示説：子どものグリーフケアに携わるファシリテーターの活動とその思い 第 1 報. 荃津智子, 守口絵里, 工藤悦子, 三宅靖子, 長谷川由香. 第 44 回日本死の臨床研究会年次大会 2023 年 11 月 25 日.

子どものグリーフケアに携わるファシリテーターの活動とその思い 第 2 報-自由記述内容からみえたこと-. 工藤悦子, 荃津智子, 守口絵里, 三宅靖子, 長谷川由香. 第 44 回日本死の臨床研究会年次大会. 2023 年 11 月 26 日.

その他：なし

氏名 相馬 幸恵 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 准教授

専門分野：看護管理学 経営学

教育活動：

責任科目：医療安全（2 年次、1 単位、15 時間）、看護管理（3 年次、1 単位、15 時間）、統合実習（4 年次、2 単位、90 時間）

担当科目：生活援助技術論Ⅲ（1 年次、1 単位、30 時間）、初期実習（1 年次、1 単位、45 時間）、医療安全（2 年次、1 単位、15 時間）、診療過程の援助技術（2 年次、1 単位、30 時間）、看護過程論（2 年次、1 単位、30 時間）、基礎看護学実習Ⅱ（2 年次、2 単位、90 時間）、看護管理（3 年次、1 単位、15 時間）、看護研究演習Ⅰ（3 年次、1 単位、30 時間）、看護研究演習Ⅱ（4 年次、1 単位、30 時間）、臨床看護技術演習（4 年次、1 単位、30 時間）、統合実習（4 年次、2 単位、90 時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

図書・学術振興委員、研究費審査委員、日本医療大学生涯学習講座講師、実習責任者委員、1 年次担任

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本看護管理学会、日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護研究学会、しごと能力研究学会、日本労務学会、日本情報経営学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：日本看護研究学会第 31 回北海道学術集会実行委員、北海道看護協会看護師職能 I 委員（任期 2 年目）、社会福祉法人 ノテ福祉会 日本医療大学病院研修会、①メンバーシップ研修 ②リーダーシップ 1 研修 ③リーダーシップ 2 研修

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：研究報告「新型コロナウイルス感染症患者の看護における看護師の感情労働、日本医療大学紀要，9 巻，75-90，2023.

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：なし

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：学会発表：日本看護研究学会第 49 回学術集会「高齢臥床患者の日常生活動作における上肢活動の実態と課題—高齢患者は入院生活でどれほど手を使っているか—」

示説：なし

その他：なし

氏名 鶴木 恭子 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 准教授

専門分野：基礎看護学

教育活動：

責任科目：看護の基本技術論(1 年次、2 単位、16 時間担当)、基礎看護学実習 I (45 時間)、基礎看護学実習 II (90 時間)

担当科目：看護の基本技術論(22 時間)、生活援助技術 I (18 時間)、生活援助技術 II (12 時間)、看護ヘルスアセスメント論(6 時間)、生活援助技術 III (2 時間)、看護過程論(16 時間)、看護研究演習 II (30 時間)、臨床看護技術演習(4 時間)、看護初期実習(45 時間)、基礎看護学実習 I (45 時間)、基礎看護学実習 II (90 時間)

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

学生募集必達プロジェクト

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本看護技術学会、日本看護科学学会、高齢者ケアリング研究会、北海道日独協会、日本看護研究学会

科学研究費（研究資金）の取得：

挑戦的研究(萌芽)「ひとり暮らし高齢者に対するナラティブ睡眠ケアプログラムの効果評価」分担者

社会活動：第31回日本看護研究学会北海道地方会学術集会 実行委員

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：研究報告 松田ひとみ、巻直樹、ThomasD. Mayers、荒木章裕、長内さゆり、鶴木恭子：北海道の自立した生活を営む高齢者の孤独感と自殺に関する検討、北翔大学北方圏学術情報センター年報、巻14、p.35-38、2023.

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：なし

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：なし

示説：なし

その他：なし

氏名 美濃 陽介 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 准教授

専門分野：精神看護学、健康科学、精神保健、産業保健

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：精神看護援助論Ⅰ（2時間）、精神看護援助論Ⅱ（18時間）、看護研究演習Ⅱ（30時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

実習検討会、ハラスメント相談員

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本心身健康科学会、日本看護学教育学会、日本学校メンタルヘルス学会、
日本産業看護学会、日本産業精神保健学会、日本産業ストレス学会、日本生存
科学研究所

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：人間総合科学大学倫理審査外部委員（2023 年度）、北海道追分高等学校思春期講
話（2023 年 8 月）

顕彰：なし

論文（著書、総説、原著、その他）：

著書：エムスリーエデュケーション株式会社 第 36 回介護福祉士全国統一模擬試験（応
用編）作問・解説書（分担執筆）

総説：なし

原著：なし

その他：吉田香・美濃陽介：看護師、臨地実習中の看護大学生の身だしなみに対する意
識調査，日本看護学教育学会誌 33(1)，39-48，2023.

美濃陽介・吉田浩子：学校教員の職業性ストレスと協働の関連，精神科看護
50(373)，60-69，2023.

美濃陽介：教職に対する価値観・ワークモチベーションから考える教員メン
タルヘルス，学校メンタルヘルス 26(2)，235-236，2024.

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：なし

示説：なし

その他：なし

氏名 鏡山 浩美 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 講師

専門分野：成人看護学、看護管理

教育活動：

責任科目：健康教育論（3 年次、1 単位、15 時間）

担当科目：診療過程の援助技術（2 年次、1 単位、4 時間）、成人看護援助論Ⅰ（2 年次、
1 単位、20 時間）、成人看護援助論Ⅲ（3 年次、1 単位、20 時間）、成人看護学
特論（2 年次、1 単位、20 時間）、成人看護学実習Ⅰ（3 年次、4 単位、180 時
間）、成人看護学実習Ⅱ（4 年次、2 単位、90 時間）、看護研究演習Ⅱ（4 年次、
1 単位、30 時間）、看護ゼミナールⅡ（4 年次、1 単位、2 時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

看護学科 3 年次担任、3 年次国試対策担当、国試対策小委員会委員、看護技術・卒業時到達レベル ワーキンググループ委員

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本看護科学学会会員、日本看護管理学会会員、日本看護技術学会会員、看護総合科学研究会会員、日本看護協会・北海道看護協会会員、日本農村医学会会員、日本臨床栄養協会会員

科学研究費（研究資金）の取得：

日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（C）、「16 時間夜勤を行う看護師の睡眠構造の特徴と疲労および健康関連 QOL との関連」代表者、
日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（B）、「看護職の離職予防と就業意欲向上を目指す看護管理データベース開発と利活用の有効性」分担者

社会活動：なし

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：和高一希、鏡山浩美、佐藤洋子（2013）「ICU、GCU における光環境が看護業務と看護師の疲労に与える影響」看護総合科学研究会誌、1、11-21（査読あり）

その他：なし

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：なし

示説：

その他：なし

氏名 柏倉 大作 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 講師

専門分野：基礎看護学

教育活動：

責任科目：看護ヘルスアセスメント論

担当科目：看護の基本技術論、生活援助技術Ⅰ、生活援助技術Ⅱ、生活援助技術Ⅲ、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、看護過程論、診療過程の援助技術、看護研究演習Ⅰ、看護研究演習Ⅱ、看護ゼミナールⅡ、臨床看護技術演習

非常勤講師：該当なし

学内委員会・学科内業務等：

3 年次学年担任

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本看護科学学会、日本看護技術学会、日本看護教育学会、日本看護理工学会、日本看護研究学会 第 31 回北海道地方会学術集会（学術集会実行委員）

科学研究費（研究資金）の取得：

在宅で療養する心不全患者の食行動・食生活自己評価尺度の開発（22K10793）

社会活動：北海道クリティカルケア研究会 世話人会メンバー

顕彰：該当なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：該当なし

総説：該当なし

原著：該当なし

その他：認知症高齢がん患者に対する疼痛マネジメント看護師用教育プログラムの開発と評価 川村 三希子，小島 悦子，山田 律子，貝谷 敏子，檜山 明子，山下 いずみ，青田 美穂，高橋 葉子，柏倉 大作，Palliative Care Research(1880-5302)18 巻 Suppl. Page S465(2023.06)（会議録）

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：該当なし

特別講演：

シンポジウム：

一般講演：

示説：

その他：

氏名 川崎 文 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 講師

専門分野：母性看護学 助産学

教育活動：

責任科目：責任者としてはなし

担当科目：母性看護援助論Ⅱ，母性看護学概論（サポート）、看護ゼミナールⅡ（母性特別講義担当）、看護研究演習Ⅰ，看護研究演習Ⅱ，臨床看護技術演習

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

実習検討委員会，シミュレーション室 WG 委員会，看護技術・卒業到達レベル委員会、国家試験模試試験監督，定期試験担当領域・及他試験監督，一般選抜後期試験監督員

学術活動：

所属学会・研究会等：

母性衛生学会，日本助産学会，日本助産師会，全国助産師教育学協議会
日本看護シミュレーションラーニング学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：音響療法活動，東洋医学養生ケア東洋哲学に関する活動、音育・五感を発達させて子育て支援サポートにつながる文献やセミナーの参加、上記既存の活動において復職後の体調と合わせて健子管理に勤めた

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：なし

示説：なし

その他：2023年度は自己の健康管理やセルフケアに重点を置き、感謝の意を念頭に早く職場環境に対し適応していくことに重きを置いた2023年になった。
ありがとうございました。今後も尽力させていただきます。

氏名 小宅 千恵子 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 講師

専門分野：地域・在宅看護学、産業保健看護

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：在宅看護学概論（8時間）、在宅看護学援助論Ⅰ（22時間）、在宅看護学援助論Ⅱ（16時間）、地域・在宅看護学実習（90時間）、看護研究演習Ⅰ（30時間）、看護研究演習Ⅱ（30時間）、初期実習（45時間）、臨床看護技術演習（30時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

保健管理委員会、シミュレーション室 WG、臨床看護技術演習、看護研究演習

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本産業衛生学会、日本産業衛生学会北海道地方会産業保健看護部会、日本禁煙学会、日本公衆衛生学会、北海道公衆衛生学会、日本老年看護学会、動機づけ面接トレーナーネットワーク（MINT）メンバー

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：北海道産業保健総合支援センター相談員、日本産業衛生学会北海道地方会産業保健看護部会幹事（研修委員長）、日本禁煙学会（職場の禁煙委員会、会計担当）

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：

総説：

原著：

その他：

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：

シンポジウム：

一般講演：

示説：

その他：

氏名 合田 恵理香 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 講師

専門分野：成人看護学 急性期看護、クリティカルケア看護

教育活動：

責任科目：成人看護援助論Ⅲ（3年次、1単位、28時間）、応急処置法（3年次、1単位、26時間）

担当科目：成人看護援助論Ⅰ（10時間）、成人看護援助論Ⅱ（6時間）、成人看護援助論Ⅲ（28時間）、成人看護学実習Ⅰ（180時間）、診療過程の援助技術（8時間）、看護研究演習Ⅰ（10時間）、看護研究演習Ⅱ（60時間）、臨床看護技術演習（4時間）、応急処置法（26時間）、基礎看護学（2時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

FD委員会、看護学科FD委員会、看護研究演習Ⅰ・Ⅱ担当グループ

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本クリティカルケア看護学会、日本看護学教育学会、日本看護管理学会、日本ヒューマンケア心理学会、日本看護歴史学会、日本音楽療学会、日本統合医療学会、日本外科感染症学会

科学研究費（研究資金）の取得：

科学研究費（基盤 C）「死－看取り」の学びを支援する教育・支援プログラムの開発

社会活動：なし

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：なし

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：

シンポジウム：

一般講演：合田恵理香，石貫智裕，睡眠トラッカーを活用した看護大学生の睡眠に対する影響因子の同定，第 43 回日本看護科学学会学術集会，2023 年 12 月 9 日-10 日，下関。

神成真，合田恵理香，新卒看護師が認識している同期の看護師との関係，日本看護研究学会第 49 回学術集会，2023 年 8 月 19 日-20 日，Web 開催

示説：なし

その他：なし

氏名 中澤 洋子 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 講師

専門分野：成人看護学

教育活動：

責任科目：成人看護援助論Ⅰ、成人看護学特論

担当科目：初期実習(1、1、10)、成人看護援助論Ⅰ（2、1、26）、成人看護援助論Ⅱ（3、1、6）、成人看護援助論Ⅲ（3、1、22）、成人看護学特論（2、1、22）、看護研究演習Ⅰ（3、1、2）、看護研究演習Ⅱ（4、1、30）、成人看護学実習Ⅰ（3、3、360）、成人看護学実習Ⅱ（4、2、450）、臨床看護技術演習（4、1、8）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

学内委員会：自己点検・評価委員、学科内業務：4 年生学年担当、オープンキャンパス・体験入学担当、シミュレーション室 WG

学術活動：

所属学会・研究会等：

がん看護学会 会員、日本看護科学学会 会員、日本看護教育学会 会員、日本

看護研究学会 会員、北日本看護学会 会員

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：：HAndS(学生ホスピタルアート)運営委員

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：なし

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：なし

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：なし

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：なし

示説：なし

その他：なし

氏名 原田 圭子 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 講師

専門分野：基礎看護学、老年看護学

教育活動：

責任科目：看護過程論（通年、1単位、30時間）、生活援助技術Ⅲ（後期、1単位、30時間）

担当科目：生活援助技術Ⅰ（24時間）、生活援助技術Ⅱ（24時間）、生活援助技術Ⅲ（44時間）、ヘルスアセスメント（16時間）、看護過程論（34時間）、看護、研究（20時間）、看護研究演習Ⅰ（6時間）、看護研究演習Ⅱ（60時間）、初期実習（22時間）、基礎看護学実習Ⅰ（90時間）、基礎看護学実習Ⅱ（180時間）、臨床看護技術演習（10時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

3年生学年担当、実習検討会、学科庶務係（リーダー）

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本老年看護学会、日本看護研究学会、高知女子大看護学会、北海道公衆衛生学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：日本医療大学病院現任教育研修

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：なし

著書：

総説：

原著：

その他：

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：なし

特別講演：

シンポジウム：

一般講演：

示説：

その他：

氏名 松村 寛子 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 講師

専門分野：地域看護学・公衆衛生看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：在宅看護援助論Ⅰ（20時間）、在宅看護援助論Ⅱ（18時間）、臨床看護技術演習（24時間）、看護研究演習Ⅰ（22時間）、看護研究演習Ⅱ（30時間）、在宅看護学概論（8時間）、OSCE（4時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

看護技術到達度ワーキンググループ・国家試験対策小委員会・2学年担任

学術活動：

所属学会・研究会等：

北海道公衆衛生学会、日本地域看護学会、日本看護学教育学会、日本産業衛生学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：日本看護研究学会 第31回北海道地方会学術集会 学術集会実行委員、日本産業衛生学会 看護部会・母子訪問支援を行う医療職のための研修会開催（開催日：2024/11/03 場所：日本医療大学 1122 講義室）

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

研究報告：松村寛子，柏民圭太，難波亨，大久保未央，滋野和，山崎公美子.(2023).看護系大学の1年次学生の社会的スキルと職業的アイデンティティからの分析. 日本医療大学紀要,第9巻.103-111.

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：日本看護研究学会第 31 回北海道地方会学術集会（2023 年 8 月 5 日）演題
名：看護系大学の 1 年次学生の社会的スキルと職業的アイデンティティ
からの分析、松村寛子、柏民圭太、難波 亨、大久保未央、滋野和恵、山崎公
美子

その他：

氏名 吉田 香 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 講師

専門分野：基礎看護学、看護教育

教育活動：

責任科目：生活援助技術Ⅰ（1 年次、1 単位、30 時間）、診療過程の援助技術（2 年次、
1 単位、30 時間）

担当科目：看護学概論（1 年次、2 単位、30 時間）、看護の基本技術論（1 年次、2 単位、
30 時間）、生活援助技術Ⅰ（1 年次、1 単位、30 時間）、生活援助技術Ⅱ（1 年
次、1 単位、30 時間）、生活援助技術Ⅲ（1 年次、1 単位、30 時間）、診療過程
の援助技術（2 年次、1 単位、30 時間）、看護過程論（2 年次、1 単位、30 時
間）、看護ヘルスアセスメント論（2 年次、1 単位、30 時間）、基礎看護学実習
Ⅰ（2 年次、1 単位、45 時間）、基礎看護学実習Ⅱ（2 年次、2 単位、90 時間）、
看護研究演習Ⅰ（3 年次、1 単位、30 時間）、看護研究演習Ⅱ（4 年次、1 単
位、30 時間）、看護研究（3 年次、1 単位、30 時間）、臨床看護技術演習（4 年
次、1 単位、30 時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

学生委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護歴史学会、北海道医療大学
看護福祉学部学会、看護科学研究学会、日本看護研究学会、日本看護技術学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

論文（著書、総説、原著、その他）：

著書：

総説：

原著：

その他：コロナ禍における医療系学生が抱く不安—診療放射線学、理学療法学、作業療法学を専攻する学生に焦点を当てて—Anxiety of medical students in the corona disaster—Students majoring in Clinical Radiology、Physiotherapy、Occupational Therapy—

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：

シンポジウム：

一般講演：コロナ禍における医療系学生が抱く不安—診療放射線学、理学療法学、作業療法学を専攻する学生に焦点を当てて—Anxiety of medical students in the corona disaster—Students majoring in Clinical Radiology、Physiotherapy、Occupational Therapy—

示説：

その他：

氏名 吉田 直美 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 講師

専門分野： 老年看護、腎不全（透析）看護

教育活動：

責任科目： なし

担当科目：老年看護学概論（2 時間） 老年看護援助論 I（4 時間） 疾病論 V（2 時間）
老年看護援助論 II（4 時間） 老年看護学実習 I（90 時間） 老年看護学実習 II（90 時間） 看護研究演習 I（4 時間） 看護研究演習 II（30 時間） 初期実習（45 時間） 臨床看護技術演習（20 時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

学生委員会、シミュレーション室WG、国試対策小委員会、3 年生担任

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本老年看護学会、日本老年社会学会、日本認知症ケア学会、日本腎不全看護学会、日本透析医学会、日本看護科学学会、北海道医療大学看護福祉学部学会、北海道透析療学会、ヒューマンケア研究学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：日本腎不全看護学会査読委員、日本老年社会学会査読委員

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：なし

著書：

総説：

原著：

その他：

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：なし

特別講演：

シンポジウム：

一般講演：

示説：

その他：

氏名 柏民 圭太 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 助教

専門分野：基礎看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：生活援助技術Ⅰ（10 時間）、生活援助技術Ⅱ（26 時間）、生活援助技術Ⅲ（10 時間）、看護ヘルスアセスメント論（24 時間）、診療過程の援助技術（10 時間）、看護過程論（14 時間）、看護研究演習Ⅰ（6 時間）、看護研究演習Ⅱ（30 時間）、臨床看護技術演習（4 時間）、初期実習（45 時間）、基礎看護学実習Ⅰ（45 時間）、基礎看護学実習Ⅱ（90 時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

学年担任（3 年生）、オープンキャンパス担当

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本脳神経看護研究学会、日本リハビリテーション看護学会、日本保健医療福祉連携教育学会、日本老年療法学会、日本看護科学学会、日本看護研究学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：

総説：なし

原著：柏民圭太，神島滋子. (2024). 回復期リハビリテーション病棟に勤務する看護師の多職種連携実践能力に関連する要因，日本脳神経看護研究学会誌, 46 (2), 165-175.

その他：松村寛子，柏民圭太，難波亨，大久保未央，滋野和恵，山崎公美子. (2023). 看護系大学 1 年次学生の社会的スキルと職業的アイデンティティからの分析，日本医療大学紀要, 9, 103-111.

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：なし

示説：なし

その他：なし

氏名 佐藤みゆき 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 助教

専門分野： 地域・在宅看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：地域・在宅看護学概論（6 時間）、在宅看護援助論 I（17 時間）、在宅看護援助論 II（担当 15 時間）、在宅看護論実習（担当 90 時間）、看護研究演習 I（担当 6 時間）、看護研究演習 II（担当 30 時間）、臨床看護技術演習（担当 22 時間）、初期実習（担当 45 時間）、統合実習（担当 90 時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

保健管理委員、実習室・物品管理 WG、親睦会、庶務係

学術活動：

所属学会・研究会等：

公益社団法人 日本看護科学学会、一般社団法人 日本看護学教育学会、一般社団法人 日本在宅ケア学会、一般社団法人 日本在宅看護学会、一般社団法人 日本エンドオブライフケア学会、北海道公衆衛生学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：北海道公衆衛生学会 評議員

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：

総説：認知症の人を含む地域在住高齢者の生きがい研究

原著：

その他：

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：

シンポジウム：

一般講演：

示説：

その他：

氏名 佐藤 予右子 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 助教

専門分野： 老年看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：老年看護援助論Ⅰ：1.5時間、老年看護援助論Ⅱ：9時間、疾病論Ⅴ（高齢者と精神）：1.5時間、老年看護学実習Ⅰ：90時間、老年看護学実習Ⅱ：90時間

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

実習検討会、看護技術・卒業時到達レベルワーキンググループメンバー、4年次看護研究演習担当コアメンバー

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本老年看護学会 日本 CNS 看護学会、日本専門看護師協議会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：なし

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：なし

示説：なし

その他：なし

氏名 鈴木 捷允 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 助教

専門分野： 看護学 成人看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：成人看護援助論Ⅰ、7コマ14時間、成人看護援助論Ⅲ、10コマ20時間、診療過程の援助技術、2コマ4時間、看護研究演習Ⅱ、14コマ28時間、

臨床看護技術演習、1コマ2時間、初期実習、1単位45時間、成人看護学
実習Ⅰ、4単位180時間、成人看護学実習Ⅱ、2単位90時間、統合実習、
2単位90時間、(リハビリテーション学科)、応急処置法、2コマ4時間

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：なし

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本慢性看護学会、日本循環器看護学会、日本ルーラルナーシング学会
日本公衆衛生看護学会、日本看護科学学会、北海道公衆衛生協会、北海道医
療大学看護福祉学部学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：室矢剛志,岩田直美,鈴木捷允(2023).過疎地域に居住する向老期世代におけるソー
シャルキャピタルの実態.北海道公衆衛生学雑誌.Vol37(2).pp79-84.

その他：なし

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：なし

示説：なし

その他：なし

氏名 田川 史穂里 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 助教

専門分野：成人看護学領域、キャリア教育

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：成人看護援助論Ⅰ（2年次、1単位、14時間）、成人看護援助論Ⅲ（3年次、
1単位、22時間）、成人看護学実習Ⅰ（3年次、4単位、180時間）、成人看護
学実習Ⅱ（4年次、2単位、90時間）、診療過程の援助技術（2年次、1単位、
4時間）、統合実習（4年次、2単位、90時間）、初期実習（1年次、1単位、
45時間）、看護研究演習Ⅱ（4年次、2単位、30時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

シミュレーション室関連検討会ワーキング（学科内業務）

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本看護教育学会、日本看護管理学会、日本手術看護学会、日本看護科学学会、人材育成学会、日本労務学会、キャリアデザイン学会、

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

論文（著書、総説、原著、その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：なし

講演（特別講演、シンポジウム、一般講演、示説、その他）：

特別講演：

シンポジウム：

一般講演：タイトル 年度 学会名

「中堅看護師の看護実践能力と職業キャリア成熟の関連 ―中堅看護師へのアンケート調査の分析をもとに―」2023 年度、日本キャリアデザイン学会

示説：「Supporting head nurses in promoting occupational career maturation of mid-career nurses」2023 年度 第 28 回 EAFONS (East Asian Forum of Nursing Scholars)

「Enhancing Occupational Career maturation and Support for Mid-Career Nurses」

2023 年度 第 28 回 EAFONS (East Asian Forum of Nursing Scholars)

その他：

氏名 中村 江衣 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 助教

専門分野：基礎看護学 がん看護 緩和ケア

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：生活援助技術Ⅰ（1 学年、1 単位、演習 40 時間）、生活援助技術Ⅱ（1 学年、1 単位、演習 28 時間）、生活援助技術Ⅲ（1 学年、1 単位、講義 6 時間演習 56 時間）、看護ヘルスアセスメント論（2 学年、1 単位、講義・演習 62 時間）看護過程論（2 学年、1 単位、演習 18 時間）、診療過程の援助技術（2 学年、1 単位、演習 6 時間）、初期実習（1 学年、1 単位、45 時間）基礎看護学実習Ⅰ（2 学年、1 単位、45 時間）、基礎看護学実習Ⅱ（2 学年、2 単位、90 時間）、

統合実習(4年生2単位90時間)、看護ゼミナールⅠ(2学年、1単位、28時間)、臨床看護技術演習(4学年、1単位 4時間)、研究演習Ⅰ(3年生、1単位、26時間)、研究演習Ⅱ(4学年、1単位、30時間)

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

1年生担任、シミュレーション室ワーキンググループ

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本緩和医療学会、日本がん看護学会、日本専門看護師協議会、北海道専門看護師の会、日本CNS学会、日本創傷・オストミー・失禁管理学会

科学研究費(研究資金)の取得：日本私立看護系大学協会研究助成

社会活動：北海道看護協会研修会企画委員

顕彰：なし

論文(著書、総説、原著、その他)：

著書：

総説：

原著：

その他：症例研究「自壊創の臭気対策に次亜塩酸水が有効であった1例」日本創傷・オストミー・失禁管理学会

講演(特別講演、シンポジウム、一般講演、示説、その他)：

特別講演：

シンポジウム：

一般講演：

示説：

その他：

氏名 難波 亨 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 助教

専門分野：精神看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：看護研究演習Ⅰ(4.5時間)、看護研究演習Ⅱ(45時間)、精神看護援助論Ⅰ(3時間)、精神看護援助論Ⅱ(12時間)、精神看護学概論(1.5時間)、統合実習(90×2時間)、精神看護学実習(90×5時間)、初期実習(45時間)

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

看護技術・卒業時到達度WG、実習室・物品関連WG、学生募集関連委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：

看護総合科学研究会、一般社団法人日本看護研究学会、一般社団法人日本在宅看護学会、一般社団法人日本看護技術学会

科学研究費（研究資金）の取得：

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）：「視線分析を活用した看護教員の臨床推論を可視化する教育メソッド開発」分担者

社会活動：日本看護研究学会第31回北海道地方会学術集会実行委員

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：（研究報告）「看護系大学の1年次学生の社会的スキルと職業的アイデンティティからの分析」共著 2023年5月 日本医療大学紀要

（研究報告）「精神看護学実習における同時双方向型オンライン実習で地域生活をする精神障がい者と交流した学生の体験」共著 2023年5月 日本医療大学紀要

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：「訪問看護ステーションの管理者が考える継続的な運営に向けた方略—北海道の過疎地域に焦点を当てて—」 2023年 日本看護研究学会第31回北海道地方会学術集会

示説：なし

その他：なし

氏名 服部 かおる 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 助教

専門分野：精神看護学、

教育活動：

責任科目：

担当科目：精神看護学概論(30)、精神看護学援助論Ⅰ(15)・Ⅱ(30)、精神看護学実習(全クール)、看護研究演習Ⅰ・Ⅱ(30)、看護ゼミナールⅡ(30)、初期実習(45)、統合実習(2クール)、OSCE、

非常勤講師：大原医療福祉専門学校(基礎医学・内科学)

学内委員会・学科内業務等：

4 年学担、国試対策小委員会、

学術活動：

所属学会・研究会等：

北日本看護学会、日本精神保健看護学会、日本サイコネフロロジー学会、日本音楽療法学会、一社）日本精神科看護協会（一社）日本腎不全看護学会

科学研究費（研究資金）の取得：

社会活動：

顕彰：

論文（著書、総説、原著、その他）：

著書：

総説：

原著：

その他：資料／高齢血液透析患者の抑うつへの看護に関する文献検討／北日本看護学会誌 26(2),2024.

資料／文献にみる音楽を用いた活動が精神症状のある患者にもたらす影響と看護職への示唆／日本音楽療法学会誌 24(1),2024.

資料／精神看護学実習における「人間図書館」で地域生活をする精神障がい者と交流した学生の体験／日本医療大学紀要第 10 号,2024.

研究報告／音楽を用いた活動が精神症状のある患者に与える影響～看護師はどう捉え看護に生かすのか～／日本医療大学紀要第 10 号,2024.

講演（特別講演、シンポジウム、一般講演、示説、その他）：

特別講演：

シンポジウム：

一般講演：

示説：

その他：

氏名 春名 美恵 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 助教

専門分野：成人看護学領域

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：成人看護援助論Ⅰ：14 時間/1 単位 30 時間、成人看護援助論Ⅱ：6 時間/1 単位 30 時間、成人看護援助論Ⅲ：24 時間/1 単位 30 時間、成人看護学実習Ⅰ：180 時間/4 単位 180 時間、成人看護学実習Ⅱ：10 時間/2 単位 90 時間、統合実習：90 時間/2 単位 90 時間、初期実習：45 時間/1 単位 45 時間、看護研究演習Ⅰ：6 時間/1 単位 30 時間、看護研究演習Ⅱ：30 時間/1 単位 30 時間、臨床看護技

術演習：4 時間/1 単位 30 時間、診療過程の援助技術：4 時間/1 単位 30 時間
 非常勤講師：なし
 学内委員会・学科内業務等：
 ナーシングスキル管理、実習室物品管理 WG
 学術活動：
 所属学会・研究会等：
 日本看護研究学会、日本クリティカルケア看護学会
 科学研究費（研究資金）の取得：
 2023 年度基盤研究（C）（一般）『「死－看取り」の学びを支援する教育・支援プログラムの開発』分担者
 社会活動：なし
 顕彰：なし
 論文（著書，総説，原著，その他）：
 著書：なし
 総説：なし
 原著：Haruna Y, Shiromaru M, Sumikawa M. Factors related to intensive care unit Nurses' work engagement: A web-based survey. Nurs Health Sci. 2023 Sep;25(3):445-455. doi: 10.1111/nhs.13041. Epub 2023 Aug 10. PMID: 37562774.
 その他：なし
 講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：
 特別講演：
 シンポジウム：
 一般講演：
 示説：
 その他：

氏名 本間 公 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 助教

専門分野：基礎看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：初期実習、生活援助技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(以上、1 学年)、看護ヘルスアセスメント論、診療過程の援助技術、看護過程論、基礎看護学、実習Ⅰ・Ⅱ(以上、2 学年)、看護研究演習Ⅰ(以上、3 学年)、看護研究演習Ⅱ・臨床看護技術演習(以上、4 学年)

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

シミュレーション室 WG

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本循環器看護学会・日本循環器病予防学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：

総説：

原著：本間公：狭心症にて再経皮的冠動脈形成術を行った男性患者がセルフケアを行う上での課題.2022 年度札幌医科大学大学院保健医療学研究科博士課程前期論文,1-101,2023

本間公，城丸瑞恵，木村恵美子：狭心症にて再経皮的冠動脈形成術を行った男性患者が行うセルフケア実施上の課題.日本循環器看護学会誌,11-19,2023

その他：

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：なし

示説：なし

その他：本間公，城丸瑞恵：再経皮的冠動脈形成術後のセルフケア実施上の課題.第 59 回日本循環器病予防学会学術集会

氏名 渡邊 美樹 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 助教

専門分野：老年看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：老年看護学概論Ⅰ（看護 2 年次 3 時間：2 コマ）、老年看護援助論Ⅰ（看護 2 年次 6 時間：4 コマ）、老年看護学援助論Ⅱ（看護 3 年次 12 時間：8 コマ）、老年看護学実習Ⅰ（看護 3 年次 2 単位 90 時間）、老年看護学実習Ⅱ（看護 4 年次 2 単位 90 時間）、疾病論Ⅴ（看護 2 年次 90 分：1 コマ）、看護研究演習Ⅰ（看護 3 年次 1 単位 30 時間）、看護研究演習Ⅱ（看護 4 年次 1 単位 30 時間）

非常勤講師：日本医療大学新人研修 1 コマ（60 分）

学内委員会・学科内業務等：

シュミレーション委員、学生必達プロジェクト（オープンキャンパス）

所属学術活動・学会・研究会等：

（所属学会）老年看護学学会 日本看護管理学会 日本看護科学学会、認知症とその家族の会 全国介護老人保健施設協会、日本介護支援専門員協会 保健医療福祉連携教育学会

科学研究費（研究資金）の取得：

今年度なし

2022 年度日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤 C）継続（4 年間/2 年目）

社会活動：社会福祉法人ノテ福祉会 職員研修 多職種連携について 3 コマ

顕彰：なし

論文（著書、総説、原著、その他）：

著書：

総説：

原著：

その他：「特別養護老人ホームにおける看護職であるケア管理者のケア管理能力の現状と課題」日本看護管理学会に原著論文として投稿中

講演（特別講演、シンポジウム、一般講演、示説、その他）：

特別講演：

シンポジウム：

一般講演：「A 法人高齢者施設・事業における有機的な専門職連携・協働を可能にする取り組み」日本老年看護学会 第 28 回学術集会 スライド発表

「高齢者福祉施設における多職種連携・協働上の困難とその要因取組みの検討」保健医療連携教育学会 第 16 回学術集会 ポスターとスライドにて発表

その他：

氏名 和田 ゆい 学部 保健医療学部 学科 看護学科 職階 助教

専門分野：基礎看護学、老年看護学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：看護学概論（1 年次，2 単位，8 時間）、看護の基本技術論（1 年次，2 単位，4 時間）、生活援助技術Ⅰ（1 年次，1 単位，4 時間）、生活援助技術Ⅱ（1 年次，1 単位，30 時間）、生活援助技術Ⅲ（1 年次，1 単位，30 時間）、看護過程論（2 年次，1 単位，30 時間）、臨床看護技術演習（4 年次，1 単位，14 時間）、看護研究演習Ⅰ（3 年次，1 単位，30 時間）、看護研究演習Ⅱ（4 年次，1 単位，30 時間）、初期実習（1 年次，1 単位，2 時間）、基礎看護学実習Ⅰ（2 年次，1 単位，45 時間）、基礎看護学実習Ⅱ（2 年次，2 単位，90 時間）、統合実

習（4 年次，2 単位，90 時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

実習室物品管理 WG、看護技術到達度 WG、学生担当教員（2 年）

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本老年看護学会、日本認知症ケア学会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護技術学会、北海道公衆衛生学会

科学研究費（研究資金）の取得：

科研費（基盤研究 C）「視線分析を活用した看護教員の臨床推論を可視化する教育メソッド開発」研究分担者

社会活動：なし

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：なし

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：なし

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：工藤悦子，和田ゆい，難波亨，山崎公美子，齋藤道子，進藤ゆかり（2023）.
視線分析を活用した看護教員の臨床推論を可視化する教育メソッド開発，日本看護技術学会第 21 回学術集会

示説：和田ゆい，長谷川真澄（2023）. 認知症をもつ人と同居する家族介護者の介護負担に関する文献検討，日本看護研究学会第 49 回学術集会

その他：なし

11－1－③ 保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 教員

氏名 向井 康詞 学部 保健医療学部 学科 リハビリテーション学科 職階 教授・学科長

専門分野：解剖学、運動器障害、運動生理学

教育活動：

責任科目：解剖学Ⅰ（1 年次前期、2 単位 30 時間）、解剖学Ⅱ（1 年次後期、2 単位 30 時間）解剖学演習（1 年次前期、2 単位 60 時間）、臨床判断学（基礎

編) (2 年次後期、1 単位 30 時間)、臨床判断学 (応用編) (3 年次後期、1 単位 30 時間)、卒業研究 I (3 年次通年、2 単位 60 時間)、卒業研究 II (4 年次前期、1 単位 30 時間)

担当科目：解剖学 I (30 時間)、解剖学 II (30 時間)、解剖学演習 (60 時間)、臨床判断学 (基礎編) (30 時間)、臨床判断学 (応用編) (30 時間)、臨床実習 I (理学療法) (90 時間)、臨床実習 II (理学療法) (180 時間)、臨床実習 III (理学療法) (720 時間)

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

運営委員会、教務委員会、自己点検評価委員会、入試委員会、入学者選抜委員会、人権擁護委員会、不正調査委員会、ハラスメント防止委員会、解剖学見学実習担当

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本理学療法士協会、北海道理学療法士会、日本運動生理学会

科学研究費 (研究資金) の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

論文 (著書, 総説, 原著, その他)：

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：なし

講演 (特別講演, シンポジウム, 一般講演, 示説, その他)：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：なし

示説：なし

その他：なし

氏名 石橋 晃仁 学部 保健医療学部 学科 リハビリテーション学科 職階 理学療法専攻長・教授

専門分野：神経障害理学療法学

教育活動：

責任科目：理学療法セミナー I (1 年次後期、1 単位、30 時間)、理学療法セミナー II (2 年次後期、1 単位、30 時間)、理学療法総合演習 (4 年次後期、1 単位、30 時

間)、臨床実習Ⅰ(2年次後期、2単位、90時間)、臨床実習Ⅱ(3年次後期、4単位、180時間)

担当科目：理学療法セミナーⅠ(1年次後期、8時間)、理学療法セミナーⅡ(2年次後期、8時間)、理学療法総合演習(4年次後期、2時間)

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

教員選考委員、理学療法学専攻長

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本理学療法士協会、北海道理学療法士会(代議員、社会局介護予防・健康増進支援部員)、認知神経リハビリテーション学会、北海道リハビリテーション学会、日本リハビリテーションスポーツ学会

科学研究費(研究資金)の取得：なし

社会活動：札幌市理学療法赤十字奉仕団 副委員長

顕彰：なし

論文(著書、総説、原著、その他)：

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：なし

講演(特別講演、シンポジウム、一般講演、示説、その他)：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：なし

示説：なし

その他：なし

氏名 西山 徹 学部 保健医療学部 学科 リハビリテーション学科 職階 教授

専門分野：義肢装具学、身体運動学

教育活動：

責任科目：義肢装具学(3年次、1単位、30時間)、義肢装具学演習(3年次、1単位、30時間)、運動学Ⅱ(2年次、2単位、30時間)、運動学演習(2年次、1単位、30時間) 理学療法評価学(運動器系)(2年次、1単位、30時間)、日常生活活動基礎学(3年次、1単位、30時間)、理学療法セミナーⅢ(3年次、1単位、30時間)

担当科目：義肢装具学（30 時間）、義肢装具学演習（30 時間）、運動学Ⅱ（30 時間）、理学療法評価学（運動器系）（30 時間）、理学療法評価学（神経系）（30 時間）、理学療法評価学演習（運動器系）（60 時間）、理学療法評価学演習（神経系）（60 時間）、運動学演習（30 時間）、義肢装具作業療法学（4 時間）、災害リハビリテーション（2 時間）、日常生活活動基礎学（10 時間）、理学療法セミナーⅢ（10 時間）臨床実習Ⅰ（理学療法）（6 時間）、臨床実習Ⅱ（理学療法）（12 時間）、臨床実習Ⅲ（理学療法）（12 時間）臨床実習Ⅳ（理学療法）（12 時間）、卒業研究Ⅰ（30 時間）、卒業研究Ⅱ（60 時間）

非常勤講師：北海道医療大学（義肢装具学Ⅱ）、札幌リハビリテーション専門学校（義肢関連理学療法）

学内委員会・学科内業務等：

教授会、教務委員会、カリキュラム委員会、学生担当教員（3 年生）、理学療法学専攻臨床実習担当、理学療法学専攻カリキュラム担当、バレーボールサークル顧問

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本支援工学理学療法学会（編集委員）、日本理学療法士協会、日本義肢装具学会、日本理学療法科学学会、臨床歩行分析研究会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：STV ラジオ「工藤じゅんきの十人十色」ゲスト出演、「北海道理学療法」・「日本支援工学理学療法学会誌」査読者

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：なし

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：なし

示説：なし

その他：西山徹（2023）.「日常生活の身体運動」. 日本医療大学生涯学習講座 札幌

氏名 矢口 智恵 学部 保健医療学部 学科 リハビリテーション学科 職階 教授

専門分野： 神経生理学、運動生理学、姿勢制御

教育活動：

責任科目：運動学Ⅰ（1年次、2単位、30時間）、生理学演習（2年次、1単位、30時間）、
人間発達学（2年次、2単位、30時間）、研究法（3年次、1単位、30時間）、
発達障害理学療法学（3年次、1単位、30時間）

担当科目：運動学Ⅰ（30時間）、生理学演習（30時間）、人間発達学（16時間）、研究法
（26時間）、発達障害理学療法学（30時間）、臨床実習Ⅰ（理学療法）（6時
間）、臨床実習Ⅱ（理学療法）（12時間）、臨床実習Ⅲ（理学療法）（24時間）、
臨床実習Ⅳ（理学療法）（24時間）、卒業研究Ⅰ（60時間）、卒業研究Ⅱ（30
時間）、理学療法セミナーⅠ（16時間）、理学療法総合演習（4時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

研究倫理委員会、学生担当教員（理学療法学専攻1年生）、国家試験担当教員
（理学療法学専攻）

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本健康行動科学会（編集委員、理事）、日本理学療法士協会、Society for
Neuroscience、日本臨床神経生理学会、日本生理人類学会（評議員）

科学研究費（研究資金）の取得：

科研費（基盤研究（C）（一般））「高齢者における体性感覚と視覚への注意分散
と姿勢制御の関連」研究代表者、科研費（基盤研究（C）（一般））「随意的な前・
後傾姿勢運動時の位置感覚情報への注意と脳の活性化」研究分担者

社会活動：日本健康行動科学会第22回学術大会大会長

顕彰：なし

論文（著書、総説、原著、その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：なし

講演（特別講演、シンポジウム、一般講演、示説、その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：矢口智恵、藤原勝夫：注意機能と姿勢制御. 日本健康行動科学会第22回
学術大会, 2023年9月30日. 札幌

一般講演：矢口智恵、藤原勝夫：両側上肢屈曲運動時の圧中心の前方移動範囲の制限が
姿勢制御と体性感覚に及ぼす影響. 日本健康行動科学会第22回学術大会,
2023年10月1日. 札幌

示説：なし
その他：なし

氏名 佐藤 秀紀 学部 保健医療学部 学科 リハビリテーション学科 職階
特任教授

専門分野：保健福祉学、老年社会科学、リハビリテーション学

教育活動：

責任科目：リハビリテーション論(1年次、2単位、30時間)、生活環境学(3年次、1単位、15時間)、高齢期障害理学療法学(3年次、1単位、30時間)

担当科目：リハビリテーション論(30時間)、地域理学療法学(8時間)、生活環境学(15時間)、高齢期障害理学療法学(30時間)、代謝免疫高齢者理学療法学(4時間)

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：なし

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本保健福祉学会(査読委員)、日本社会福祉学会(査読委員)、日本老年社会科学学会(査読委員)

科学研究費(研究資金)の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

論文(著書、総説、原著、その他)：なし

著書：

総説：

原著：

その他：

講演(特別講演、シンポジウム、一般講演、示説、その他)：なし

特別講演：

シンポジウム：

一般講演：

示説：

その他：

氏名 泉水 朝貴 学部 保健医療学部 学科 リハビリテーション学科 職階
准教授

専門分野：バイオメカニクス、運動器障害理学療法、徒手理学療法、スポーツ理学療法

教育活動：

責任科目：運動器障害理学療法学（3 年次、1 単位、30 時間）、運動器障害理学療法学演習（3 年次、1 単位、30 時間）、スポーツ理学療法学（3 年次、1 単位、30 時間）

担当科目：運動器障害理学療法学（30 時間）、運動器障害理学療法学演習（60 時間）、スポーツ理学療法学（60 時間）、運動学演習（30 時間）、軟部組織治療学（30 時間）

非常勤講師：北海道ハイテクノロジー専門学校（運動学）

学内委員会・学科内業務等：

自己点検評価委員会、入学者選抜委員会、保健管理委員会、臨床実習担当

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本理学療法士協会、日本スポーツ整形外科学会、日本運動器徒手理学療法学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：「メディカルスタッフのための解剖セミナー」インストラクター、「少年野球肘検診」スタッフ

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：なし

示説：なし

その他：北海道理学療法学術大会査読委員

氏名 近藤 和夫 学部 保健医療学部 学科 リハビリテーション学科 職階 准教授

専門分野： 内部障害理学療法学（特に、循環器理学療法）

教育活動：

責任科目：運動療法学（2 年次、1 単位、30 時間）、呼吸・循環器障害理学療法学（3 年次、1 単位、30 時間）、代謝・免疫系障害理学療法学（3 年次、1 単位、30 時間）、呼吸リハビリテーション特論（3 年次、1 単位、15 時間）

担当科目：生理学演習（30 時間）、運動学演習（30 時間）、理学療法総合演習（4 時間）、運動療法学（30 時間）、運動療法学演習（30 時間）、臨床実習Ⅲ（315 時間）、呼吸・循環器障害理学療法学（30 時間）、代謝・免疫系障害理学療法学（26 時間）、臨床実習Ⅳ（3115 時間）、呼吸リハビリテーション特論（15 時間）、地域リハビリテーション学演習（4 時間）、卒業研究Ⅰ（60 時間）、卒業研究Ⅱ（30 時間）、チーム医療論（2 時間）

非常勤講師：千歳リハビリテーション大学（内部障害理学療法学）、北都保健福祉専門学校（内部障害系の理学療法）、札幌孝仁会記念病院臨床指導

学内委員会・学科内業務等：

教務委員会、キャリアセンター運営委員、2 年次学生担当、

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本循環器理学療法学会（理事）、日本心臓リハビリテーション学会（評議員）、日本臨床運動療法学会（評議員）、日本循環器学会（心不全療養指導士実務部会委員）、日本心不全学会、日本心臓リハビリテーション学会北海道支部（庶務幹事）、北海道内部障害リハビリテーション研究会（代表幹事）

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：北海道理学療法士会（～6 月常任理事）、日本理学療法士協会評議員、北海道総合保険医療協議会地域保健専門委員会循環器疾患対策小委員会（委員）、北海道災害福祉支援ネットワーク会議（～6 月委員、北海道災害派遣福祉チーム員）、北海道災害リハビリテーション推進協議会（理事）

顕彰：なし

論文（著書、総説、原著、その他）：

<研究報告>北海道における回復期以降の心大血管疾患リハビリテーションの現状 -アンケートの結果から-、日本医療大学紀要（投稿中）

著書：なし

<分担執筆>内部障害理学療法学 循環 第3版(中山書店、2024 年出版予定)

総説：なし

原著：なし

その他：

講演（特別講演、シンポジウム、一般講演、示説、その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：

第 6 回日本循環器理学療法学会学術大会 循環器病対策基本法委員会企画

一般講演：「心疾患患者の外来リハビリテーションについて思うこと」（北海道内部障害

リハビリテーション研究会)

講演:「北海道における回復期以降の心大血管リハビリテーションの現状—アンケートの結果から—」(日本心臓リハビリテーション学会北海道支部第8回学術大会)

示説:なし

その他:なし

氏名 松崎(木原) 由里子 学部 保健医療学部 学科 リハビリテーション学科
職階 准教授

専門分野:地域理学療法学, 予防理学療法学, 高齢者理学療法学, 公衆衛生学,
災害リハビリテーション

教育活動:

責任科目:地域理学療法学(3年次, 1単位, 15時間), 災害リハビリテーション(3年次,
1単位, 15時間),

担当科目:生理学演習(2年次, 1単位, 30時間), 理学療法評価学(運動器系)(2年次,
1単位, 30時間), 理学療法評価学演習(運動器系)(2年次, 2単位, 60時間),
理学療法セミナーⅢ(3年次, 1単位, 30時間), 卒業研究Ⅰ(3年次, 1単位,
30時間), 卒業研究Ⅱ(4年次, 1単位, 30時間)

非常勤講師:札幌医科大学(地域理学療法学)

学内委員会・学科内業務等:

PT専攻実習担当

学術活動:

所属学会・研究会等:

日本理学療法士協会, 日本公衆衛生学会, 日本老年療学会,
日本国際保健医療学会, 応用老年学会

科学研究費(研究資金)の取得:なし

社会活動:理学療法学(査読委員), 北海道理学療法士会 社会局介護予防・健康増進支援部
(部長), 北海道理学療法(査読委員), 独立行政法人国際協力機構(JICA)国
際緊急援助隊(登録者), 令和4年度 東月寒地区地域ケア会議(講師)

顕彰:なし

論文(著書, 総説, 原著, その他):

著書:

総説:

原著:

その他:

講演(特別講演, シンポジウム, 一般講演, 示説, その他):

特別講演:

シンポジウム：

一般講演：

示説：

その他：

氏名 小林 英司 学部 保健医療学部 学科 リハビリテーション学科 職階
講師

専門分野： 神経障害理学療法、神経解剖学、認知症学

教育活動：

責任科目：神経障害理学療法学（3年次、1単位、12コマ）、神経障害理学療法学演習
（3年次、1単位、30コマ）

担当科目（主担当以外）：

理学療法評価学（運動器系）（2年次、1単位、6コマ）、理学療法評価学演習
（神経系）（2年次、2単位、16コマ）、臨床判断学（応用編）（3年次、1単
位、15コマ）

非常勤講師：札幌医科大学保健医療学部（1年次、解剖学、解剖学実習）、北海道文教大
学大学院リハビリテーション科学研究科（修士課程）（高齢者リハビリテーシ
ョン学特論、高齢者リハビリテーション学特論演習）、北海道文教大学人間科
学部理学療法学科（3年次、神経障害理学療法学）

学内委員会・学科内業務等：

リハビリテーション学科 理学療法学専攻 1年生担任、リハビリテーション
学科 理学療法学専攻 実習係（教務）、日本医療大学大学院 開設準備委員
会、札幌医大での解剖見学実習担当

学術活動：

所属学会・研究会等：

（全国規模）日本神経理学療法学会（専門会員A）、日本支援工理学療法学会
（専門会員A）、日本基礎理学療法学会、日本体力医学会、日本認知症学会、
日本プライマリ・ケア連合学会、日本神経難病リハビリテーション研究会、
（都道府県規模）、北海道理学療法士協会、日本プライマリ・ケア連合学会北
海道支部（プライマリ・ケア北海道地方会実行委員）

科学研究費（研究資金）の取得：

科研費（若手研究）研究代表者「唾液 miRNA 測定による認知症発症抑制機序
の解明：アストロサイトに着目した検討」

科研費（基盤研究C）研究分担者「アルツハイマー病理に抗する認知症予防法
と機序解明—献体脳を用いた前向き研究」

社会活動：（共同研究）通所リハビリテーションノテげんきのでる里との共同研究：2023年

1月より、同施設を利用中の脳卒中後遺症者を対象とし共同研究を行なっている。製鉄記念室蘭病院との共同研究1：2020年より継続して訪問リハビリテーションを利用中の脳卒中者、パーキンソン病患者を対象とした臨床研究を行なっている。製鉄記念室蘭病院との共同研究2：2023年より室蘭市内の要介護・要支援高齢者に対する訪問リハビリテーションの効果検証のための研究を行なっている。札幌医科大学解剖学第二講座との共同研究：2020年より、札幌医科大学白菊会の会員である超高齢者を対象に認知機能維持に関わる脳内メカニズムと生活習慣に関する研究を継続している。湘南医療大学保健医療学部、札幌医科大学解剖学第二講座との共同研究：2021年12月より、神経解剖学と脳画像の教育に関するセラピストの意識調査・及び学習課題の研究を行っている。函館市医師会看護リハビリテーション学院生体医工学研究センターとの共同研究：2022年7月より脳卒中者に対する装具療法におけるセラピストの意識調査を継続して行っている。大川原脳神経外科病院（室蘭市）と共同で2023年11月より、脳卒中患者に対する長下肢装具療法の効果検証の研究を行っている。北海道内のリハビリテーション関連病院・大学との多施設共同研究：時計台記念病院、白石記念病院、大川原脳神経外科病院、柏葉脳神経外科病院、新さっぽろ脳神経外科病院、北星記念病院、苫小牧東病院、手稲溪仁会病院、旭川リハビリテーション病院、北海道科学大学、北海道文教大学、函館市医師会看護リハビリテーション学院生体医工学研究センターとの多施設共同研究による脳卒中患者に対する装具療法の効果検証を行なっている。

（セミナー、学会活動、その他）北海道理学療法学会（恵庭市、2023年11月開催）において、シンポジウム「脳卒中者の装具療法をつなぐ」において座長を、自主企画セミナー「えっ、そうなの。長下肢装具」において講師を務めた。第22回健康行動科学術大会（札幌市）においてシンポジウム・認知機能と健康においてシンポジストを務めた。製鉄記念室蘭病院訪問リハビリテーションセンターと本学学生の座談会の企画（2023年11月）「第6回メディカルスタッフのための神経解剖学セミナー」運営責任者：札幌医科大学解剖学講座と日本医療大学保健医療学部リハビリテーション学科との共同開催でヒト死後脳を用いた神経解剖学セミナー、2024年3月2、3日開催。「プライマリ・ケア北海道地方会」学会実行委員：日本プライマリ・ケア連合学会北海道支部主催、2023年6月25日開催）においてワークショップ「神経難病の緩和ケア」の講師を務めた。日本神経理学療法学会 戦略的課題解決会議 歩行障害班 班員（装具班）、日本神経理学療法学会主催 第31回サテライトカンファレンス in 札幌 実行委員、一般社団法人日本訪問リハビリテーション協会主催研修会「知っておきたい訪問リハビリテーションでのスキル パーキンソン・症候群編」講師（2023年8月23日）

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

原著：(MISC)認知機能と健康 アルツハイマー病理変化と症状が乖離する症例の脳所見からみた認知症予防戦略の新たな切り口,小林 英司, *Health and behavior sciences* 22(1) 32-32 2023 年 9 月

その他：(学会発表) Reliability and Validity of the Japanese Version of the Independently Get Off the floor Scoring System in Chronic Stroke Survivors,Eiji Kobayashi, Nobuaki Himuro, Yoshihiko Shibukawa, Tomoyasu Sakaguchi, Hirohumi Kamiyama, Akane Shimoyama, Yuri Ishikawa, Youhei Muraoka,American Congress of Rehabilitation Medicine, Atlanta, Georgia, USA 2023 年 11 月 1 日、Characteristics of physical activity, life-space mobility, and mental function in Japanese nonagenarians with normal cognitive function,Eiji Kobayashi, Masako Nakano, Shin Hashizume, Chihiro Ikehata, Ted Kheng Siang Ng,American congress of rehabilitation Medicine, Atlanta, Georgia, USA 2023 年 11 月 1 日、The validity of the Japanese version of the Friendship scale in nonagenarians in Japan,Masako Nakano, Eiji Kobayash, Shin Hashizume, Chihiro Ikehata, Ted Kheng Siang N,American Congress of Rehabilitation Medicine, Atlanta, Georgia, USA 2023 年 11 月 1 日、Mindfulness intervention improves cognitive function in older adults by enhancing the level of miRNA-29c in neuron-derived extracellular vesicles.,Shin Hashizume, Masako Nakano, Eiji Kobayashi, Mineko Fujimiya,American Congress of Rehabilitation Medicine, Atlanta, Georgia, USA 2023 年 10 月 31 日、生活期リハビリテーションにおける評価指標の活用が有用であった一事例の報告～日本医療大学との共同研究を始めて～,下山茜, 村岡洋平, 大川舞, 佐久間美, 小林英司,リハビリテーション・ケア合同研究大会 2023 年 10 月 27 日、脳卒中者における日本語版 Independently Get Off the floor scoring system の信頼性と妥当性の検証,小林英司, 村岡洋平, 下山茜, 石川裕理, 加美山博文, 渋谷佳彦, 坂口友康, 樋室伸顕,第 21 回日本神経理学療法学会 2023 年 9 月 10 日、神経解剖学と脳画像評価に対するセラピストの意識調査,大村優慈, 小林英司,第 21 回日本神経理学療法学会 2023 年 9 月 10 日、脳卒中者に対する長下肢装具療法のカットダウンの判断に関する探索的研究-テキストマイニングを用いて-,平塚健太, 小林英司, 松田直樹, 春名弘一, 第 21 回日本神経理学療法学会 2023 年 9 月 9 日 (学術論文の査読実績)Disability and Rehabilitation 誌 (Taylor and Francis 社)、査読 (2023 年度 2 編)

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

シンポジウム：

「えっ、そうなの？ 長下肢装具」エビデンス構築のため、臨床家と研究者をつなぐワークショップ,春名弘一, 小林英司, 松田直樹, 平塚健太, 安部陽子, 塚田

卓司, 渡辺智也, 佐々木隆, 平田雄慎, 松田涼, 佐藤佑太郎, 山田耕平, 内藤考洋, 伊藤一成, 杉田彩華, 田村翔太郎, 森田学, 福井瑞恵, 松本将輝, 第 74 回北海道理学療法士学会大会 2023 年 11 月 11 日、アルツハイマー病理変化と症状が乖離する症例の脳所見からみた認知症予防戦略の新たな切り口, 小林英司, 日本健康行動科学会第 22 回学会大会シンポジウム：認知機能と健康 2023 年 9 月 30 日、訪問リハビリテーションスキル パーキンソン病・症候群（総論）, 小林英司, 知っておきたい訪問リハビリテーションでのスキル パーキンソン病・症候群 2023 年 8 月 26 日、プライマリ・ケア北海道地方会（日本プライマリ・ケア連合学会北海道ブロック支部主催、2023 年 6 月 25 日開催）でのシンポジウム・ワークショップ「神経難病の緩和ケア」講師・シンポジスト

一般講演：「コメディカルスタッフのための神経解剖学セミナー」講師：札幌医科大学解剖学講座と日本医療大学保健医療学部リハビリテーション学科の共同開催によるヒト死後脳を用いた神経解剖学セミナーの講師（2024 年 3 月 2,3 日開催）

氏名 新開谷 深 学部 保健医療学部 学科 リハビリテーション学科 職階 講師

専門分野：運動器理学療法、徒手理学療法

教育活動：

責任科目：体表解剖学（1 年次、1 単位、30 時間）、徒手関節治療学（3 年次、1 単位、30 時間）、軟部組織治療学（3 年次、1 単位、30 時間）、物理療法学（3 年次、1 単位、30 時間）、物理療法学演習（3 年次、1 単位、30 時間）

担当科目：体表解剖学（1 年次、30 時間）、理学療法セミナーⅠ（1 年次、6 時間）、徒手関節治療学（3 年次、30 時間）、軟部組織治療学（3 年次、30 時間）、物理療法学（3 年次、1 単位、30 時間）、物理療法学演習（3 年次、1 単位、30 時間）卒業研究Ⅰ（3 年次、60 時間）、卒業研究Ⅱ（4 年次、30 時間）

非常勤講師：北翔大学（健康運動実践論）

学内委員会・学科内業務等：

2 年次担任、学生委員会、実習担当

学術活動：

所属学会・研究会等：

公益(社)日本理学療法協会、公益(社)北海道理学療法士会、日本整形徒手療法協会 日本運動器徒手療法学会、マニュアルセラピー研究会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：北海道理学療法士会 学会研修部部長および総務部部員

顕彰：なし

論文（著書、総説、原著、その他）：なし

著書：

総説：

原著：

その他：

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：

シンポジウム：

一般講演：タイトル：CHARACTERIZATION OF THE GAIT OF ELDERLY PEOPLE
EXPERIENCED SLIP AND FALL IN WINTER.共同研究者名：Fukashi Shinkaiya,
Yuriko Matsuzaki-Kihara,Sayo Miura,and Keizo Yamamoto 学会名：IAGG2023 開
催日：2023 年 6 月 12-14 日大会 website：https://www.iagg2023.org/index.html

示説：

その他：

氏名 坂口 友康 学部 保健医療学部 学科 リハビリテーション学科 職階 助
教

専門分野：地域理学療法、高齢者理学療法、予防理学療法、認知症

教育活動：

責任科目：臨床判断学（基礎編）（2 年次、1 単位、30 時間）※2 クラスのため、15×2 時
間

担当科目：解剖学演習（1 年次、2 単位、15 時間）※C クラス担当、理学療法評価学（運
動器）（2 年次、1 単位、14 時間）※2 クラスのため、7×2 時間、理学療法評
価学演習（運動器）（2 年次、1 単位、30 時間）※2 クラスのため、15×2 時
間、理学療法評価学（神経系）（2 年次、1 単位、16 時間）※2 クラスのため、
8×2 時間、理学療法評価学演習（神経系）（2 年次、2 単位、30 時間）※2 ク
ラスのため、15×2 時間、理学療法セミナーⅡ（2 年次、1 単位、30 時間）
※2 クラスのため、15×2 時間、卒業研究Ⅰ（3 年次、1 単位、30 時間）、卒業
研究Ⅱ（4 年次、2 単位、60 時間）、臨床実習Ⅱ（理学療法）（3 年次、3 単位、
8 時間）、臨床実習Ⅲ（理学療法）（4 年時、16 単位、32 時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

理学療法 実習（科目）担当（学科内業務）学生就職サポート教員（学科内業
務）

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本理学療法士協会、日本公衆衛生学会、日本小児理学療法学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：第 10 回 日本小児理学療法学会 運営委員

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：

総説：

原著：

その他：

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：

シンポジウム：

一般講演：

示説：

その他：

氏名 渋谷 佳彦 学部 保健医療学部 学科 リハビリテーション学科 職階
 助教

専門分野： バイオメカニクス、車いすシーティング

教育活動：

責任科目：運動療法学演習（2 年、1 単位、30 時間）

担当科目：理学療法評価学（運動器系）（2 年、1 単位、4 時間）、理学療法評価学演習（運動器系）（2 年、2 単位、4 時間）、理学療法評価学（神経系）（2 年、1 単位、20 時間）、理学療法評価学演習（神経系）（2 年、2 単位、40 時間）、地域リハビリテーション学演習（2 年、1 単位、12 時間）、義肢装具学演習（3 年、1 単位、6 時間）、日常生活活動基礎学（3 年、1 単位、18 時間）、理学療法セミナーⅢ（3 年、1 単位、16 時間）、理学療法総合演習（4 年、1 単位、2 時間）、臨床実習Ⅰ（2 年、2 単位、90 時間）、臨床実習Ⅱ（3 年、4 単位、135 時間）、臨床実習Ⅲ（4 年、7 単位、315 時間）、臨床実習Ⅳ（4 年、7 単位、315 時間）、卒業研究Ⅰ（3 年、2 単位、60 時間）、卒業研究Ⅱ（4 年、1 単位、30 時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

理学療法学専攻第 4 学年担任、国家試験対策（学科内）

学術活動：

所属学会・研究会等：

社団法人（現公益社団法人）日本理学療法士協会および北海道理学療法士会

会員、特定非営利活動法人日本シーティング・コンサルタント協会会員、一般
社団法人理学療法科学学会会員、一般社団法人日本転倒予防学会

科学研究費（研究資金）の取得：

社会活動：「東月寒童夢セーフティフェスタ 2023」にて日本医療大学ブースの企画・運営、
日時：令和5年9月12日（火）10：00－15：00、場所：札幌ドーム
駐車場、主催：東月寒まちづくり協議会童夢、内容：東月寒地域の小中学生に
災害リハビリテーションの体験・展示を実施

顕彰：

論文（著書、総説、原著、その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：年齢と性別が予測機構における方向転換動作の運動戦略に及ぼす影響、青森県立
保健大学大学院博士課程後期学位論文、2023、単著、Effects of psychogenic stress on
oxidative stress and antioxidant capacity at different growth stages of rats: Experimental
study, PLOS ONE, in press, 共著

その他：学会発表、健常高齢者における方向転換動作の特性に性差が及ぼす影響、日本
転倒予防学会第10回学術集会（京都）、学会発表、年齢と姿勢制御の様式が方
向転換動作の運動戦略に与える影響、第10回日本予防理学療法学会学術大会
（函館）

講演（特別講演、シンポジウム、一般講演、示説、その他）：なし

特別講演：

シンポジウム：

一般講演：

示説：

その他：

氏名 武田 賢太 学部 保健医療学部 学科 リハビリテーション学科 職階
助教

専門分野：神経障害理学療法

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：情報科学演習（30時間）、理学療法セミナーⅢ（12時間）、理学療法評価学（運
動器系、14時間）、理学療法評価学演習（運動器系、60時間）、神経障害理学
療法学（30時間）、神経障害理学療法学演習（60時間）、卒業研究Ⅰ（30時
間）、卒業研究Ⅱ（30時間）、理学療法評価学（神経系、16時間）、理学療法
評価学演習（神経系、60時間）、臨床判断学（応用編、60時間）

非常勤講師：

学内委員会・学科内業務等：

実習係，ICT 委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本神経理学療法学会（専門会員 A），日本基礎理学療法学会，Society for Neuroscience、1）リアルタイムフィードバックによる重心動揺量元帥が脊髄小脳変性症患者の立位制御特性に与える影響．武田賢太，坂野康介，成田雅，太田経介，野田貴暉，後村圭太，河島則天．第 21 回日本神経理学療法学会学術大会、2）脊髄小脳変性症患者における立位姿勢制御分析－身体重心動揺と筋活動の関連性について－．坂野康介，太田経介，成田雅，後村圭太，野田貴暉，武田賢太，河島則天．第 21 回日本神経理学療法学会学術大会、3）パーキンソン病患者における立位姿勢制御分析－身体重心動揺と筋活動の関連性について－．藤井慎太郎，成田雅，武田賢太，生野公貴，森岡周，河島則天．第 21 回日本神経理学療法学会学術大会、4）パーキンソン病患者の歩行特性－重心追尾型歩行計測システムを用いた歩行評価－．太田経介，坂野康介，成田雅，野田貴暉，後村圭太，武田賢太，河島則天．第 21 回日本神経理学療法学会学術大会、5）脊髄小脳変性症患者の歩行特性－重心追尾型歩行計測システムを用いた歩行評価－．野田貴暉，坂野康介，成田雅，太田経介，後村圭太，武田賢太，河島則天．第 21 回日本神経理学療法学会学術大会、6）異なる立位姿勢制御戦略を呈したパーキンソン病 2 症例の対比的考察．後村圭太，太田経介，武田賢太．第 21 回日本神経理学療法学会学術大会

科学研究費（研究資金）の取得：学術助成費（研究代表）

社会活動：なし

顕彰：第 21 回日本神経理学療法学会学術大会にて優秀賞にノミネート

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：なし

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：

シンポジウム：

一般講演：姿勢バランス障害の臨床症状とメカニズム．武田賢太．第 21 回日本神経理学療法学会学術大会（教育講演）

示説：

その他：

氏名 谷口 達也 学部 保健医療学部 学科 リハビリテーション学科 職階 助教

専門分野：運動器理学療法、生体医工学、バイオメカニクス、解剖学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：解剖学演習（30）、物理療法学（15）、物理療法学演習（30）、理学療法評価学：運動器系（8）、評価学演習：運動器系（30）、理学療法評価学：神経系（7）、理学療法評価学演習：神経系（30）、運動療法学演習（30）、臨床判断学：基礎（30）、運動器障害理学療法学(2)、運動器理学療法学演習（30）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

募集必達係、実習係（教務）、リハビリテーション学科親睦会

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本理学療法学会、北海道理学療法士学会、日本足の外科学会、北海道整形災害外科学会、日本臨床スポーツ医学会、日本運動器理学療法学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：2023 年度札幌医科大学メディカルスタッフのための解剖セミナー実行委員・会計係

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：1）Relationships between flexion strength and dexterity of the toes and physical performance. Kota Watanabe,Yuzo Ashida,Kento Hirota,Tatsuya Taniguchi,Hiroki Miyamoto,Atushi Teramoto Journal of back and musculoskeletal rehabilitation 2023 年 12 月 25 日、2）成長期における足趾機能と長母趾屈筋腱分枝数との関係 廣田健斗、渡邊耕太、宮本浩樹、谷口達也、寺本篤史 日本足の外科学会雑誌 44（1）21-25 2023 年 8 月

その他：

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：なし

示説：なし

その他：なし

氏名 三浦 紗世 学部 保健医療学部 学科 リハビリテーション学科 職階
助教

専門分野：公衆衛生学、予防医学、理学療法学

教育活動：

責任科目：ウィメンズヘルスケア論（3 年前期、1 単位、15 時間）、予防医学（1 年後期、1 単位、15 時間）、理学療法評価学演習（運動器系）（2 年前期、2 単位、60 時間）

担当科目：ウィメンズヘルスケア論（3 年前期、1 単位、15 時間）、予防医学（1 年後期、1 単位、15 時間）、理学療法評価学（運動器系）（2 年前期、1 単位、30 時間）、理学療法評価学演習（運動器系）（2 年前期、2 単位、60 時間）、理学療法評価学（神経系）（2 年後期、1 単位、30 時間）、理学療法評価学演習（神経系）（2 年後期、2 単位、60 時間）、運動学演習（2 年後期、1 単位、30 時間）、卒業研究 I（3 年通年、2 単位、60 時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

理学療法学専攻 3 年生学年担任、募集必達プロジェクト、専攻内実習係（科目担当）

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本理学療法士協会、理学療法科学学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし（延長して継続中）

社会活動：公益社団法人北海道理学療法士会 学術局 学術誌部編集委員、査読委員

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：（共著）Toshiaki Seko, Hiroshi Akasaka, Masayuki Koyama, Nobuaki Himuro, Shigeyuki Saitoh, Shunichi Ogawa, Sayo Miura, Mitsuru Mori, Hirofumi Ohnishi: The Contributions of Knee Extension Strength and Hand Grip Strength to Factors Relevant to Physical Frailty: The Tanno-Sobetsu Study. *Geriatrics* 9(1): 9, 2024

（共著）佐藤佑太郎，隈元庸夫，松田涼，世古俊明，三浦紗世，田井将彦，吉田英樹，濱本龍哉: 脳卒中片麻痺者における Palpation Meter を用いた骨盤傾斜角度と動作能力との関連性. 北海道理学療法 40: 18-23, 2023

その他：なし

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：なし

示説：なし

その他：学会発表（共同演者）世古俊明，小川峻一，三浦紗世，森満：健康被害予防のためのストレスコーピングと社会関連資本の重要性 コロナウィルスとの共存生活に向けて．第 10 回日本予防理学療法学術大会，2023.10.28～29，函館．

11-1-③ 保健医療学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 教員

氏名 及川 直樹 学部 保健医療学部 学科 リハビリテーション学科 職階 教授

専門分野：身体障害作業療法学，運動器障害，上肢機能障害，ハンドセラピー

教育活動：

責任科目：作業療法評価学演習（骨・関節系）（2 年次，1 単位，30 時間），身体障害作業治療学（運動器・内部障害系）（3 年次，1 単位，30 時間），義肢装具作業療法学（3 年次，1 単位，15 時間），義肢装具作業療法学演習（3 年次，1 単位，15 時間）

担当科目：作業療法評価学演習（骨・関節系）（30 時間），身体障害作業治療学（運動器・内部障害系）（22 時間），義肢装具作業療法学（15 時間），義肢装具作業療法学演習（11 時間），体表解剖学（45 時間），作業療法セミナーⅠ（15 時間），作業療法セミナーⅡ（15 時間），作業療法治療学特論（ハンドセラピー）（4 時間），作業療法学概論（1 時間）リハビリテーション管理学（8 時間）

非常勤講師：北海道大学（リハビリテーション管理学，身体障害作業療法学実習）、札幌大学（医学概論）

学内委員会・学科内業務等：

教授会，学生委員会（委員長），キャリアセンター運営委員会，学生懲戒委員会，ハラスメント防止委員会，入試委員会，作業療法学専攻 2 学年担任，国家試験対策担当教員，就職活動支援担当教員，募集必達プロジェクト，解剖見学実習担当教員

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本作業療法士協会（学術誌「作業療法」査読者），北海道作業療法士会（学術誌「作業療法の実践と科学」査読者，北海道作業療法士会学術部編集委員），

日本肩関節学会，日本整形外科超音波学会，北海道手外科ハンドセラピー研究会（世話人），北海道ハンドセラピー研究会（幹事），Asian Journal of Occupational Therapy reviewer，BMC Musculoskeletal Disorders reviewer

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：メディカルスタッフのための運動器解剖セミナーインストラクター，羊ヶ丘病院臨床・研究指導，道都大学男女バスケットボール部メディカルスタッフ・トレーナー，北海道ハンドセラピー研究会教育講演，NPO 法人北海道野球協議会少年野球肘健診，北海道高等学校安全互助会健康安全普及啓発事業講師 5 校，奥尻町小中学生野球少年障害予防指導，羊ヶ丘病院杯女子軟式野球大会メディカルブース，北海道作業療法士会新人研修講師（運動器疾患）2 テーマ，日本医療大学生涯学習講座，第 11 回健康フェア東月寒（認知症スクリーニング検査）

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：Akimi Nakata, Satoshi Osuka, Tomoya Ishida, Yuki Saito, Mina Samukawa, Satoshi Kasahara, Yuta Koshino, Naoki Oikawa, Harukazu Tohyama: Trunk Muscle Activity and Ratio of Local Muscle to Global Muscle Activity during Supine Bridge Exercises under Unstable Conditions in Young Participants with and without Chronic Low Back Pain. Healthcare. 12 (5) 514, 2024

八田達夫，清本憲太，新岡美樹，岸上博俊，及川直樹，合田央志，村上元，村上正和，大堀具視：作業療法学生が見た認知症高齢者へのスヌーズレン オンライン学内作業療法実習Ⅰを通して．日本医療大学紀要．9:3-12,2023

合田央志，清本憲太，大堀具視，八田達夫，岸上博俊，及川直樹，村上元，村上正和，坂口紀子：作業療法学教育における教員相互の授業参観の現状と課題～本学作業療法学専攻の取り組み～．日本医療大学紀要．9:139-150,2023

その他：なし

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：なし

特別講演：軟式野球選手における投球数と肘関節内側側副靱帯の緩みの関係について．北海道ハンドセラピー研究会教育講演．2022 年 10 月（オンライン）

シンポジウム：

第 53 回北海道作業療法学会学術大会 シンポジウム 1「根拠に基づいた作業療法の再考と挑戦 1」シンポジスト：南部浩志，金子翔柾，越後歩，本家寿洋．
座長：及川直樹

一般講演：明本聡，西川航平，小野寺悠介，市川智士，及川直樹，高橋和孝，岡村健司

腱板断裂患者における術前、術中角度の差が術後成績に与える影響. 第 50 回日本肩関節学会学術集会. 第 20 回日本肩の運動機能研究会. 2023 年 10 月 13,14 日. 東京都.

西川航平, 鈴森雄貴, 新納拓也, 及川直樹, 榊善成, 高橋和孝, 岡村健司: 肩腱板断裂術後の患者立脚型評価アウトカムに関連する心理因子. 第 50 回日本肩関節学会学術集会. 第 20 回日本肩の運動機能研究会. 2023 年 10 月 13,14 日. 東京都.

小野寺悠介, 鈴森雄貴, 明本聡, 市川智士, 新納拓也, 及川直樹, 榊善成, 岡村健司: トランクローションに関連する因子の検討. 第 50 回日本肩関節学会学術集会. 第 20 回日本肩の運動機能研究会. 2023 年 10 月 13,14 日. 東京都.

中田光海, 大須賀聡, 石田友也, 齋藤優輝, 寒川美奈, 笠原敏史, 越野裕太, 及川直樹, 遠山晴一: 慢性腰痛症例における不安定面上でのブリッジエクササイズ中の体幹筋活動比率の検討. 第 11 回日本運動器理学療法学会. 2023 年 10 月 13~15 日. 福岡県.

示説:

その他:

氏名 岸上 博俊 学部 保健医療学部 学科 リハビリテーション学科 職階 教授

専門分野: 高齢期作業療法 地域作業療法

教育活動:

責任科目: 地域リハビリテーション論 2 年次 (前期) 26 時間、地域リハビリテーション演習 2 年次 (後期) 8 時間、高齢期障害作業治療学 3 年次 (通年) 30 時間、日常生活適応学 (ADL) 3 年次 (前期) 20 時間、作業療法治療学特論 (治療理論) 3 年次 (後期) 16 時間

担当科目: 基礎作業学演習 (1 年次後期) 4 時間、作業療法評価学 (2 年次前期) 4 時間、研究法 (3 年次前期) 4 時間、作業療法治療学特論 (シーティング) 3 年次 (後期) 16 時間、卒業研究Ⅱ 4 年次 (通年) 60 時間、OT セミナーⅡ、OT セミナーⅢ、臨床実習Ⅰ 2 年次 (後期)、臨床実習Ⅱ 3 年次 (後期)、臨床実習Ⅲ 4 年次 (前期)

非常勤講師: 北星学園大学 (リハビリテーション論)

学内委員会・学科内業務等:

教授会、自己点検評価委員会、教務委員会 (委員長)、カリキュラム委員会、リハビリテーション学科カリキュラム委員会

学術活動:

所属学会・研究会等：

日本作業療法士協会、北海道作業療法士会、障害学会、日本作業科学研究会
作業療法を社会学・障害学する研究会

科学研究費（研究資金）の取得：株）クオリとの受託研究

社会活動：札幌市内における訪問作業療法実施

顕彰：なし

論文（著書、総説、原著、その他）：

著書：仙石泰仁 野田和恵（責任編集）「作業療法概論」15 レクチャーシリーズ 作業療法テキスト 中山書店 2023 分担執筆

総説：

原著：八田 達夫, 清本 憲太, 新岡 美樹, 岸上 博俊, 及川 直樹, 合田 央志, 村上 元, 村上 正和, 大堀 具視

作業療法学生が見た認知症高齢者へのスヌーズレン オンライン学内作業療法実習Ⅰを通して

日本医療大学紀要 9, P.3-12, 2023.

その他：合田 央志, 清本 憲太, 大堀 具視, 八田 達夫, 岸上 博俊, 及川 直樹, 村上 元, 村上 正和, 坂口 紀子

作業療法学教育における教員相互の授業参観の現状と課題 本学作業療法学専攻の取り組み

日本医療大学紀要 9, P.139-150, 2023.

講演（特別講演、シンポジウム、一般講演、示説、その他）：

特別講演：

シンポジウム：

一般講演：

示説：

その他：

氏名 清本 憲太 学部 保健医療学部 学科 リハビリテーション学科 職階 准教授

専門分野：疼痛、知覚、整形外科学、作業療法学

教育活動：

責任科目：作業療法評価学（2 年次、1 単位、30 時間）、作業療法評価学演習（基礎評価）（2 年次、1 単位、30 時間）、作業療法評価学演習（神経・筋力系）（2 年次、1 単位、30 時間）、作業療法治療学特論（ハンドセラピー）（3 年次、1 単位、30 時間）

担当科目：基礎作業学演習（30 時間）、作業療法治療学（中枢神経系）（30 時間）。作業

療法治療学（内部障害・運動器障害）（30 時間）、作業療法治療学（中枢神経系）（60 時間）、日常生活適応学（ADL）（60 時間）、義肢装具作業療法学（30 時間）、義肢装具作業療法学演習（30 時間）、生理学演習（30 時間）、作業療法セミナーⅡ（30 時間）、床実習Ⅰ（作業療法）（90 時間）、臨床実習Ⅱ（作業療法）（270 時間）、臨床実習Ⅲ（作業療法）（360 時間）、臨床実習Ⅳ（作業療法）（360 時間）、卒業研究Ⅰ（60 時間）、卒業研究Ⅱ（30 時間）

非常勤講師：埼玉県立大学（身体機能作業療法学演習（基礎））、藤女子大学（日常生活活動）、札幌孝仁会記念病院（非常勤作業療法士）

学内委員会・学科内業務等：

教務委員会委員、カリキュラム委員会委員、学科内カリキュラム検討委員会、臨床実習担当（専攻内）、学生担当教員（4 年生）

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本作業療法士協会、日本手外科学会、日本ハンドセラピー学会、日本骨粗鬆症学会、日本骨代謝学会、日本作業療法研究学会、北海道整形災害外科学会、北海道骨粗鬆症研究会、北海道作業療法士会（教育部員）、北海道ハンドセラピー研究会（理事）

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：学術誌 作業療法 論文査読委員、作業療法ジャーナル 論文査読委員、作業療法の実践と科学 論文査読委員、日本作業療法士協会学会演題審査委員、北海道作業療法士会学会演題審査委員、北海道作業療法士会教育部員

顕彰：

なし

論文（著書、総説、原著、その他）：

著書：なし

総説：清本憲太. 痛みに対する作業療法の可能性－臨床と基礎研究の経験から. 作業療法ジャーナル 57 巻, 6-7. 2023.

原著：Koji Ibe, Kousuke Iba, Makoto Emori, Kenta Kiyomoto, Atsushi Teramoto, Toshihiko Yamashita. Static stretching of the ankle prevents cold hypersensitivity associated with limb immobilization in model mice. Journal of Orthopaedic Science. 2023. Online ahead of print.
Kenta Kiyomoto, Makoto Emori, Megumi Hanaka, Atsushi Teramoto, Hikaru Hayakawa, Kenichi Takashima, Toshihiko Yamashita, Kousuke Iba. Remission of hypersensitivity by simple weight load stimuli in a complex regional pain syndrome mouse model. Journal of Orthopaedic Research. 2023. 42(5), 1020-1032.

村上 正和, 清本 憲太, 合田 央志. 立ち上がり動作における動画解析ソフト Kinovea を用いた骨盤傾斜角度計測の妥当性. 日本医療大学紀要, 9 巻, 113-124. 2023.

八田 達夫, 清本 憲太, 新岡 美樹, 岸上 博俊, 及川 直樹, 合田 央志, 村上 元, 村上 正和, 大堀 具視. 作業療法学生が見た認知症高齢者へのスヌーズレン オンライン学内作業療法実習Ⅰを通して. 日本医療大学紀要, 9 巻, 3-12. 2023.

合田 央志, 清本 憲太, 大堀 具視, 八田 達夫, 岸上 博俊, 及川 直樹, 村上 元, 村上 正和, 坂口 紀子. 作業療法学教育における教員相互の授業参観の現状と課題 本学作業療法学専攻の取り組み. 日本医療大学紀要, 9 巻, 139-150. 2023.

合田 央志, 清本 憲太. 新人作業療法士における基本的態度面の困難感と生活リズムの管理の影響に関する予備的検討. 日本リハビリテーション教育学会誌, 7 巻, 70-80. 2024.

その他：なし

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：清本憲太：第 53 回北海道作業療法士学会学術集会 教育講演：痛みのメカニズムと作業療法の可能性、2023 年 6 月

清本憲太：令和 5 年度 北海道作業療法士会 オンライン研修会 講師「運動器疾患の慢性疼痛に対する作業療法」、2023 年 6 月

清本憲太：令和 5 年度 宮崎県作業療法士会 学術部教育研修会 講師「疼痛に対する作業療法士の治療戦略」、2023 年 10 月

清本憲太：第 11 回手稲溪仁会病院リハビリテーション部研修会 講師「疼痛のリハビリテーション-作業療法士の視点から-」、2024 年 3 月

シンポジウム：

清本憲太：日本健康行動科学会第 22 回学術大会シンポジウム シンポジスト：運動器の痛みと健康、2023 年 9 月

清本憲太：令和 5 年度 リハビリテーション学校協会北海道ブロック研修会 シンポジスト：地域実習、2024 年 2 月

一般講演：甲斐将平, 斉藤夢乃, 早崎涼太, 清本憲太. ボディスキャンを併用した作業療法が疼痛の改善と大切な作業である調理動作の獲得に至った TKA の事例. 第 53 回北海道作業療法学会. 2023 年 6 月. 北海道

垣見彰宏, 清本憲太, 大窪悠真, 小玉祐治, 石田和宏, 百町貴彦. 中心性脊髄損傷によるアロディニアが改善し職場復帰に至った一症例. 第 53 回北海道作業療法学会. 2023 年 6 月. 北海道

奥野大樹, 清本憲太, 大窪悠真, 小玉祐治, 石田和宏, 百町貴彦. 頸椎術後 C8 麻痺を呈した症例に対する装具を用いた治療経験. 第 53 回北海道作業療法学会. 2023 年 6 月. 北海道

東弘幸, 清本憲太, 大窪悠真, 小玉祐治, 石田和宏, 竹内裕介. 両手指関節炎により下肢で生活を代償していた症例における作業療法の経験. 第 53 回北海道作業療法学会. 2023 年 6 月. 北海道

清本 憲太, 射場 浩介, 早川 光, 高島 健一, 花香 恵, 山下 敏彦. 軟部組織損傷が骨代謝および筋代謝に及ぼす影響 軟部組織損傷モデルマウスを用いた検討. 第 37 回日本整形外科学会基礎学術集会. 2023 年 10 月. 茨城県

新岡美樹, 八田達夫, 大堀具視, 清本憲太. スヌーズレンを体験した介護職員へのインタビュー結果の考察—認知症ケアモデルの確立に向けて—. 第 57 回日本作業療法学会. 2023 年 11 月. 沖縄県

合田央志, 清本憲太, 村上正和, 大堀具視. 作業療法学学生の課題先延ばし傾向が動機づけと自己調整方略に与える影響. 第 57 回日本作業療法学会. 2023 年 11 月. 沖縄県

村上正和, 清本憲太, 合田央志. 立ち上がり動作における無料の二次元動作解析ソフトウェアによる骨盤前傾角と骨盤角に対する相対的な股関節屈曲角度の測定. 第 57 回日本作業療法学会. 2023 年 11 月. 沖縄県

甲斐将平, 斉藤夢乃, 早崎涼太, 清本憲太. 疼痛に対するペーシングを併用した介入によって大切な作業の獲得に至った THA の事例. 第 57 回日本作業療法学会. 2023 年 11 月. 沖縄県

甲斐将平, 斉藤夢乃, 安倍大樹, 早崎涼太, 清本憲太. ボディスキャンを用いた介入により疼痛の即時的な軽減を認めた TKA 事例. 第 7 回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会. 2023 年 11 月. 宮崎県

中谷美咲, 澤木優治, 清本憲太, 入江 伸介. 抗 NMDA 受容体脳炎における緩徐回復期の初期に認知リハビリテーションが奏功し ADL 自立に至った一例. 第 7 回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会. 2023 年 11 月. 宮崎県

藤井裕康, 宮本瑞希, 猿田真理絵, 清本憲太, 早崎涼太. 産後に生じた Baby wrist に対して介入した事例～産後女性への作業療法の可能性を考える～. 第 36 回岡山県作業療法学会. 2024 年 2 月. 岡山県

宮本瑞希, 藤井裕康, 猿田真理絵, 清本憲太, 早崎涼太. 産前の腱鞘炎予防教室を通じた指導が産後の手関節痛に有用と考えられた事例. 第 36 回岡山県作業療法学会. 2024 年 2 月. 岡山県

甲斐将平, 早崎涼太, 久木崎航, 笹川郁, 清本憲太. ボディスキャンが疼痛への即時効果を認め, 大切な作業である調理動作獲得が円滑に進んだ人工膝関節全置換術後の事例. 第 9 回日本臨床作業療法学会. 2024 年 3 月. 東京都

早崎涼太, 猿田真理絵, 宮本瑞希, 藤井裕康, 清本憲太. 妊産婦の手の疼痛に対する作業療法・ハンドセラピーのスクーピングレビュー-Well-being 実現のための課題と今後の展望-. 第 9 回日本臨床作業療法学会. 2024 年 3 月. 東京都

示説：

その他：

氏名 合田 央志 学部 保健医療学部 学科 リハビリテーション学科 職階
講師

専門分野：福祉用具学，福祉住環境論

教育活動：

責任科目：情報科学演習（1年前期、1単位、15時間）、基礎作業学演習（1年前期、1単位、15時間）、作業療法セミナーⅢ（3年後期、1単位、30時間）、作業療法セミナーⅠ（1年後期、1単位、30時間）

担当科目：基礎作業学演習（1年後期、1単位、15時間）、作業療法評価学演習（骨・関節系）（1年前期、1単位、15時間）、作業療法セミナーⅠ（1年後期、1単位、15単位）、生理学演習（2年前期、1単位、30時間）、作業療法セミナーⅡ（2年後期、1単位、15単位）、作業療法セミナーⅢ（3年後期、1単位、30時間）、生理学演習（2年前期、1単位、30時間）、運動学演習（2年後期、1単位、15時間）、卒業研究Ⅰ（3年後期、1単位、15時間）、作業療法治療学特論（治療理論）（3年後期、1単位、15時間）、作業療法概論（1年前期、1単位、15時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

図書学術振興委員会，研究費審査委員会，リメディアル委員会，相互授業参観、実習担当，学担

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本作業療法学会、北海道作業療法士会、北海道作業療法学会（演題査読委員）、日本リハビリテーション工学カンファレンス

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：全国リハビリテーション学校協会北海道ブロック 幹事

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：

総説：

原著：合田央志，清本憲太：新人作業療法士における基本的態度面の困難感と生活リズムの管理の影響に関する予備的検討，日本リハビリテーション教育学会誌 7(1): 70-80,2023 教育

その他：実践報告 合田央志，清本憲太，大堀具視，八田達夫，岸上博俊，及川直樹，村上元，村上正和，坂口紀子：作業療法学教育における教員相互の授業参観の現状と課題～本学作業療法学専攻の取り組み～日本医療大学紀要 9: 139-150, 2023.

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：

シンポジウム：

一般講演：合田央志，清本憲太，村上正和，大堀具視：作業療法学学生の課題先延ばし傾向が動機づけと自己調整方略に与える影響，日本作業療法学会抄録集 57:1440-1440,2023（沖縄）

示説：

その他：

氏名 村上 正和 学部 保健医療学部 学科 リハビリテーション学科 職階 講師

専門分野：身体障害領域（脳血管疾患，呼吸器疾患，神経難病，がん，高次脳機能，MTDLP，福祉用具），地域，高齢期

教育活動：

責任科目：作業療法セミナーⅡ（2年次，1単位，30時間），高次脳機能障害作業治療学（3年次，1単位，20時間），作業療法評価学演習（中枢神経系）（2年次，1単位，8時間），地域作業療法学（3年次，1単位，16時間）

担当科目：作業療法セミナーⅡ（2年次，1単位，30時間），高次脳機能障害作業治療学（3年次，1単位，20時間），作業療法評価学演習（中枢神経系）（2年次，1単位，8時間），地域作業療法学（3年次，1単位，16時間），高次脳機能障害学（3年次，1単位，10時間），作業療法概論（1年次，1単位，2時間），作業療法セミナーⅢ（3年次，1単位，30時間），基礎作業学演習（1年次，1単位，2時間），作業療法評価学演習（基礎評価）（2年次，1単位，10時間），福祉住環境論 2019（3年次，1単位，6時間），福祉住環境論（2年次，1単位，6時間），地域リハビリテーション学（2年次，1単位，2時間），地域リハビリテーション学演習（2年次，1単位，8時間），高齢期障害作業治療学（3年次，2単位，20時間），日常生活適応学（ADL）2019（3年次，2単位，8時間），日常生活適応学（ADL）（2年次，2単位，8時間），身体障害作業療法治療学（中枢神経障害系）（3年次，2単位，20時間），呼吸リハビリテーション特論（3年次，1単位，4時間），作業療法総合演習（4年次，1単位，30時間），臨床実習Ⅰ（作業療法）（2年次，2単位，90時間），臨床実習Ⅱ（作業療法）（3年次，4単位，180時間），臨床実習Ⅲ（作業療法）（4年次，8単位，360時間），臨床実習Ⅳ（作業療法）（4年次，8単位，360時間），卒業研究Ⅰ（3年次，2単位，60時間），卒業研究Ⅱ（4年次，1単位，30時間）

非常勤講師：北星学園大学，北海道医療大学地域包括ケアセンター（臨床指導）

学内委員会・学科内業務等：

学内委員会：FD委員会，人権擁護委員会、学科内業務：臨床実習担当，国家

試験対策担当，専攻内カリキュラムワーキンググループ，3年生学年担任
学術活動：

所属学会・研究会等：

北海道作業療法士会，日本作業療法士協会，日本肩関節学会，認知神経リハビリテーション学会，日本訪問リハビリテーション協会，神経難病リハビリテーション研究会，日本作業行動学会，日本呼吸ケア・リハビリテーション学会，北海道リハビリテーション学会，日本心臓リハビリテーション学会，日本嚥下リハビリテーション学会，脳神経とリハビリテーション研究会，作業療法神経科学研究会，日本腎臓リハビリテーション学会，日本サルコペニア・フレイル学会

科学研究費（研究資金）の取得

2022 年度 若手研究「360° カメラと VR 技術を併用した視覚誘導性自己運動錯覚の効果」代表者

2023 年度 基盤研究（C）「認知機能に障害のある高齢者における歩行時の視線特性を活かした転倒予防策の考案」分担者

社会活動：日本訪問リハビリテーション協会・学術部，日本訪問リハビリテーション協会・調査研究部，北海道リハビリテーション専門職協会・事業部，北海道作業療法士会・地域部，短期集中講座（境を越えて・リハビリテーション学科 2023）現地スタッフ，令和5年度第2回厚別区・地区福祉のまち推進センター運営委員会厚別区福祉のまち活動調整員連絡会議・講師，2023 年度地域における見守り・支え合い活動のためのボランティア・住民研修会・講師，北海道作業療法士会・臨床実習指導者講習会・講師，日本医療大学・臨床実習指導者講習会・講師，iCare ほっかいどう ボランティアスタッフ

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：木村 優斗，佐藤 嶺，村上 正和，三浦 一志：回復期リハビリテーション病等における脊椎圧迫骨折患者の天気先の判断のための Functional Independence Measure のカットオフ値の検討．道南医学会ジャーナル 6（1），2023．

木村 優斗，村上 正和：大腿骨近位部骨折，及び脊椎圧迫骨折患者における対数関数曲線を用いた FIM 予測の有用性．作業療法の実践と科学 5（1），2023．

八田達夫，清本憲太，新岡美樹，岸上博俊，及川直樹，合田央志，村上元，村上正和，大堀具視：作業療法学生が見た認知症高齢者へのスヌーズレン：オンライン学内作業療法実習 I を通して．日本医療大学紀要 9，2023．

木村優斗，村上正和：回復期リハビリテーション病棟における大腿骨近位部骨折

患者の転帰先の予測因子の検討. The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine.
<https://doi.org/10.2490/jjrmc.23023>

木村優斗, 村上正和: 回復期リハビリテーション病棟における重度認知症患者の
転帰先に影響する因子の検討-家族介護力に着目して-. 日本認知症予防学会誌 12
(1), 2023.

その他: 研究報告

村上正和, 清本憲太, 合田央志: 立ち上がり動作における動作解析ソフト Kinovea
を用いた骨盤傾斜角度計測の妥当性. 日本医療大学紀要 9, 2023.

実践報告

合田央志, 清本憲太, 大堀具視, 八田達夫, 岸上博俊, 及川直樹, 村上元, 村上
正和, 坂口紀子: 作業療法学教育における教員相互の授業参観の現状と課題～
本学作業療法学専攻の取り組み～. 日本医療大学紀要 9, 2023.

講演 (特別講演, シンポジウム, 一般講演, 示説, その他):

特別講演: なし

シンポジウム: なし

一般講演: 第 58 回日本作業療学会「立ち上がり動作における無料の二次元動作解析ソ
フトウェアによる骨盤前傾角と骨盤角に対する相対的な股関節屈曲角度の測
定」

示説: なし

その他: なし

氏名 村上 優衣 学部 保健医療学部 学科 リハビリテーション学科 職階
講師

専門分野: 発達障害、神経心理学、高次脳機能障害学

教育活動:

責任科目: 発達障害作業治療学 (3 年次、2 単位、28 時間)、就労支援作業療法学 (3 年
次、1 単位、10 時間)、高次脳機能障害学 (3 年次、1 単位、20 時間)

担当科目: 発達障害作業治療学 (28 時間)、就労支援作業療法学 (10 時間)、高次脳機能
障害学 (20 時間)、人間発達学 (14 時間)、生理学演習 (30 時間)、情報科学
演習 (15 時間)、作業療法評価学演習 (骨・関節系) (30 時間)、高次脳機能
障害作業療法治療学 (10 時間)、地域作業療法学 (4 時間)、地域リハビリテ
ーション演習 (6 時間)、作業療法概論 (2 時間)、総合演習 (2 時間)、卒業研
究 I (30 時間)

非常勤講師: 札幌リハビリテーション専門学校 (発達障害作業療法学実習)、札幌医学技
術福祉歯科専門学校 (知的障害 II、広汎性発達障害、発達障害作業療法治療
学)

学内委員会・学科内業務等：

研究倫理委員会、募集必達プロジェクト、学生担任教員（4年生）、国家試験業務（専攻内）

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本作業療法士協会、北海道作業療法士会、日本生体磁気学会、日本神経心理学会、日本子ども学会、作業療法神経科学研究会

科学研究費（研究資金）の取得：日本医療大学学術助成金

社会活動：「作業療法の実践と科学」論文審査委員、重度肢体不自由児者・医療的ケア児親子交流サロン つながるカフェ any（2023年4月8日、5月13日、8月12日）、すずらんピック 2023 第23回札幌市障がい者スポーツ大会運営 審判員等（2023年11月19日）、東月寒セーフティフェスタ（2023年9月12日）、江別市子ども発達支援センター臨床指導

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：村上優衣，韓 宇，渡辺隼人，下條暁司，横澤宏一．アバターおよびそのコミュニケーションによる顔認知領野の脳活動．日本医療大学紀要 第10巻 掲載予定

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：菅原美保，小橋拓真，村上優衣，鹿内あずさ．地域に暮らす障がい児（者）への発達支援 ～ イベント交流を通じた学生の学び ～，日本子ども学会．2023年9月23日．東京都．

Ayahito Ito., Ryuta Aoki., Akihiro Watanabe., Yukina Tokikuni., Kazuki Yoshida., Yui Murakami., Shunichi Ogawa., Daisuke Sawamura., Hiroyoshi Ogishima., Ryuichi Tamai., Shogo Kajimura., Mie Kito., Masanori Yamanaka., Keise Izuma.: Neural predictors of the person impression. 日本神経科学大会 2023.8.3, 仙台.

示説：なし

その他：なし

氏名 坂口 紀子 学部 保健医療学部 学科 リハビリテーション学科 職階

助教

専門分野：高齢期，車いす，シーティング，福祉用具，認知症，神経難病，リハビリテーション，作業療法

教育活動：

責任科目：福祉住環境論（2年後期/1単位/13コマ）、福祉住環境論（3年後期/1単位/13コマ）

担当科目：福祉住環境論（2年後期/1単位/13コマ）、福祉住環境論（3年後期/1単位/13コマ）、解剖学演習（1年前期/2単位/60コマ）、日常生活適応学（ADL）（3年前期/2単位/4コマ）、卒業研究Ⅰ（3年通年/2単位/60コマ）、作業療法概論（1年前期/1単位/1コマ）、作業療法評価学演習（中枢神経系）（2年後期/1単位/2コマ）、身体障害作業治療学（中枢神経障害系）（3年後期/1単位/5コマ）、運動学演習（2年後期/2単位/30コマ）、基礎作業学演習（1年後期/1単位/4コマ）、高齢期障害作業治療学（3年後期/1単位/4コマ）、日常生活適応学（ADL）（2年後期/2単位/4コマ）、作業療法治療学特論（シーティング）（3年後期/1単位/8コマ）、作業療法セミナーⅡ（2年後期/1単位/4コマ）、作業療法セミナーⅢ（3年後期/1単位/8コマ）、作業療法総合演習（4年後期/1単位/2コマ）、臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅳ

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

大学親睦会委員，実習担当，国家試験対策，学科会議議事録作成，高校訪問

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本作業療法士会，北海道作業療法士協会，リハビリテーション工学協会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：出前授業（とわの森三愛高校）

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：なし

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：なし

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：なし

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：なし

示説：なし

その他：なし

氏名 宝田 光 学部 保健医療学部 学科 リハビリテーション学科 職階 助教

専門分野： リハビリテーション科学

教育活動：

責任科目：精神障害作業治療学（2023 年開講 2 単位 32 時間）

担当科目：作業療法概論（2 時間）、基礎作業学演習（2 時間）、作業療法セミナーⅠ（26 時間）、作業療法セミナーⅢ（16 時間）、作業療法総合演習（4 時間）、作業療法評価学（6 時間）、作業療法評価学演習（基礎評価）（30 時間）、作業療法評価学演習（神経・筋力系）（30 時間）、作業療法評価学演習（中枢神経系）（30 時間）、身体障害作業治療学（中枢神経障害系）（20 時間）、精神障害作業治療学（32 時間）、日常生活適応学（ADL）（10 時間）、

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：なし

学術活動：

所属学会・研究会等：

北海道作業療法士会、日本作業療法士協会、日本臨床作業療法学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：なし

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：なし

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：なし

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：第 57 回日本作業療法学会 「感覚性運動失調を呈した脳卒中者に対する振動刺激と装具療法を併用した課題指向型訓練の実践」

示説：なし

その他：なし

11-1-④ 保健医療学部 診療放射線学科教員

氏名 木村 徹 学部 保健医療学部 学科 診療放射線学科 職階 教授

専門分野： 医療画像情報学、医療画像工学、医療画像処理学

教育活動：

責任科目：医療画像処理学（2 年次後期、1 単位 15 時間、15 時間）、診療画像技術学実験 II（3 年次前期、1 単位 45 時間、45 時間）、医療画像工学（3 年次前期、2 単位 30 時間、30 時間）、医療画像情報学（3 年次後期、2 単位 30 時間、30 時間）、医療画像情報学演習（4 年次後期、1 単位 30 時間、30 時間）、総合演習 I（4 年次後期、1 単位 30 時間、4 時間）

担当科目：医療画像処理学（15 時間）、医用工学実験（15 時間）、診療画像技術学実験 II（26 時間）医療画像工学（30 時間）、医療画像情報学（30 時間）、医療画像情報学演習（30 時間）、総合演習 I（6 時間）、臨床実習 I（4.5 時間）、臨床実習 II（45 時間）、補講：国家試験対策（第 1 種放射線取扱主任者試験対策講義）（4 時間）

学内委員会・学科内業務等：

教授会、教務委員会、国家試験対策委員会、2 学年担任、学科臨床実習 WG 責任者、学科国家試験対策小委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本アイソトープ協会、日本放射線技術学会、日本診療放射線学教育学会（理事）、日本放射線技師教育学会、生体医工学会、精密工学会、

科学研究費（研究資金）の取得：

学内教育向上研究費「大学教育において学習教材が学習効果に及ぼす影響」（分担）

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

論文（著書、総説、原著、その他）：なし

著書：なし

総説：なし

原著：「診療放射線技師国家試験の学習において学習媒体が学習効果におよぼす影響」（日本診療放射線学教育学会機関誌）（分担）（査読中）

「タブレットによる学習効果」（日本医療大学紀要第 10 巻）（分担）（査読中）

「大学教育におけるモンテカルロシミュレーションの導入-1 学年の学習効果-」（日本医療大学紀要第 10 巻）（分担）（査読中）

「テキストマイニングによる第一種放射線取扱主任者試験問題の解析」

（日本医療大学紀要第 10 巻）（分担）（査読中）

その他：なし

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：なし

特別講演：なし

シンポジウム：

「診療放射線技師国家試験の学習において学習媒体が学習効果におよぼす影響」（第 17 回日本診療放射線学教育学会学術集会）

一般講演：なし

示説：なし

その他：なし

氏名 西山 修輔 学部 保健医療学部 学科 診療放射線学科 職階 教授

専門分野： プラズマ計測学

教育活動：

責任科目：放射線物理学（1 年次、2 単位、30 時間）、放射線物理学演習（2 年次、1 単位、30 時間）、電気・電子工学（2 年次、2 単位、30 時間）、医用工学（2 年次、2 単位、30 時間）、医用工学（1 年次、2 単位、30 時間）、放射線・物理学実験（1 年次、1 単位、45 時間）

担当科目：放射線物理学（30 時間）、放射線物理学演習（30 時間）、電気・電子工学（30 時間）、医用工学（2 年次）（30 時間）、医用工学（1 年次）（30 時間）、放射線物理学実験（24 時間）、放射線・物理学実験（30 時間）、診療画像機器学（4 時間）、総合演習 I（専門基礎領域）（8 時間）、卒業研究（120 時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

カリキュラム委員会（委員長）、研究費審査委員会、教務委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：

応用物理学会、プラズマ・核融合学会

科学研究費（研究資金）の取得：

科研費（基盤研究(C)）「半導体レーザーとリングキャビティを用いた高感度電界電界計測法の開発」（2023～2025 年度）代表者、核融合科学研究所一般共同研究「LHD における長光路に適した飽和吸収分光法の開発」代表者、核融合科学研究所一般共同研究「水素負イオン源におけるダブルシース電場計測のための高感度シュタルク分光法の開発」代表者

社会活動：なし

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：Kimika Fushimi, Shusuke Nishiyama, Satoshi Tomioka and Koichi Sasaki, “Saturated cavity ringdown spectroscopy at Balmer- α line of atomic hydrogen for estimating sheath electric field in plasma”, Journal of Instrumentation, 18, C10002, 2023

その他：なし

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：S. Nishiyama, M. Goto, H. Nakano, and K. Sasaki, “High-sensitivity Lamb dip spectroscopy with frequency modulation technique”, 20th International Symposium on Laser-Aided Plasma Diagnostics, Kyoto, Japan, 2023

K. Sasaki, K. Fushimi, S. Tomioka, and S. Nishiyama, “Cavity ringdown Lamb dip spectroscopy at Balmer α line of atomic hydrogen for measuring electric field in plasma”, 20th International Symposium on Laser-Aided Plasma Diagnostics, Kyoto, Japan, 2023

示説：なし

その他：なし

氏名 原田 邦明 学部 保健医療学部 学科 診療放射線学科 役職 学科長
職階 教授

専門分野：磁気共鳴画像検査学

教育活動：

責任科目：MR I 検査学（2023 年 2 年後期、15 単位、30 時間）、MR I 検査学（旧カリ）
（2023 年 3 年後期、15 単位、30 時間）、画像診断学 I（2023 年 3 年後期、
15 単位、30 時間）

担当科目：応急処置法（2 コマ）、放射線技術学特別講義（2 コマ）、診療画像検査学概論
（2 コマ）、診療画像技術学 II（造影検査）（2 コマ）、総合演習 II（臨床領域）
（2 コマ）、障害学特論（2 コマ）

非常勤講師：札幌医科大学保健医療学部理学療法学科（神経障害理学療法学演習）

学内委員会・学科内業務等：

図書・学術振興委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本磁気共鳴医学会（評議員）、日本放射線技術学会（評議員）

科学研究費（研究資金）の取得：

社会活動：社会医療法人柏葉会のアドバイザー

顕彰：

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：

総説：

原著：（共著） Low b-value Diffusion Tensor Imaging to Analyze the Dynamics of Cerebrospinal Fluid: Resolving Intravoxel Pseudorandom Motion into Ordered and Disordered Motions.

Bito Y, Ochi H, Shirase R, Yokohama W, **Harada K**, Kudo K.

Magn Reson Med Sci. 2023 Oct 27. doi: 10.2463/mrms.mp.2023-0081. Online ahead of print.

PMID: 37899254

その他：（共著）Case report: Self-restraint in a patient with alien hand syndrome following cerebral infarction involving the anterior cerebral artery territory

Sugawara K, Takeuchi T, **Harada K**, Taki M, Fujimura I, Kogami Y, Furuta R.

Front. Neurol., 14 July 2023

doi.org/10.3389/fneur.2023.1203450

PMID: 37521292

Differences between Acute Embolic and Atherosclerotic Middle Cerebral Artery Occlusion in Multiphase Arterial Spin-labeling Imaging.

Ito Y, Sugiyama T, Terasaka S, Matsuzawa H, **Harada K**, Nakayama N, Ito M, Maruichi K, Fujimura M.

Neurol Med Chir (Tokyo). 2024 Mar 4. doi: 10.2176/jns-nmc.2023-0237.

PMID: 38432944

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：

シンポジウム：第 51 回日本磁気共鳴医学会大会 9/22 イブニングセミナー座長

一般講演：

示説：

その他：

氏名 樋口 健太 学部 保健医療学部 学科 診療放射線学科 職階 教授

専門分野：放射化学・環境放射線、保健物理学・放射線管理学、放射線教育

教育活動：

責任科目：化学（1 年次前期、1 単位 15 時間、15 時間）、医療コミュニケーション学（1 年次後期、1 単位 15 時間、15 時間）、放射化学（1 年次後期、2 単位 45 時間、45 時間）、放射化学演習（2 年次前期、1 単位 30 時間、30 時間）、臨床解

剖学演習（2 年次前期、1 単位 30 時間、30 時間）、臨床解剖学演習（3 年次前期、1 単位 30 時間、30 時間）、画像診断学Ⅱ（胸部・心大血管・消火器他）（4 年次前期、2 単位 30 時間、30 時間）、画像診断学Ⅲ（演習）（4 年次後期、1 単位 30 時間、30 時間）、卒業研究（4 年次通年、4 単位 120 時間、120 時間）
担当科目：化学（1 年次前期、1 単位 15 時間、15 時間）、医療コミュニケーション学（1 年次後期、1 単位 15 時間、15 時間）、放射化学（1 年次後期、2 単位 45 時間、45 時間）、放射化学演習（2 年次前期、1 単位 30 時間、30 時間）、臨床解剖学演習（2 年次前期、1 単位 30 時間、30 時間）、臨床解剖学演習（3 年次前期、1 単位 30 時間、30 時間）、画像診断学Ⅱ（胸部・心大血管・消火器他）（4 年次前期、2 単位 30 時間、30 時間）、画像診断学Ⅲ（演習）（4 年次後期、1 単位 30 時間、30 時間）、総合演習Ⅰ（専門基礎領域）（4 年次後期、1 単位 30 時間、4 時間）卒業研究（4 年次通年、4 単位 120 時間、120 時間）、チーム医療（看護学科 2 年次後期、1 単位 15 時間、2 時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

教授会、FD 委員会（委員長）、研究倫理委員会、国際交流委員会、学年担当教員（1 年担当 B）

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本診療放射線技師会、日本放射線技術学会、放射線安全取扱部会、日本放射線公衆安全学会、診療放射線学教育学会、日本放射線技師教育学会、北海道放射線技師会、札幌放射線技師会、日本放射線技術学会北海道支部会、日本放射線技術学会学術推進員、日本放射線技術学会 北海道支部 放射線計測防護専門委員、日本保健物理学会、日本放射線影響学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：北海道 FDSO 協議会委員、環境省情報発信事業「ラジエーションカレッジセミナー」講師選出

顕彰：なし

論文（著書、総説、原著、その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：Kenta HIGUCHI. (2023). Measurement of air gamma-ray dose rates and effective dose in Hokkaido. Bulletin of Japan Healthcare University, 2023, Vol.9, 13-21, ISSN-2189-2830.
Kenta HIGUCHI, Satoshi Fujita. (2024). Measurement of indoor radon concentration in Hokkaido. Bulletin of Japan Healthcare University, 2024, Vol.10, ISSN-2189-2830.
Satoshi Fujita. Kenta HIGUCHI. (2024). Evaluation of environmental radiation in central

Hokkaido using mobile survey. Bulletin of Japan Healthcare University, 2024, Vol.10, ISSN-2189-2830.

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：なし

特別講演：なし

シンポジウム：なし

国際学会：Kenta Higuchi, Analysis of Trends in Questions Related to Medical Imaging in the Radiological Technologist National Examination. The 30th East Asia conference of Radiological Technologists (EART) World Congress. 30 September 2023. Kumamoto, Japan.

示説：なし

その他：なし

氏名 福山 篤司 学部 保健医療学部 学科 診療放射線学科 職階 教授

専門分野：診療画像機器学、磁気共鳴検査学、医療技術評価学、放射線科学

教育活動：

責任科目：診療画像機器学（2 年次、2 単位、30 時間）、診療画像機器学演習（3 年次、1 単位、30 時間）、画像解剖学Ⅱ（MRI・超音波・造影画像）（3 年次、2 単位、30 時間）、診療画像機器学実験（3 年次、1 単位、45 時間）、放射線技術学実習Ⅱ（2 年次、1 単位、30 時間）、核医学検査機器学（3 年次、2 単位、30 時間）

担当科目：診療画像機器学（24 時間）、診療画像機器学演習（30 時間）、画像解剖学Ⅱ（MRI・超音波・造影画像）（20 時間）、診療画像機器学実験（45 時間）、放射線技術学実習Ⅱ（30 時間）、早期臨床実習（45 時間）、臨床実習Ⅰ（180 時間）、臨床実習Ⅱ（225 時間）、総合演習Ⅱ（8 時間）、卒業研究（120 時間）

非常勤講師：

学内委員会・学科内業務等：

教授会、自己点検・評価委員会、学生委員会（副委員長）、大学院保健医療学研究科開設準備委員会、大学院入学者選抜試験選抜委員会、大学院入学者選抜試験委員

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本磁気共鳴医学会、日本放射線技術学会、4D FLOW 研究会、医用画像情報学会、十勝放射線技師会

科学研究費（研究資金）の取得：

科学研究費 基盤研究（C）「深層学習を用いた 4D flow MR 撮像時における取得タイミングのズレの改善法」代表者

社会活動：第 51 回日本放射線技術学会秋季学術大会 第 1 会場 MR（心臓・4D-flow）, 2023 年 10 月 27 日, 名古屋国際会議場（愛知県名古屋市）.

顕彰：なし

論文（著書, 総説, 原著, その他）:

著書：なし

総説：なし

原著：Shiori Niwa, Fumiya Hisano, Ayana Mawaki, Keisuke Nakanishi, Sachiyo Watanabe, Atsushi Fukuyama, Toyone Kikumori, Kazuhiro Shimamoto, Kuniharu Imai, Etsuko Fujimoto, Chika Oshima. Exploring Indicators of Subcutaneous Tissue Fluid Accumulation in Breast Cancer-Related Lymphedema Patients Using Fractal Analysis with Virtual Volume. *Lymphat Res Biol.* 21(5):432-438.

その他：福山篤司, 杉本芳則. 診療放射線学科における 3D プリンタを活用した教育プログラムの構築. *日本医療大学紀要.* 9: p161-167.

岡本純奈, 福山篤司, 礒田治夫, 齋藤博華, 田端大輝, 市川和茂, 水野崇, 藤田智. 4D flow MR 撮像における心電同期法の違いが血流動態解析に及ぼす影響について. *電子情報通信学会技術研究報告.* MI2023-52: p67-68.

齋藤博華, 福山篤司, 礒田治夫, 岡本純奈, 水野崇, 小山修司, 岸本修明, 本庄悠人. 血流動態解析の精度検証に使用する流体ファントムの作製 —材質の違う 2 種類の模擬血管における検討—. *電子情報通信学会技術研究報告.* MI2023-52: p73-74.

福山篤司, 小山修司, 礒田治夫. 血流動態解析の精度検証に使用する流体ファントムの作製 —材質の違う 2 種類の模擬血管における検討—. *名古屋大学脳とこころの研究センター令和 5 年度活動報告書.* p18.

講演（特別講演, シンポジウム, 一般講演, 示説, その他）:

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：岡本純奈, 福山篤司, 礒田治夫, 齋藤博華, 田端大輝, 市川和茂, 水野崇, 藤田智. 4D flow MR 撮像における心電同期法の違いが血流動態解析に及ぼす影響について. *医用画像研究会（メディカルイメージング連合フォーラム 2024）*, 2024 年 3 月 3 日. 沖縄県青年会館（沖縄県那覇市）.

齋藤博華, 福山篤司, 礒田治夫, 岡本純奈, 水野崇, 小山修司, 岸本修明, 本庄悠人. 血流動態解析の精度検証に使用する流体ファントムの作製 —材質の違う 2 種類の模擬血管における検討—. *医用画像研究会（メディカルイメージング連合フォーラム 2024）*, 2024 年 3 月 3 日. 沖縄県青年会館（沖縄県那覇市）.

示説：なし

その他：

氏名 菊地 実 学部 保健医療学部 学科 診療放射線学科 職階 准教授

専門分野： 医用生体工学、医用システム、放射線科学

教育活動：

責任科目：超音波検査学（3 年、2 単位、30 時間）

担当科目：診療画像技術学概論（2 年、1 単位、2 時間）、診療画像技術学実験Ⅱ(CT,超音波,眼底)（3 年、1 単位、45 時間）、診療画像機器学実験（3 年、1 単位、45 時間）、系統解剖学演習（1 年、1 単位、10 時間）、診療画像検査学概論（1 年、2 単位、4 時間）、総合演習Ⅱ（4 年、2 単位、2 時間）、臨床実習Ⅰ（3 年、4 単位、180 時間）、臨床実習Ⅱ（4 年、6 単位、270 時間）、卒業研究（4 年、4 単位、120 時間）

非常勤講師：北海道医療大学（画像検査学演習）、北海道医薬専門学校（超音波検査学、超音波検査学実習）

学内委員会・学科内業務等：

人権擁護委員会、保健管理委員会、臨床実習 WG、就職活動 WG

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本超音波医学会（地方会幹事）、日本超音波検査学会（理事、査読委員、標準化委員）、日本糖尿病学会、日本アミロイドーシス学会、北海道 CVT（血管診療技師）の会（代表幹事）

科学研究費（研究資金）の取得：代表 1、分担 1

基盤研究（C）20K10572、糖尿病非専門看護師のためのインスリン注射技術に関する新たな教育ツールの開発、分担者

基盤研究（C）21K10568、AI 技術によるインスリン自己注射管理指導のためのエコーシステムの開発、代表者

社会活動：超音波検査技術指導（愛育病院、則武クリニック、深瀬医院）

顕彰：なし

論文（著書、総説、原著、その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：2 編【AI 技術によるインスリン自己注射管理指導のためのエコーシステムの開発】

菊地実，超音波 TECHNO，2023；第 35 巻第 2 号：17-20

【Insulin-derived amyloidosis (insulin ball) and skin-related complications of insulin therapy】Nagase T, Iwaya K, Zako T, Kikuchi M, Katsura Y.

Nihon Yakurigaku Zasshi. 2023;158(2):173-177. doi: 10.1254/fpj.22109.

その他：

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

シンポジウム：

【日本超音波医学会 第 96 回学術集会】（2023 年 5 月 27 日～29 日）

パネルディスカッション 『血管治療の最前線！エコー屋がやるべきこと』、
「透析シャント経過観察のポイント」

一般講演：【日本超音波検査学会 第 44 回北海道地方会】（2023 年 7 月 29 日）『透析スタッフに喜ばれる報告書の書き方』

その他：【令和 5 年度臨床工学技士病院間技術交流研修会】（2023 年 4 月 22 日）「シャントエコーの基礎と報告書」ZOOM

【令和 5 年度第 1 回臨床検査セミナー】（2023 年 10 月 7 日）「時間をかけない
下肢動脈エコーを考える」

氏名 島 勝美 学部 保健医療学部 学科 診療放射線学科 職階 准教授

専門分野： 放射線治療、放射線計測、放射線防護

教育活動：

責任科目：放射線科学概論（1 年次前期、2 単位 30 時間、30 時間）、放射線計測学（2 年次前期、2 単位 30 時間、30 時間、旧カリキュラム放射線計測学（3 年次前期、2 単位 30 時間、30 時間）、放射線計測学演習（4 年次前期、1 単位 30 時間、30 時間）、核医学検査技術学（3 年次後期、2 単位 30 時間、0 時間）、核医学検査技術学演習（4 年次後期、1 単位 30 時間、0 時間）、放射線治療機器学（3 年次後期、1 単位 15 時間、15 時間）、放射線安全管理学（3 年次後期、2 単位 30 時間、30 時間）、関係法規（4 年次前期、1 単位 15 時間、15 時間）放射性医薬品学（2 年次後期、1 単位 15 時間、0 時間）

担当科目：放射線科学概論（30 時間）、放射線計測学（30 時間）、旧カリキュラム放射線計測学（30 時間）、放射線計測学演習（30 時間）、放射線治療機器学（15 時間）、放射線安全管理学（30 時間）、関係法規（15 時間）、画像解剖学 I（X 線画像）（6 時間）、総合演習 I（6 時間）、診療画像機器学実験（45 時間）、卒業研究（120 時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

教授会、教務委員、カリキュラム委員、2 年副担任、臨床実習 WG、告示研修 WG

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本放射線技師会、北海道放射線技師会、札幌市放射線技師会、日本医学物

理士会、日本放射線技術学会、日本放射線技術学会放射線治療部会、日本医学
物理学会、日本放射線腫瘍学会、日本アイソトープ協会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：なし

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：なし

示説：診療放射線技師国家試験の学習において学習媒体が学習効果に及ぼす影響につい
て 第 17 回日本放射線学教育学会学術集会（於：東京都） 小笠原凌介，渡辺侑
也，齋藤克典，島勝美，阿部匡史，木村徹，杉本芳則
テキストマイニングを使用した診療放射線技師教育 第 17 回日本放射線学教
育学会学術集会（於：東京都）渡辺侑也、小笠原凌介、島勝美、阿部匡史、木村
徹、杉本芳則、細川翔太、高橋康幸

その他：

氏名 阿部 匡史 学部 保健医療学部 学科 診療放射線学科 職階 講師

専門分野： 放射線治療技術学

教育活動：

責任科目：情報科学（1 年次、1 単位、15 時間）、情報科学演習（1 年次、1 単位、30 時
間）、核医学検査技術学概論（3 年次、2 単位、30 時間）、放射線治療技術学概
論[旧]（3 年次、2 単位、30 時間）、放射線治療技術学概論（2 年次、2 単位、
30 時間）、放射線治療技術学（3 年次、2 単位、30 時間）、放射線治療計測学
（4 年次、1 単位、15 時間）、放射線治療技術学演習（4 年次、1 単位、30 時
間）、総合演習Ⅱ（4 年次、1 単位、30 時間）

担当科目：情報科学（15 時間）、情報科学演習（30 時間）、診療画像技術学実験Ⅱ（48 時
間）、放射線治療技術学概論[旧]（30 時間）、放射線治療技術学概論（30 時間）、
放射線治療技術学（30 時間）、放射線治療計測学（15 時間）、放射線治療技術
学演習（30 時間）、総合演習Ⅱ（30 時間）、卒業研究（120 時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

研究倫理委員会、入学者選抜委員会、国家試験対策小委員会、4 年次学年担任、
臨床実習、就職活動

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本診療放射線技師会、日本放射線技術学会、日本放射線技術学会北海道支部（理事、
放射線治療専門委員会委員長）、日本放射線腫瘍学会、日本医学物理学会、日
本医学物理士会、北海道放射線治療研究会（世話人代表）、日本放射線治療専
門放射線技師認定機構（北海道地区指導者）、日本放射線治療品質管理機構（北
海道地区相談員）、北海道放射線治療を語る部屋（幹事）

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：

総説：

原著：

その他：

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：

シンポジウム：

一般講演：

示説：

その他：（セミナー講師）阿部匡史：2023 年度 日本放射線治療専門放射線技師認定機構
認定 北海道地区講習会（実機講習）. 2024 年 3 月～16 月. 札幌東徳洲会病院.

氏名 黒蔵 邦夫 学部 保健医療学部 学科 診療放射線学科 職階 講師

専門分野：放射線技術学 予防医学

教育活動：

責任科目：医療職としての責任と役割（4 年 1 単位 15 時間）、放射線カウンセリング
学（旧）（4 年 1 単位 15 時間）、医療安全管理学（4 年 1 単位 15 時間）、
医療機器安全管理学（4 年 1 単位 15 時間）、放射線カウンセリング学（2
年 1 単位 15 時間）、放射線技術学実習Ⅰ（2 年 1 単位 30 時間）、診療
画像技術学実験Ⅰ（2 年 1 単位 45 時間）、診療画像検査学概論（1 年 2 単
位 30 時間）

担当科目：医療職としての責任と役割（15 時間）、放射線カウンセリング学（旧）（15 時

間)、放射線カウンセリング学 (15 時間)、医療機器安全管理学 (15 時間)、医療安全管理学 (15 時間)、放射線技術学実習 I (4 時間)、診療画像技術学実験 I (12 時間)、診療画像検査学概論 (12 時間)、診療画像技術学 I (14 時間)、画像解剖学 I (2 時間)、総合演習 I : 専門基礎領域 (2 時間)、総合演習 II : 臨床領域 (4 時間)、卒業研究 (120 時間)

非常勤講師 : 北海道大学 医学部保健学科 (臨床超音波検査学)

学内委員会・学科内業務等 :

F D委員会 ハラスメント相談員

学術活動 :

所属学会・研究会等 :

日本放射線技術学会 (撮影部会委員会 乳房撮影ガイドライン普及班委員、日本乳癌検診学会 (代議員)、日本乳癌検診精度管理中央委員会 (技術委員)、日本消化器がん検診学会北海道支部 放射線研修委員会 委員所属学会、日本放射線技術学会、日本乳癌検診学会、日本乳癌学会、日本超音波検査学会、日本消化器がん検診学会、北海道公衆衛生学会、日本診療放射線技師会、札幌ニューテクノロジー研究会 (監事)

科学研究費 (研究資金) の取得 :

社会活動 : 北海道がん対策推進委員会特別委員、札幌市健康づくり推進協議会 臨時委員、次期札幌市がん対策推進プラン策定部会 委員、ピンクリボン in Sapporo 理事

顕彰 :

論文 (著書, 総説, 原著, その他) :

著書 :

総説 :

原著 :

その他 :

講演 (特別講演, シンポジウム, 一般講演, 示説, その他) :

特別講演 :

シンポジウム :

一般 (要望) 講演 :

第 33 回日本乳癌検診学会学術総会「札幌市における US 併用検診の現状報告と今後の期待・課題」2023 年 11 月 24 日福岡国際会議場

その他 : 日本医療大学生涯学習講座 講演名「画像検査を用いたがん予防の最前線」2023 年 1 月 27 日 (月寒公民館)、日本乳がん検診精度管理中央機構 第 199 回認定技師 更新講習会 講演名「マンモグラフィの臨床画像評価」2023 年 6 月 10・11 日 (富士フィルム本社)、日本乳がん検診精度管理中央機構 第 201 回認定技師 更

新講習会 講演名「マンモグラフィの臨床画像評価」2022 年 7 月 22・23 日（北海道科学大学）、日本乳がん検診精度管理中央機構 第 202 回認定技師 更新講習会 講演名「マンモグラフィの臨床画像評価」2023 年 7 月 29・30 日（東北大学）、札幌放射線技師会第 8 回マンモグラフィ撮影技術講習会 講演名「マンモグラフィの画像形成」2023 年 8 月 26・27 日（北海道科学大学）、日本乳がん検診精度管理中央機構 第 204 回認定技師 更新講習会 講演名「マンモグラフィの臨床画像評価」2023 年 9 月 2・3 日（富士フィルム本社）、日本乳がん検診精度管理中央機構 第 208 回認定技師 更新講習会 講演名「マンモグラフィの臨床画像評価」2023 年 11 月 11・12 日（富士フィルム本社）、令和 5 年度 札幌市医師会超音波検査技師研修会 講演名「スクリーニングに必要なマンモグラフィの読影」2024 年 1 月 18・19 日（札幌市医師会館）、令和 5 年度 札幌市医師会マンモグラフィ撮影技師研修会 講演名「マンモグラフィの基礎と画像評価」2024 年 1 月 30 日（札幌市医師会館）、日本乳がん検診精度管理中央機構 第 212 回認定技師 更新講習会 講演名「マンモグラフィの臨床画像評価」2024 年 2 月 23・24・25 日（富士フィルム本社）

氏名 白石 祐太 学部 保健医療学部 学科 診療放射線学科 職階 講師

専門分野：放射線生物学、放射線治療

教育活動：

責任科目：放射線生物学（1 年後期、2 単位、30 時間）、放射線生物学（2 年前期、2 単位、30 時間）、放射線生物学演習（2 年後期、1 単位、30 時間）、X 線 CT 検査学（2 年前期、1 単位、15 時間）、X 線 CT 検査学（3 年前期、2 単位、30 時間）、医療情報管理学（4 年前期、1 単位、15 時間）、画像解剖学Ⅲ（3 年後期、1 単位、30 時間）、放射線物理学実験（2 年前期、1 単位、45 時間）

担当科目：放射線生物学（30 時間）、放射線生物学（30 時間）、放射線生物学演習（30 時間）、X 線 CT 検査学（15 時間）、X 線 CT 検査学（30 時間）、医療情報管理学（15 時間）、画像解剖学Ⅲ（30 時間）、診療画像検査学概論（30 時間）、総合演習Ⅰ（30 時間）、総合演習Ⅱ（30 時間）、放射線物理学実験（45 時間）、診療画像技術学実験Ⅱ（45 時間）、卒業研究（120 時間）、臨床実習Ⅰ（180 時間）、臨床実習Ⅱ（270 時間）、障害学特論（30 時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

学生委員会、3 学年主担任、臨床実習担当

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本医学物理学会、日本放射線腫瘍学会、北米放射線学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：論文査読 (Radiat. Prot. Dosimetry)

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：なし

総説：Shiraishi Y, Matsuya Y, Fukunaga H. Possible mechanisms and simulation modeling of FLASH radiotherapy. *Radiol. Phys. Technol.* 2024, 17, 11–23.

原著：Shiraishi Y, Matsuya Y, Kusumoto T, Fukunaga H. Modeling for predicting survival fraction of cells after ultra-high dose rate irradiation. *Phys. Med. Biol.* 2024, 69, 015017.

その他：なし

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：白石 祐太, 松谷 悠佑, 楠本 多聞, 福永 久典. FLASH 放射線治療における DNA 損傷応答に基づく生存率曲線予測モデル. 第 60 回日本放射線腫瘍学会 生物部会学術大会 2023.6.23, 京都（口頭発表）、Shiraishi Y, Matsuya Y, Kusumoto T, Fukunaga H. A predictive model of survival curve in ultra-high dose rate irradiation based on DNA damage response. The 6th Faculty of Health Sciences (FHS) International Conference 2023.10.20, Sapporo (Poster).

示説：なし

その他：なし

氏名 小笠原 凌介 学部 保健医療学部 学科 診療放射線学科 職階 助教

専門分野：核医学 診療放射線学教育学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：核医学検査技術学（2 時間）、放射線・物理学実験（44 時間）、診療画像技術学実習（48 時間）、卒業研究（120 時間）、臨床実習 I（180 時間）、臨床実習 II（270 時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

ICT 教育推進専門委員会 4 学年副担任 国家試験対策小委員会、学修支援 WG

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本放射線技術学会、日本核医学技術学会、日本診療放射線学教育学会

科学研究費（研究資金）の取得：

学内教育向上研究費「大学教育において学習教材が学習効果に及ぼす影響」

社会活動：なし

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：

総説：

原著：「診療放射線技師国家試験の学習において学習媒体が学習効果におよぼす影響」

（日本診療放射線学教育学会機関誌）（査読プロセス）

「タブレットによる学習効果」（日本医療大学紀要第 10 巻）（査読プロセス）

「大学教育におけるモンテカルロシミュレーションの導入—1 学年の学習効果—」

（日本医療大学紀要第 10 巻）（査読プロセス）

「テキストマイニングによる診療放射線技師国家試験問題における科目間の関連性の可視化」（日本診療放射線学教育学会機関誌）

「テキストマイニングによる第一種放射線取扱主任者試験問題の解析」

（日本医療大学紀要第 10 巻）（査読プロセス）

その他：

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：

シンポジウム：

「診療放射線技師国家試験の学習において学習媒体が学習効果におよぼす影響」（第 17 回日本診療放射線学教育学会学術集会）

「テキストマイニングによる国家試験問題における科目間の関連性の可視化」（第 17 回日本診療放射線学教育学会学術集会）

「 ^{99m}Tc -MIBI 心筋血流 SPECT におけるノイズ抑制処理に関する検討」（第 13 回東北放射線医療技術学術大会）

一般講演：

示説：

その他：

氏名 藤田 智 学部 保健医療学部 学科 診療放射線学科 職階 助教

専門分野：診療放射線技術学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：画像診断学Ⅰ（3 年次、2 単位、30 時間）、系統解剖学演習（1 年次、1 単位、30 時間）診療画像技術学Ⅱ（3 年次、2 単位、30 時間）、診療画像機器学演習

(3 年次、1 単位、30 時間)、診療画像機器学 (2 年次、1 単位、30 時間)、
障害学特論 (臨床検査学科 2 年次、1 単位、30 時間)、診療画像技術学実験 I
(2 年次、1 単位、45 時間)、診療画像技術学実験 II (3 年次、1 単位、45 時
間)、診療画像機器学実験 (3 年次、1 単位、45 時間)、総合演習 II (4 年次、
1 単位、30 時間)、卒業研究 (4 年次、4 単位、60 時間)、早期臨床実習 (2 年
次、1 単位、90 時間)、臨床実習 I (3 年次、5 単位、180 時間)、臨床実習 II
(4 年次、6 単位、270 時間)

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

キャリアセンター運営委員会(副センター長)、募集必達プロジェクト、臨床
実習 WG、国家試験対策小委員会、進路指導 WG、学生募集 WG

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本診療放射線技師会、北海道放射線技師会、札幌放射線技師会、日本放射線
技術学会、日本保健物理学会

科学研究費 (研究資金) の取得：なし

社会活動：北海道 海のクリーンアップ大作戦 (清掃活動)、コープ未来の森づくり基金開催
の植樹、平和の象徴「折り鶴」を折る (平和の取り組み)

顕彰：なし

論文 (著書, 総説, 原著, その他)：

著書：

総説：

原著：

その他：

講演 (特別講演, シンポジウム, 一般講演, 示説, その他)：

特別講演：

シンポジウム：

一般講演：

示説：

その他：

氏名 渡辺 侑也 学部 保健医療学部 学科 診療放射線学科 職階 助教

専門分野：核医学検査

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：核医学技術学概論 (30 時間)、放射性医薬品学 (15 時間)、核医学検査技術学

演習（15 時間）、診療画像機器学実験（20 時間）、総合演習Ⅱ（1.5 時間）
非常勤講師：なし
学内委員会・学科内業務等：
親睦会、学生募集 WG、卒業研究 WG、学習支援 WG、国家試験対策小委員会
学術活動：
所属学会・研究会等：
日本放射線技術学会、日本核医学技術学会
科学研究費（研究資金）の取得：なし
社会活動：なし
顕彰：なし
論文（著書、総説、原著、その他）：
著書：なし
総説：なし
原著：2 本
渡辺侑也，細川翔太，小笠原凌介，高橋康幸．テキストマイニングによる診療放射線技師国家試験問題における科目間の関連性の可視化．診療放射線学教育学(11), 2024.
Watanabe, Y., Hosokawa, S., Takahashi, Y. Time-of-flight PET/CT suppresses CT based attenuation correction and scatter coincidence correction errors due to misalignment of the gastrointestinal tract. Asia Oceania Journal of Nuclear Medicine and Biology, 2024; (): -. doi: 10.22038/aojnmb.2024.74406.1520
その他：なし
講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：なし
特別講演：なし
シンポジウム：なし
一般講演：なし
示説：なし
その他：なし

11－1－⑤ 保健医療学部 臨床検査学科教員

氏名 品川 雅明 学部 保健医療学部 学科 臨床検査学科 職階 教授・学科長
専門分野：臨床微生物検査学
教育活動：

責任科目：微生物学（15 時間）、臨床微生物学Ⅰ（6 時間）、臨床微生物学実習Ⅰ（45 時間）臨床微生物学Ⅱ（45 時間）

担当科目：臨床検査入門（2 時間）、臨床検査機器総論演習（12 時間）、臨床微生物学Ⅱ（6 時間）、

非常勤講師：札幌医学技術福祉歯科専門学校（臨床微生物学）、苫小牧看護専門学校（微生物学）

学内委員会・学科内業務等：

運営会議、教授会、IR 運営会議、教務委員会、自己点検・評価委員会、入試委員会、入学者選抜委員会、不正調査委員会、人権擁護委員会、教員選考委員会、ハラスメント委員会、国際交流委員会、学生募集対策委員会、日本医療大学 PCR 検査センター事業（管理責任者）、オープンキャンパス、入試相談会

学術活動：

所属学会・研究会等：

北海道臨床衛生検査技師会（副会長）、日本臨床微生物学会（理事）、日本臨床衛生検査技師会、日本感染症学会、日本化学療法学会、MALDI マルディノミクスの会（世話人）、札幌感染症談話会（代表世話人）、北海道微生物検査研究会（世話人）

科学研究費（研究資金）の取得：

受託研究費（関東化学株式会社）、共同研究費（ベックマン・コールター株式会社）、受託研究費（ベックマン・コールター株式会社）、受託研究費（北海道曹達株式会社）

社会活動：日本臨床微生物学会【認定技師制度（委員長）・認定医制度委員・地区制度委員・認定臨床微生物検査技師制度審議会あり方委員・研修施設認定委員（委員長）・認定試験作成委員】、日本臨床検査学教育協議会評議員、医学検査査読委員、大学説明ガイダンス講師（札幌藻岩高校）（岩見沢西高校）

顕彰：なし

論文（著書、総説、原著、その他）：

著書：なし

総説：品川雅明：『血液培養検査ガイド第2版』のポイント 血液培養検査の意義と目的を中心に. Medical Technology. 51 巻 8 号. 853-857. 2023.

原著：なし

その他：なし

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：品川雅明：地域における結核の状況. 第 15 回小樽臨床検査技師会フォーラム. 2023 年 9 月 28 日. 小樽.

品川雅明：外国人結核対策と臨床検査技師の役割．島津会研修会 2023．2023 年 10 月 20 日．札幌．

教育講演：品川雅明：臨床検査技師教育の変遷 教育現場を経験して．第 57 回日本臨床検査医学会北海道支部総会・第 33 回日本臨床化学会北海道支部例会．2023 年 9 月 2 日．札幌．

パネルディスカッション：

品川雅明：「菌種同定・真偽を審議：この菌種、直ちに届出」．第 35 回日本臨床微生物学会・学術集会．2024 年 2 月 11 日．横浜．

一般講演：和田直樹，三浦美香，加藤翔也，小池祐史，品川雅明：

ネフローゼ症候群の患者から発症した *Staphylococcus argenteus* による菌血症の一例．

第 72 回日本医学検査学会．2023 年 5 月 20 日．群馬．

伊藤好樹，義煎 元，新田彬秀，加野大樹，望月真希，品川雅明：

チミジン依存性 *Escherichia coli* の Small colony variants(SCVs)の遺伝子解析．

第 95 回北海道医学検査学会．2023 年 11 月 25 日．帯広．

三浦美香，和田直樹，加藤翔也，中谷美月，佐藤未侑，品川雅明：

血液培養から *Neisseria perflava* が検出された一症例

第 95 回北海道医学検査学会．2023 年 11 月 25 日．帯広．

加藤翔也，中谷美月，和田直樹，矢下翔士，望月真希，品川雅明：

Enterobacter cloacae complex の同定精度に関する比較検討 マイクロスキャン WalkAway Plus 及び MALDI-TOF MS・POT 法を用いて．

第 95 回北海道医学検査学会．2023 年 11 月 25 日．帯広．

矢下翔士，秋谷 学，加藤翔也，和田直樹，望月真希，品川雅明：

Enterobacter cloacae complex の同定精度に関する比較検討 VITEK 2 及び MALDI-TOF MS・POT 法を用いて．

第 95 回北海道医学検査学会．2023 年 11 月 25 日．帯広．

望月真希，小池祐史，今井直木，和田直樹，秋谷 学，今川 誠，小泉 潤，西出和弘，田口裕大，福澤翔太，白土泰彦，品川雅明：

札幌市内で検出された ESBL 産生大腸菌の分子疫学調査

第 95 回北海道医学検査学会．2023 年 11 月 25 日．帯広．

小池 祐史，品川 雅明，今井 直木，和田 直樹，秋谷 学，今川 誠，小泉 潤，西出 和弘，田口 裕大，福澤 翔太

札幌地区で検出された ESBL 産生大腸菌の ESBL 遺伝子型および分子疫学解析 日臨技 第 10 回北日本支部医学検査学会．2022 年 11 月 12 日．函館

和田直樹，三浦美香，加藤翔也，小池祐史，望月真希，品川雅明：

Staphylococcus argenteus Sequence Type 1223 による菌血症の 1 例

第 11 回日臨技北日本支部学会. 2023 年 11 月 4 日. 福島.

中谷美月, 和田直樹, 三浦美香, 加藤翔也, 望月真希, 品川雅明:

Candida bracarensis による菌血症の 1 例

第 11 回日臨技北日本支部学会. 2023 年 11 月 4 日. 福島.

磯辺正道, 林 泰弘, 品川雅明:

タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会日本医療大学の支援体制について

第 11 回日臨技北日本支部学会. 2023 年 11 月 4 日. 福島.

伊藤好樹, 義煎 元, 新田彬秀, 加野大樹, 望月真希, 品川雅明:

チミジン依存性 *Escherichia coli* の Small colony variants (SCVs) の遺伝子解析.

第 35 回日本臨床微生物学会総会・学術集会. 2024 年 2 月 9 日. 横浜

加藤翔也, 中谷美月, 和田直樹, 矢下翔士, 望月真希, 品川雅明:

質量分析装置による *Enterobacter cloacae* complex 同定性能の評価.

第 35 回日本臨床微生物学会総会・学術集会. 2024 年 2 月 9 日. 横浜

矢下翔士, 秋谷 学, 加藤翔也, 和田直樹, 望月真希, 品川雅明:

E. cloacae complex の菌種同定に関する生化学性状及び遺伝子学的解析による調査.

第 35 回日本臨床微生物学会総会・学術集会. 2024 年 2 月 9 日. 横浜

望月真希, 小池祐史, 今井直木, 和田直樹, 秋谷 学, 今川 誠, 小泉 潤, 西出和弘, 田口裕大, 福澤翔太, 白土泰彦, 品川雅明:

札幌市内で検出された ESBL 産生大腸菌の分子疫学調査から捉えた動向.

第 35 回日本臨床微生物学会総会・学術集会. 2024 年 2 月 9 日. 横浜

品川雅明, 望月真希, 矢下翔士, 秋谷 学, 加藤翔也, 和田直樹:

Enterobacter cloacae complex における POT 法を用いた分子疫学解析および性能評価.

第 35 回日本臨床微生物学会総会・学術集会. 2024 年 2 月 9 日. 横浜

和田直樹, 三浦美香, 加藤翔也, 中谷美月, 武田夏音, 小池祐史, 望月真希, 品川雅明:

同定結果の乖離から判明された *Escherichia ruysiae* による菌血症の一例

第 35 回日本臨床微生物学会総会・学術集会. 2024 年 2 月 9 日. 横浜

福澤翔太, 飯田岳陽, 小池祐史, 品川雅明, 大越康雄, 卸川紘光, 小泉 潤, 田中謙次, 東 学, 灘雅雄, 藤田崇宏.:

Staphylococcus. condimenti によるカテーテル関連血流感染症の 1 例

第 35 回日本臨床微生物学会総会・学術集会. 2024 年 2 月 9 日. 横浜

示説: なし

その他: なし

氏名 浅沼 広子 学部 保健医療学部 学科 臨床検査学科 職階 教授

専門分野：

病理組織・細胞学、解剖学、

教育活動：

責任科目：解剖学（1 年次、1 単位、15 時間）解剖学演習（1 年次、1 単位、30 時間）病理検査学実習（2 年次、1 単位、45 時間）症例細胞検査学（3 年次、1 単位、15 時間）

病理検査学総合演習（3 年次、1 単位、30 時間）専門検査技師総論（3 年次、1 単位、15 時間）

担当科目：解剖学（15 時間）解剖学演習（30 時間）組織細胞学実習（45 時間）臨床検査入門（2 時間）検査機器総論演習Ⅱ（4 時間）生涯特論（2 時間）血液検査学実習Ⅰ（45 時間）血液検査学実習Ⅱ（45 時間）細胞検査学実習（45 時間）病理検査学総合演習（30 時間）専門検査技師総論（15 時間）

非常勤講師：無し

学内委員会・学科内業務等：

国際交流委員会、ハラスメント相談員

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本癌学会、日本病理学会、日本臨床免疫学会、日本臨床細胞学会、日本臨床衛生検査技師会

科学研究費（研究資金）の取得：無し

社会活動：日本医療大学 PCR 検査センター事業（検査員）

顕彰：無し

論文（著書、総説、原著、その他）：

著書：「免疫染色パーフェクトガイド」 医学書院 分担執筆 柳田 絵美衣、浅沼 広子 その他

総説：無し

原著：無し

その他：無し

講演（特別講演、シンポジウム、一般講演、示説、その他）：

特別講演：無し

シンポジウム：無し

一般講演：

示説：「ホルモン受容体陽性乳がんの免疫組織学的解析による免疫病理形質の分析」

第 112 回日本病理学会総会並びに学術集会 2023.4/13～4/15 下関市生涯学習プラザ

海峡メッセ下関

示説：「デジタル多重免疫染色法を用いた乳がん腫瘍微小環境の免疫病理学的解析」

第 113 回日本病理学会総会並びに学術集会 2024.3/28～3/30 名古屋国際会議場

その他：

氏名 梅森 祥央 学部 保健医療学部 学科 臨床検査学科 職階 教授

専門分野：臨床化学

教育活動：

責任科目：化学（1 年次、1 単位、15 時間）、生化学Ⅱ（1 年次、1 単位、15 時間）、臨床化学Ⅱ（2 年次、2 単位、30 時間）、臨床化学実習Ⅱ（2 年次、1 単位、45 時間）、障害学特論（2 年次、1 単位、4 時間）、臨床検査管理学Ⅱ（3 年次、1 単位、30 時間）、分析検査学総合演習（3 年次、1 単位、30 時間）

担当科目：化学（15 時間）、生化学Ⅱ（15 時間）、臨床検査入門（2 時間）、検査機器総論演習（6 時間）、臨床化学Ⅱ（30 時間）、臨床化学実習Ⅰ（45 時間）、臨床化学実習Ⅱ（45 時間）、障害学特論（4 時間）、症例臨床化学・免疫検査学（4 時間）、専門検査技師総論（2 時間）、臨床検査管理学Ⅱ（12 時間）、分析検査学総合演習（30 時間）

非常勤講師：「なし」

学内委員会・学科内業務等：

保健管理委員会（副委員長）、教務委員会、カリキュラム委員会、

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本臨床化学会（評議員、北海道支部幹事）、日本臨床検査医学会（評議員、北海道支部幹事）、北海道臨床衛生検査技師会（精度管理委員）、日本臨床衛生検査技師会、日本医療検査科学会、日本臨床検査学教育協議会

科学研究費（研究資金）の取得：「なし」

社会活動：日本臨床化学会酵素・試薬専門委員会委員、医学検査査読委員、札幌市 PCR 検査センター事業（協力員）、日本医療大学 PCR 検査センター事業（検査員）

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：なし

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：田中真輝人，梅森祥央，小林亮，鈴木瑛真，遠藤明美，高橋聡. AST および ALT 活性測におけるピリドキサルリン酸あるいはピリドキサミンリン酸添加 IFCC 法の評価. 第 55 回日本医療検査科学会, 2023 年 10 月 8 日, 横浜
梅森祥央，澁谷齊，品川雅明. LC-MS/MS を用いた髄液および血液中アミロイド β 測定法の確立. 第 95 回北海道医学検査学会, 2023 年 11 月 16 日, 帯広.

示説：なし

その他：梅森祥央. 臨床化学における標準化とハーモナイゼーションの動向～AST・ALT を中心に～. 第 10 回北海道 BM セミナー（日本電子株式会社），2023 年 10 月 20 日，札幌.

氏名 徳永 祐一 学部 保健医療学部 学科 臨床検査学科 職階 教授

専門分野：病理学、病理検査学、組織細胞学、細胞検査学

教育活動：

責任科目：組織細胞学（1 年次、1 単位、15 時間）、組織細胞学実習（1 年次、1 単位、45 時間）、病理学（1 年次、1 単位、15 時間）、病理検査学（2 年次、1 単位、15 時間）、細胞検査学（3 年次、1 単位、15 時間）、細胞検査学実習（3 年次、1 単位、45 時間）

担当科目：組織細胞学（15 時間）、組織細胞学実習（45 時間）、病理学（15 時間）、解剖学演習（30 時間）、検査機器総論演習（10 時間）、病理検査学（15 時間）、病理検査学実習（45 時間）、細胞検査学（15 時間）、細胞検査学実習（45 時間）、一般検査学実習（45 時間）、症例細胞診検査学（15 時間）、臨床検査管理学 I（2 時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

研究倫理委員会（委員長）、不正防止委員会（委員長）、教務委員会、日本医療大学 PCR 検査センター事業（検査員）

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本臨床衛生検査技師会、日本臨床細胞学会、細胞検査士会、北海道臨床細胞学会、北海道細胞検査士会（副会長）、The International Academy of Cytology

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：医療関連サービス振興会 北海道地区委員長、医療関連サービス振興会 衛生検査所専門部会調査指導中央委員会委員、医療関連サービス振興会 医療関連サービス制度（衛生検査所業務）調査指導員

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：なし

著書：

総説：

原著：

その他：

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：2024年3月15日 第331回北海道細胞検査士会道央地区例会「どうする！？
人材育成」

シンポジウム：

一般講演：

示説：

その他：2023年12月23日 日本医療大学生涯学習講座「“がん”と細胞診検査～口腔
がんを中心に～」

氏名 望月 真希 学部 保健医療学部 学科 臨床検査学科 職階 教授

専門分野：遺伝子検査学

教育活動：

責任科目：遺伝子検査学実習（2023年次、45単位、34.5時間）

担当科目：遺伝子・染色体検査学（2023年次、15単位、7.5時間）、遺伝子検査学実習
（2023年次、45単位、34.5時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

自己点検・評価委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本臨床衛生検査技師会、北海道臨床衛生検査技師会、日本臨床微生物学会、
日本検査血液学会、日本臨床栄養代謝学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：

総説：

原著：

その他：

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：

シンポジウム：

一般講演：

示説：

その他：第 98 回北海道医学検査学会（一般演題）2023 年 10 月

札幌市内で検出された ESBL 産生大腸菌の分子疫学調査

望月 真希, 小池 祐史, 今井 直木, 和田 直樹, 秋谷 学, 今川 誠, 小泉 潤, 西出 和弘, 田口 裕大, 福澤 翔太, 白土 泰彦, 品川 雅明

・ *Enterobacter cloacae* complex の同定精度に関する比較検討 VITEK 2 及び MALDI-TOF MS・POT 法を用いて

矢下 翔士, 澤口 尚哉, 東 宏太郎, 秋谷 学, 加藤 翔也, 和田 直樹, 望月 真希, 品川 雅明

・ *Enterobacter cloacae* complex の同定精度に関する比較検討 マイクロスキャン WalkAway Plus 及び MALDI-TOF MS・POT 法を用いて

加藤 翔也, 三浦 美香, 佐藤 未侑, 中谷 美月, 和田 直樹, 矢下 翔士, 望月 真希, 品川 雅明

・ チミジン依存性 *Escherichia coli* の Small colony variants(SCVs)の遺伝子解析

伊藤 好樹, 義煎 元, 新田 彬秀, 加野 大樹, 望月 真希, 品川 雅明

第 11 回日臨技北日本支部医学検査学会学術集会（一般演題）2023 年 11 月

・ *Staphylococcus argenteus* Sequence Type 1223 による菌血症の 1 例

和田 直樹, 三浦 美香, 加藤 翔也, 小池 祐史, 望月 真希, 品川 雅明

・ *Candida bracarensis* による菌血症の 1 例

中谷 美月, 三浦 美香, 加藤 翔也, 佐藤 未侑, 和田 直樹, 望月 真希, 品川 雅明

第 35 回日本臨床微生物学会総会・学術（一般演題）2024 年 2 月

・ 望月 真希, 小池 祐史, 今井 直木, 和田 直樹, 秋谷 学, 矢下 翔士, 今川 誠, 小泉 潤, 西出 和弘, 田口 裕大, 福澤 翔太, 白土 泰彦, 品川 雅明

・ チミジン依存性 *Escherichia coli* の Small colony variants(SCVs)の遺伝子解析

伊藤 好樹, 新田 彬秀, 望月 真希, 品川 雅明

・ 質量分析装置による *Enterobacter cloacae* complex 同定性能の評価

加藤 翔也, 三浦 美香, 佐藤 未侑, 中谷 美月, 武田 夏音, 和田 直樹, 矢下 翔士, 秋谷 学, 望月 真希, 品川 雅明

・ 同定結果の解離から判明された *Escherichia ruysiae* による菌血症の一例

和田 直樹, 三浦 美香, 加藤 翔也, 中谷 美月, 佐藤 未侑, 武田 夏音, 小池 祐史, 望月 真希, 品川 雅明

・ *Enterobacter cloacae* complex における POT 法を用いた分子疫学解析および性

能評価

品川 雅明, 望月 真希, 矢下 翔士, 加藤 翔也, 和田 直樹, 秋谷 学

・自動微生物同定装置（生化学性状）による *Enterobacter cloacae complex* 識別能
の評価

矢下 翔士, 澤口 尚哉, 東 宏太郎, 秋谷 学, 加藤 翔也, 和田 直樹, 望月 真希,
品川 雅明

氏名 岡田 一範 学部 保健医療学部 学科 臨床検査学科 職階 准教授

専門分野：臨床生理学、超音波検査学

教育活動：

責任科目：臨床生理学Ⅰ（2年次、2単位、30時間）、臨床生理学Ⅱ（2年次、1単位、15時間）、臨床生理学Ⅲ（2年次、1単位、15時間）、臨床生理学Ⅳ（3年次、1単位、15時間）、症例超音波検査学（3年次、1単位、15時間）、臨床生理学実習Ⅰ（2年次、2単位、90時間）、臨床生理学実習Ⅱ（3年次、2単位、90時間）

担当科目：臨床生理学Ⅰ（18時間）、臨床生理学Ⅲ（15時間）、臨床生理学Ⅳ（15時間）、症例超音波検査学（6時間）、臨床生理学実習Ⅰ（90時間）、検査機器総論演習（2時間）

非常勤講師：

北海道大学医学部保健学科（臨床生理学Ⅰ）、北海道情報大学（臨床検査概論）、吉田学園医療歯科専門学校（画像検査学Ⅱ、画像検査学実習）、札幌看護医療専門学校（臨床生理学演習、基礎医学演習）

学内委員会・学科内業務等：

教授会、教務委員会、教務委員会内実習ワーキンググループ、研究費審査委員会、大学院保健医療学研究科開設準備委員会、大学院入学者選抜委員会（オブザーバ・試験委員）、2年生副担任、オープンキャンパス、一日体験入学

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本臨床衛生検査技師会、北海道臨床衛生検査技師会（札幌地区会事務局長）、日本心エコー図学会、日本超音波検査学会、日本超音波医学会、日本循環器学会、日本動脈硬化学会、日本認知症予防学会

科学研究費（研究資金）の取得：

科学研究費補助金（基盤C）「心臓超音波法による新規左房硬さ評価法に基づく心房細動高リスク例の検出」代表者（令和5年度～令和9年度）

社会活動：出前講義（北星学園女子高等学校、1回）、日本医療大学PCR検査センター事業（検査員）、Reviews in Cardiovascular Medicine 誌査読者（5件）、The international

journal of cardiovascular imaging 査読者 (2 件)

顕彰：なし

論文 (著書, 総説, 原著, その他) :

原著 : **Okada K**, Nakabachi M, Hayashi Y, Shinagawa M, Yoshikawa A, Tsujita K, Sakamoto Y.

Optimal left ventricular diameter measurement in subjects with sigmoid septum: comparison with three-dimensional left ventricular volume. J Echocardiogr. 2024 Mar;22(1):41-47. doi: 10.1007/s12574-023-00626-8. Epub 2023 Sep 21. PMID: 37735324.

山本麻衣, 村上 悟, 中村伊織, 井田晴日, 政氏裕美, 三輪佳子, **岡田一範**, 加賀早苗, 森 翔平, 荒川元孝, 金井浩, 政氏伸夫 : The usefulness of a gray-level co-occurrence matrix based on the polar coordinate system for the quantitative evaluation of neutrophil cytoplasmic granules. 北海道医学雑誌 2023;98(2):81-104

村山迪史, 加賀早苗, 小野田愛梨, **岡田一範**, 中鉢雅大, 横山しのぶ, 西野久雄, 青柳裕之, 玉置陽生, 本居 昂, 石坂 傑, 岩野弘幸, 永井利幸, 辻野一三, 安斉俊久 : 心エコー法による右房圧推定精度の検証 : ガイドラインに基づく副次的指標の再考. 超音波検査技術 2023; 48(4): 384-397.

講演 (特別講演, シンポジウム, 一般講演, 示説, その他) :

一般講演 : **岡田一範**, 中鉢雅大, 林 泰弘, 品川雅明 : 血流依存性血管拡張反応の代替法の探索 : 下肢挙上負荷頸動脈超音波の検討. 第 11 回日本臨床検査技師会北日本支部医学検査学会. 2023.11.5 福島

岡田一範, 秋葉直人, 林 光昭, 鈴木雄太, 和田妙子, 米澤 仁, 近藤 啓, 木田秀幸 : 札幌臨床検査技師会主催「検査 de フェスティバル」参加者における COPD 認知度. 第 11 回日本臨床検査技師会北日本支部医学検査学会. 2023.11.4 福島

田中真輝人, 鈴木雄太, 岩崎澄央, 和田妙子, **岡田一範**, 米澤 仁, 近藤 啓, 木田秀幸 : 札幌臨床検査技師会の活動内容について : コロナ禍から現在までの取り組みを中心に. 第 11 回日本臨床検査技師会北日本支部医学検査学会. 2023.11.4 福島

岡田一範, 中鉢雅大, 林泰弘, 品川雅明 : 下肢挙上負荷前後の頸動脈 stiffness 評価に基づく血管内皮機能推定の試み. 日本超音波医学会第 53 回北海道地方会学術集会. 2023.9.9. 札幌

岡田一範, 吉川綾香, 辻田孝輔, 坂本洋一 : 左室駆出率保持例における左室長軸方向短縮の左房壁伸展への関与. 第 48 回日本超音波検査学会学術集会. 2023.6.10. 大阪

岡田一範, 吉川綾香, 辻田孝輔, 坂本洋一 : 左房拡大と左房ストレイン低下の頻度と両者の関係 : 明瞭な心疾患をもたない例での検討. 日本心エコー図学会第 34 回学術集会. 2023.4.22. 岐阜

その他:岡田一範: ハンズオン実技講師. 令和5年度札幌技心エコーハンズオンセミナー,
2023.9.23. 札幌

岡田一範: 心エコー検査を始める前に. 令和5年度札幌技心エコーハンズオンセ
ミナー, 2023.9.(オンデマンド)

岡田一範: 胸骨左縁アプローチ. 令和5年度札幌技心エコーハンズオンセミナー,
2023.9.(オンデマンド)

岡田一範: 右心系. 令和5年度札幌技心エコーハンズオンセミナー, 2023.9.(オ
ンデマンド)

岡田一範: 心尖部・心窩部アプローチ. 令和5年度札幌技心エコーハンズオンセ
ミナー, 2023.9.(オンデマンド)

氏名 魚住 諒 学部 保健医療学部 学科 臨床検査学科 職階 講師

専門分野: 免疫学、リウマチ学、輸血学

教育活動:

責任科目: 免疫学 (1 年前期、1 単位、15 時間)、臨床免疫学 (2 年前期 1 単位、15 時間)、
輸血・移植検査学 I、(2 年後期 1 単位、15 時間)、臨床免疫学実習 I (2 年後
期、1 単位、45 時間)、輸血・移植検査学 II、(3 年前期 1 単位、15 時間)、臨
床免疫学実習 II (3 年前期、1 単位、45 時間)、症例輸血検査学 (3 年後期、
1 単位、15 時間)、輸血・移植検査学実習 (3 年後期、1 単位、45 時間)

担当科目: 免疫学 (1 年前期、1 単位、15 時間)、臨床検査入門 (1 年前期、1 単位、4 時
間)、検査機器総論 (1 年後期、1 単位、2 時間) 医療安全管理学実習 (2 年前
期、1 単位、45 時間)、臨床免疫学 (2 年前期 1 単位、15 時間)、輸血・移植
検査学 I、(2 年後期 1 単位、15 時間)、臨床免疫学実習 I (2 年後期、1 単
位、45 時間)、輸血・移植検査学 II、(3 年前期 1 単位、15 時間)、臨床免疫学
実習 II (3 年前期、1 単位、45 時間)、症例輸血検査学 (3 年後期、1 単位、15
時間)、輸血・移植検査学実習 (3 年後期、1 単位、45 時間)

非常勤講師: 北海道大学医学部保健学科 (輸血・移植検査学演習 3 年後期、1 単位、30
時間)

学内委員会・学科内業務等:

図書・学術振興委員会、FD 委員会

学術活動:

所属学会・研究会等:

日本リウマチ学会、日本病理学会、日本臨床衛生検査技師会、日本質量分析
学会

科学研究費 (研究資金) の取得: なし

社会活動: 札幌啓成高校進路相談会 (代表講演)、北星高校出張講義、東海大学附属札幌高

校体験授業、

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：

総説：

原著：

その他：

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：

シンポジウム：

一般講演：

示説：

その他：

氏名 小池 祐史 学部 保健医療学部 学科 臨床検査学科 職階 講師

専門分野：公衆衛生学，臨床微生物検査学

教育活動：

責任科目：公衆衛生学（2年次、1単位、15時間），医動物学（2年次、1単位、15時間），
感染管理学（2年次、1単位、15時間），臨床微生物学Ⅱ（3年次、1単位、15時間）

担当科目：公衆衛生学（8時間），医動物学（15時間），臨床微生物学Ⅰ（10時間），臨床微生物学Ⅱ（10時間），感染管理学（8時間），チーム医療と臨床検査（2時間），専門検査技師総論（2時間），一般検査学総合演習（4時間），検査機器総論演習Ⅱ（2時間），臨床微生物学実習Ⅰ（45時間），臨床微生物学実習Ⅱ（90時間）

非常勤講師：JR 札幌病院 臨床検査室（技術指導）

学内委員会・学科内業務等：

カリキュラム委員会，衛生委員会，ICT 教育推進専門委員会，日本医療大学 PCR 検査センター事業（協力員），学年副担任（1年生），オープンキャンパス，日医大フェス，アンデルセングルメ祭り

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本臨床衛生検査技師会（北日本支部微生物部門員），北海道臨床衛生検査学会（常務理事，微生物部門長），日本臨床微生物学会（評議員），臨床微生物迅速診断研究会，日本寄生虫学会，日本臨床・分析中毒学会，感染症対策・未来創造ミーティング北海道地区（代表世話人），日本感染症教育研究会

(IDATEN) 北海道 (世話人)、札幌感染症談話会 (世話人)、北海道微生物検査研究会 (世話人)、

科学研究費 (研究資金) の取得: なし

社会活動: 札幌市医師会夜間急病センター (協力員)、日本医療大学 PCR 検査センター事業 (協力員)、第 96 回北海道医学検査学会実務委員、北海道臨床衛生検査技師会主催「第 7 回微生物形態サーベイ」企画・運営、北海道臨床衛生検査技師会主催「第 230 回北臨技講習会」企画・運営、北海道臨床衛生検査技師会主催「第 51 回北臨技基礎セミナー」企画・運営、北海道臨床衛生検査技師会主催「第 14 回北臨技精度管理セミナー コスモス」実務委員・演者・座長、認定臨床微生物検査技師試験 (日本臨床微生物学会) 作問分野担当

顕彰: なし

論文 (著書, 総説, 原著, その他):

著書:

総説:

原著:

その他:

講演 (特別講演, シンポジウム, 一般講演, 示説, その他):

特別講演:

シンポジウム: 小池 祐史: ステップアップセミナー「微生物検査領域における精度管理: 求められる質の向上」

北臨技 第 95 回北海道医学検査学会. 2023 年 11 月 26 日, 帯広市

一般講演: 望月 真希, 小池 祐史, 今井 直木, 和田 直樹, 秋谷 学, 今川 誠, 小泉潤, 西出 和弘, 田口 裕大, 福澤 翔太, 白土 泰彦, 品川 雅明
札幌地区で検出された ESBL 産生大腸菌の分子疫学調査

北臨技 第 95 回北海道医学検査学会. 2023 年 11 月 25 日, 帯広市

小池 祐史, 福元 達也, 卸川 紘光, 葦澤 慎也, 品川 雅明

北臨技微生物部門 第 7 回サーベイ報告

日臨技 第 11 回北日本医学検査学会. 2023 年 11 月 11 日, 福島市

和田 直樹、三浦 美香、加藤 翔也、小池 祐史、望月 真希、品川 雅明
Staphylococcus argenteus Sequence Type 1223 による菌血症の 1 例

日臨技 第 11 回北日本医学検査学会. 2023 年 11 月 11 日, 福島市

福元 達也, 卸川 紘光, 葦澤 慎也, 小池 祐史, 品川 雅明

北臨技微生物部門 第 7 回サーベイ報告 前編

北臨技 第 95 回北海道医学検査学会. 2023 年 11 月 25 日, 帯広市

卸川 紘光, 小池 祐史, 福元 達也, 葦澤 慎也, 品川 雅明

北臨技微生物部門 第 7 回サーベイ報告 後編

北臨技 第 95 回北海道医学検査学会. 2023 年 11 月 25 日, 帯広市
望月 真希, 小池 祐史, 今井 直木, 和田 直樹, 秋谷 学, 今川 誠, 小泉
潤, 西出 和弘, 田口 裕大, 福澤 翔太, 白土 泰彦, 品川 雅明
札幌地区で検出された ESBL 産生大腸菌の分子疫学調査から捉えた動向
第 35 回日本臨床微生物学会総会・学術集会. 2024 年 2 月 9 日. 横浜市
和田 直樹, 三浦 美香, 加藤 翔也, 中谷 美月, 佐藤 未侑, 武田 夏音,
小池 祐史, 望月 真希, 品川 雅明
同定結果の乖離から判明された *Escherichia ruyssiae* による菌血症の 1 例
第 35 回日本臨床微生物学会総会・学術集会. 2024 年 2 月 9 日. 横浜市

示説:

その他: 令和 5 年度 北臨技新人会員研修会「微生物検査 はじめの一步」(北海道臨床
衛生検査学会)

第 14 回北臨技精度管理セミナー コスモス「精度管理事業報告 第 7 回微生物
サーベイ報告」(北海道臨床衛生検査学会). 2023 年 11 月 11 日.

氏名 澁谷 斉 学部 保健医療学部 学科 臨床検査学科 職階 講師

専門分野: 臨床生化学、一般検査学

教育活動:

責任科目: 臨床検査入門 (2023 年度、1 単位、15 時間)、生化学 I (2023 年度、1 単位、
15 時間)、検査機器総論演習 (2023 年度、1 単位、30 時間)、臨床化学 I (2023
年度、1 単位、15 時間)、一般検査学 I (2023 年度、1 単位、15 時間)、一般
検査学 II (2023 年度、1 単位、15 時間)、一般検査学実習 (2023 年度、1 単
位、45 時間)、臨床化学実習 I (2023 年度、1 単位、45 時間)、一般検査学総
合演習 (2023 年度、1 単位、45 時間)、症例臨床化学・免疫検査学 (2023 年
度、1 単位、15 時間)

担当科目: 臨床検査入門 (2 時間)、生化学 I (15 時間)、検査機器総論演習 (10 時間)、
臨床化学 I (15 時間)、一般検査学 I (15 時間)、一般検査学 II (15 時間)、
一般検査学実習 (45 時間)、臨床化学実習 I (45 時間)、臨床化学実習 II (45
時間)、一般検査学総合演習 (30 時間)、症例臨床化学・免疫検査学 (2 時間)

非常勤講師: 吉田学園医療歯科専門学校 (臨床化学)

学内委員会・学科内業務等:

研究倫理委員会委員、PCR 検査

学術活動:

所属学会・研究会等:

日本臨床衛生検査技師会、日本臨床検査医学会 (北海道支部幹事)、日本臨
床化学会 (北海道支部幹事)

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：なし

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：なし

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：なし

示説：なし

その他：なし

氏名 高橋 裕之 学部 保健医療学部 学科 臨床検査学科 職階 講師

専門分野：臨床血液学、臨床遺伝子染色体学

教育活動：

責任科目：臨床血液学Ⅰ（2年前期、1単位、15時間）、臨床血液学Ⅱ（2年後期、1単位、15時間）、臨床血液学実習Ⅰ（2年後期、1単位、45時間）、臨床血液学実習Ⅱ（3年前期、1単位、45時間）、遺伝子・染色体検査学（3年前期、1単位、15時間）、症例血液・染色体検査学（3年後期、1単位、15時間）

担当科目：臨床血液学Ⅰ（2年前期、1単位、15時間）、臨床血液学Ⅱ（2年後期、1単位、15時間）、臨床血液学実習Ⅰ（2年後期、1単位、45時間）、臨床血液学実習Ⅱ（3年前期、1単位、45時間）、遺伝子・染色体検査学（3年前期、1単位、6時間）、遺伝子検査学実習（3年後期、1単位、45時間）、症例血液・染色体検査学（3年後期、1単位、15時間）、臨床検査入門（1年前期、1単位、2時間）、検査機器総論（1年後期、1単位、2時間）、障害学特論（2年後期、1単位、2時間）、専門検査技師総論（3年後期、1単位、4時間）、分析検査学総合演習（3年後期、1単位、2時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

入学者選抜委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本臨床衛生検査技師会、日本検査血液学会（評議員）、日本サイトメトリ

ー学会、日本人類遺伝学会、日本染色体遺伝子検査学会（理事）、日本血液学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：札幌市 PCR 検査センター事業（協力員）

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：なし

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：なし

示説：なし

その他：なし

氏名 中鉢 雅大 学部 保健医療学部 学科 臨床検査学科 職階 講師

専門分野：臨床生理学、超音波検査学

教育活動：

責任科目：なし

担当科目：臨床生理学Ⅰ（9時間）、臨床生理学Ⅱ（6時間）、臨床生理学Ⅲ（5時間）、臨床生理学実習Ⅰ（90時間）、臨床生理学実習Ⅱ（90時間）、症例超音波検査学（5時間）専門検査技師総論（2時間）、臨床検査入門（2時間）

非常勤講師：

吉田学園医療歯科専門学校（画像検査学、画像検査学実習）、札幌医療看護専門学校（基礎医学演習、臨床生理学実習）

学内委員会・学科内業務等：

人権擁護委員会、ICT教育推進委員会、オープンキャンパス、大学見学会（模擬講義）、日医大フェス模擬展示

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本臨床検査技師会、日本心エコー図学会、日本超音波医学会、日本超音波検査学会（地方会委員）、日本循環器学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：日本超音波検査学会（地方会委員）

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：Tamaki Y, Iwano H, Murayama M, Ishizaka S, Motoi K, Aoyagi H, Nakamura K, Goto M, Suzuki Y, Yokoyama S, Nishino H, **Nakabachi M**, Kaga S, Kamiya K, Nagai T, Anzai T. Application of an echocardiographic scoring system of left ventricular filling pressure to diagnose acute heart failure in patients complaining dyspnea. J Cardiol. 2023 Apr 28:S0914-5087(23)00100-4. (IF: 2.5)

Motoi K, Iwano H, Ishizaka S, Nakamura K, Tamaki Y, Aoyagi H, **Nakabachi M**, Yokoyama S, Nishino H, Murayama M, Kaga S, Anzai T. Paradoxical increase in global longitudinal strain by handgrip exercise despite left ventricular diastolic dysfunction. Echocardiography. 2023 Jul 14. doi: 10.1111/echo.15648. Epub ahead of print. PMID: 37449835. (IF: 1.5)

Okada K, **Nakabachi M**, Hayashi Y, Shinagawa M, Yoshikawa A, Tsujita K, Sakamoto Y. Optimal left ventricular diameter measurement in subjects with sigmoid septum: comparison with three-dimensional left ventricular volume. J Echocardiogr. 2023 Sep 21. doi: 10.1007/s12574-023-00626-8. (IF: 1.6)

村山迪史，加賀早苗，小野田愛梨，岡田一範，**中鉢雅大**，横山しのぶ，西野久雄，青柳裕之，玉置陽生，本居 昂，石坂 傑，岩野弘幸，永井利幸，辻野一三，安斉俊久．心エコー法による右房圧推定制度の検証：ガイドラインに基づく副次的指標の再考．超音波検査技術 vol. 48 No. 4 (2023): 384-397.

その他：なし

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：心エコーでみているもの、第2回日本心臓CT技術研究会、東京

示説：なし

その他：ハンズオン実技講師、令和5年度札幌技心エコーハンズオンセミナー、札幌

ハンズオン実技講師、第9回日本NP学会学術集会、札幌

ミニレクチャー司会、日本超音波検査学会第45回北海道地方会学術集会、札幌

氏名 林 泰弘 学部 保健医療学部 学科 臨床検査学科 職階 講師

専門分野：臨床生理学、医療安全管理学

教育活動：

責任科目：医療安全管理学実習（2年次、23コマ、45時間）

担当科目：医療安全管理学実習（2年次、23コマ、45時間）、医療安全管理学（2年次、4コマ、8時間）、障害学特論（リハビリテーション学科2年次、3コマ、6時間）、臨床生理学実習Ⅰ（2年次、45コマ、90時間）、臨床生理学Ⅱ（2年次、4コマ、8時間）、臨床生理学実習Ⅱ（3年次、24コマ、48時間）、症例超音波検査学（3年次、2コマ、4時間）、症例輸血検査学（3年次、4コマ、8時間）、専門検査技師総論（3年次、1コマ、2時間）、チーム医療と臨床検査（3年次、2コマ、4時間）、輸血検査学実習（3年次、23コマ、45時間）、一般検査学総合演習（3年次、2コマ、4時間）

非常勤講師：札幌看護医療専門学校（臨床生理学演習、1年次、6コマ、9時間）、札幌看護医療専門学校（基礎医学演習、3年次、7コマ、10.5時間）、学校法人吉田学園（臨床検査総合演習Ⅱ、3年次、6コマ、9時間）

学内委員会・学科内業務等：

学生委員会、日本医療大学PCR検査センター事業（検査員）、オープンキャンパス、一日体験入学

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本細菌学会、日本臨床衛生検査技師会、日本輸血・細胞治療学会、日本臨床神経生理学学会、日本臨床・分析中毒学会、日本吃音・流暢性障害学会、日本糖尿病協会、札幌CDEJ、札幌輸血談話会

科学研究費（研究資金）の取得：

学術助成費「若年者における血糖値と、関連する因子の検討」（代表者）

社会活動：タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会における北海道臨床検査技師会実技講習会WG委員、5/10模擬講義（砂川中学校）、9/5職業体験（羊ヶ丘中学校）、12/22体験授業（東海大学付属札幌高校）

顕彰：なし

論文（著書、総説、原著、その他）

著書：なし

総説：なし

原著：Okada K, Nakabachi M, **Havashi Y**, Shinagawa M, Yoshikawa A, Tsujita K, Sakamoto Y. Optimal left ventricular diameter measurement in subjects with sigmoid septum: comparison with three-dimensional left ventricular volume. J Echocardiogr. 2023 Sep 21. doi: 10.1007/s12574-023-00626-8. (IF: 1.6)

その他：なし

講演（特別講演、シンポジウム、一般講演、示説、その他）

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：なし

示説：なし

その他：なし

氏名 磯辺 正道 学部 保健医療学部 学科 臨床検査学科 職階 助教

専門分野： 管理マネジメント チーム医療（多職種連携） 保健医療

教育活動：

責任科目：医療安全管理学・関係法規・臨床検査マネジメント論・臨床検査管理学Ⅰ・
保健医療福祉概論・臨床病棟検査概論・障害学特論・地域医療連携学

担当科目：保健医療福祉概論（720分）・医療安全管理学（360分）・感染管理学（360分）
・医療安全管理学実習（2070分）・臨床免疫学実習Ⅰ（2070分）・障害学特
論（270分）・チーム医療論（180分）・臨床検査マネジメント論（720分）・臨
床検査管理学Ⅰ（630分）・臨床病棟検査概論（720分）・地域医療連携学（720
分）・チーム医療と臨床検査（270分）・症例臨床化学免疫学（180分）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

学生委員会・キャリアセンター運営委員会・3年生学年担任

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本医学検査学会 日本環境感染学会 日本医療検査科学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：三笠市立三笠中学校 3年生へ講演 医療について（チーム医療）・三笠市スポ
ーツ推進委員（市民向け健康指導イベント）・進学相談会・出前講義（釧路明輝
高校・帯広柏葉高校・帯広緑陽高校・札幌 真栄高校・留萌高校）講演名：
チーム医療について・北海道臨床衛生検査技師会 検査研究部門 総合管理部門
長・日本臨床検査連盟 執行委員 北海道支部長・日本臨床検査連盟 北日本
支部長・北海道臨床衛生検査技師会厚生労働省大臣指定講習会・タスク・シフ
ト／シェア WG 委員長・三笠サッカー協会 会長・空知サッカー協会 理事
長・北海道サッカー協会 理事・三笠フットボールクラブ（三笠 FC）代表・総
監督・三笠市スポーツ協会 理事長・三笠市スポーツ推進委員・三笠市コミュ
ニティースクール 委員長・三笠市立三笠中学校 同窓会長・三笠市若松町東
町内会 会長・三笠市社会教育委員・三笠市健康寿命を延ばし隊（代表）

顕彰：厚生労働省大臣賞、日本臨床衛生検査技師会地域貢献賞

論文（著書、総説、原著、その他）：なし

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：なし

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：第 61 回全国自治体病院学会 タスク・シフト／シェにおける北臨技の取り組み

シンポジウム：なし

一般講演：日本臨床衛生検査技師会 北日本支部医学検査学会

タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会 日本医療大学の支援体制について

示説：

その他：講習会主催：タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会
北海道 9 回開催（札幌・旭川・釧路・函館・帯広・北見）

11-1-⑥ 臨床工学科教員

氏名 千原 伸也 学部 保健医療学部 学科 臨床工学科 職階 学科長・教授

専門分野：血液浄化装置学、生体機能代行装置学

教育活動：

責任科目：臨床支援技術学基礎演習（1 年次前期，1 単位，30 時間），生体機能代行装置学実習 I（2 年次後期，1 単位，45 時間）

担当科目：チーム医療論（2 時間）

非常勤講師：札幌医科大学 医学部 集中治療医学講座 客員准教授、吉田学園医療歯科専門学校（生体機能代行装置学，血液浄化実習）

学内委員会・学科内業務等：

運営会議、教授会、運営会議、教務委員会、自己点検・評価委員会、入試委員会、入学者選抜委員会、不正調査委員会、人権擁護委員会、教員選考委員会、ハラスメント委員会、国際交流委員会、学生募集対策委員会、オープンキャンパス、一日体験入学、入試相談会

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本臨床工学技士会、日本集中治療医学会（評議員、専門臨床工学技士制度委員会委員長，集中治療専門臨床工学技士試験委員会、臨床工学技士テキスト作成 WG，編集協力委員）、日本人工臓器学会（評議員）、日本急性血液浄化学会（理事）、日本アフエシス学会、日本血液浄化技術学会、北海道臨床工学技士会、エンドトキシン血症救命治療研究会、日本集中治療医学会北海道支部会（連絡協議員）、日本アフエシス学会北海道地方会（幹事）北海道呼

吸管理研究会（世話人）

科学研究費（研究資金）の取得：

科研費（若手研究）「持続的血液浄化療法における局所冷却法を用いた抗凝固」
研究代表者

受託研究「G-1 カラムと CHF 施行時の各種サイトカイン除去クリアランス
と安全性に関する検討」（JIMRO 株式会社）研究分担者

受託研究「ヘモフィール CH 希釈条件によるサイトカイン吸着性能 in vitro 研
究」（東レ・メディカル株式会社）研究分担者

社会活動：北海道の医療機関における電波利用推進協議会委員（総務省北海道総合通信局）

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：

総説：

原著：

その他：

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：

シンポジウム：

一般講演：

示説：

その他：

氏名 瀧本 将人 学部 保健医療学部 学科 臨床工学科 職階 教授

専門分野：腫瘍学 分子生物学

教育活動：

責任科目：解剖生理学 I (2023, 2, 30) 解剖生理学 II (2023, 2, 30)、解剖生理学演習 (2023, 1, 30) 分子医化学 (2023, 2, 30)、形態機能学 1 (2023, 1, 30) 生命科学(看護) (2023, 1, 15) 疾病論 11 (2023, 1, 30)、生理学 1 (2023, 2, 30) 生理学 11 (2023, 2, 30)、病態生理学 (2022, 1, 15) 生命科学(放射) (2022, 1, 15)

担当科目：解剖生理学 I (2023, 2, 24) 分子医化学 (2023, 2, 30) 医療総論 (2022, 1, 2) 形態機能学 1 (2023, 1, 30) 生命科学(看護) (2023, 1, 15) 疾病論 11 (2023, 1, 30)、生理学 1 (2023, 2, 30) 生理学 11 (2023, 2, 30)、病態生理学 (2023, 1, 15) 生命科学(放射) (2023, 1, 15)

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

大学院開設準備委員会委員

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本癌学会 日本分子生物学

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：札幌がんセミナー広報委員

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：なし

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：なし

示説：日本分子生物学会にてポスター発表

その他：

氏名 竹内 文也 学部 保健医療学部 学科 臨床工学科 職階 教授

専門分野：生体医工学、生体計測

教育活動：

責任科目：情報処理Ⅰ（1年次、2単位、30時間）、情報処理Ⅱ（1年次、2単位、14時間）、計測工学（1年次、2単位、30時間）、電気工学実習（1年次、1単位、45時間）、生体計測装置学（2年次、4単位、60時間）

担当科目：情報処理Ⅰ（30時間）、応用数学（8時間）、情報処理Ⅱ（14時間）、計測工学（30時間）、電気工学実習（45時間）、生体計測装置学（60時間）、医用工学演習Ⅰ（30時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

研究倫理委員会、研究費審査委員会、教務委員会、自己点検評価委員会、大学院開設準備委員会、1年副担任

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本生体医工学会（ME技術教育委員会問題作成委員）、計測自動制御学会（LE部門生理・生体工学部会員）、電子情報通信学会（MBE研究会世話人）、日本生体磁気学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：一般社団法人日本臨床工学技士教育施設協議会試験委員

顕彰：なし

論文（著書、総説、原著、その他）：

著書：

総説：

原著：

その他：

講演（特別講演、シンポジウム、一般講演、示説、その他）：

特別講演：

シンポジウム：

一般講演：竹内文也、山田敦士、齊藤高志、高平 昂

論理思考能力向上のための教育プログラムの構築と評価に関する基礎的検討
第 62 回日本生体医工学会大会、2023 年 5 月 20 日

示説：

その他：

氏名 工藤 元嗣 学部 保健医療学部 学科 臨床工学科 職階 准教授

専門分野：臨床工学教育、血液浄化、呼吸療法、医療安全

教育活動：

責任科目：医用治療機器学（30 時間）、医用機器安全管理学Ⅰ（30 時間）、生体機能代行装置学Ⅰ（60 時間）、

担当科目：解剖生理学演習（30 時間）、解剖生理学Ⅱ（30 時間）、臨床支援技術学演習（30 時間）、生体機能代行装置学実習Ⅰ（12 時間）、臨床医学総論Ⅰ（8 時間）、プロジェクトスキルⅠ（15 時間）

非常勤講師：吉田学園医療歯科専門学校（医用機器安全管理学Ⅰ・Ⅱ、医用治療機器学Ⅰ・Ⅱ、臨床医学総論Ⅲ）

学内委員会・学科内業務等：

カリキュラム委員会、募集必達プロジェクト、FD 委員会、教務委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本臨床工学技士教育施設協議会（理事、教育委員会委員長）、日本臨床工学技士会（卒前教育委員会委員長、生涯教育委員）、北海道臨床工学技士会（理事、教育委員会）、日本生体医工学会（ME 教育委員会、第 2 種 ME 技術実力検定試験作問委員）、日本生体医工学会北海道支部（幹事）、日本高気圧環境・潜水医学会（幹事）

科学研究費（研究資金）の取得：

JSPS 科研費（基盤 B）「臨床工学技士養成教育の質保証に資する評価体系の確立」分担者

受託研究（株式会社 JIMRO）「G-1 カラムと CHF 施行時の各種サイトカイン除去クリアランスと安全性に関する検討」分担者

受託研究（東レ株式会社）「ヘモフィール CH 希釈条件によるサイトカイン吸着性能 in vitro 研究」責任者

社会活動：責任者として企画運営を行った学会・セミナー

- ・2023 年 1 月 令和 3 年の法改正に伴い、臨床工学技士養成校の臨床実習規定に追加された厚生労働省の指針に基づく第 1 回臨床実習指導者講習会の開催について企画運営および講師として関わった
- ・2023 年 2 月 研究活動に必要な統計の基礎および実践に関する統計セミナーの開催に際して企画運営責任者、講師として関わった
- ・2023 年 2 月 令和 3 年の法改正に伴い、臨床工学技士養成校の臨床実習規定に追加された厚生労働省の指針に基づく第 2 回臨床実習指導者講習会の開催について企画運営および講師として関わった。
- ・2023 年 3 月 医療現場における臨床工学技士の育成方法に関する人材育成セミナーの開催に際して企画運営責任者として関わった
- ・2023 年 3 月 令和 3 年の法改正に伴い、臨床工学技士養成校の臨床実習規定に追加された厚生労働省の指針に基づく第 3 回臨床実習指導者講習会の開催について企画運営および講師として関わった
- ・2023 年 5 月 令和 3 年の法改正に伴い、臨床工学技士養成校の臨床実習規定に追加された厚生労働省の指針に基づく第 4 回臨床実習指導者講習会の開催について企画運営および講師として関わった
- ・2023 年 6 月 令和 3 年の法改正に伴い、臨床工学技士養成校の臨床実習規定に追加された厚生労働省の指針に基づく第 5 回臨床実習指導者講習会の開催について企画運営および講師として関わった
- ・2023 年 6 月 日本臨床工学技士教育施設協議会の会員を対象とした総会および教員研修会に際して、企画運営責任者及び講師として関わった
- ・2023 年 7 月 令和 3 年の法改正に伴い、臨床工学技士養成校の臨床実習規定に追加された厚生労働省の指針に基づく第 6 回臨床実習指導者講習会の開催について企画運営および講師として関わった。
- ・2023 年 8 月 令和 3 年の法改正に伴い、臨床工学技士養成校の臨床実習規定に追加された厚生労働省の指針に基づく第 7 回臨床実習指導者講習会の開催について企画運営および講師として関わった。
- ・2023 年 8 月 臨床工学技士法改正による内視鏡外科手術の業務拡大に適応す

るため、内視鏡外科手術における臨床工学技士業務の課題と改善策について教授するための手術室セミナーVol2 の開催に際して企画運営にかかわった

- ・2023 年 9 月 臨床工学技士養成校の効率的効果的なカリキュラム設計および適正な評価をするために必要な知識、技術の修得を目的に開催された第 9 回日本臨床工学技士養成教員学術研究会にて企画運営、講師として携わった

- ・2023 年 10 月 令和 3 年の法改正に伴い、臨床工学技士養成校の臨床実習規定に追加された厚生労働省の指針に基づく第 8 回臨床実習指導者講習会の開催について企画運営および講師として関わった

- ・2023 年 11 月 令和 3 年の法改正に伴い、臨床工学技士養成校の臨床実習規定に追加された厚生労働省の指針に基づく第 9 回臨床実習指導者講習会の開催について企画運営および講師として関わった

- ・2023 年 12 月 臨床実習指導者講習会および臨床実習でのハラスメント防止について検討することを目的に開催された第 22 回日本臨床工学技士教育研究会にて企画運営および演者として携わった

- ・2023 年 12 月 令和 3 年の法改正に伴い、臨床工学技士養成校の臨床実習規定に追加された厚生労働省の指針に基づく第 10 回臨床実習指導者講習会の開催について企画運営および講師として関わった

- ・2023 年 12 月 日本集中治療医学会の 50 周年記念で北海道臨床工学技士会との共催にて集中治療領域の他職種連携に関するセミナーに企画運営責任者として携わった

公開講演

- ・2023 年 1 月 臨床実習指導者講習会について（福岡県臨床工学技士会）

- ・2023 年 1 月 臨床実習プログラムの立案（第 1 回臨床実習指導者講習会）

- ・2023 年 2 月 臨床実習プログラムの立案（第 2 回臨床実習指導者講習会）

- ・2023 年 3 月 臨床実習プログラムの立案（第 3 回臨床実習指導者講習会）

- ・2023 年 5 月 臨床実習指導者講習会について（日本臨床工学技士教育施設協議会 教員研修会）

- ・2023 年 5 月 臨床実習プログラムの立案（第 4 回臨床実習指導者講習会）

- ・2023 年 6 月 臨床実習プログラムの立案（第 5 回臨床実習指導者講習会）

- ・2023 年 7 月 臨床実習プログラムの立案（第 6 回臨床実習指導者講習会）

- ・2023 年 7 月 はじめよう、生涯教育！～将来を見据えた、新しい生涯教育システムの概要と今後の課題～（日本臨床工学会）

- ・2023 年 7 月 新カリキュラムでの臨床実習の規定について（日本臨床工学会）

- ・2023 年 8 月 臨床実習プログラムの立案（第 7 回臨床実習指導者講習会）

- ・2023 年 9 月 どうする？臨床支援技術学（日本臨床工学技士養成教員学術研

究会)

- ・2023 年 11 月臨床工学技士養成施設における臨床実習制度の理念と概要
臨床実習プログラムの立案 (第 8 回臨床実習指導者講習会)

- ・2023 年 11 月臨床実習指導者講習会について (第 4 回北海道東北臨床工学技士会教育研究会)

- ・2023 年 12 月臨床実習指導者講習会について (第 22 回日本臨床工学技士会教育研究会)

- ・2023 年 12 月臨床工学技士養成施設における臨床実習制度の理念と概要
臨床実習プログラムの立案コミュニケーションの取り方 (第 9 回臨床実習指導者講習会)

- ・2023 年 12 月「学びの魅力を引き出し効率的かつ効果的に教授できる教育設計を目指す」～インストラクショナルデザイン (ID) の活用～ (北海道臨床工学技士会道北支部セミナー)

認定試験、検定試験などの作問:

- ・第二種 ME 技術実力検定試験 (日本生体医工学会) 作問分野担当者

- ・臨床工学技士国家試験全国統一模擬試験 (日本臨床工学技士教育施設協議会)
第 1 回～第 3 回の医用機器安全管理学分野作問責任者

- ・臨床工学技士国家試験全国統一模擬試験 (メジカルビュー社)
第 1 回～第 3 回の医用治療機器学分野作問責任者

- ・医療機器管理認定試験 (日本臨床工学技士会) 作問

論文 (著書, 総説, 原著, その他):

著書: 第 8 回臨床工学技士養成教員学術研究会研究紀要 (編集責任者)

総説: 医工学治療:「臨床工学技士養成教育におけるコンピテンシー開発」 Vol35, No2 :
pp 120-124

Clinical Engineering:「臨床実習指導者育成への取り組み」 2023 ; Vol34, No7 : pp
651-656

月刊腎臓内科:「敗血症性急性腎障害における前希釈持続的血液濾過の可能性」;
2023 ; Vol18, No2 : pp 226-231

原著: 日急性血浄化会誌:「小分子量物質における吸着膜の移動特性」; 2023 ; Vo14 (2) :
84-87

その他: 第 36 回国家試験解説集 編集委員

講演 (特別講演, シンポジウム, 一般講演, 示説, その他):

特別講演: 講演. 臨床実習プログラムの立案. 第 1 回臨床実習指導者講習会. 2023.1.28、
Online

講演. 臨床実習プログラムの立案. 第 2 回臨床実習指導者講習会. 2023.2.18、
Online

講演. 臨床実習プログラムの立案. 第 3 回臨床実習指導者講習会. 2023.3.25、Online

講演. 臨床実習プログラムの立案. 第 4 回臨床実習指導者講習会. 2023.5.13、Online

講演. 臨床実習プログラムの立案. 第 5 回臨床実習指導者講習会. 2023.6.10、Online

講演. 臨床実習プログラムの立案. 第 6 回臨床実習指導者講習会. 2023.7.8、Online

講演. 臨床実習プログラムの立案. 第 7 回臨床実習指導者講習会. 2023.8.19、Online

講演. 臨床実習プログラムの立案. 第 8 回臨床実習指導者講習会. 2023.10.7、Online

講演. 臨床実習プログラムの立案. 第 9 回臨床実習指導者講習会. 2023.11.25、Online

講演. 臨床実習プログラムの立案. 第 10 回臨床実習指導者講習会. 2023.12.9、Online

講演. 臨床工学技士養成施設における臨床実習制度の理念と概要. 第 10 回臨床実習指導者講習会. 2023.12.9、Online

講演. コミュニケーションの取り方. 第 10 回臨床実習指導者講習会. 2023.12.9、Online

講演. 「学びの魅力を引き出し、効率的かつ効果的に 教授できる教育設計を目指す」～インストラクショナルデザイン (ID) の活用～. 北海道臨床工学技士会道北支部教育セミナー. 2023.12.21、Online

シンポジウム：【第 9 回臨床工学技士養成教員学術研究会】 2023.9.23、福岡 Session1
パネルディスカッション. どうする？臨床支援技術学.

一般講演：【第 49 回日本血液浄化技術学会学術大会総会】 2023.4.21-23、沖縄、ポスター＋フラッシュトーク. 持続血液透析濾過における PMMA 膜のサイトカインクリアランスに対する希釈方法の検討.

示説：

その他：

氏名 加川 宗芳 学部 保健医療学部 学科 臨床工学科 職階 講師

専門分野： 生体医工学、医療機器

教育活動：

責任科目：数学Ⅰ（指数・対数・三角関数）（1 年次、2 単位、30 時間）、数学Ⅱ（微分・積分・微分方程式）（1 年次、1 単位、15 時間）、数学Ⅲ（統計学）（1

年次、1 単位、1 5 時間)、医用工学 (1 年次、1 単位、1 5 時間)、医用工学実習 (1 年次、2 単位、4 5 時間)、電気工学Ⅱ (1 年次、2 単位、3 0 時間)、電子工学Ⅱ (2 年次、2 単位、3 0 時間)、医用工学概論 (1 年次、2 単位、3 0 時間)

担当科目： 数学Ⅰ (指数・対数・三角関数) (3 0 時間)、数学Ⅱ (微分・積分・微分方程式) (1 5 時間)、数学Ⅲ (統計学) (1 5 時間)、放射線・物理学実験 (4 5 時間)、医用工学 (1 5 時間)、医用工学実習 (4 5 時間)、機械工学Ⅰ (3 0 時間)、電気工学Ⅰ (3 0 時間)、電気工学Ⅱ (3 0 時間)、電子工学Ⅰ (3 0 時間)、医用工学概論 (3 0 時間)、基礎工学演習Ⅰ (3 0 時間)

非常勤講師： 吉田学園医療歯科専門学校 (電気工学Ⅰ、電気工学Ⅱ、電子工学Ⅰ、電子工学Ⅱ、)

学内委員会・学科内業務等：

リメディアル教育委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本生体医工学会、日本医療機器学会、日本医工学治療学会、日本教育工学会

科学研究費 (研究資金) の取得：

基盤研究(C)「深層学習を用いた 4D flow MR 撮像時における取得タイミングのズレの改善法研究 (代表者 福山篤司教授)」分担

社会活動：第 37 回臨床工学技士国家試験 試験委員

顕彰：なし

論文 (著書, 総説, 原著, その他)：

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：なし

講演 (特別講演, シンポジウム, 一般講演, 示説, その他)：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：なし

示説：なし

その他：なし

氏名 齊藤 徳 学部 保健医療学部 学科 臨床工学科 職階 講師

専門分野： 透析医療における災害の影響について、医療安全に関する研究

教育活動：

責任科目：臨床工学総論（2023 年開講、1 単位、2 時間）、医用機器学概論Ⅱ（2023 年開講、2 単位、30 時間）、循環器治療機器学Ⅰ（2023 年開講、1 単位、15 時間）

担当科目：臨床支援技術学基礎演習（30 時間）、臨床工学総論（2 時間）、生体機能代行装置学実習Ⅰ（12 時間）、医用機器学概論Ⅱ（30 時間）、循環器治療機器学Ⅰ（15 時間）

非常勤講師：北海道情報大学（生体機能代行装置学実習Ⅰ）、吉田学園医療歯科専門学校（生体機能代行装置学実習Ⅰ、生体機能代行装置学実習Ⅱ）、日本医療大学病院新卒看護師研修（パルスオキシメータ）

学内委員会・学科内業務等：

【委員会】学生委員会：夏休み、春休みのお知らせ作成、国際交流委員会、キャリアセンター運営委員会、高大連携プロジェクト、日本医療大学親睦会：副会長【学科内】1 年担任、臨床工学科会計、ME 2 種対策講義：7/21、7/24、8/23、8/24、8/31【学内行事担当業務】入学式（4/2）、第 1 回ミニオープンキャンパス：学科体験担当（5/27）、第 1 回オープンキャンパス：学科体験担当（6/11）、日医大フェス：学科体験担当（6/17）、札幌丘珠高校大学見学会：学科説明及び学科体験担当（6/21）、保護者懇談会（7/1）、第 2 回オープンキャンパス：学科説明担当（7/16）、第 3 回オープンキャンパス：学科体験担当（8/11）、羊ヶ丘中学校職業体験：学科説明及び学科体験担当（8/30）、第 4 回オープンキャンパス：学科体験担当（9/10）、第 5 回オープンキャンパス：学科体験担当（10/9）、保護者懇談会（10/14）、東海大学付属札幌高校模擬授業：学科説明及び学科体験担当（10/26）、西岡中学校体験講義：学科説明及び学科体験担当（11/16）、第 2 回ミニオープンキャンパス：学科体験担当（12/2）、第 6 回オープンキャンパス：学科体験担当（3/20）

学術活動：

所属学会・研究会等：

【所属学会】日本臨床工学技士会、北海道臨床工学技士会、日本血液浄化技術学会、日本医療機器学会、日本呼吸療法医学会、日本医工学治療学会、日本医療教授システム学会、日本心血管インターベンション治療学会、日本集中治療学会、日本行動医学会、日本医学教育学会、日本ストレスマネジメント学会、日本認知・行動療学会、日本カウンセリング学会、医療安全心理行動学会、医療の質・安全学会【学術活動】日本臨床工学技士教育施設協議会（教科書委員会委員）、日本臨床工学技士教育施設協議会総会・教育研修会（運営事務局）、日本臨床工学技士会 第 11 回臨床実習指導者講習会：講師

科学研究費（研究資金）の取得：なし

学術助成研究費：

『北海道の地域性を考慮した透析医療資源の効率的な運用に関する基礎的研

究』：研究代表者

社会活動：なし

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：特集「持続的腎代替両方と人工知能を用いたロボット化」共著（ICU と CCU：Vol.47, No.5, 2023）

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：なし

示説：なし

その他：日本臨床工学技士会 第 11 回臨床実習指導者講習会：講師

氏名 齊藤 高志 学部 保健医療学部 学科 臨床工学科 職階 講師

専門分野：人間医工学、教育学、社会・安全システム科学

教育活動：

責任科目：医用機器学概論Ⅰ（1 年後期、2 単位、30 時間）、消化器治療機器学（2 年後期、1 単位、15 時間）

担当科目：臨床支援技術学基礎演習（1 年前期、1 単位、30 時間）、電気工学実習（1 年後期、1 単位、45 時間）、情報処理Ⅱ（1 年後期、2 単位、15 時間）

非常勤講師：学校法人西野学園札幌医療科学専門学校（医療安全学）

学内委員会・学科内業務等：

【学内委員会】教務委員会、カリキュラム委員会、入学者選抜委員会、研究倫理委員会、人権擁護委員会、ハラスメント相談員 【学科内業務】2 学年副担任

学術活動：

所属学会・研究会等：

所属学会・研究会等：公益社団法人日本生体医工学会

科学研究費（研究資金）の取得：

社会活動：公益社団法人北海道臨床工学技士会 公益事業推進委員会 日本医療大学病院
新人看護職員技術研修

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：なし

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：なし

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：なし

示説：なし

その他：なし

11-1-⑦ 総合福祉学部 ソーシャルワーク学科

氏名 笹岡 眞弓 学部 総合福祉学部 学科 ソーシャルワーク学科 職階 教授

専門分野：保健医療福祉分野、災害ソーシャルワーク

教育活動：

責任科目：医療福祉都マネジメント。保健医療と福祉。医療ソーシャルワーク論

担当科目：上記

非常勤講師：

学内委員会・学科内業務等：

教務委員会、入試選抜専門委員会、入試委員会、ハラスメント委員会、人権擁護委員会、国際交流委員会、運営委員会、連絡委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本社会福祉学会、日本保健医療福祉連携教育学会、日本保健医療社会福祉学会、日本医療ソーシャルワーカー協会、北海道医療ソーシャルワーカー協会、

科学研究費（研究資金）の取得：無

社会活動：災害ソーシャルワーク支援活動（珠洲市への医療ソーシャルワーカー派遣活動の現地統括責任者）、日本社会福祉学会 学会賞選定委員、査読委員、全国ソーシャルケア連盟（政治団体）2024 年 1 月 15 日設立。会長、一般社団法人日本ソーシャルワークセンター 2023 年 11 月設立 評議員

顕彰：無

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：『東日本大震災被災者への 10 年間のソーシャルワーク支援』公益社団法人日本医

療ソーシャルワーカー協会相談支援 1047 ケースの実践報告』編著

総説：

原著：

その他：

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：札幌市社会福祉士会「災害時におけるソーシャルワーク活動」2024 年 2 月 17 日 10 時から 12 時；かでの 2. 7

シンポジウム：「災害時におけるソーシャルワークの実践」2024 年 1 月 28 日災害時におけるソーシャルワークフォーラム、石巻赤十字病院講堂

一般講演：

示説：

その他：

氏名 鈴木 幸雄 学部 総合福祉学部 学科 ソーシャルワーク学科 職階 教授

専門分野：子ども家庭福祉、社会福祉

教育活動：

責任科目：社会福祉の原理と政策Ⅰ（1 年次、2 単位、30 時間）、社会福祉の原理と政策Ⅱ（1 年次、2 単位、30 時間）、医療福祉とマネジメント（1 年次、2 単位、8 時間）、児童・家庭福祉（2 年次、2 単位、30 時間）

担当科目：

非常勤講師：

学内委員会・学科内業務等：

研究倫理審査委員会、研究費審査委員会

学術活動：日本社会福祉学会会員、東北社会福祉史研究連絡会会員、北海道社会福祉学会会員、日本ソーシャルワーク学会会員、児童福祉法研究会会員、日本保健福祉学会会員、日本ソーシャルワーカー協会会員

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：石狩市社会福祉審議会会長、社会福祉法人北海道共同募金会評議員

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：なし

著書：

総説：

原著：

その他：

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：なし

特別講演：

シンポジウム：

一般講演：

示説：

その他：

氏名 忍 正人 学部 総合福祉学部 学科 ソーシャルワーク学科 職階 准教授

専門分野：地域福祉、高齢者福祉、ボランティア

教育活動：

責任科目：ボランティア活動（2022 年 1 単位 15 時間）、地域福祉論 I（2023 年 2 単位 30 時間）、福祉組織と経営（2024 年 2 単位 30 時間）、施設経営（2025 年 2 単位 30 時間）

担当科目：ボランティア活動（15 時間） 地域福祉論 I（30 時間）、福祉サービスの組織と経営（30 時間）

非常勤講師：北見日赤看護大学（社会保障論）旭川大学（社会事業発達史、福祉経営論）、札幌学院大学（地域福祉論 A）

学内委員会・学科内業務等：

入試選抜委員会、学生委員会、2 年生学年担任

学術活動：

所属学会・研究会等：

北海道地域福祉学会（会長）、日本地域福祉学会（理事）、日本福祉教育ボランティア学習学会、日本社会福祉学会、日本社会福祉士会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

論文（著書、総説、原著、その他）：なし

著書：

総説：

原著：

その他：

講演（特別講演、シンポジウム、一般講演、示説、その他）：

特別講演：

シンポジウム：北海道地域福祉学会研究大会 シンポジウム コーディネーター

一般講演：小地域ネットワーク研修会 講演

示説：北海道地域福祉学会大会 研究発表 新規開設施設における介護従事者確保の方

策について－新入職者に対するアンケート調査結果から－
その他：

氏名 松浦 智和 学部 総合福祉学部 学科 ソーシャルワーク学科 職階 准教授

専門分野： 精神保健学、精神保健福祉学

教育活動：

責任科目：障害者福祉(1 年次、2 単位、30 時間)、現代の精神保健の課題と支援Ⅰ(1 年次、2 単位、30 時間)、現代の精神保健の課題と支援Ⅱ(2 年次、2 単位、30 時間)、精神保健福祉の原理Ⅰ(2 年次、2 単位、30 時間)

担当科目：

非常勤講師：日本赤十字北海道看護大学(公衆衛生学)

学内委員会・学科内業務等：

自己点検・評価委員会、保健管理委員会、ハラスメント相談員

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本精神保健福祉学会(理事)、日本公衆衛生学会、日本社会福祉学会

科学研究費（研究資金）の取得：

若手研究「統合失調症患者の子育ての課題と精神保健福祉士の支援モデルに関する研究」(研究代表者)

基盤 C「精神保健ソーシャルワークの効果的展開のための諸条件の検討:北海道の歴史から」(研究分担者)

社会活動：一般社団法人北海道精神保健福祉士協会理事、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟北海道ブロック副会長、NPO 法人まちの森(当別町)理事

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：

その他：【研究報告】「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」と民生委員の役割に関する試論－精神保健福祉士の立場から. 日本医療大学紀要, 9:91-101, 2023.

【実践報告】松浦智和, 橋本達志, 佐々木旭美, 岸美佳, 佐藤剛：ソーシャルワーク・スーパービジョンシステム構築に関する試論. 名寄市立大学コミュニケーションケア教育研究センター年報, 6:53-56, 2022.

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：永井順子，松浦智和：地域が有する精神保健ソーシャルワークの促進要因の
検討～北海道稚内市と帯広市における精神障害者地域生活支援の歴史から～，
日本精神保健福祉学会第 11 回東京大会，2023 年 6 月 25 日，東京都。

示説：なし

その他：

氏名 丸山 正三 学部 総合福祉学部 学科 ソーシャルワーク学科 職階
准教授

専門分野：保健医療、スクールソーシャルワーク、実践評価

教育活動：

責任科目：

担当科目：基礎演習、ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ

非常勤講師：藤女子大学（社会保障サービス・社会保障論・福祉行財政と福祉計画）、札
幌学院大学（ソーシャルワークの方法Ⅱ）

学内委員会・学科内業務等：

研究倫理委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本社会福祉学会、北海道地域福祉学会、キリスト教社会福祉学会、日本医
療・病院管理学会、日本社会福祉士会、日本医療ソーシャルワーカー協会

科学研究費（研究資金）の取得：

社会活動：北海道大学公共政策学研究センター研究員、北海道教育委員会スクールソーシ
ヤルワーカー・スーパーバイザー、石狩市介護保険事業運営推進協議会会長、
社会福祉法人えぽっく監事

顕彰：

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：共著、日本ソーシャルワーク教育学校連盟「2024 社会福祉士国家試験過去問解説
集」中央法規、2023 年 4 月

総説：

原著：

その他：

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：

シンポジウム：

一般講演：苫小牧市市民後見人養成講座「対人援助の基礎」2024 年 2 月 17 日、厚真町

市民後見人養成講座「対人援助の基礎」2023 年 9 月 13 日、岩見沢市市民後見法人後見支援員スキルアップ研修会「より良い記録の書き方」2024 年 3 月 26 日

示説：

その他：

氏名 越石 全 学部 総合福祉学部 学科 ソーシャルワーク学科 職階 講師

専門分野：ソーシャルワーク・ケア実践、ソーシャルワーク実習、スーパービジョン、スキル・暗黙知・即興

教育活動：

責任科目：ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ（1 年次、2 単位、30 時間）、ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ（2 年次、2 単位、30 時間）、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（2 年次、1 単位、30 時間）

担当科目：ソーシャルワーク演習Ⅱ（2 年次、2 単位、60 時間）

非常勤講師：札幌医学技術福祉歯科専門学校 介護福祉士科 「人間の理解Ⅱ」

学内委員会・学科内業務等：

図書・学術委員会、FD 委員会、学生募集対策委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本社会福祉学会、日本ソーシャルワーク学会、日本社会福祉教育学会、教育哲学学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：「日本ソーシャルワーク教育学校連盟 北海道ブロック プロジェクト委員」「北海道社会福祉士会 実習委員、実習指導者講習会講師」「北海道社会福祉士会 認定社会福祉士 スーパーバイザー」「日胆地区市民成年後見人養成講座 講師」

顕彰：なし

論文（著書、総説、原著、その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：米田龍大・安孫子千鶴子・越石全・ほか（2023）「北海道・東北地域の高等教育機関に所属する学生の抑うつと HPS との関連」『北海道公衆衛生学雑誌』37. 39-47.

その他（報告）：中野結貴・米田政葉・越石全・ほか（2023）「高等教育機に所属する学生におけるソーシャルキャピタルと抑うつの関連 - 自覚的ストレスの有無における比較 - 」『北海道公衆衛生学雑誌』37. 115-120.

講演（特別講演、シンポジウム、一般講演、示説、その他）：

特別講演：

シンポジウム：

一般講演：

示説：

その他：「北海道社会福祉士会 実習指導者講習会 『実習スーパービジョン論・演習、実習プログラミング演習』」講義

氏名 錢本隆行 学部 総合福祉学部 学科 ソーシャルワーク学科 職階 講師

専門分野： 高齢者福祉、地域福祉、国際医療福祉

教育活動：

責任科目：関係法規（看護2年次、1単位、15時間）、基礎演習（SW1年次、2単位、60時間）、高齢者福祉（SW1年次、2単位、30時間）、地域福祉と包括的支援体制Ⅱ（SW2年次、2単位、30時間）

担当科目：関係法規（15時間）、基礎演習（60時間）、高齢者福祉（30時間）、地域福祉と包括的支援体制Ⅱ（60時間）

非常勤講師：北星学園大学（国際比較福祉論 6時間、海外の福祉制度 4時間）札幌学院大学（地域福祉論 B 30時間）

学内委員会・学科内業務等：

教務委員会、カリキュラム委員会（委員長）、人権擁護委員会、国際交流委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本地域福祉学会、日本社会福祉学会、日本認知症ケア学会、北海道地域福祉学会、北海道社会福祉学会、社会政策学会、対人支援職種の教育課程の見直しに係る諸外国動向の検討会

科学研究費（研究資金）の取得：

トヨタ財団 2023 研究助成プログラム「『本当に多様な働き方を促進できる職場』についての研究－障害者雇用の現場でロボットと創る」研究分担者（令和5～7年度）

社会活動：なし

顕彰：なし

論文（著書、総説、原著、その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：・林美枝子，浅井さおり，対馬輝美，高橋光彦，錢本隆行，田村素子，小林孝広，荒木めぐみ，八田達夫，東海林哲郎（2023）．「認知症介護者支援への小規模多機能型居宅介護事業所の新たな展開に関する研究：アセスメント・シートによる介入研

究の効果について」日本医療大学紀要第9巻, 23-33, 査読あり

- ・ 銭本隆行, 高橋光彦 (2023) 「Effect of a standardized extract of Asparagus officinalis stem (ETAS®50) on cognitive function, psychological symptoms and behavior in patients with Dementia: a randomized cross-over trial」 Evidence-based Complementary and Alternative Medicine, Vol.2023, 17 頁, 査読あり

その他：なし

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：なし

示説：なし

その他：なし

氏名 橋本 達志 学部 総合福祉学部 学科 ソーシャルワーク学科 職階 助教

専門分野：精神保健福祉、ナラティブ、スーパービジョン

教育活動：

責任科目：精神保健福祉の原理Ⅱ（2年次後期、2単位、30時間）

担当科目：精神保健福祉の原理Ⅱ（2年次後期、2単位、30時間）基礎演習（1年次通年、60時間）

非常勤講師：北星学園大学（精神保健福祉の原理Ⅰ、ソーシャルワークの理論と方法（精神）Ⅰ、社会福祉入門）、北海道医療大学大学院（スーパービジョン特論）、専門学校北海道福祉・保育大学校（就労支援サービス）、北海道介護福祉学校（障害の理解Ⅱ・精神障害部分）

学内委員会・学科内業務等：

必達、学生委員会、高大連携プロジェクト、

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本家族療法学会、日本精神保健福祉士学会、日本精神障害者リハビリテーション学会、日本精神保健福祉学会、北海道地域福祉学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：一般社団法人北海道精神保健福祉士協会（副会長）、北海道自立支援協議会地域移行部会、北海道自殺対策検討委員、北海道福祉教育アドバイザー、栗山小学校学校運営委員、北広島市自立支援協議会、北広島市精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築検討プロジェクトチーム（リーダー）、ふくおかNPOセンター評議員、

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：「シナプスの笑い」ラグーナ出版 2023.vol.51,36-39 医療福祉を愛する人たち

「精神医療」2023.No.11,109-111 本の紹介

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：恵庭南高校いのちの授業（自殺予防）、平岡緑中学校メンタルヘルス授業、社会福祉法人ノテ福祉会メンタルヘルス研修、旭川市スーパービジョン研修会、一般社団法人北海道精神保健福祉士協会入会時指定研修Ⅱ、令和5年度相談援助職員専門研修、北広島市高齢者居宅部会研修会、令和5年度日常生活自立支援事業生活支援員研修、社会福祉法人ノテ福祉会労務管理研修、障害者差別解消道民フォーラム in 札幌、北海道障がい者ピアサポーター養成研修基礎編（講義、演習）、岩見沢市スーパービジョン研修、北海道障がい者ピアサポーター養成研修専門（講義、演習）、北海道障がい者ピアサポーター養成講座フォローアップ（講義、演習）、札幌白石東地区社会福祉協議会防災研修、中標津東小学校・広陵中学校合同授業（メンタルヘルス）

シンポジウム：障害者差別解消道民フォーラム in 札幌（座長）

一般講演：第22回日本精神保健福祉士学会「にんげん図書館を通して共生の場を創り出す1.～参加した学生の感想分析から～」 「にんげん図書館を通して共生の場を創り出す2.～生きている本がどのように影響を受けたか～」

示説：なし

その他：サービス管理責任者研修ファシリテーター（2日間）、なかしべつHappyぼうさいプロジェクト（ワークショップ）、北広島市防災研修（ワークショップ）、大阪セルフーズ（精神障害者グループ）ワークショップ、鳥取市防災研修（ワークショップ）、旭川市コミュニティグループスーパービジョン（月一回計11回実施）、滝川市コミュニティグループスーパービジョン（月一回計12回実施）、岩見沢市コミュニティグループスーパービジョン（月一回計10回実施）、北広島市コミュニティグループスーパービジョン（月一回、2グループ計24回実施）、一般社団法人北海道精神保健福祉士協会道南ブロックグループスーパービジョン（3回）防災国体 in 横浜（ワークショップ）

氏名 山下 浩紀 学部 総合福祉学部 学科 ソーシャルワーク学科 職階 助教・地域貢献センター長

専門分野： ソーシャルワーク、社会福祉士養成教育、障害者虐待防止

教育活動：

責任科目：ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ（１年次、２単位、３０時間）、ソーシャルワーク演習Ⅰ（２年次、１単位、３０時間）、ソーシャルワーク演習Ⅱ（２年次、２単位、６０時間）、ソーシャルワーク理論と方法Ⅲ（２年次、２単位、３０時間）

担当科目：ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ（１年次、２単位、３０時間）、ソーシャルワーク演習Ⅰ（２年次、１単位、３０時間）、ソーシャルワーク演習Ⅱ（２年次、２単位、６０時間）、ソーシャルワーク理論と方法Ⅲ（２年次、２単位、３０時間）

非常勤講師：北星学園大学（ソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱ、相談援助演習Ⅱ）

学内委員会・学科内業務等：

教務委員会、カリキュラム委員会、地域貢献センター（センター長）

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本社会福祉学会、日本ソーシャルワーク学会、日本地域福祉学会、日本社会福祉士会、東洋大学福祉社会開発研究センター客員研究員、日本ソーシャルワーク教育学校連盟北海道ブロック事務局員

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：札幌市消防局救急救命士養成所 第29期救急救命士養成課程「社会保障と社会福祉」講師

顕彰：なし

論文（著書、総説、原著、その他）：

著書：『介護福祉士実務者研修テキスト第2巻』介護1-介護の基本、コミュニケーション技術、生活支援技術―第3版 中央法規出版。（分担執筆）

総説：なし

原著：なし

その他：研究報告「福祉現場で働く人のライフスタイルと健康；実態把握とうつとの関連要因に焦点をあてて」日本医療大学紀要第9巻

講演（特別講演、シンポジウム、一般講演、示説、その他）：

特別講演：

シンポジウム：

一般講演：

示説：

その他：

11-1-⑧ 総合福祉学部 介護福祉マネジメント学科

氏名 伊藤 一 学部 総合福祉学部 学科 介護福祉マネジメント学科 職階 教授

専門分野：医療経営、医療マーケティング

教育活動：

責任科目：経営学入門（1年次、1単位、15時間）、医療マーケティング（3年次、2単位、30時間）、持続可能社会と地域医療福祉経営（3年次、2単位、30時間）、地域活性化と地域医療（4年次、2単位、30時間）、地域連携実践（3年次、2単位、30時間）、医療流通システム論（3年次、2単位、30時間）、医療経済学（3年次、2単位、30時間）、専門演習Ⅰ（3年次、4単位、60時間）、専門演習Ⅱ（4年次、4単位、60時間）、卒業研究（4年次、4単位、60時間）、医療経済学（2年次、1単位、15時間）（診療放射線学科）

担当科目：医療福祉とマネジメント（7.5時間）、経営学入門（15時間）、医療マーケティング（15時間）、持続可能社会と地域医療福祉経営（15時間）、地域活性化と地域医療（30時間）、地域連携実践（15時間）、医療流通システム論（30時間）、医療経済学（30時間）、専門演習Ⅰ（60時間）、専門演習Ⅱ（60時間）、卒業研究（60時間）、医療経済学（15時間）（診療放射線学科）

非常勤講師：小樽商科大学（流通システム論）

学内委員会・学科内業務等：

学科長（介護福祉マネジメント学科）、教務委員、自己点検評価委員、ハラスメント防止委員、入試選抜委員、入試委員、IR運営委員、不正調査委員、人権擁護委員、国際交流委員、教員選考委員

学術活動：

所属学会・研究会等：

医療マネジメント学会、日本病院管理学会、日本商業学会、日本地域活性学会（北海道部会監事）、生活経済学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：医療安全管理者養成講習会・講師

顕彰：なし

論文（著書、総説、原著、その他）：

著書：

総説：

原著：

その他：

講演（特別講演、シンポジウム、一般講演、示説、その他）：

特別講演：

シンポジウム：

一般講演：

示説：

その他：

氏名 石黒 匡人 学部 総合福祉学部 学科 介護福祉マネジメント学科 職階
教授

専門分野： 行政法

教育活動：

責任科目：法学入門（1 年次 1 単位 16 時間）、法学入門（通信課程）（1 年次 1 単位
16 時間）、行政法 （2 年次 2 単位 30 時間）

担当科目：同上

非常勤講師：小樽商科大学 （租税法）

学内委員会・学科内業務等：

学生委員会（委員長）、研究倫理委員会、ハラスメント防止委員会、

学術活動：

所属学会・研究会等： 日本公法学会、 租税法学会

科学研究費（研究資金）の取得：

基盤研究(C)「法の定立・解釈・適用における地域特性の影響：北海道の事例
に基づく分野横断的研究」（継続） 代表

社会活動：小樽市情報公開・個人情報保護審査会 会長、小樽市行政不服審査会 会長、
小樽市コンプライアンス委員会 副会長、 北しりべし廃棄物処理広域連合情
報公開・個人情報保護審査会 会長、北しりべし廃棄物処理広域連合行政不服
審査 会長、江別市情報公開審査会 副会長、 江別市個人情報保護審査会 副
会長、ノテ福祉会職員研修「個人情報保護」1 時間 担当（10 月 31 日収録）、
ノテ福祉会 個人情報保護に関わるマニュアル 分担執筆

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：なし

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：なし

示説：なし
その他：なし

氏名 加藤 敏文 学部 総合福祉学部 学科 介護福祉マネジメント学科 職階
教授

専門分野：経営学

教育活動：

責任科目：事業構想論（3 年次、2 単位、30 時間）、サービス産業論（4 年次、2 単位、30 時間）、専門演習Ⅰ・Ⅱ（3 年次、2 単位、30 時間）、専門演習Ⅲ・Ⅳ（4 年次、2 単位、30 時間）、卒業論文（4 年次、2 単位、30 時間）

担当科目：マーケティング入門（1 年次、2 単位、20.時間）

通信教育 マーケティング入門（1 年次、2 単位、16 時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

図書・学術振興委員会(委員)、国際交流委員会(委員)、学年担任（2023 年度入学生）

学術活動：

所属学会：日本商業学会、研究会等：北方マーケティング研究会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

論文（著書、総説、原著、その他）：

著書：

総説：

原著：研究ノート：「医療サービスの共同生産と顧客満足の関係に関する一考察『Marketing Frontier Journal』第 13 号(2023 年 12 月), pp43-49.

講演（特別講演、シンポジウム、一般講演、示説、その他）：なし

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：なし

示説：なし

その他：研究会発表「医療サービスの共同生産は顧客満足にどのように関係するか」
於 小樽商科大学札幌サテライト, 2024 年 3 月 16 日, 15:00~16:00

氏名 志渡 晃一 学部 総合福祉学部 学科 介護福祉マネジメント学科 職階
教授

専門分野： 公衆衛生学 疫学 保健統計学

教育活動：

責任科目：(総合福祉学部) 150 コマ 225 時間、統計学 (2023 年介護マネジメント学科、2 単位、15 回 22.5 時間)、統計学 (2023 年ソーシャルワーク学科、2 単位、15 回 22.5 時間)、統計学 (2023 年通信課程、2 単位、15 回 15 時間)、情報科学 (2023 年介護マネジメント学科、2 単位、15 回 22.5 時間)、情報科学 (2023 年ソーシャルワーク、2 単位、15 回 22.5 時間)、情報科学 (2023 年通信課程、2 単位、15 回 15 時間)、公衆衛生学 (2023 年介護マネジメント学科、2 単位、15 回 22.5 時間)、公衆衛生学 (2023 年介護ソーシャルワーク学科、2 単位、15 回 22.5 時間)、統計解析 (2023 年介護マネジメント学科、2 単位、15 回 22.5 時間)、社会福祉調査の基礎 (2023 年ソーシャルワーク学科、2 単位、15 回 22.5 時間)、(保健医療学部) 63 コマ 94.5 時間、保健医療統計 (2023 年看護学科、1 単位、8 回 12 時間)、公衆衛生学 (2023 年看護学科、1 単位、8 回 12 時間)、公衆衛生学 (2023 年診療放射線学科、1 単位、8 回 12 時間)、公衆衛生学 (2023 年臨床工学科、2 単位、15 回 22.5 時間)、衛生学 (2023 年診療放射線学科、1 単位、8 回 12 時間)、統計学 (2023 年看護学科、1 単位、8 回 12 時間)、統計学 (2023 年理学療法学科、1 単位、8 回 12 時間)

担当科目：(総合福祉学部) 150 コマ 225 時間、統計学 (2023 年介護マネジメント学科、2 単位、15 回 22.5 時間)、統計学 (2023 年ソーシャルワーク学科、2 単位、15 回 22.5 時間)、統計学 (2023 年通信課程、2 単位、15 回 15 時間)、情報科学 (2023 年介護マネジメント学科、2 単位、15 回 22.5 時間)、情報科学 (2023 年ソーシャルワーク、2 単位、15 回 22.5 時間)、情報科学 (2023 年通信課程、2 単位、15 回 15 時間)、公衆衛生学 (2023 年介護マネジメント学科、2 単位、15 回 22.5 時間)、公衆衛生学 (2023 年介護ソーシャルワーク学科、2 単位、15 回 22.5 時間)、統計解析 (2023 年介護マネジメント学科、2 単位、15 回 22.5 時間)、社会福祉調査の基礎 (2023 年ソーシャルワーク学科、2 単位、15 回 22.5 時間)、(保健医療学部) 47 コマ 70.5 時間、保健医療統計 (2023 年看護学科、1 単位、4 回 6 時間)、公衆衛生学 (2023 年看護学科、1 単位、4 回 6 時間)、公衆衛生学 (2023 年診療放射線学科、1 単位、8 回 12 時間)、公衆衛生学 (2023 年臨床工学科、2 単位、15 回 22.5 時間)、衛生学 (2023 年診療放射線学科、1 単位、8 回 12 時間)、統計学 (2023 年看護学科、1 単位、4 回 6 時間)、統計学 (2023 年理学療法学科、1 単位、4 回 6 時間間)

非常勤講師：北海道医療大学 (公衆衛生学)、美唄聖華高等学校 (公衆衛生学)

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本社会医学会（評議員）、日本疫学会、日本社会福祉学会、日本褥瘡学会、
日本産業衛生学会、北海道産業衛生学会（役員）、北海道公衆衛生学会（理事）

科学研究費（研究資金）の取得：

文部科学省基盤研究(C)「社会福祉士養成教育における客観的臨床能力試験
(OSCE) 普及モデルの開発」分担者

社会活動：北海道公衆衛生協会（理事）、北海道家庭生活カウンセリングセンター研修
論文（著書，総説，原著，その他）：

研究報告：日本医療大学紀要 2023 年（受理掲載予定）保健医療系大学新入学生のライフ
スタイルと健康（第三報）；①うつと関連要因 Lifestyles and Health of New
Students in Health Sciences Universities（second report）；①Depressive
Tendencies and Related Factors 志渡晃一 1) Shido Koichi, 米田龍大 2) Yoneta
Ryuta, 平野啓介 1) Hirano Keisuke, 織田なおみ 1) Oda Naomi, 越石全 1)
Koshiishi Makoto 1) 日本医療大学 2) 北海道医療大学

日本医療大学紀要 2023 年（受理掲載予定）【保健医療系大学新入学生のライフ
スタイルと健康（第三報）；②不眠と関連要因】平野啓介 1) 米田龍大 2)
織田なおみ 1) 志渡晃一 1) 1) 日本医療大学 2) 北海道医療大学

日本医療大学紀要 2023 年（受理掲載予定）【福祉現場で働く人のライフスタイル
と健康；実態把握とうつと関連要因】山下浩紀 1) 米田龍大 2) 織田なお
み 1) 志渡晃一 1) 1) 日本医療大学 2) 北海道医療大学

北海道公衆衛生学雑誌 37（2）（印刷校正中）【高等教育機関に所属する学生
におけるソーシャルキャピタルと抑うつの関連 - 自覚的ストレスの有無によ
る比較】中野結貴 1) 米田政葉 2) 米田龍大 3) 安孫子千鶴子 3) 越石全 4)
平野啓介 4) 児玉壮志 3) 志渡晃一 4) 1) 北星学園大学 2) 八戸大学 3)
北海道医療大学 4) 日本医療大学

北海道公衆衛生学雑誌 37（2）（印刷校正中）【北海道・東北地域の高等教育
機関に所属する学生の抑うつと HSP との関連】米田龍大 1) 安孫子千鶴子 1)
織田なおみ 2) 米田政葉 3) 越石全 2) 平野啓介 2) 中野結貴 4) 児玉壮志 1)
志渡晃一 2) 1) 北海道医療大学 2) 日本医療大学 3) 八戸大学 4) 北
星学園大学

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

2023 年 10 月 12 日（木）千歳高星大学大学院講演

北ガス文化ホール（市民文化センター）4 階大会議室 「活き活きと生きる
ために」

氏名 照井 レナ 学部 総合福祉学部 学科 介護福祉マネジメント学科 職階

教授

専門分野：医療福祉経営、まちづくり、訪問看護、災害看護、地域・在宅看護学教育

教育活動：

責任科目：医療のしくみ（1年次前期、2単位、30時間）、こころとからだのしくみⅠ（2年次前期、4単位、60時間）、こころとからだのしくみⅡ（2年次後期、4単位、60時間）

担当科目：医療のしくみ（1年次前期、2単位、18時間）、こころとからだのしくみⅠ（2年次前期、4単位、60時間）、こころとからだのしくみⅡ（2年次後期、4単位、60時間）

非常勤講師：旭川医科大学医学系研究科修士課程（看護理論特論、看護研究特論）、札幌医科大学（保健医療福祉行政論Ⅱ、家族看護論）、天使大学（多職種連携演習）、札幌国際大学（子どもの保健、子どもの健康と安全）、日本医療大学（ボランティア論）、三草会看護専門学校（地域・在宅看護論総論Ⅱ）

学内委員会・学科内業務等：

キャリアセンター運営委員会、研究費審査委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本看護科学学会（代議員）、地域活性学会（理事、論文査読者）、北海道公衆衛生学会（評議員）、日本地域看護学会、日本在宅ケア学会、日本在宅看護学会（論文査読者）、日本看護管理学会、日本人間工学会、日本エンドオブライフケア学会、看護質的統合法（KJ法）研究会、母性衛生学会、日本創傷・オストミー・失禁管理学会、北海道医療大学看護福祉学部学会

科学研究費（研究資金）の取得：

科学研究費補助金 2021-2025年度 基盤研究(C) 研究分担者「過疎地域市町村で医療的ケア児を支援するための災害時システムの構築」研究代表者：渡邊友香（名寄市立大学）

在宅医療助成 勇美記念財団 調査研究費助成 2021-2023年度 研究代表者「訪問看護ステーションの経営品質と個人と組織の能力向上に関する研究」

日本医療大学 学術助成費 2023年度 研究分担者「発達障害を持つ親の育児の困難性と精神保健福祉士の支援モデルに関する基礎的研究」研究代表者：松浦智和（日本医療大学）

社会活動：特定非営利活動法人飛んでけ車いすの会（代表理事）、特定非営利活動法人 Japan Academy of Integrated Care（理事）、札幌駅前通まちづくり株式会社（プロジェクト「人体改造カブ株式会社」：プロジェクトマネージャー）、一般社団法人ホームホスピスばらのおうち（監事）、小樽市立病院地域医療支援委員会委員（学識経験者）、社会福祉法人札幌恵友会（評議員）、社会福祉法人美松善隣会（評議

員)、特定非営利活動法人ねっこぼっこのいえ(保健医療福祉専門相談員)、蘭越町(まちづくり応援大使)、新人訪問看護ナースを応援する会メンバー、北海道神宮神輿会頓宮(監事)、米-1 グランプリ in らんこし(特別審査員)

顕彰：なし

論文(著書、総説、原著、その他)：

著書：

総説：

原著：

その他：

講演(特別講演、シンポジウム、一般講演、示説、その他)：

特別講演：

シンポジウム：

一般講演：

示説：

その他：

氏名 林 美枝子 学部 総合福祉学部 学科 介護福祉マネジメント学科 職階 教授

専門分野：医療人類学、介護人類学、社会医学

教育活動：

責任科目：保健医療学部

看護学科：文化人類学(1年後期 1単位 15時間)、北海道史(1年前期 1単位 15時間)、医療と社会(1年後期 1単位 15時間)、家族論(2年前期 1単位 15時間)、

リハビリテーション学科：医療と社会(1年後期 1単位 15時間)、文化人類学(1年後期 1単位 15時間)、北海道史(1年前期 1単位 15時間)

診療放射線学科：医療と社会(1年後期 1単位 15時間)、文化人類学(1年後期 1単位 15時間)、北海道史(1年前期 1単位 15時間)

臨床検査学科：医療と社会(1年後期 1単位 15時間)、文化人類学(1年後期 1単位 15時間)、北海道史(1年前期 1単位 15時間)

臨床工学学科：医療と社会(1年後期 1単位 15時間)、文化人類学(1年後期 1単位 15時間)、北海道史(1年前期 1単位 15時間)

総合福祉学部

介護福祉マネジメント学科：北海道史(1年後期 1単位 15時間)、社会学と社会システム(2年前期 2単位 30時間)、文化人類学(2年後期 2単位 30時間)

ソーシャルワーク学科：北海道史(1年後期 1単位 15時間)、社会学と社会システム(2

年前期 2 単位 30 時間)、文化人類学(2 年後期 2 単位 30 時間)
通信学科：北海道史(1 年後期 1 単位 15 時間)
非常勤講師：札幌国際大学(地域社会と健康、前期 2 単位 30 時間、現代の医療、後期
2 単位 30 時間 現代民俗学 30 時間)

学内委員会・学科内業務等：

教授会、学生委員会、保健管理委員会、人権擁護委員会

学術活動：

所属学会・研究会等：

所属学会・研究会等：日本文化人類学会、日本民俗学会、日本公衆衛生学会、
日本介護福祉学会、日本認知症ケア学会、北海道民族学会、日本死と臨床研
究会、北海道ジェンダー研究会

科学研究費（研究資金）の取得：

基盤 C「住民参加による日本型看取りのドゥーラ導入の課題と臨死期ケアの
変容について」

その他の取得：全国介護老人福祉施設協議会「死の人権と死の個別化に対応
した『次世代型看取りのガイドブック』の作成とその情報効果の検証」

社会活動：講演：令和 5 年 7 月 25 日 えるのす連続講座～女性大学～「看取り新時代 最
期の命をその人らしく」令和 5 年 9 月 23 日 熊谷市教育委員会『荻野銀とそ
のあゆみと出会い』出版記念パネルディスカッション 「その後、ではない北
海道の荻野吟子」、令和 5 年 10 月 12 日 厚生労働省全国婦人相談員・心理判
定研究協議会「医療人類学と DV」

遠隔講演：令和 5 年 5 月 27 日 東洋英和女子大学死生学研究所連続講座「『看
取りのドゥーラ』をめぐり介護人類学的考現学、最期の寄り添い人が臨死期を
どう変えていくのか」

社会貢献：公益財団法人市町村振興協会 評議員、一般財団法人道民活動振興
センター 評議員、北海道史編さん委員会 専門委員、北海道社会功労賞 推
薦選考委員、北海道文化審議会 委員、公益財団法人北海道女性協会 理事、
北海道生産性本部 理事、公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会 評議員、
札幌市社会福祉審議会 委員、札幌市介護保険事業計画推進委員会 副委員長、
熊谷市史編集委員 特別調査員、札幌市国民健康保険運営協議会 委員、Q の
会・北海道 会長

顕彰：なし

論文（著書、総説、原著、その他）：

著書：共著 執筆担当部分「第 5 章 保健・福祉・医療」「第 6 章 社会運動【女性の
人権を求める団体活動】」北海道総務部行政局文書課道史編さん室『北海道現代史
資料編 3(社会・教育・文化)』北海道 2024

林美枝子「看取りのドゥーラー看取り人材の最期のパーツの活かし方」後藤・安田記念東京都市研究所『都市問題』vol114(8):22-28、2023

林美枝子「不都合なトレードへの『抵抗』 介護実践におけるジェンダー規範の揺らぎと再生・強化」大嶋栄子、信田さよ子編『あたらしいジェンダースタディーズ—転換期を読み解く』臨床心理学 増刊第15号:163-169、金剛出版 2023

総説：なし

原著：林美枝子「看取りのドゥーラーをめぐる文化人類学的考現学—最後の寄り添い人が臨死期をどう変えていくのか—」東洋英和女子学院大学死生学研究所無『死生学年報2024』:43-60 リトン 2024

その他：資料紹介 林美枝子「スモンと闘う～判決を求める患者たち～(使用和52年)」とスモン関連資料『北海道史への扉』第5号:11-16 北海道 2024

寄稿文 林美枝子「研究仕舞いの中で出会った『クオータ制を推進する会・北海道』での一年」北海道女性研究者の会『通信』79:55-59 2024

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

一般講演：2023年5月27日 東洋英和女子大学死生学研究所連続講座「『看取りのドゥーラー』をめぐる介護人類学的考現学、最期の寄り添い人が臨死期をどう変えていくのか」

2023年7月25日 えるのす連続講座～女性大学～「看取り新時代 最期の命をその人らしく」

2023年10月12日 厚生労働省全国婦人相談員・心理判定研究協議会「医療人類学とDV」

シンポジウム：2023年5月23日 熊谷市教育委員会『荻野銀とそのあゆみと出会い』出版記念パネルディスカッション「その後、ではない北海道の荻野吟子」

示説：看取りのドゥーラー体験 寝ずの番の計画立案からの考察 林美枝子 吉川直人 第46回日本死の臨床研究会 2023年11月26日

一般住民の死生観について 看取り介護への一般住民への参加を考察するための研究からの報告 林美枝子 吉川直人、第82回日本公衆衛生学会 2023年11月1日

死の対話の場で語られたこと 吉川直人、林美枝子 第46回日本死の臨床研究会 2023年11月26日

その他：なし

氏名 小野寺 美希子 学部 総合福祉学部 学科 介護福祉マネジメント学科 職階：准教授

専門分野：経営学（組織論）、医療管理学、看護管理学

教育活動：

責任科目：医療管理総論（2年次、2単位、30時間）

担当科目：医療管理総論（2年次、2単位、30時間）。医療管理総論において、PBL（課題解決型学習）を導入し、課題解決に向けた学生によるプレゼンテーションも実施（対象施設：札幌禎心会病院）。

非常勤講師：札幌医科大学大学院保健医療学研究科看護学専攻（看護管理特論）

学内委員会・学科内業務等：

研究倫理委員

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本看護研究学会、日本看護管理学会、日本看護学教育学会、人材育成学会、経営行動科学学会、日本経学会、日本医療マネジメント学会。経営行動科学学会第26回年次大会実行委員。

科学研究費（研究資金）の取得：無し

社会活動：札幌医科大学附属病院 病院改革ワーキンググループへのアドバイザー

顕彰：無し

論文（著書、総説、原著、その他）：

著書：

総説：

原著：高橋史早・小野寺美希子（2023）医療サービスにおけるサービス品質次元とクチコミの関係に関する実証研究（投稿中）

小野寺美希子（2023）看護マネジャーの仕事経験を通じた仕事の信念形成：職位の異なりに着目した経験学習プロセス（投稿中）

小野寺美希子（2023）看護師の仕事経験とプロフェッショナリズムとの関係性：職務経

験年数を調整変数に用いた検証（投稿中）

その他：ディスカッション・ペーパー Fumisa Takahashi and Mikiko Onodera (2023). The Relationship between Word-of-Mouth and the Dimensions of Service Quality in the Healthcare Context: An Empirical Study. DISCUSSION PAPER SERIES Faculty of Economics, Nagasaki University No.2023-02 (June 2023)

講演（特別講演、シンポジウム、一般講演、示説、その他）：

特別講演：

シンポジウム：経営行動科学学会第26回年次大会発表「仕事と研究の両立について」（招待有り）。

一般講演：

示説：

その他：

氏名 塚辺 博崇 学部 総合福祉学部 学科 介護福祉マネジメント学科 職階
准教授

専門分野： 財務会計、監査

教育活動：

責任科目：会計学入門（1年次、2単位、30時間）、簿記入門（1年次、2単位、30時間）、
会計学Ⅰ（2年次、2単位、30時間）簿記（2年次、2単位、30時間）、会計
学入門（通信教育課程1年次、2単位、30時間）、簿記入門（通信教育課程1
年次、2単位、30時間）

担当科目：会計学入門（1年次、2単位、30時間）、簿記入門（1年次、2単位、30時間）、
会計学Ⅰ（2年次、2単位、30時間）簿記（2年次、2単位、30時間）、会計
学入門（通信教育課程1年次、2単位、30時間）、簿記入門（通信教育課程1
年次、2単位、30時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

教務委員会（委員長）、カリキュラム委員会、入学者選抜委員会、衛生委員
会、転学部転学科運営委員会、その他入試関連業務

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本会計研究学会、日本企業経営学会、日本商業教育学会

科学研究費（研究資金）の取得：

石井記念証券研究振興財団 2023年度研究助成金受給（グループ研究・代表）

社会活動：北海道警察札幌方面留置施設視察委員、中小企業診断士実務補習副指導員

顕彰：なし

論文（著書、総説、原著、その他）：

著書：はじめまして会计学（共著）中央経済社

総説：なし

原著：なし

その他：

講演（特別講演、シンポジウム、一般講演、示説、その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：なし

示説：なし

その他：なし

備考：

氏名 平野 啓介 学部 総合福祉学部 学科 介護福祉マネジメント学科（兼 留学生別科） 職階 准教授（兼 留学生別科長）

専門分野：介護福祉士養成教育、介護過程教授方法、発達障害（特に自閉症スペクトラム症、注意欠如・多動性障害等）を持つ方への就労支援および生活支援

教育活動：

責任科目：人間関係とコミュニケーションⅠ（介護福祉マネジメント学科およびソーシャルワーク学科 1年次前期、単位数2、担当時間30時間）、人間関係とコミュニケーションⅡ（介護福祉マネジメント学科およびソーシャルワーク学科 1年次後期、単位数2、担当時間30時間）、人間関係とコミュニケーションⅠ（通信教育部1年次前期、単位数2、担当時間30時間）、人間関係とコミュニケーションⅡ（通信教育部1年次後期、単位数2、担当時間30時間）、社会の理解Ⅰ（介護福祉マネジメント学科2年次前期、単位数2、担当時間30時間）、社会の理解Ⅱ（介護福祉マネジメント学科2年次後期、単位数2、担当時間30時間）、基礎演習（1年次通年、単位数2、担当時間60時間）

担当科目：人間関係とコミュニケーションⅠ（介護福祉マネジメント学科およびソーシャルワーク学科 1年次前期、単位数2、担当時間30時間）、人間関係とコミュニケーションⅡ（介護福祉マネジメント学科およびソーシャルワーク学科 1年次後期、単位数2、担当時間30時間）、人間関係とコミュニケーションⅠ（通信教育部1年次前期、単位数2、担当時間30時間）、人間関係とコミュニケーションⅡ（通信教育部1年次後期、単位数2、担当時間30時間）、社会の理解Ⅰ（介護福祉マネジメント学科2年次前期、単位数2、担当時間30時間）、社会の理解Ⅱ（介護福祉マネジメント学科2年次後期、単位数2、担当時間30時間）、基礎演習（1年次通年、単位数2、担当時間60時間）

非常勤講師：社会福祉法人ノテ福祉会（初任者研修、リスクマネジメント研修）、札幌医学技術福祉歯科専門学校（障害の理解Ⅰ、生活支援技術Ⅲ－3）、せいとく介護こども福祉専門学校（認知症の理解Ⅰ、認知症の理解Ⅱ）、

学内委員会・学科内業務等：

留学生別科（留学生別科長）、学生募集対策委員会（学生募集必達プロジェクト委員）、カリキュラム委員会委員

学術活動：なし

所属学会・研究会等：

北海道医療大学看護福祉学部学会、北海道社会福祉学会、日本社会医学会、

日本コミュニケーション学会、日本職業リハビリテーション学会、日本介護福祉学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：厚生労働省 令和5年度年度老人保健事業推進等事業 適切な介護教員講習会の実施に向けた環境整備に関する調査研究事業検討委員会および作業部会委員

顕彰：なし

論文（著書、総説、原著、その他）：

著書：公益社団法人日本介護福祉士会編集『介護福祉士基本研修テキスト 第2版』中央法規出版（共著）

第1章3 介護福祉士に求められる役割と能力 自立支援の考え方 pp.27-34

総説：なし

原著：なし

その他：（報告）日本医療大学紀要『保健医療系大学新入学生のライフスタイルと健康 第二報：②不眠と関連要因

講演（特別講演、シンポジウム、一般講演、示説、その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：なし

示説：なし

その他：（基調講演）2023年9月21日（木）民介協北海道支部セミナー「外国人介護人材の活用と実践～さらなる可能性を拓げるために～」（札幌千代田ビル 11F 大会議室）

氏名 佐藤 恵 学部 総合福祉学部 学科 介護福祉マネジメント学科 職階 講師

専門分野：介護過程の展開、認知症ケア、脳死と臓器移植、ターミナルケア

教育活動：

責任科目：介護過程Ⅰ（1年次後期、2単位、60時間）、介護過程Ⅱ（2年次前期、2単位 60時間）、認知症の理解Ⅰ（2年次後期 2単位 30時間）、介護総合演習Ⅱ B（2年次後期 1単位 30時間）

担当科目：基礎演習（60時間）

学内委員会・学科内業務等：

教務委員会、不正防止委員会、ハラスメント防止委員会、総合福祉学部転学部転学科プロジェクトメンバー、介護福祉士養成大学連絡協議会担当委員

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本老年看護学学会、日本エンドオブライフケア学会、日本死の臨床研究会、
日本リスクマネジメント学会、日本介護支援専門員協会、日本生活支援学会、
日本保健医療福祉連携教育学会、日本介護福祉学会

科学研究費（研究資金）の取得：

公益社団法人全国老人福祉施設協議会調査研究助成金取得、死の
人権と死の個別化に対応した『次世代型看取りのガイドブック』の作成とその
情報的効果の検証

社会活動：介護技能実習評価試験監督（「初級」・「専門級」）実施、社会福祉法人ノテ福祉
会ノテ石山・ノテ幸栄の里開設時職員研修実施

顕彰：なし

論文（著書、総説、原著、その他）：

著書：「上海智倫企業管理有限公司 介護教育テキスト～基礎編～」 生活支援技術、七
七舎、PP282～397、2023 年

「上海智倫企業管理有限公司 介護教育テキスト～応用編～」 介護過程、レクリ
エーション、七七舎、介護過程 PP1～52、レクリエーション PP176～188 2023
年

こころとからだのしくみⅡ 第 8 節休息・睡眠、第 9 節人生の最終段階における
ケア、介護福祉士養成実務者研修テキスト、長寿社会開発センター、PP192～222、
2023 年

「使える！ 介護実践のファーストステップ～現場のリーダーを目指すあなたへ
～」、ブリコラージュ、第 1 章介護過程 PP10～PP53、第 5 章レクリエーション
PP132～144、2023 年

著作：なし

原著：なし

その他：雑誌投稿：認知症教育のあり方を考える～ミャンマーからの介護技能実習生
の目線から～地域ケアリング 2023.Vol.25.NO3 .PP83～86（編集部からの依
頼にて再投稿）、「A 法人高齢者施設・事業における有機的な専門職連携・協働
を可能にする取組み」日本老年看護学会第 28 回学術集会投稿 P216、2023 年

講演（特別講演、シンポジウム、一般講演、示説、その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：なし

示説：なし

その他：高齢者福祉施設における多職種連携・協働上の困難とその取り組みの検討
～A 法人の現状調査から～、日本保健医療福祉連携教育学会ポスター発表 P-15、
2023 年

氏名 織田 なおみ 学部 総合福祉学部 学科 介護福祉マネジメント学科 職
階 助教

専門分野： 介護福祉教育、介護実習、生活支援技術 等

教育活動：

責任科目：生活支援技術ⅠA（1年次・2単位・60時間）、生活支援技術ⅠB（1年次・2
単位・60時間）、介護の基本ⅠA（1年次・4単位・60時間）、生活支援技術Ⅱ
A（Ⅱ年次・2単位・60時間）、生活支援技術ⅡB（Ⅱ年次・1単位・30時間）、
介護総合演習ⅡA（Ⅱ年次・1単位・30時間）

担当科目：生活支援技術ⅠA（60時間）、生活支援技術ⅠB（60時間）、介護の基本ⅠA（60
時間）、介護総合演習ⅠA（30時間）、生活支援技術ⅡA（60時間）、生活支援
技術ⅡB（30時間）、介護総合演習ⅡA（30時間）、介護総合演習ⅡB（30時
間）

非常勤講師：札幌医学技術福祉歯科専門学校（チームマネジメント）、専門学校北海道
福祉・保育大学校（生活支援技術）

学内委員会・学科内業務等：

自己点検・評価委員会 委員 学科担任 実習調整 等

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本介護福祉士会・日本介護学会・日本介護福祉教育学会 北海道医療大学看
護福祉学部学会・北海道公衆衛生学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：北海道介護福祉士会（理事） 北海道社会福祉協議会 研修活動

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：

総説：

原著：北海道・東北地域の高等教育機関に所属する学生の抑うつと HSP との関連（共）
（北海道公衆衛生学雑誌，Vol37 No.2 2023）

その他：1 新カリキュラム導入後の介護実習区分Ⅱにおける実習学生の学びの特徴 ～
実習学生の実習報告書とアンケート調査から

2 高等教育機関の所属する学生におけるソーシャルキャピタルと抑うつの関
一自覚的ストレスの有無による比較一 （共）（北海道公衆衛生学雑誌，Vol37
No.2 2023）

3 保健医療系大学新入学生のライフスタイルと健康（第三報）；①うつと関連要
因（共）（※…1 および 3 は、2023 年度日本医療大学紀要に掲載予定）

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：

シンポジウム：

一般講演：

示説：

その他：第 32 回 介護福祉学会大会実行委員

氏名 坂野 大樹 学部 総合福祉学部 学科 介護福祉マネジメント学科 職階
助教

専門分野：医療経営、医療情報、病院経営人材育成

教育活動：

責任科目：経営戦略(2 年次、1 単位、30 時間)

担当科目：経営戦略（30 時間）、医療のしくみ（12 時間）、基礎演習（30 時間）

非常勤講師：北海道大学大学院保健科学院（医療マネジメント特講）、神戸大学実践的
病院経営マネジメント人材養成プラン「M×M KOBE」（病院経営ケーススタ
ディ I）

学内委員会・学科内業務等：

親睦会役員、募集必達プロジェクト

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本医療マネジメント学会、日本医療情報学会、日本シミュレーション&ゲ
ーミング学会、北海道大学大学院保健科学研究所 健康イノベーションセン
ター（Health Innovation & Technology Center, HITEC）での研究活動に参画

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：京都大学附属病院課題解決型高度医療人材養成プログラム「KUMAHOPE」(PBL
担当)、札幌恵佑会病院事務勉強会(研修講師)

顕彰：なし

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：「Time-Driven Activity-Based Costing 分析による診療放射線技師の静脈確保の原価計
算の試み ―タスク・シフト前後の造影 CT 検査における比較―」

JART 日本診療放射線技師会誌 (Journal of JART) 採択決定（2024/2）→掲載待ち
共同筆頭著者（共著）

その他：なし

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：なし

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：なし

示説：なし

その他：京都大学附属病院課題解決型高度医療人材養成プログラム「KUMAHOPE」(PBL
担当)

氏名 高橋 銀司 学部 総合福祉学部 学科 介護福祉マネジメント学科 職階
助教

専門分野：社会福祉

教育活動：

責任科目：コミュニケーション技術Ⅱ（２年次、１単位、３０時間）、介護の基本Ⅱ（２
年次、４単位、６０時間）、介護実習Ⅰ型基礎（２年次、１単位、４５時間）、
コミュニケーション技術Ⅰ（１年次、１単位、３０時間）、介護総合演習ⅠＡ
（１年次、２単位、３０時間）

担当科目：コミュニケーション技術Ⅱ（２年次、１単位、３０時間）、介護の基本Ⅱ（２
年次、４単位、６０時間）、介護実習Ⅰ型基礎（２年次、１単位、４５時間）、
介護総合演習ⅡＡ（２年次、１単位、３０時間）、コミュニケーション技術Ⅰ
（１年次、２単位、３０時間）、介護総合演習ⅠＡ（１年次、１単位、３０時
間）、基礎演習（１年次、２単位、３０時間）

非常勤講師：学校法人吉田学園 専門学校北海道福祉・保育大学校（介護の基本Ⅲ）、学
校法人西野学園 札幌心療福祉専門学校（社会保障Ⅰ）、学校法人西野学園
札幌医学技術福祉歯科専門学校（コミュニケーション技術Ⅰ）

学内委員会・学科内業務等：

FD 委員会、地域貢献センター構成員

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本 NPO 学会、日本社会福祉学会、日本介護学会、北海道地域福祉学会、非
営利法人学会

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：一般社団法人福祉システム北海道代表理事(理事長)、札幌市市町村審査会委員、
札幌市市民活動サポートセンター市民活動相談員、福祉系教育教材動画の配信
<https://www.youtube.com/@user-zz1fc7gj8l>、「映像ディレクターと福祉」イン
タビューアー YOUTUBE ○（まる）福連携プラス一般社団法人福祉システム北海道
（2023 年 4 月 10 日配信）、「行政書士と福祉」インタビュー YOUTUBE ○
（まる）福連携プラス、一般社団法人福祉システム北海道（2023 年 5 月 10 日

配信)、「市民活動家と福祉」インタビュー YouTube ○(まる)福連携プラス、一般社団法人福祉システム北海道 (2023 年 6 月 10 日配信)、「女性起業家と福祉」インタビュー YouTube ○(まる)福連携プラス、一般社団法人福祉システム北海道 (2023 年 7 月 10 日配信)、「気象予報士と福祉」インタビュー YouTube ○(まる)福連携プラス、一般社団法人福祉システム北海道 (2023 年 8 月 10 日配信)、「ガソリンスタンド店員と福祉」インタビュー YouTube ○(まる)福連携プラス 一般社団法人福祉システム北海道 (2023 年 9 月 10 日配信)、「民謡歌手と福祉」インタビュー YouTube ○(まる)福連携プラス、一般社団法人福祉システム北海道 (2023 年 10 月 10 日配信)、「安平町長と福祉」インタビュー YouTube ○(まる)福連携プラス、一般社団法人福祉システム北海道 (2023 年 11 月 10 日配信)、「ゴスペルピアニストと福祉」インタビュー YouTube ○(まる)福連携プラス 一般社団法人福祉システム北海道 (2023 年 12 月 10 日配信)、「落語家と福祉」インタビュー YouTube ○(まる)福連携プラス 一般社団法人福祉システム北海道 (2024 年 1 月 10 日配信)、「キャリアコンサルタントと福祉」インタビュー YouTube ○(まる)福連携プラス一般社団法人福祉システム北海道 (2024 年 2 月 10 日配信)、「ダンス講師と福祉」インタビュー YouTube ○(まる)福連携プラス、一般社団法人福祉システム北海道 (2024 年 3 月 10 日配信)

顕彰：感謝状，札幌市市民まちづくり活動助成金寄附，札幌市 (2023 年 10 月)

論文 (著書，総説，原著，その他)：なし

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：【連載】○(まる)福連携 2023 異業種から福祉を探る (2023 年 11～12 月)
北海道医療新聞社「介護新聞」記事

講演 (特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他)：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：「NPO 実践やソーシャルビジネスと社会福祉」札幌市 札幌シニア大学 2024
年 1 月 25 日

示説：なし

その他：北海道 NPO フェスティバル～N フェス 2023～活動発表(NPO 法人北海道 NPO
サポートセンター) 2023 年 10 月 28 日

11-1-⑨ 通信教育部 総合福祉学部 ソーシャルワーク学科教員

氏名 田中英樹 学部 通信教育部 総合福祉学部 学科 ソーシャルワーク学科
職階 部長・教授

専門分野：精神保健福祉学、地域福祉論、ソーシャルワーク、精神障害リハビリテーション学

教育活動：

責任科目：精神保健福祉の原理（2年次、4単位、60時間）「、精神障害リハビリテーション（3年次、2単位、30時間）、ソーシャルワーク演習（精神）（3年次、4単位、60時間）、ソーシャルワーク実習指導（精神）（3、4年次、8単位、120時間）

担当科目：専門演習（60時間）、卒論研究（60時間）

非常勤講師：なし

学内委員会・学科内業務等：

学内運営会議、学校連絡会議、総合福祉学部教務委員、通信教育推進部会議

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本精神保健福祉学会（学会長）、日本精神障害者リハビリテーション学会（元学会長）、日本社会福祉学会（元理事）、日本地域福祉学会、日本福祉教育ボランティア学習学会、

科学研究費（研究資金）の取得：2023年度 なし

社会活動：NPO法人日本地域福祉研究所副理事長、ソーシャルケアサービス研究連絡協議会会員、恩賜財団済生会保健・医療・福祉研究所研究審査委員、所沢市社会福祉協議会 CSW スーパーバイザー、豊島区保健福祉審議会会長、精神保健福祉士国家試験委員会委員長

顕彰：2023年度所沢市功労者表彰受賞

論文（著書、総説、原著、その他）：

著書：

総説：

原著：

その他：単著「希望の共有をめざす未来志向の地域福祉実践・研究」雑誌コミュニティソーシャルワーク、31・32合併号、pp5-9.中峰法規出版、2024.

講演（特別講演、シンポジウム、一般講演、示説、その他）：

特別講演：基調講演：田中英樹「精神保健福祉の再定義に向けて」第10回学術研究集会札幌大会、pp77-88. 精神保健福祉学、第10巻第1号、2023年2月

シンポジウム：「地域の持続可能性の危機と地域福祉実践・研究」大橋謙策、田中英樹、宮城孝、（司会）原田正樹、雑誌コミュニティソーシャルワーク、31・32合併号、pp19-41. 中央法規出版、2024.、「精神保健福祉学の学問

的体系化をめざして」コーディネーター（田中英樹）日本精神保健福祉学会第 11 回学術研究集会、2023. 6. 25. 東京

一般講演：田中英樹「地域福祉サポーターの役割」所沢市社会福祉協議会、6 月 23 日、
田中英樹「ひきこもり支援と地域福祉」地域福祉実践研究セミナー、第 8 分
科会、佐賀県鳥栖市、8 月 25 日

田中秀樹「反応福祉のモリプラント地域福祉実践」反応し未来カレッジ、8 月
29 日、

田中英樹「最近の精神保健福祉の動向～地域移行支援を中心に～」福岡県精
神科病院協会、2024 年 3 月

示説：

その他：学会発表；上田夏生、張フヨウ、田中英樹「子どもが色彩でイメージする地域
福祉感」日本地域福祉学会長野大会、自由研究発表、6 月 11 日、上田市

学会発表；上田夏生、田中英樹「生きづらさを示す下位概念の療育別位置づけ
に関する一考察」日本精神保健福祉学会第 11 回学術研究集会（東京大会）、早
稲田大学、6 月 25 日

書評：竹島正（監訳）シドニー・ブロック他著「共生社会のための精神医学」中
央法規出版、2023. 精神保健福祉学第 11 巻第 1 号、pp77－78. 2024 年 3 月

氏名 久保 美由紀 学部 通信教育部 総合福祉学部 学科 ソーシャルワーク学
科 職階 准教授

専門分野：地域福祉、高齢者福祉、災害ソーシャルワーク

教育活動：

責任科目：ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ（1 年前期・2 単位・30 時間）、高齢者福
祉（1 年後期・2 単位・30 時間）

担当科目：ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ（30 時間）、高齢者福祉（30 時間）、基礎
演習（8 時間）

非常勤講師：放送大学福島学習センター（地域生活と社会福祉システム）

学内委員会・学科内業務等：

【学内】研究費審査委員会、研究倫理委員、学生委員会、図書・学術委員会、
キャリアセンター運営委員会、【学科内】通信教育部委員会、学科会議、学生
チューター、入試採点等学科運営にかかる業務

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、日本居住福祉学会（理事）、貧困研
究会、医療・福祉問題研究会、日本地域福祉研究所、全国老人福祉問題研究会、
公的扶助研究会

科学研究費（研究資金）の取得：

日本医療大学学術助成費「被災者支援のソーシャルワークの方法に関する研究」（研究代表）

社会活動：なし

顕彰：なし

論文（著書、総説、原著、その他）：

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：

講演（特別講演、シンポジウム、一般講演、示説、その他）：

特別講演：なし

シンポジウム：なし

一般講演：なし

示説：なし

その他：なし

氏名 神部 雅子 学部 通信教育学部 総合福祉学部 学科 ソーシャルワーク学
科 職階 講師

専門分野： 社会福祉、障害者福祉

教育活動：

責任科目：障害者福祉（1 年次前期、2 単位、30 時間）、基礎演習（1 年次通年、2 単位、60 時間）、ソーシャルワークの理論と方法 I（1 年次後期、2 単位、30 時間）

担当科目：障害者福祉（1 年次前期、2 単位、30 時間）、基礎演習（1 年次通年、2 単位、60 時間）、ソーシャルワークの理論と方法 I（1 年次後期、2 単位、30 時間）

非常勤講師：北星学園大学（ソーシャルワーク演習 I～IV）

学内委員会・学科内業務等：

教務委員会、FD 委員会、保健管理委員会、カリキュラム委員会、通信教育部委員会、1 年生チューター

学術活動：

所属学会・研究会等：

日本社会福祉学会、障害学会、地域創成学会（事務局次長）

科学研究費（研究資金）の取得：なし

社会活動：なし

顕彰：なし

論文（著書、総説、原著、その他）：なし

著書：なし

総説：なし

原著：なし

その他：なし

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：なし

特別講演：

シンポジウム：

一般講演：

示説：

その他：

11-1-⑩ 留学生別科教員

氏名 唐 煒 学科 留学生別科 職階 講師

専門分野：日本語・中国語・日中言語比較・日本語教育

教育活動：

責任科目：2023 年度前期 開講科目 ①文字・語彙②聴解③文章表現④アカデミック

2023 年前期 担当 唐

曜日	科目	時間	単数
月	文字・語彙	9：00～9：50	3
火	文字語彙	9：00～9：50	3
	聴解	10：00～10：50	2
	文章表現	11：00～11：50	2
水	文字語彙	9：00～9：50	3
木	聴解	10：00～10：50	3
	文章表現	11：00～11：50	2
	アカデミック	13：00～14:30	4

2023 年後期 担当 唐

曜日	科目	時間	単数
月	文字・語彙	11：00～11：50	3
水	文字語彙	9：00～9：50	3
		11：00～11：50	3
	アカデミック	13：00～13：50	4
	文章表現	11：00～11：50	2

木	文字・語彙	9：00～9：50	3
		10：00～10：50	3
金	文字語彙	9：00～9：50	3
	文章表現	11：00～11：50	2
	アカデミック	13：00～14:30	4

非常勤講師：

学内委員会・学科内業務等：

留学生進路指導、生活指導、留学生募集業務

学術活動：

所属学会・研究会等：

日中言語比較学会・北海道国語国文研究会・日本訓点学会・中国敦煌学会

科学研究費（研究資金）の取得：

社会活動：

顕彰：

論文（著書，総説，原著，その他）：

著書：

総説：

原著：

その他：

講演（特別講演，シンポジウム，一般講演，示説，その他）：

特別講演：

シンポジウム：第14届漢日比較言語シンポジウム 中国海洋大学（中国・山東青島）日

程：2023年8月18日至20日

論文題目：日本書紀における程度表現の二音節語について―「極甚」「更亦」「更復」「再三」を中心に―〔唐 煒〕（P53～63）

一般講演：

示説：

その他：